

TSmagic V18

ユーザガイド



一般情報

・ TSMagic の前提条件	5
・ インストール	7
・ AdminTool 管理コンソール	11
・ TSMagic スタートアップ	13
・ TSMagic Edition の確認方法	20
・ TSMagic のコンピューターID、PC 名称確認方法	21
・ ライセンスのアクティベーション	22
・ ライセンスのアクティベーション(オフライン)	26
・ TSMagic の更新	29
・ ライセンスの移行(REHOST)	35
・ 「ハードウェア識別子の検証に失敗しました」エラー	39
・ サポートライセンスの有効化	41
・ TSMagic サーバの保護	42

サーバ管理

・ サーバ管理	49
・ アプリケーションの公開	63
・ ユーザまたはグループへのアプリケーションの割当て	68
・ リモートタスクバーとデスクトップテーマ	75
・ フローティングパネルとアプリケーションパネル	84
・ ローカルとサーバ間のファイル転送	89
・ セキュアなフォルダ共有	91
・ クライアント側でファイルを開く	96
・ クライアント側で URL を開く	98
・ TSMagic 設定のバックアップ	100

リモート印刷

・ 高度な印刷オプション: Virtual Printer V1	101
Virtual Printer V2	105
・ Universal Printer	110
・ 標準リダイレクトプリンタ機能を使用した印刷	124

TSMagic 接続クライアント

・ ポータブルクライアントジェネレータ	125
・ TSMagic クライアント Setup プログラム	135
・ 生成されたクライアントのパラメータの編集または削除	136
・ RemoteApp 接続クライアント	139
・ RemoteApp クライアントの機能	141
・ TSMagic クライアントのアイコンを変更する方法	145

Web を使用したサーバへのアクセス

・ 組み込み Web サーバ管理	147
・ Web アプリケーションポータル	151
・ RemoteApp プラグイン	157
・ TSMagic Web App	159
・ Web ポータルカスタマイズを使用した HTML Web Access ページの作成	162
・ Web クレデンシャル	166
・ TSMagic 既定の Web サーバではなく IIS を使用する方法	168

Web 接続保護

・ 無料で簡単にインストールできる SSL 証明書	182
・ HTTPS と SSL サードパーティ証明書	188
・ セキュリティを強化する暗号スイートの選択	189

HTML5 クライアント設定

・ iPhone/iPad/Android デバイスからのリモート接続	191
・ HTML5 クライアント:サポートされているブラウザ	196
・ HTML5 クライアント:モバイルデバイスでのジェスチャの使用(タッチ)	197
・ HTML5 クライアント:ファイル転送の使用	198
・ HTML5 クライアント:クリップボードの使用	205
・ HTML5 サーバのメモリ使用量	206

ファーム機能

・ 概要	207
・ 前提条件	210
・ ファームの設定	211
・ リバースプロキシ機能を利用する	215
・ ロードバランシング機能	218
・ サーバの割り当て	225
・ セッションの監視	228
・ アプリケーションと設定の同期	230
・ ゲートウェイサーバを手動で有効化/無効化する	231
・ ゲートウェイサーバで RDP アクセスを禁止し、HTTP を許可する	233
・ リバースプロキシの背後でサーバを使用する	235

高度な機能

・ 高度 - 製品	236
・ 高度 - セキュリティ	239
・ 高度 - セッション	247
・ 高度 - ロックアウト	264
・ 高度 - Virtual Printer	267
・ 高度 - コンテキストメニュー	268
・ 高度 - ログ	271
・ Web アプリケーションポータル:URL アドレスのパラメータ	274
・ Web ログオンページ:ログオン後にフォームを閉じる方法	275
・ Web ログオンページ:ログオンスプラッシュ画面を変更する方法	276
・ HTML ページとカスタマイズ	278
・ Web ポータルの機能をを超えて Web アクセスページを完全にカスタマイズする方法	282
・ Web ログオンページ:HTML5 クライアントを同じタブで開く方法	284
・ カスタム HTTP ヘッダーを追加する方法	285
・ HTTPS プロトコルを適用する	286
・ Web ポータルを使用したサーバへの接続を強制する	288
・ Web 自動ログオン:ポータルなしで Web から接続	289
・ HTML5 クライアント:モバイルデバイスでの RDP セッションの解像度	290
・ HTML5 クライアント:ブラウザウィンドウを最大化する方法	291
・ HTML5 クライアント:URL アドレスのパラメータ	292

・ Web サーバを複数のネットワークカードにバインドする方法	294
・ プロキシ環境で Windows クライアントを実行	295
・ 相互 SSL 認証の活動化	296

TSMagic の前提条件

1) ハードウェア

TSMagic サーバの最小ハードウェア要件は次のとおりです。

ユーザ数	WindowsServer
3-5	メモリ：最小 4GB、推奨 8GB 以上 CPU:I5 以上 1CPU 2GHz
10	メモリ：最小 8GB、推奨 16GB 以上 CPU：I5 以上 1CPU 2GHz
25	メモリ：最小 16GB、推奨 32GB 以上 CPU:I7 あるいは Xeon 1CPU
50 以上	メモリ：最小 32GB、推奨 64GB 以上 デュアル CPU,システム専用の SSD ディスク

50 を超える同時セッションでは、Enterprise Edition で利用可能な負荷分散機能を使用して、サーバファームを使用することをお勧めします。

各サーバ(物理的または仮想を問わず)最大 50 同時接続ユーザを目途とします。

コメント:必要なハードウェアの種類は、公開するアプリケーションが消費するリソースの種類(CPU/メモリ/ディスク)によって異なります。パフォーマンスを大幅に向上させるには、TSMagic サーバ上のデータベースにアクセスするアプリケーションを使用する予定がある場合は、SSD ドライブを搭載したサーバの購入を検討してください。

2) オペレーティングシステム

ハードウェアは、次のいずれかのオペレーティングシステムを使用する必要があります。

TSMagic サーバ（ご利用になる Magic xpa 製品のサポート OS バージョンに準拠します）

- Windows Server2016
- Windows Server2019
- Windows Server2022
- Windows Server2025

TSMagic クライアント

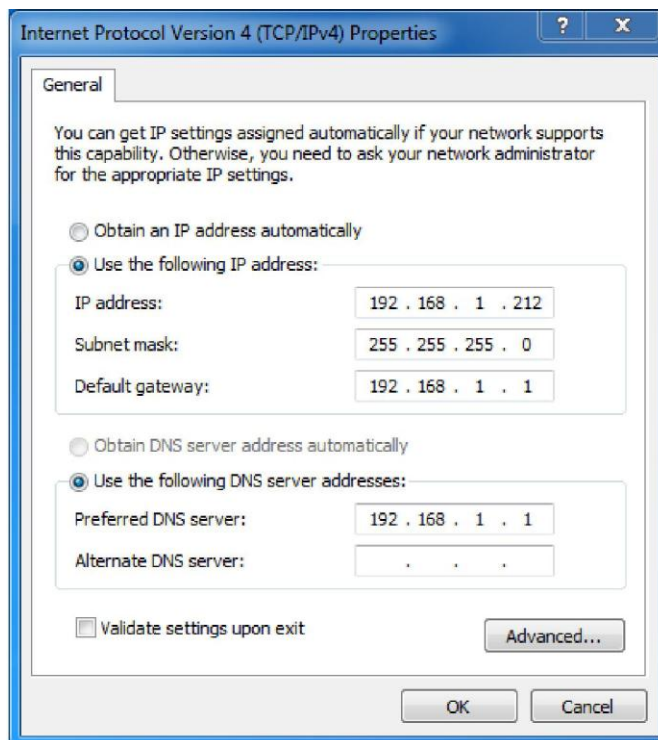
- Windows10（Pro/Enterprise） 1903 以降 （2025 年 10 月末まで）
- Windows11（Pro/Enterprise）
- Windows Server2016
- Windows Server2019
- Windows Server2022
- Windows Server2025

32 ビットと 64 ビットがサポートされます。
Microsoft .Net Framework 4.7.2 以上が必要です。

- TSMagic を Windows Server にインストールする場合、TSMagic をインストールする前に、RDS またはターミナルサービスの役割と RDS ターミナルサービスのライセンスの役割がインストールされていないことを確認してください。これらの役割が存在する場合は、削除してサーバを再起動します。
- Windows Home Edition はサポートされていません。Windows Server2016,2019,2022 Essentials Edition はサポートされていません。
- Windows Server2016 では、リモートデスクトップアクセスの最大セッションが 15 に制限されます。
- 最新の対応状況は技術者情報サイト「DEVNET」
(https://devnet.magicsoftware.co.jp/magicxpa/tsmagic/tsmagic_system_req/) でご確認ください。

3) ネットワークパラメータ

TSMagic サーバには、固定 IP アドレスが必要です。



リモートアクセス(WAN)

- パブリック固定 IP アドレスを使用することをお勧めします。
- ファイアウォールで RDP ポート（デフォルトでは TCP の 3389）を双方向で開く必要があります

4) Magic xpa サポートバージョン

- Magic xpa Application Platform 3.x（2025 年 6 月末まで）
- Magic xpa Application Platform 4.x
- Magic xpa Application Platform 4Plus

インストール

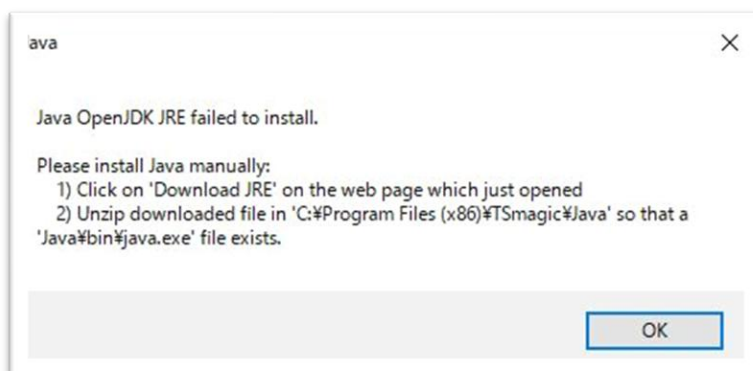
Tsmagic セットアッププログラムを実行し、以下のインストール手順を実施します。

インストールはインターネット環境にアクセス出来る状態で行って下さい。

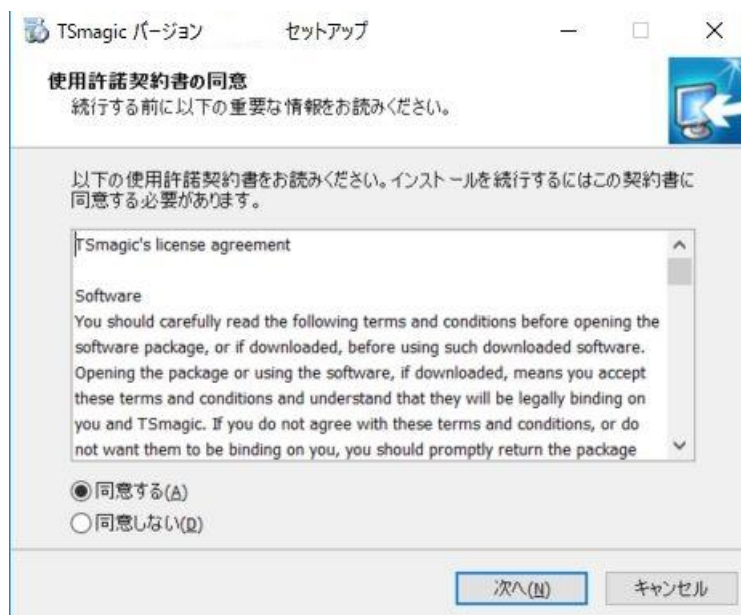
インターネット環境にアクセス出来ない場合、ComputerID の取得やライセンスの Activation が出来ません。



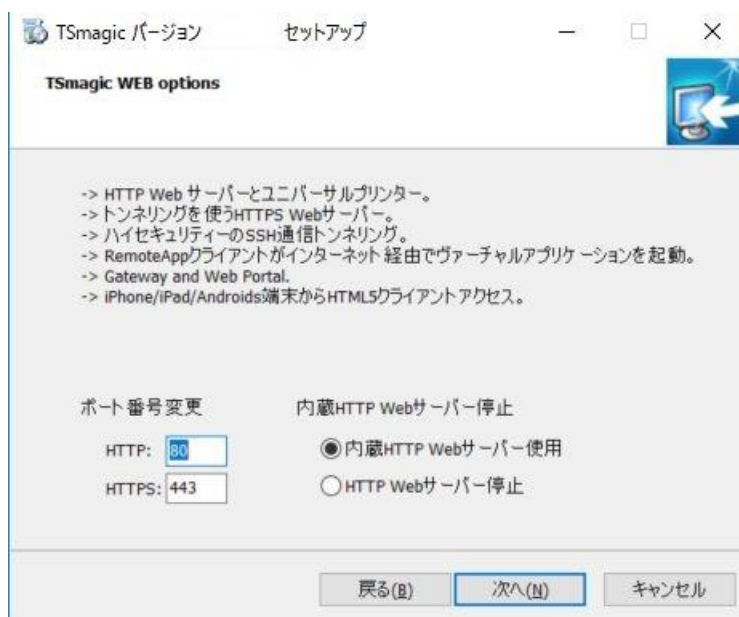
“次へ”をクリックします。



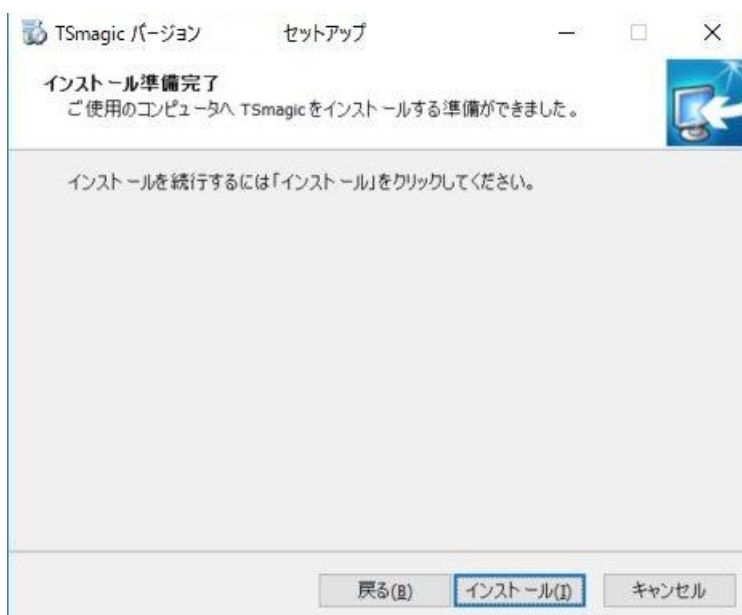
Tsmagic の Web Portal が動作する為には Java が必要になります。上記のようなダイアログが表示された場合には、開かれる Web サイトよりサーバ環境にあった Java OpenJDK をダウンロードしてインストール後に、Tsmagic のインストール作業をやり直してください。



“同意する”をチェックし“次へ”をクリックします。



IIS 等の Web サーバがすでにインストールされており、TSMagic 内蔵 HTTP サーバを使用する場合は、ソフトウェアの競合を避けるためにポート番号を変更して下さい。TSMagic HTTP サーバを無効にすることもできます。これらの設定は、後で AdminTool の[WEB]タブの[ウェブサーバー]タイトルで変更できます。



TSMagic では TSMagic Security はサポートされていません。必ず「Do not install」を選択して下さい。

インストールが完了したことを示すウィンドウが表示されます。



TSMagic を使用するには、システムを再起動する必要があります。インストール後、15 日間は体験版として同時接続 5 ユーザの TSMagic Enterprise Edition として利用可能です。

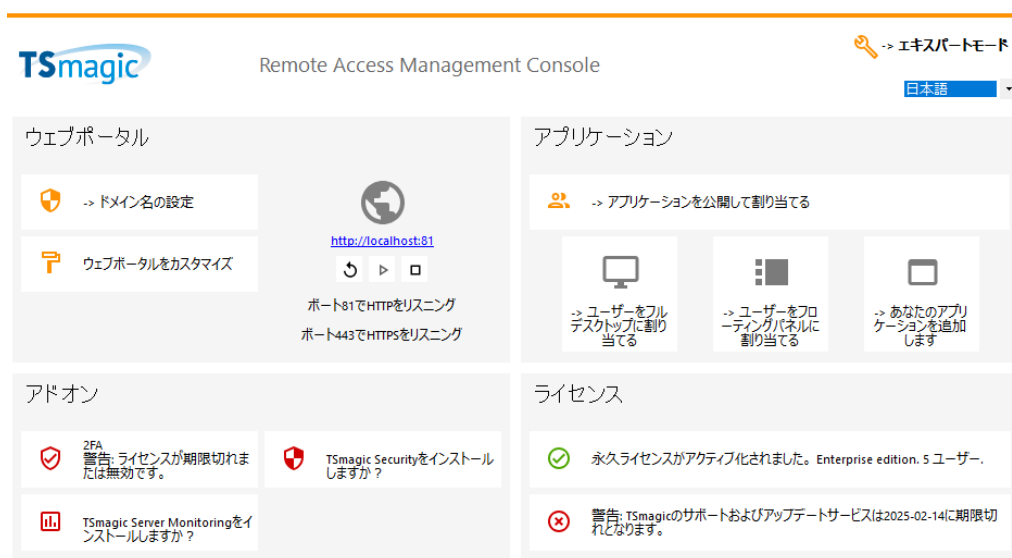
AdminTool 管理コンソール

TSMagic V15 より AdminTool の外観が変更され、従来通りのエキスパートモードに加えライトモードが導入されました。管理者は、管理コンソール右上にある「ライトモード」「エキスパートモード」ボタンで2つのインタフェーススタイルを切り替えることができます。

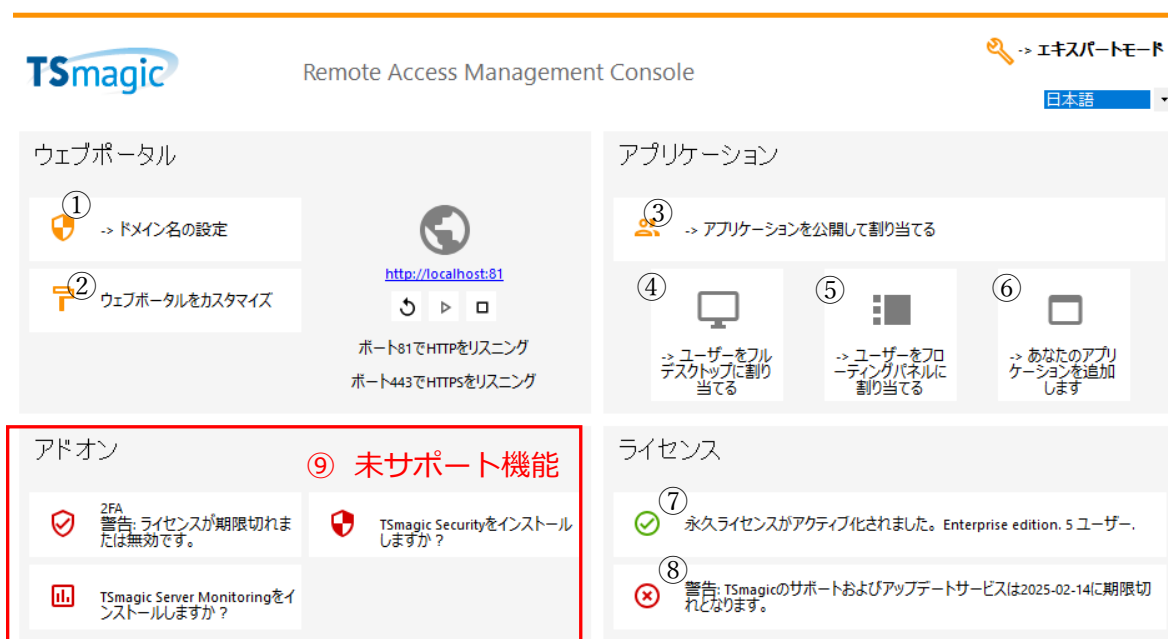
エキスパートモード



ライトモード



ライトモード画面のエキスパートモード画面メニュー対応



- ① WEB – HTTPS – 無料で有効な HTTPS 証明書を生成 (P.177)
- ② WEB – Web ポータルのカスタマイズ (P.146)
- ③ アプリケーション (P.63)
- ④ アプリケーション – Microsoft リモートデスクトップ (P.80)
- ⑤ アプリケーション – フローティングパネル (P.84)
- ⑥ アプリケーション – アプリケーションを追加 (P.64)
- ⑦ ライセンス (P.20)
- ⑧ ライセンス (P.20)
- ⑨ TSMagic では未サポート機能です

TSMagic:スタートアップ

ステップ 1:インストール。

TSMagic のインストールは簡単なプロセスです。当社の Web サイトから TSMagic 体験版をダウンロードし、Setup-TSMagic.exe プログラムを実行し、再起動を求めるメッセージが表示されるまで待ちます。セットアッププログラムを開始する前に、Java をインストールすることをお勧めします。Java は、Web Access 技術を活用するために必須です。

ファイルは解凍され、次の場所にモジュールがインストールされます。

- C:\Program Files\TSMagic フォルダ (32bit システム)
- C:\Program Files(x86)\TSMagic フォルダ (64bit システム)。

体験版はインストール後 15 日間は同時接続 5 ユーザの TSMagic Enterprise Edition として利用可能です。

再起動後、デスクトップに 2 つの新しいアイコンが表示されます。



AdminTool は TSMagic を使用するために必要なものです。



Portable Client Generator は、ユーザ用の TSMagic 接続クライアントを作成するために使用します。

前提条件:

サーバ側:

4GB 以上のメモリを搭載した Windows Server2016 から 2025 であること。

オペレーティングシステムは C ドライブ上にある必要があります。Windows Server 環境で、TSMagic サービスとの競合を回避するために、TSE/RDS の役割と TSE/RDS のライセンスの役割がインストールされていないことを確認してください。

固定のプライベート IP アドレスと固定のパブリック IP アドレスを使用する必要があります。

クライアント側:

Microsoft ワークステーション:Windows 10,Windows11 がサポートされます。PDF Reader と Java をユーザの PC にインストールする必要があります。

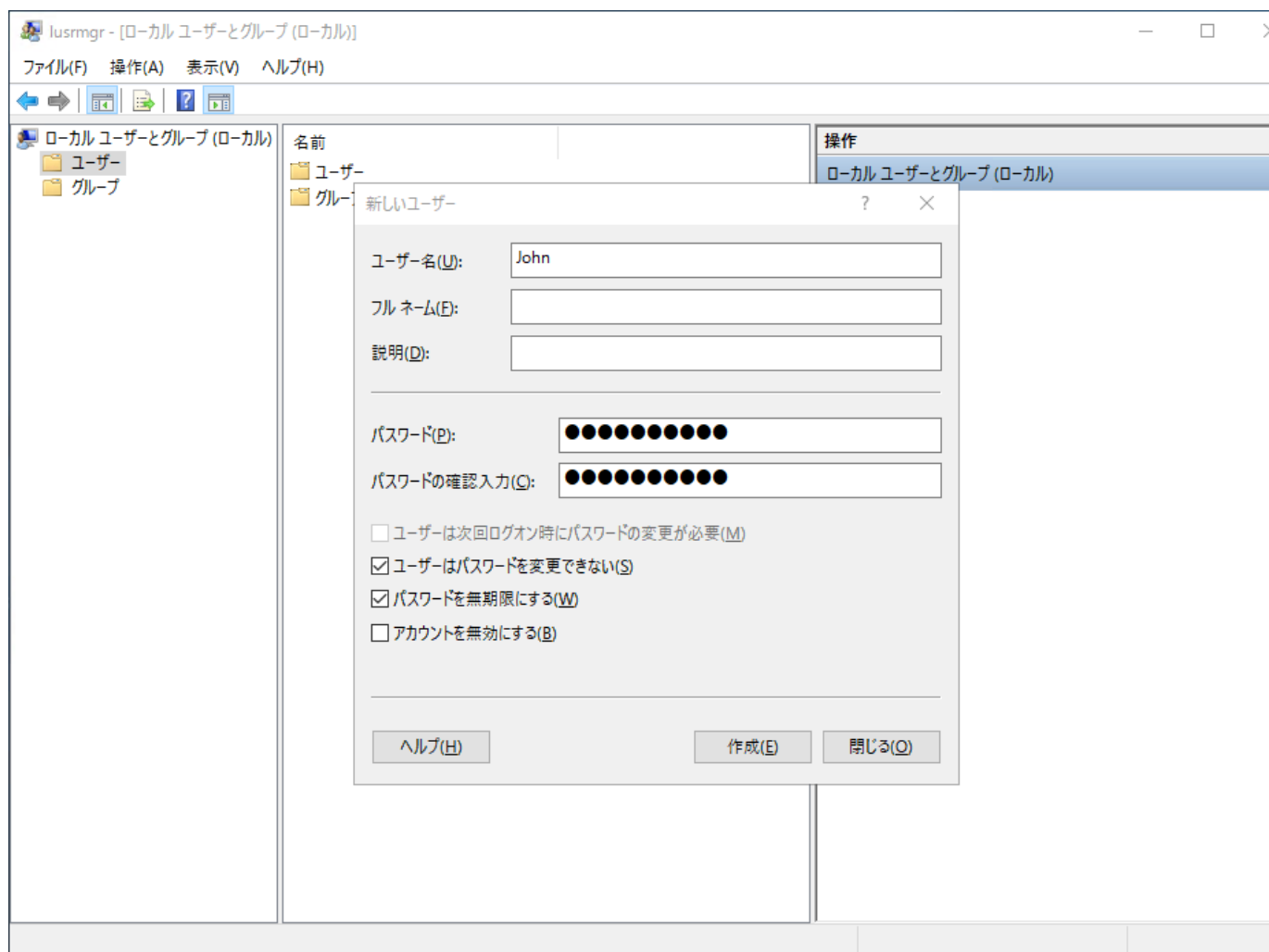
Macintosh ワークステーション:任意の MAC RDP クライアントまたは TSMagic HTML5 クライアントを使用できます。

TSMagicClient ジェネレーターで作成したクライアントは使用できません。

ステップ 2: ユーザを作成する。

再起動後、TSMagic サーバはほぼ準備完了です。次にユーザを作成します。AdminTool がその作成を支援します。[システムツール]タブに移動し、「ユーザーとグループ」をクリックします。[ローカルユーザとグループ] ウィンドウが表示されます。





各ユーザにはユーザー名とパスワードが必要です。ユーザ作成時、デフォルトでチェックされているチェックボックスには注意してください。「ユーザは次回ログオン時にパスワードを変更する必要がある」。ユーザが毎回パスワードを変更しないようにするには、このチェックボックスのチェックを外し、「パスワードは無期限」または「ユーザはパスワードを変更できない」をオンにします。

※TSMagic では「ユーザは次回ログオン時にパスワードを変更する必要がある」はサポートされていません。

ステップ 3: ニーズに最も適したクライアントを選択します。

TSMagic は Windows RDP プロトコルに準拠しています。そのため、すべてのユーザは、標準のリモートデスクトップ接続クライアント (mstsc.exe) または RDP 互換クライアントを使用して、ローカルまたはリモートで接続できます。TSMagic の高度な機能 (RemoteApp、ユニバーサルプリンタ等) を最大限に活用するには、TSMagic で生成されたクライアントまたは TSMagic Web Portal を使用します。

TSMagic は非常に柔軟なソリューションであり、複数の方法でセッションを開くことができます。

- **クラシックリモートデスクトップ接続 (MSTSC.EXE)**
- **ポータブル TSMagic RDP クライアント** Windows タスクバーに最小化できるリモート接続用のウィンドウ環境
- **MS RemoteAPP クライアント** ネイティブの MS RemoteApp を使用してアプリケーションを表示します
- **Windows クライアント** TSMagic Web Portal 経由
- **HTML5 クライアント** TSMagic Web Portal 経由

これらのクライアントはユーザに以下のエクスペリエンスを提供します。:

リモートデスクトップ接続 (mstsc.exe)

- **接続:** 接続は非常に標準的なものです。このタイプの接続ではユニバーサルプリンタはサポートされていません。
- **表示:** リモートデスクトップウィンドウ内にセッションが表示されます。このデスクトップには、ユーザのデスクトップ・フォルダの内容が表示されます。
- 管理者が AdminTool で特定のアプリケーションを割り当てた場合は、それらのアプリケーションのみが表示されます (タスクバーやデスクトップは表示されません)。

TSMagic Remote Desktop として生成したクライアント

これは TSMagic 独自のソリューションであり、ローカルユーザとリモートユーザが専用プログラムを使用して接続できるようにします。専用接続プログラムには、ユニバーサルプリントの高度な機能、高度なセキュリティを備えています。このクライアント生成の詳細については、P.120 を参照してください。

TSMagic RemoteApp として生成したクライアント

リモートアプリケーションは、ローカルアプリケーションと同じように表示されます。従来のリモートデスクトップウィンドウの代わりに、リモートデスクトップウィンドウを最小化することなく、ローカルアプリケーションとリモートアプリケーションを自由に切り替えることができます。

リモートロケーションからの TSMagic サーバへのアクセス

リモートロケーションから TSMagic サーバにアクセスするには、使用する接続方法に応じて、3389/80/443 ポートのポート転送ルールまたはポートリダイレクションルールを作成する必要があります。

RDP ポートは、[ホーム] タブで変更できます。

The screenshot displays the TSMagic web portal interface. The top navigation bar includes the TSMagic logo, the text "Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢", and a "ライトモード" (Light Mode) toggle. The left sidebar contains a menu with items: ホーム (Home), アプリケーション (Applications), プリンター (Printers), WEB, ファーム (Firmware), セッション (Sessions), システムツール (System Tools), 高度 (Advanced), アドオン (Add-ons), and ライセンス (Licenses). The main content area shows a "ホーム" (Home) tab with a central section for PC configuration, including fields for PC name, private IP, public IP, and RDP port (currently 3389). A modal window titled "TSMagic" is open, showing a "ポート番号の入力" (Enter port number) dialog with the value 3389 and buttons for "保存" (Save) and "キャンセル" (Cancel). Below the configuration section, there are several status messages: a green checkmark for "システム監査 - 2025/0...", a green checkmark for "バージョン 18.10.1.14 - 最新バージョンを使用しています", a green checkmark for "永久ライセンスがアクティブ化されました。Enterprise edition. 5 ユーザー。", and a red warning icon for "警告: TSMagicのサポートおよびアップデートサービスは2025-02-14に期限切れとなります。". At the bottom, there are three red warning icons: "2FA - 警告: ライセンスが期限切れまたは無効です。", "TSMagic Securityをインストールしますか?", and "TSMagic Server Monitoringをインストールしますか?".

80/443 ポートは、[WEB] タブ - 「ウェブサーバー」画面から変更できます。

TSMagic Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢

ホーム > Web

Web Portal

- Webポータルのカスタマイズ
- RemoteApp クライアント
- TSMagic ウェブアプリ
- HTML5 クライアント
- Webクレデンシャル
- HTML5 トップメニュー
- HTTPS
- ウェブサーバー
- ロックアウト

TSMagic Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢

ホーム > Web > ウェブサーバー

デフォルトHTTP Webサーバー
内蔵HTTP Webサーバーを一つ提供 TSMagic
但し、異なるサーバー(IIS又はApacheなどが使用可能。
● 内蔵HTTP Webサーバー使用
○ 異なるHTTP Webサーバー使用
IIS又はApache使用時、そのHTTPポート番号は必ず81に設定が必要。
(トンネリングはこの81接続ポートを公開のHTTPポートに転送 81)

Webサーバーのルートパスの変更
Webサーバーのデフォルトのルートパスが変更可能。
現在のWebサーバーのルートパス:
C:\Program Files (x86)\TSMagic\Clients\www
新しいWebサーバーのルートパスの選択

Webサーバーオプション
HTTP/HTTPS変更 ポート番号
IISやApacheのポート設定の変更はありません
HTTP: 81
HTTPS: 443

Webサーバーを保存して再起動

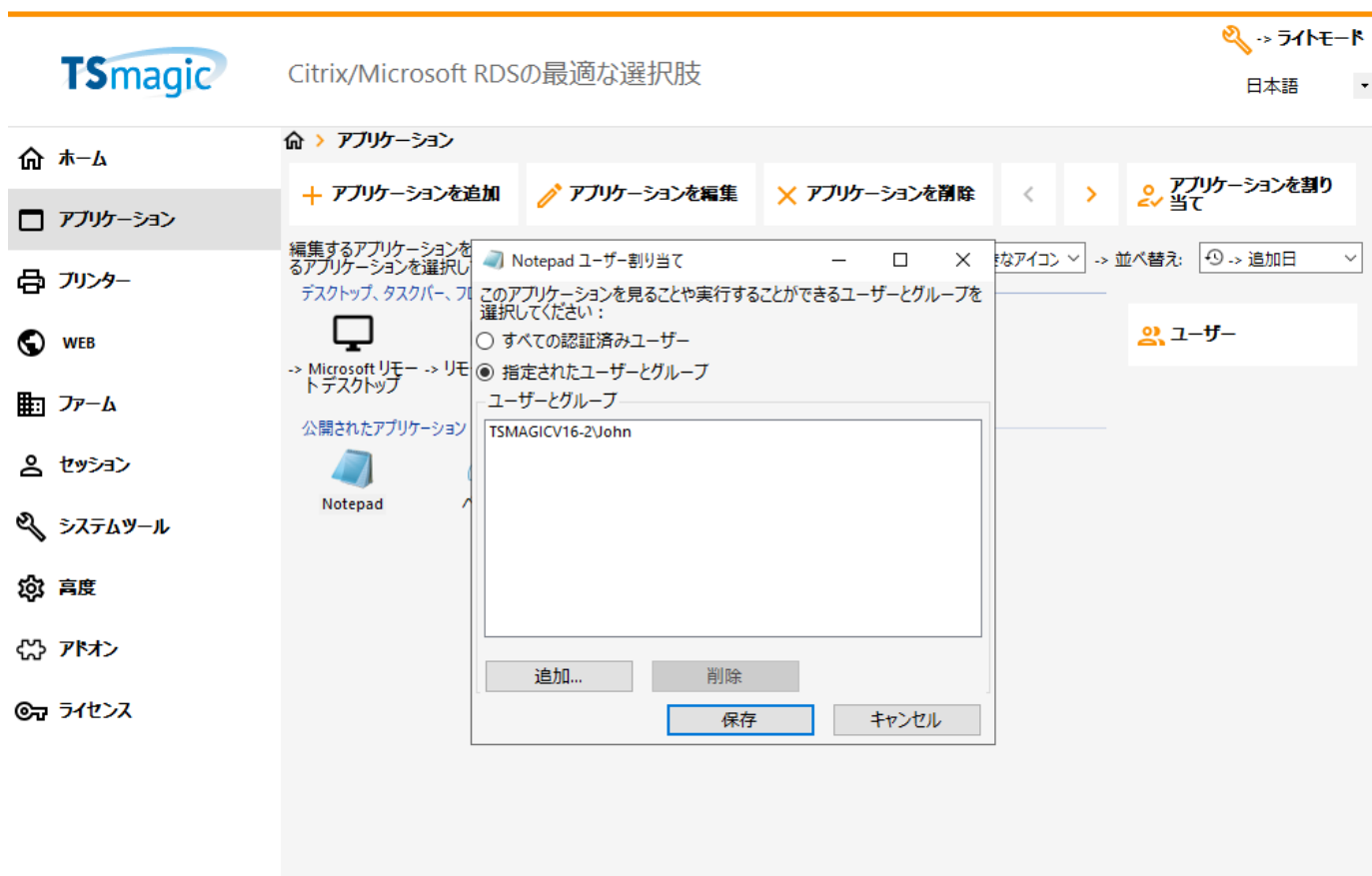
ステップ 4: アプリケーションの公開とアプリケーションの制御

AdminTool を使用してアプリケーションをユーザまたはユーザグループに割り当てることができます。

- ユーザに 1 つのアプリケーションのみを割り当てると、ユーザにはそのアプリケーションのみが表示されます。
- また、TSMagic のタスクバー、フローティングパネル、またはアプリケーションパネルを割り当てて、複数のアプリケーションを表示することもできます。
- 完全なリモートデスクトップを公開することもできます。

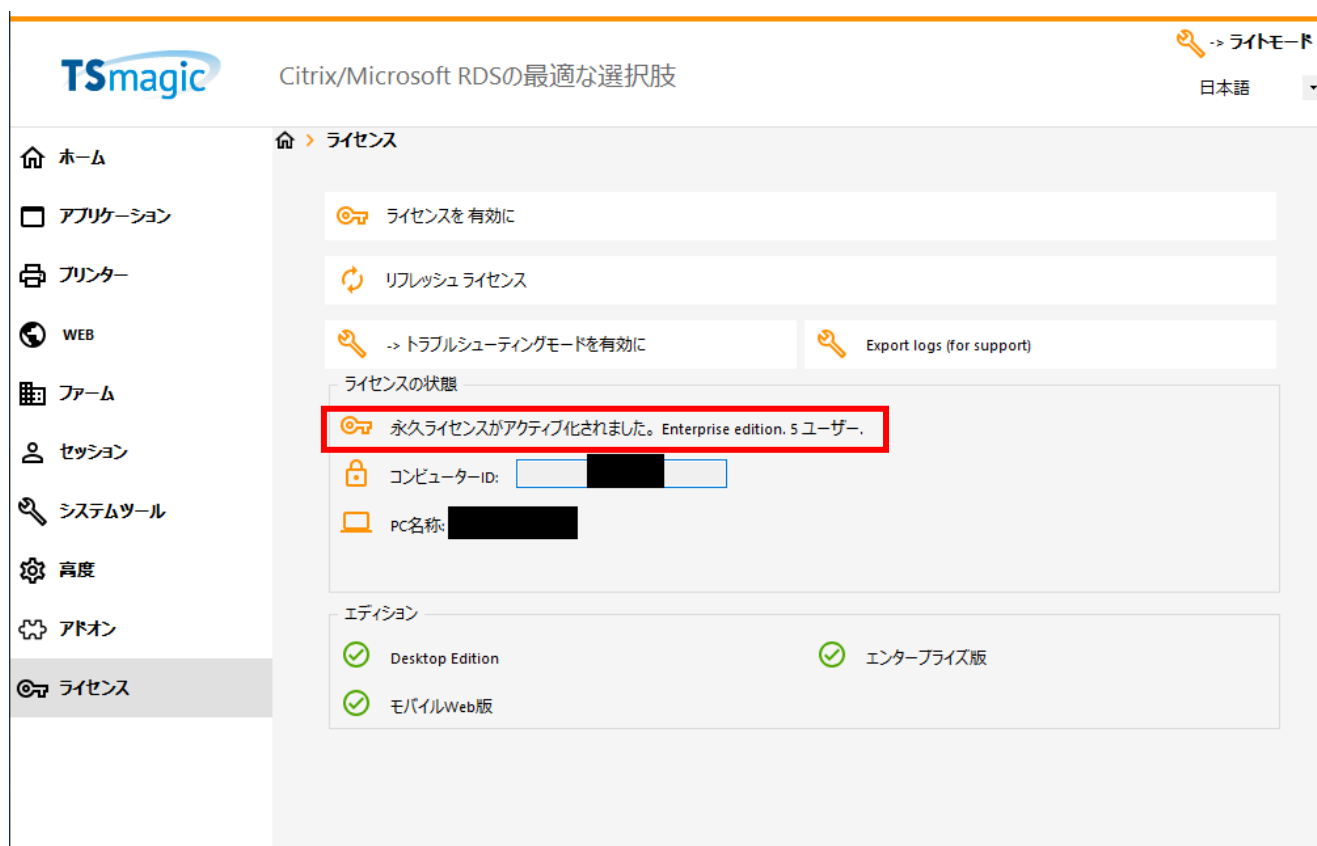
[アプリケーション] タブに移動して、アプリケーションを追加、編集、削除、および割り当てを行います。

この例では、管理者はユーザ「John」に Notepad を割り当てています。



TSMagic Edition の確認方法

ライセンススタイルに、購入したライセンスの種類とユーザ数が表示されます。



The screenshot displays the TSMagic web application interface. The top navigation bar includes the TSMagic logo, the text 'Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢', and a language dropdown set to '日本語'. The left sidebar contains a menu with items: ホーム, アプリケーション, プリンター, WEB, ファーム, セッション, システムツール, 高度, アドオン, and ライセンス (which is highlighted). The main content area is titled 'ライセンス' and contains several buttons: 'ライセンスを有効に', 'リフレッシュ ライセンス', '-> トラブルシューティングモードを有効に', and 'Export logs (for support)'. A red box highlights a message: '永久ライセンスがアクティブ化されました。Enterprise edition, 5 ユーザー。'. Below this, the 'ライセンスの状態' section shows 'コンピューターID:' and 'PC名称:'. The 'エディション' (Edition) section at the bottom lists 'Desktop Edition', 'モバイルWeb版', and 'エンタープライズ版', each with a green checkmark indicating it is active.

TSMagic のコンピューターID、PC 名称確認方法

デスクトップで AdminTool を探します。



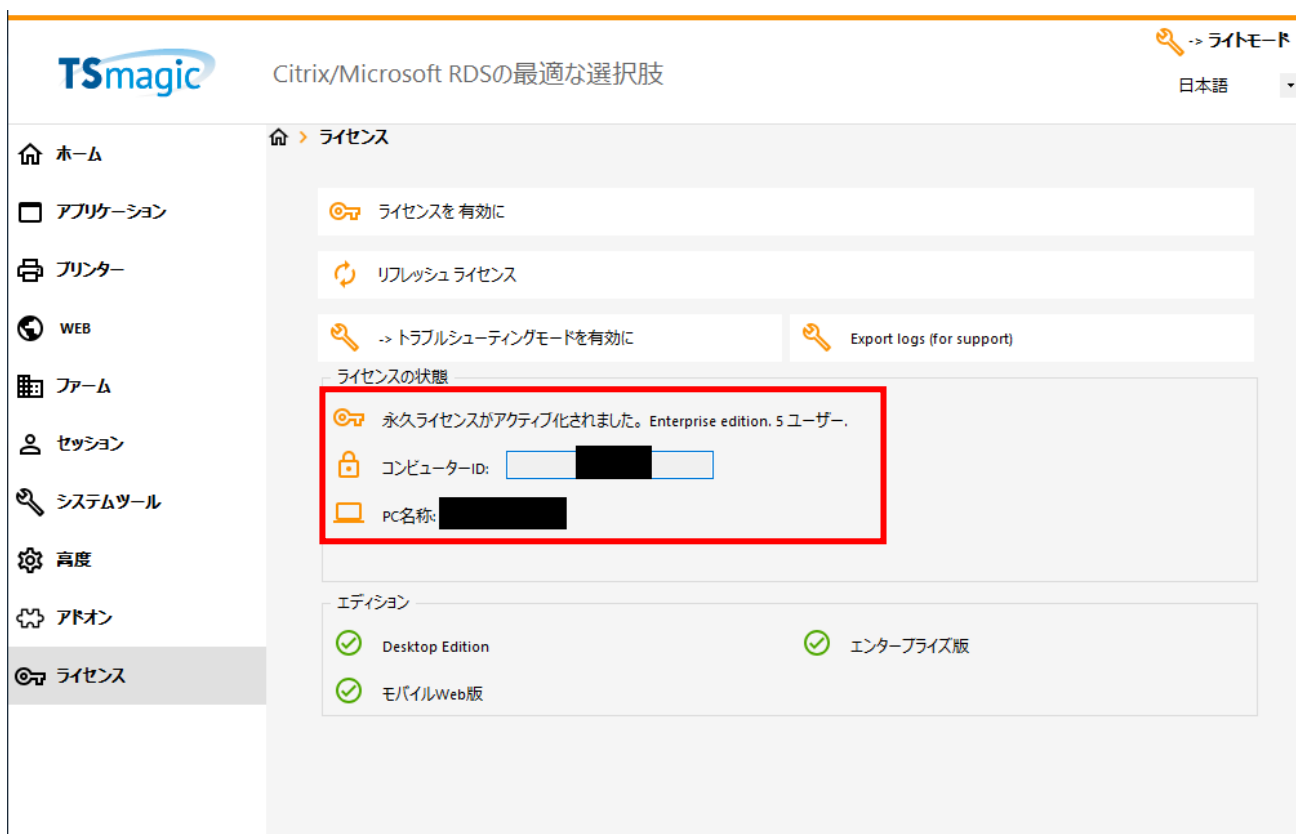
- AdminTool のショートカットが見つからない場合は、TSMagic のダウンロードに使用した管理者アカウントのデスクトップフォルダにあるはずです。

TSMagic フォルダは、次のパスにもあります:'C:\Program Files (x86)\TSMagic\UserDesktop\files'

それをダブルクリックしてから、[ライセンス]タブをクリックします。

ここで、TSMagic ライセンスのステータス、およびコンピューターID と PC 名称を確認できます。

インターネット環境にアクセス出来る状態ではない場合、コンピューターID の取得が出来ません。必ず、インターネット環境にアクセス出来る状態にして下さい。

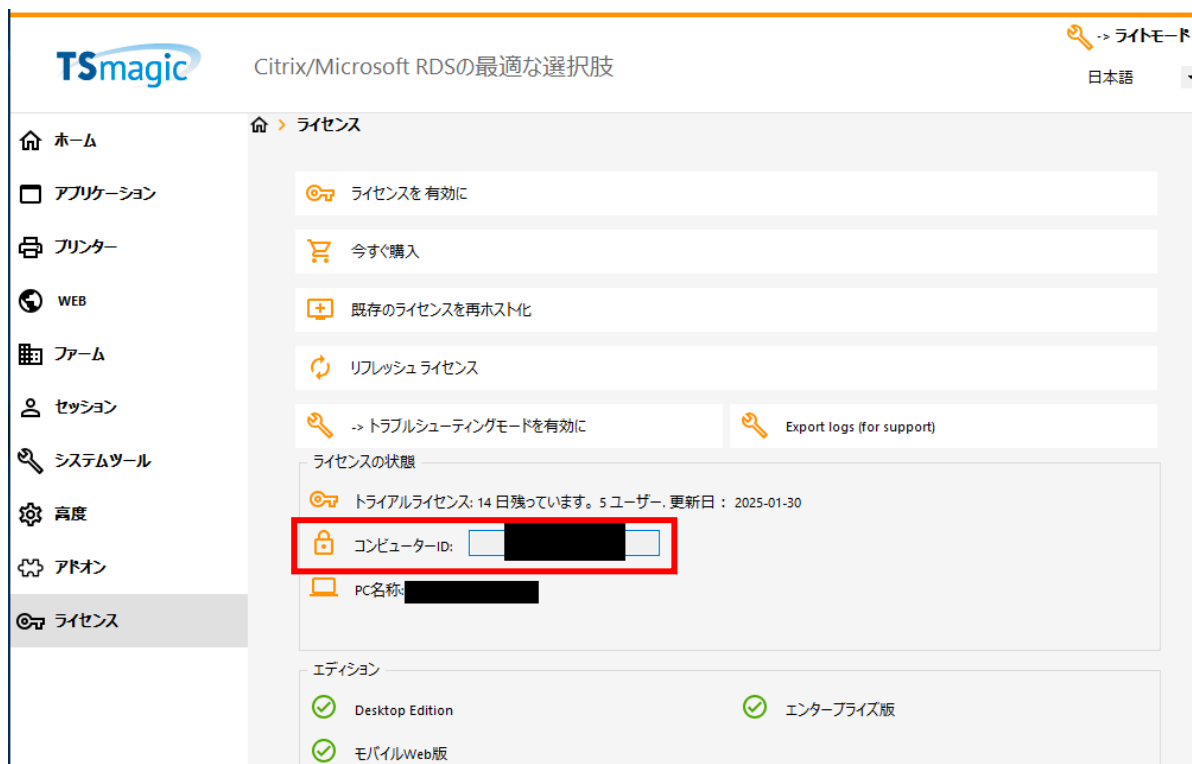


ライセンスのアクティベーション

サーバにTSMagicをインストール後、AdminToolを起動し、コンピューターIDを確認します。

確認したコンピューターIDを「TSMagic購入申込書」に記入し、Magic Software Japan K.K.にemail、FAX等で送信します。

インターネット環境にアクセス出来る状態ではない場合、コンピューターID の取得およびライセンスのアクティベーションが出来ません。必ず、インターネット環境にアクセス出来る状態にしてください。

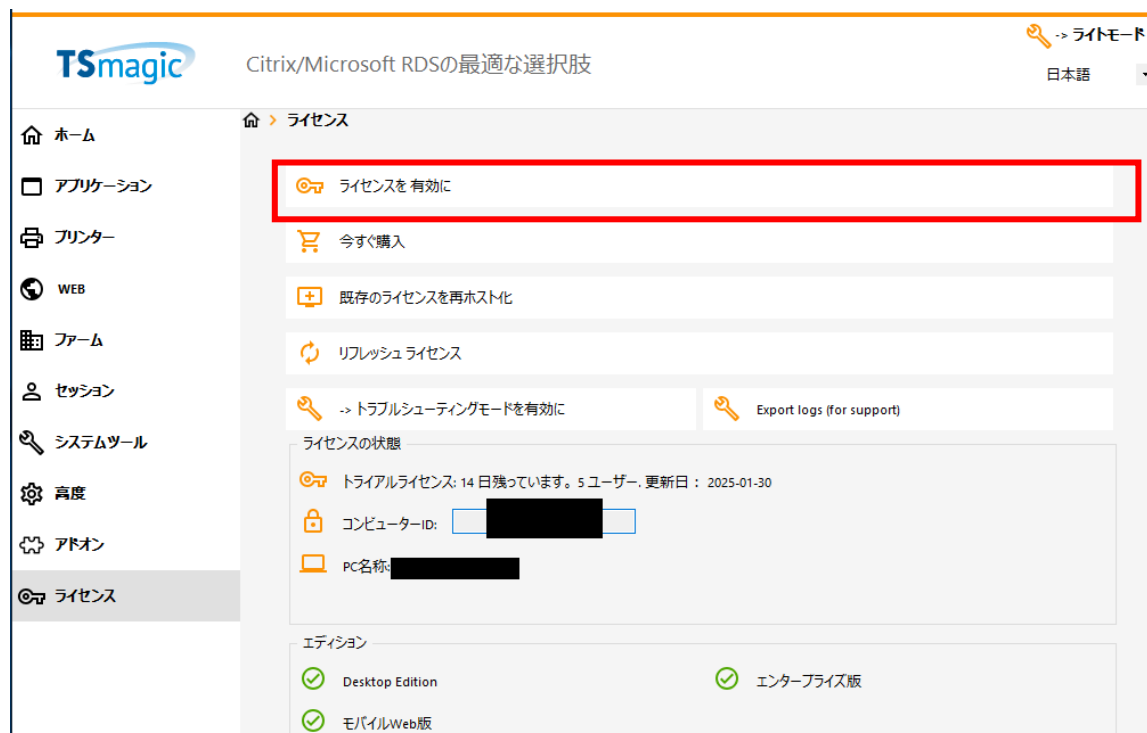


その後、Magic Software Japan K.K.よりTSMagicを使用するためのActivation Keyがemailにて送付されます。

Activation Keyは、ライセンスを別のサーバに移行（REHOST）する際にも必要になりますので、大切に保管して下さい。

Activation Keyは、AdminToolの画面上には表示されません。

AdminTool でライセンスの[ライセンスを有効に]をクリックします。



メールで送付された Activation Key を入力し、Next をクリックします。

License Activation

Please enter your Activation Key:

You will find your Activation Key in our order confirmation email.
Please contact Support should you require any help activating your license.

Next >

購入したユーザ数を確認し、チェックボックスにチェックを付けます。（製品名は TSplus と表示されますが問題ありません）
また、**新規購入時にはメンテナンス契約も含まれますので、必ず「Update/Support services for TSplus xxxxx」を選択し、Next をクリックします。**

License Activation

Please select the license(s) you want to activate on this computer:

TSplus

☒ TSplus Enterprise edition - 5 users

☐ No Updates/Support

☒ Update/Support services for TSplus Enterprise edition - 5 users - 1 year

The licenses listed above are all the licenses currently available for activation on this computer.
If you have purchased multiple units, only one will be displayed in this list for this computer, and you will be able to activate the other units on other computers.

◀ Back
Next ▶

License Activation

Your license has been activated!

- TSplus Enterprise edition - 5 users
- Update/Support services for TSplus Enterprise edition - 5 users - 1 year

Thank you for your business!
You can now safely close this window.

Finish

License

✕

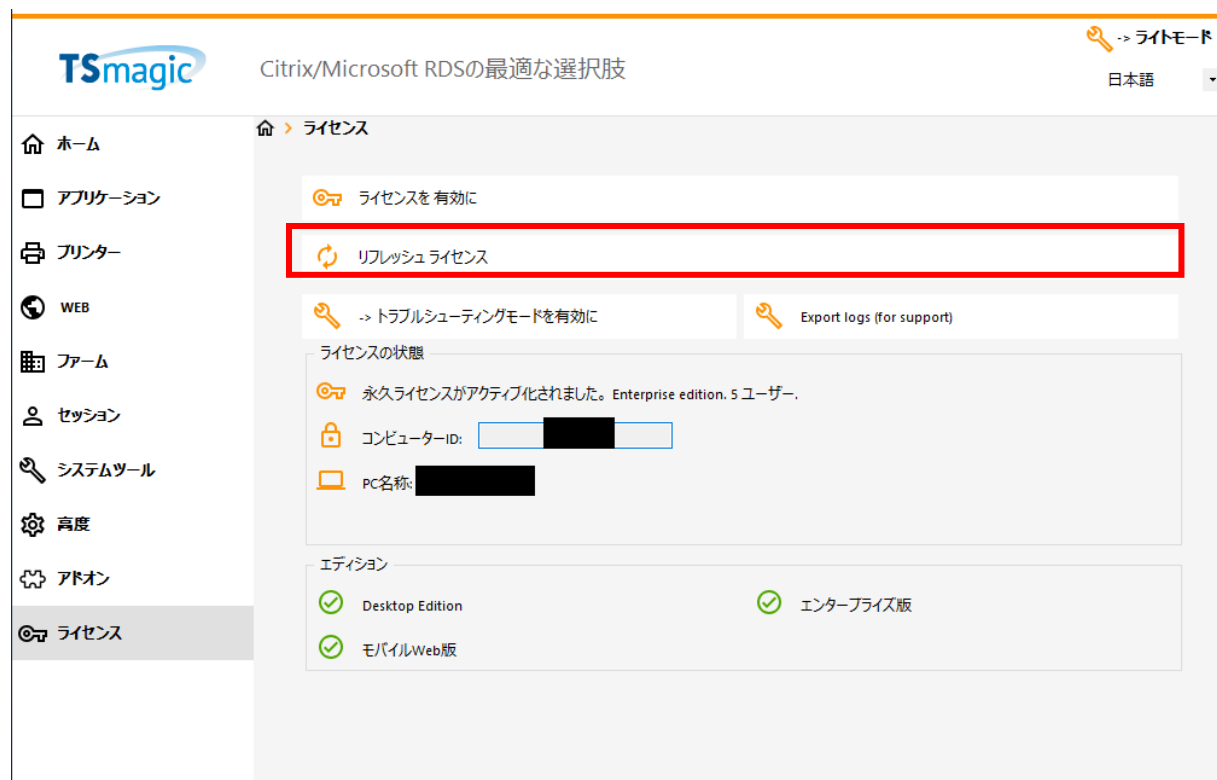
Your permanent license has been successfully activated!

Permanent license activated. Enterprise edition. 5 users.

Permanent license activated.

OK

AdminTool でライセンスの[リフレッシュライセンス]をクリックし、ライセンスサーバとの同期をとります。



License

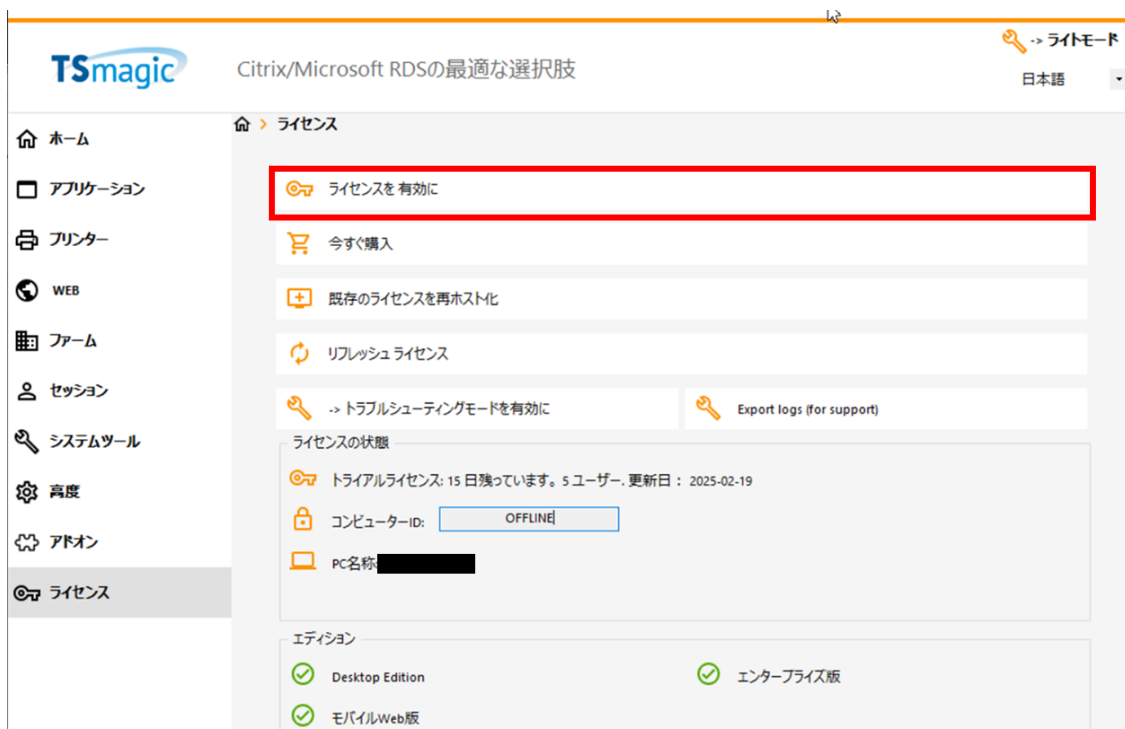


License has been synchronized with licensing portal

OK

ライセンスのアクティベーション（オフライン）

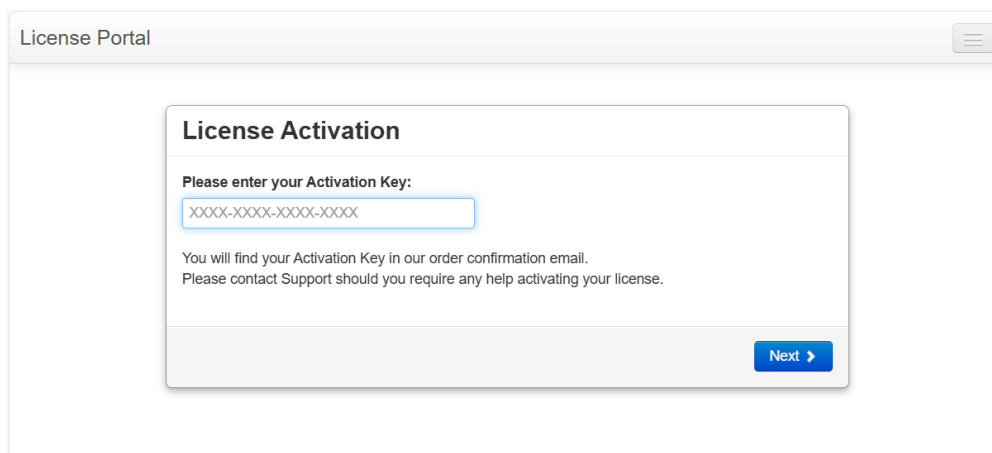
AdminToolを起動し、[ライセンス]タブを開きます。オフライン環境ではコンピューターIDを取得できないため、コンピューターIDは「OFFLINE」または「UNREGISTERED」になります。



「ライセンスを有効に」ボタンをクリックします。ポップアップが表示され、長い URL が表示されます。ライセンスファイルを取得するために、インターネットに接続された PC のブラウザでこの URL にアクセスします。



Activation Key を入力します。



License Portal

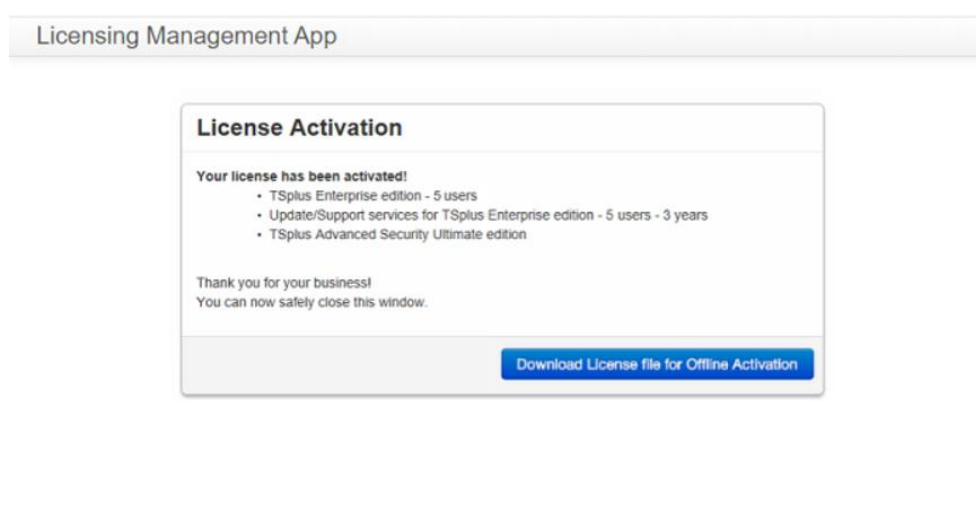
License Activation

Please enter your Activation Key:

You will find your Activation Key in our order confirmation email.
Please contact Support should you require any help activating your license.

Next >

ライセンスが検証されます。対応するボタンをクリックしてライセンスファイルをダウンロードしてください。



Licensing Management App

License Activation

Your license has been activated!

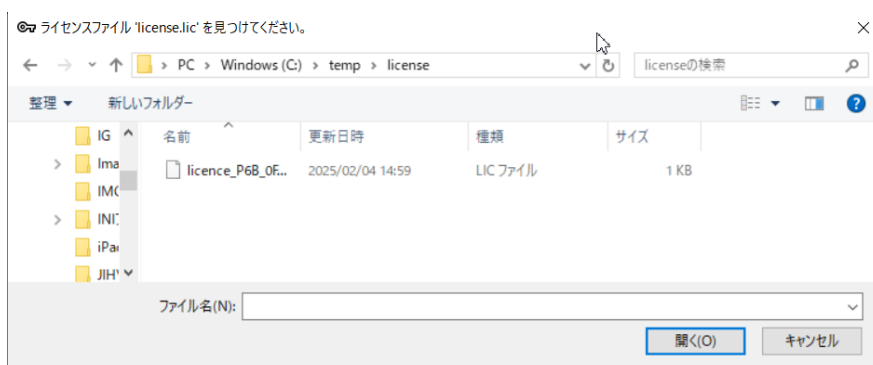
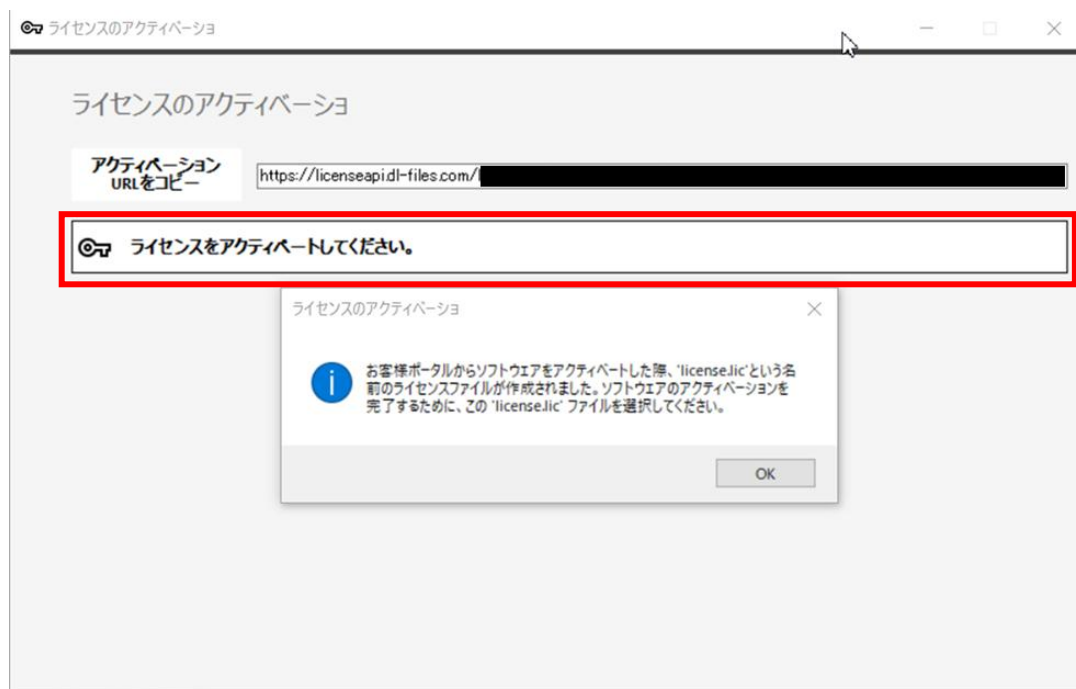
- TSplus Enterprise edition - 5 users
- Update/Support services for TSplus Enterprise edition - 5 users - 3 years
- TSplus Advanced Security Ultimate edition

Thank you for your business!
You can now safely close this window.

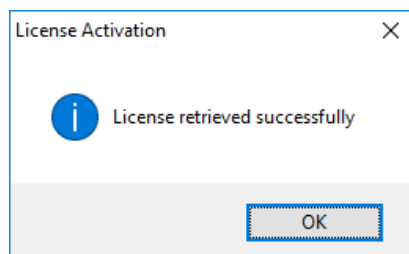
Download License file for Offline Activation

ダウンロードしたファイルを TSMagic サーバへコピーします。

「ライセンスをアクティベートしてください」ボタンをクリックし、適用するライセンスファイルを選択します。



ライセンスが正常に取得されたことを確認するメッセージが表示されます。



Tsmagic の更新

TSplus 社の開発チームでは、最新バージョンの Microsoft オペレーティングシステムおよび最新の更新プログラムと Tsmagic との安定性と互換性を確保するため日々取り組んでいます。

そのため、サーバを常に最新の状態に保つことをお勧めします。

年間サポート&アップデートサービスをご契約いただくと、最新のアップデートとバグ修正にアクセスできます。

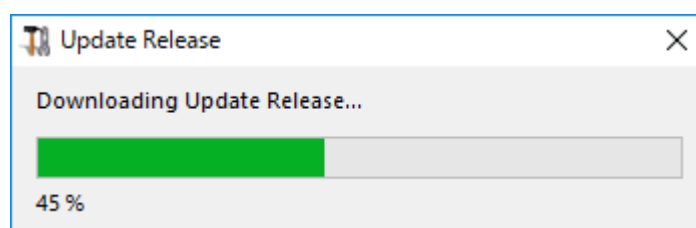
Tsmagic のバージョンを確認して更新するには、次の手順を実行します。:

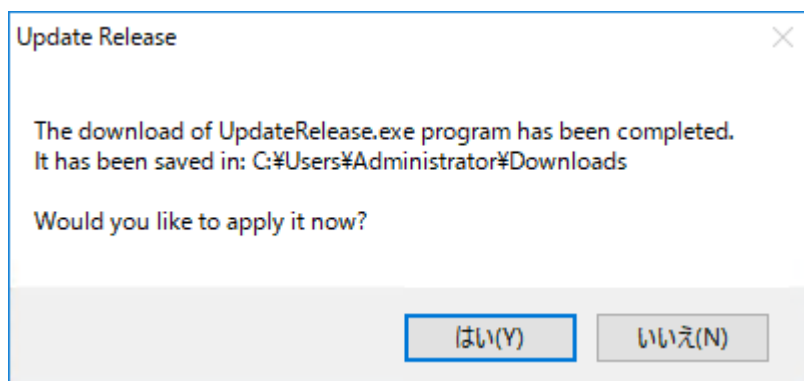
- Tsmagic リリース、サポート期限のステータスは、AdminTool の [ホーム] タブで確認できます。

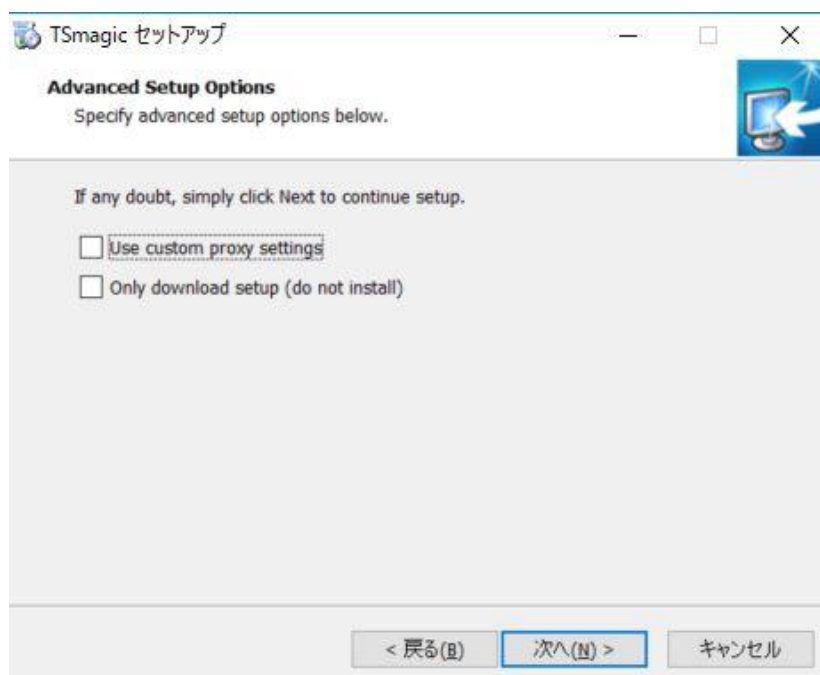
注意：メンテナンス契約が切れている状態ではアップデートを行うことはできません。サポート期限が切れていないことを確認してください。アップデートを行うには、サーバがインターネット環境にアクセス可能な状態である必要があります。
アップデートモジュールは TSplus 社が提供しておりますが、メジャーバージョンアップがあった場合、MSJ 社では検証を行ってからのサポート対象となる為、メジャーバージョンアップがあった場合には MSJ 社でサポート対象となるまでアップデートは行わないで下さい。
Tsmagic サポートセンターよりアップデートモジュールをダウンロードしての更新を推奨します。



これをクリックします。サポート期限が切れているとアップデートを行う事が出来ませんので、メンテナンスサポートのお申込みをお願い致します。







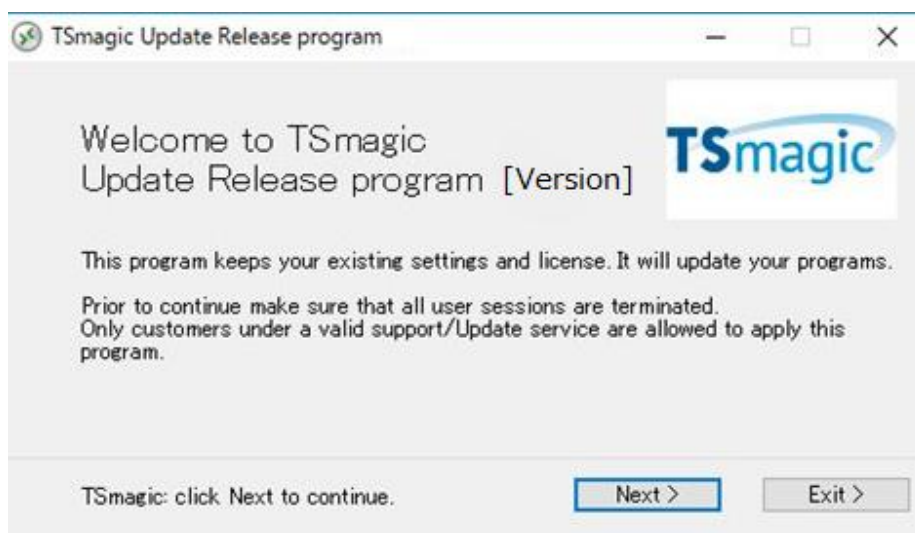
インストールモジュールのダウンロードに関する設定です。通常、どちらにもチェックせずに進めてください。

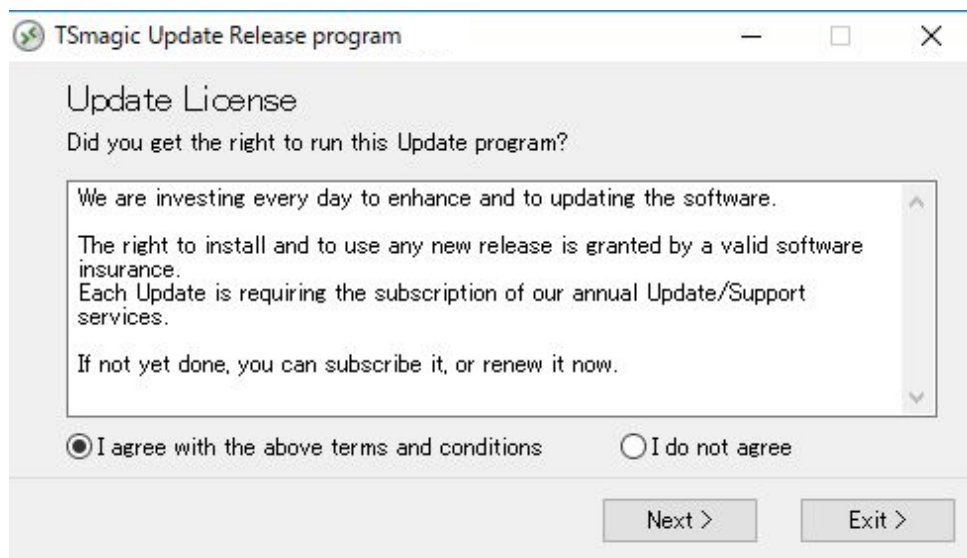
- Use custom proxy settings

プロキシ環境でダウンロードする場合にはチェックします。

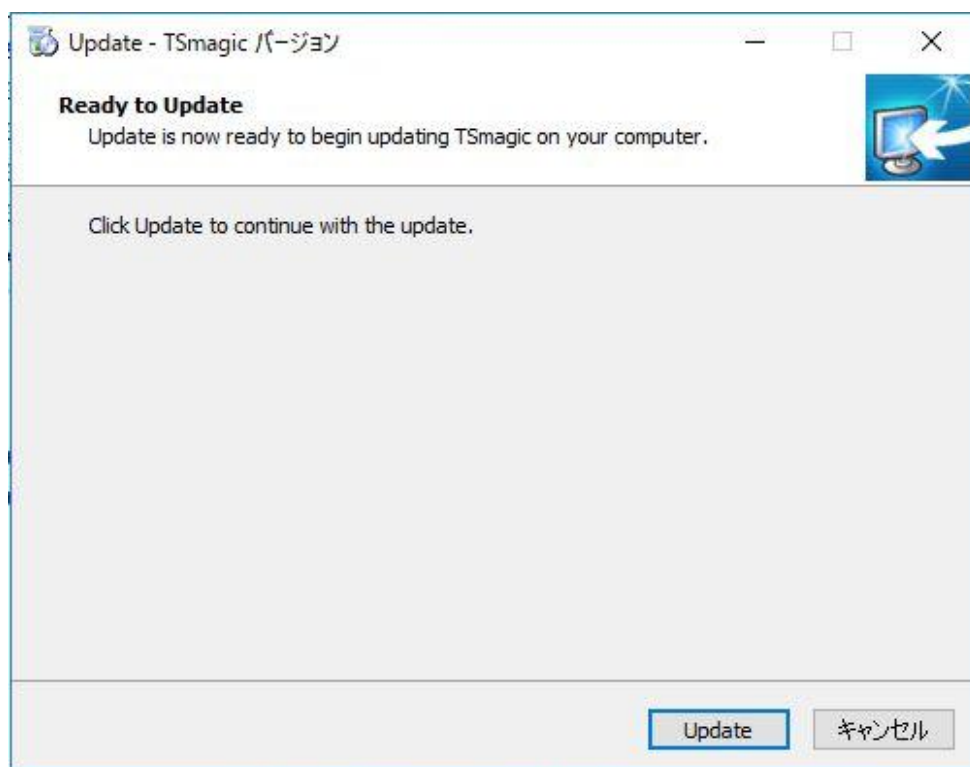
- Only download setup(do not install)

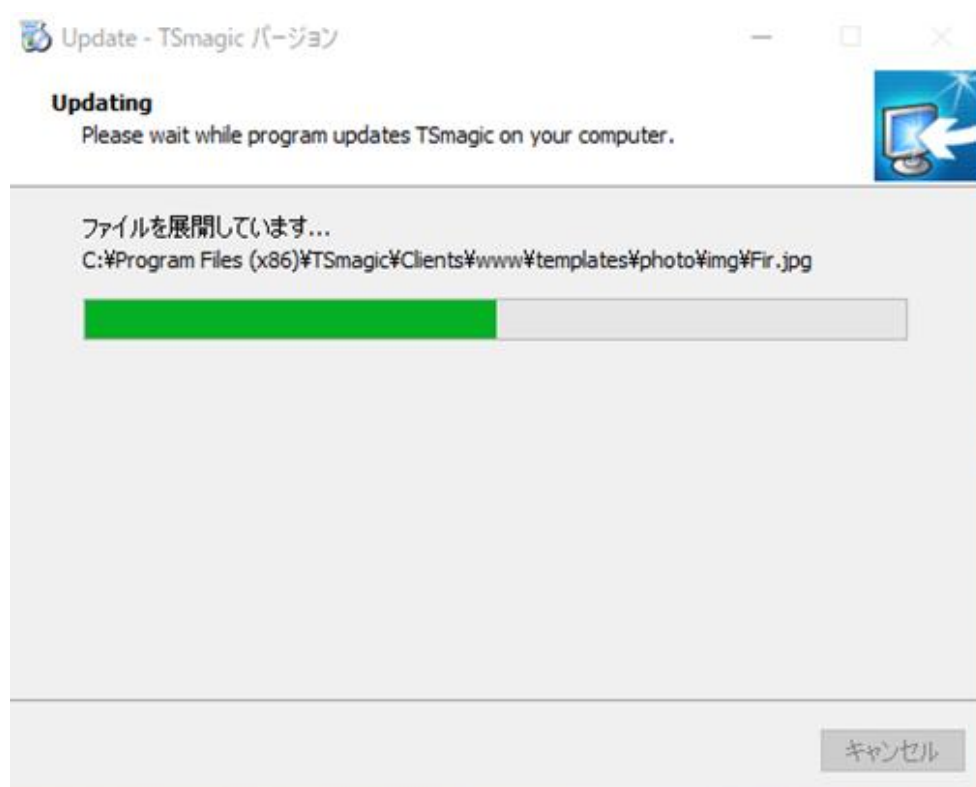
セットアップモジュールのダウンロードのみ行います。





[I agree with the above terms and conditions]をチェックし、「Next」





TSMagic では TSMagic Security はサポートされていません。必ず「Do not install」を選択して下さい。





Update Release プログラムは、現在の TSMagic の設定を安全に保つように設計されています。更新後に再起動をして下さい。

TSMagic Update/Support サービスをまだ登録していない場合、またはメンテナンス期限が切れている場合は、Update Release プログラムを実行できません。

その場合は当社にご連絡ください。

TSMagic サーバアップデート時のクライアントモジュールについて

ConnectionClient モジュールがアップデートされた場合には、クライアントで新しい Setup-ConnectionClient.exe を実行してアップデートを行ってください。

バージョン AA.BB.CC.DD 表記のうち、AA と BB の部分の数字が上がった時にはクライアントモジュールに修正が入っていることがあります。クライアントモジュールに修正があった場合、下記変更履歴ページで「Connection client(vxxx)」と表記されます。
<https://dl-files.com/TSplus-changelog.html>

V18.40.6.2 でアップデートされた ConnectionClient(V108)以降がクライアントにインストールされている場合、クライアントモジュールにアップデートがあった場合には、TSMagic サーバ接続時に自動的にクライアントモジュールがアップデートされるようになります。

起動アイコン（connect ファイル）の再作成は必要ありません。

ライセンスの移行（REHOST）

ハードウェア故障等でTsmagicサーバが利用出来なくなった場合、別のサーバにライセンスを移行（REHOST）する事が出来ます。

注意：

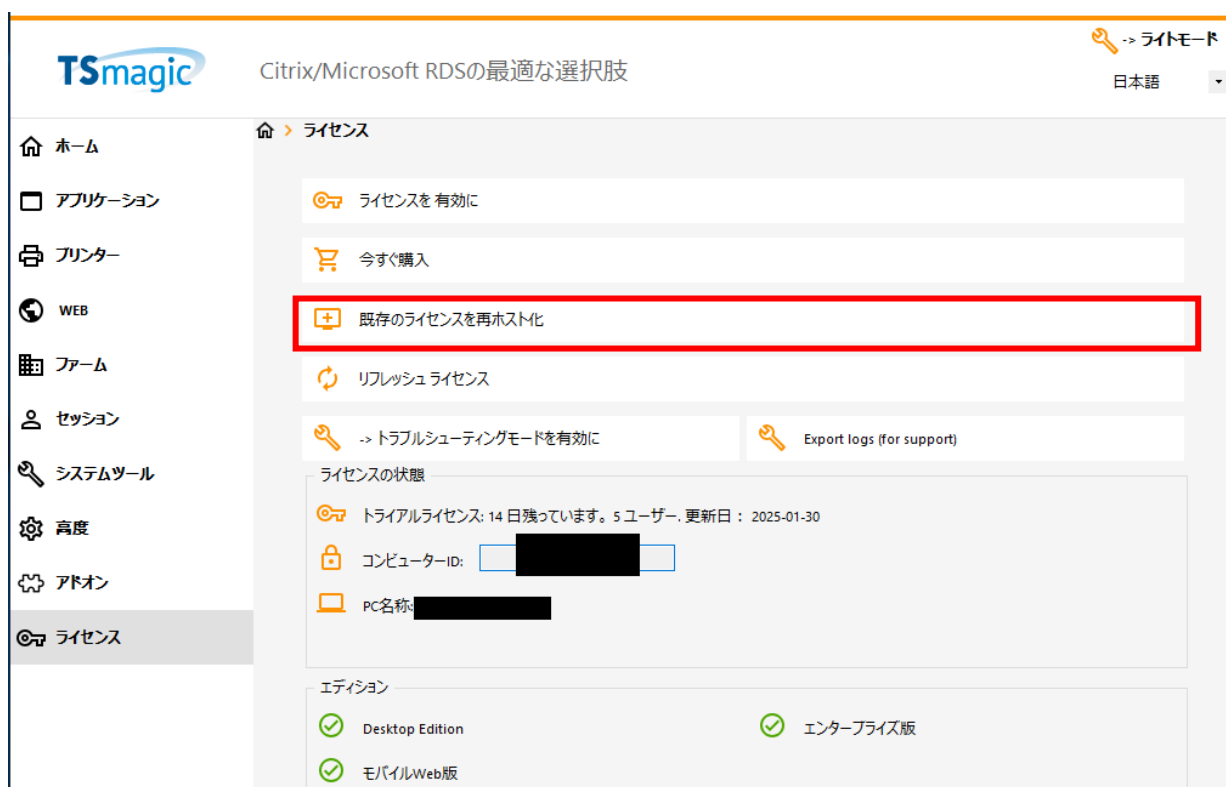
ライセンスのREHOSTを行うと1ヶ月間は次のREHOSTは出来なくなります。

REHOSTしたライセンスを元のサーバに戻すことは出来ず、15日経過すると元のサーバのライセンスは無効になり利用出来なくなります。メンテナンスサポート期限が切れている場合、REHOSTは出来ません。

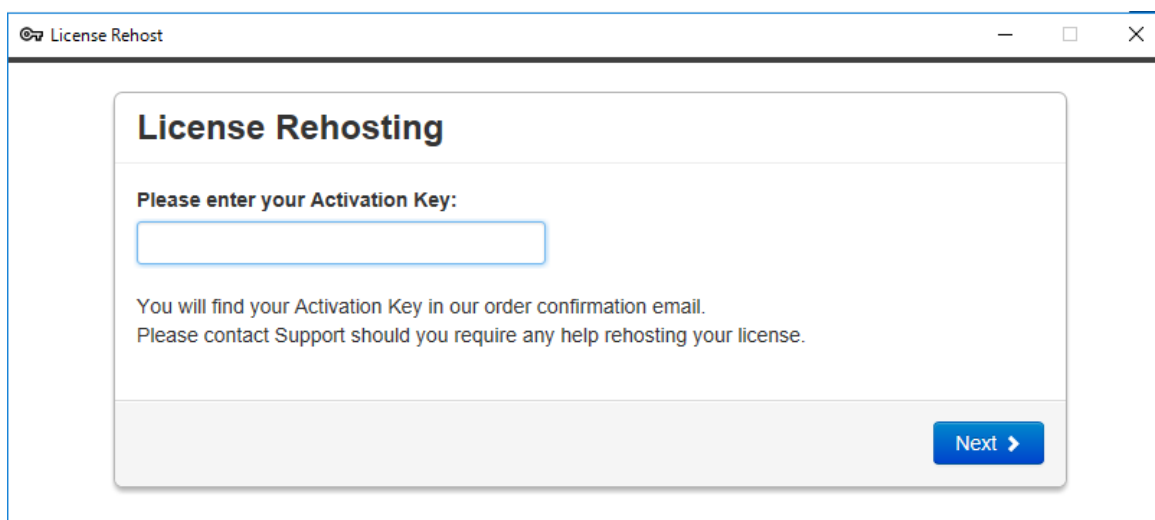
仮想環境などで複製された新しいサーバへのREHOSTを行う場合は P.39 を参照ください。

REHOST先のサーバにTsmagic体験版をインストールし、AdminTools/ライセンスタブを開きます。

「既存のライセンスを再ホスト化」をクリックします。（製品ライセンスが有効化されている場合には表示されません）



REHOSTする製品のActivationKeyを入力し、「Next」をクリックします。



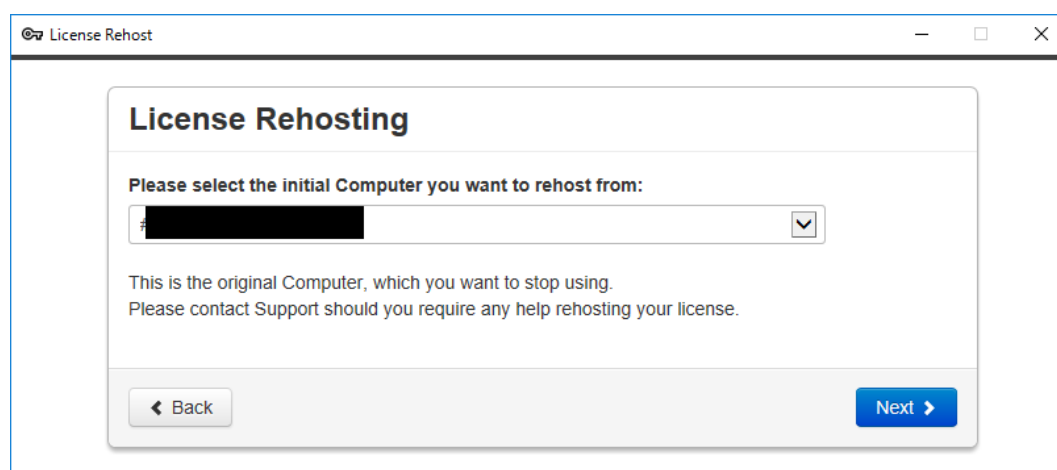
License Rehosting

Please enter your Activation Key:

You will find your Activation Key in our order confirmation email.
Please contact Support should you require any help rehosting your license.

Next >

REHOST元のサーバを選択します。



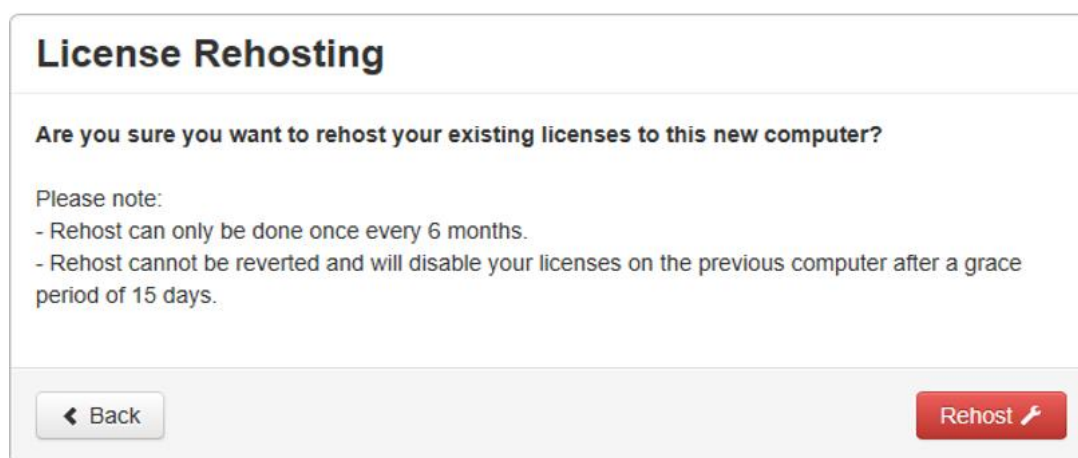
License Rehosting

Please select the initial Computer you want to rehost from:

This is the original Computer, which you want to stop using.
Please contact Support should you require any help rehosting your license.

< Back Next >

「Rehost」をクリックします。



License Rehosting

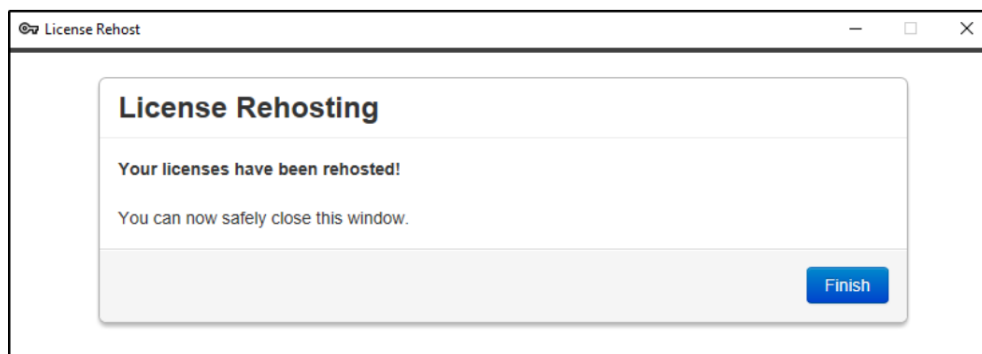
Are you sure you want to rehost your existing licenses to this new computer?

Please note:

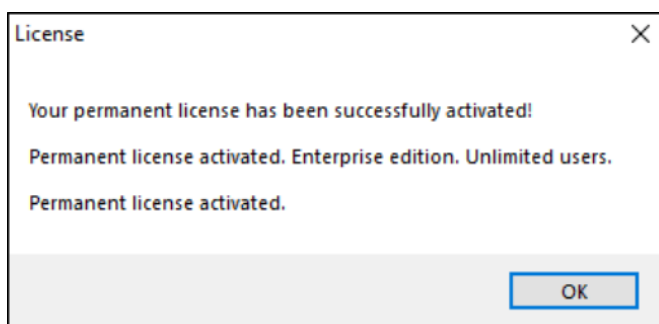
- Rehost can only be done once every 6 months.
- Rehost cannot be reverted and will disable your licenses on the previous computer after a grace period of 15 days.

< Back Rehost 🔧

ライセンスのREHOST完了。



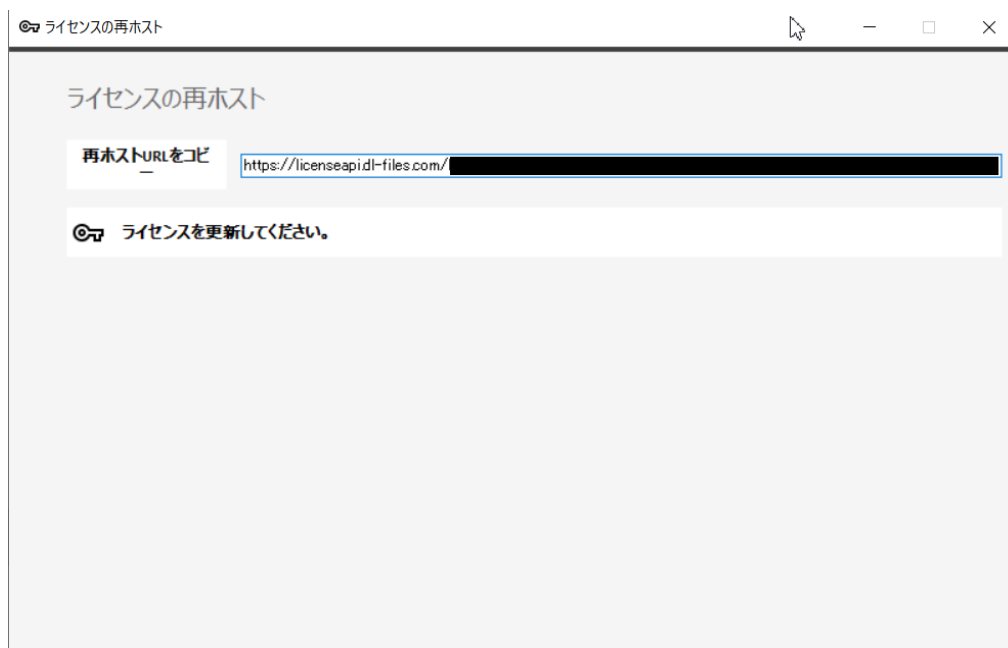
ライセンスが同期されるまでしばらく待ち、アクティベートされると次のウィンドウが表示されます。



オフライン環境での REHOST

REHOST先のサーバがインターネットにアクセスできない場合、「既存のライセンスを再ホスト化」ボタンをクリックすると、オフラインのREHOSTページが表示されます。

表示されたURLをインターネット環境に接続できるPCのブラウザで開きます。



以降の手順は「ライセンスのアクティベーション（オフライン）」と同様です。

「ハードウェア識別子の検証に失敗しました」エラー

物理サーバを仮想マシンに移行したり、同じ仮想マシンのコピーを作成すると、ライセンスステータスが「ハードウェア識別子の検証に失敗しました」となり使用できなくなります。このメッセージは、TSMagicが同じコンピュータIDを持つ別のサーバにライセンスがコピーされたことを検出したために表示されます。

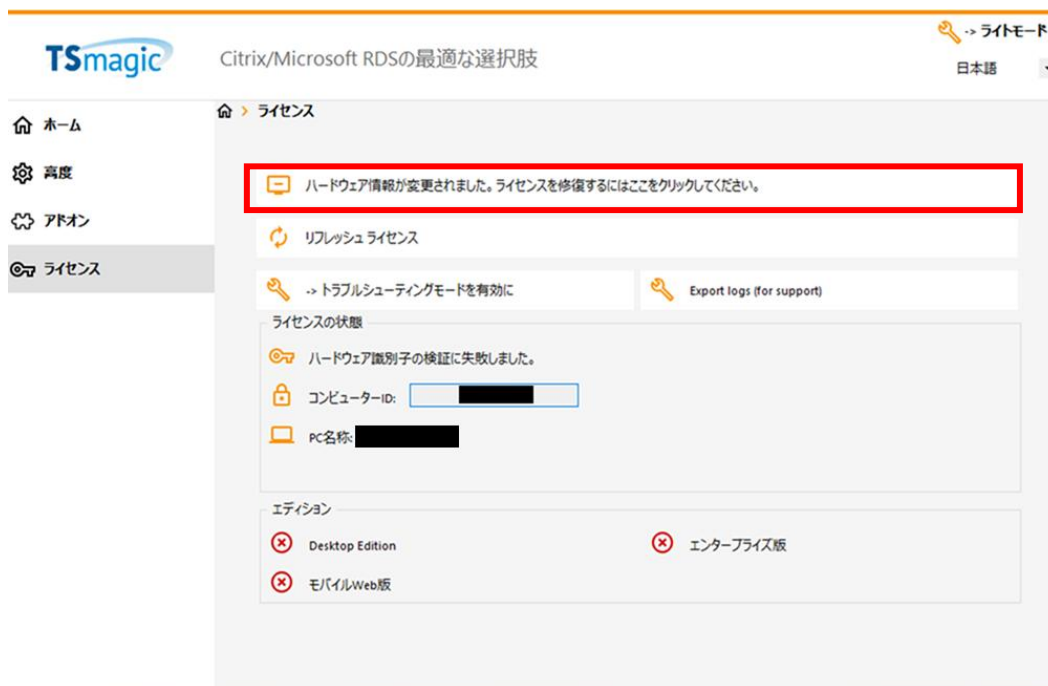
このような場合、次の手順でライセンスをREHOSTして下さい。ライセンスをREHOSTするには、元のサーバでメンテナンス契約が有効である必要があります。また、該当ライセンスが前回REHOSTしてから1ヶ月以上経過している必要があります。

1. 新しいサーバのホスト名を変更してサーバを再起動します。
2. [ホーム]タブの「ハードウェア識別子の検証に失敗しました。」ボタンをクリックします。

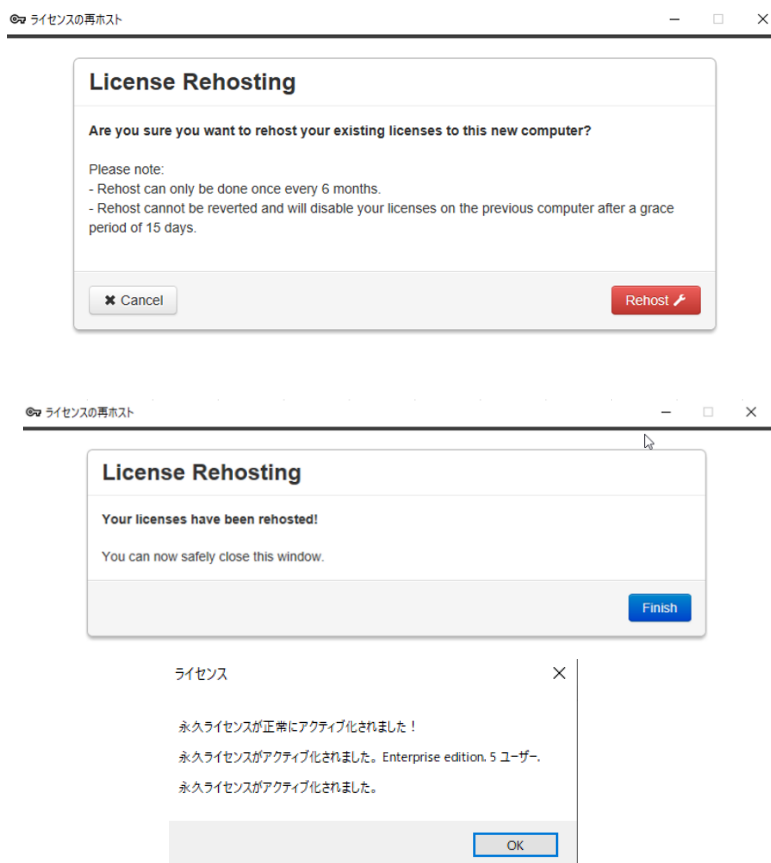


3. [ライセンス]タブが表示されます。

「ハードウェア情報が変更されました。ライセンスを修復するにはここをクリックしてください。」ボタンをクリックします。



4. 「ライセンスの再ホスト」ウィンドウがポップアップ表示されるので「Rehost」ボタンをクリックします。

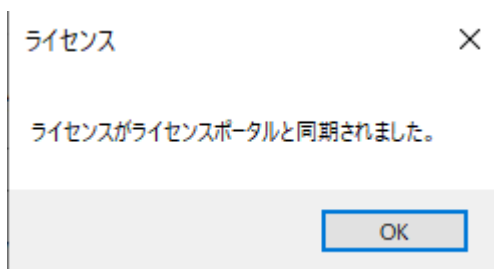
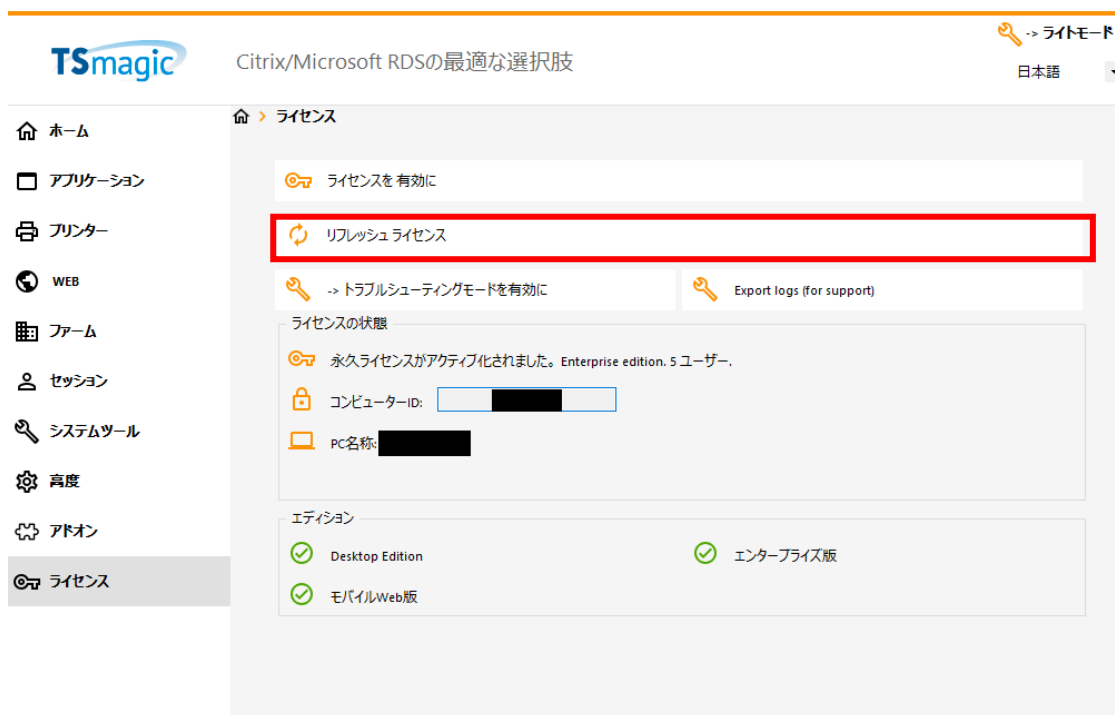


サポートライセンスの有効化

Tsmagicのアップデートリリースの適用、ライセンスのREHOST、サポートセンターへのお問い合わせにはTsmagicメンテナンスサポートが有効である必要があります。

メンテナンスサポート契約を更新された場合、以下の手順でサポートライセンスの有効化を行ってください。

「リフレッシュライセンス」をクリックしてライセンスサーバとの同期をとります。



Tsmagic サーバの保護

概要

サーバのセキュリティ保護は、すべての専門家が新たな章を追加できる、終わりのないストーリーです。

Tsmagic は、企業内の既存のセキュリティインフラストラクチャ（Active Directory、GPO、HTTPS サーバ、SSL または SSL 通信システム、VPN、ID カードの有無にかかわらずアクセス制御など）の恩恵を受け、互換性があります。

サーバを簡単にセキュリティで保護したいお客様向けに、Tsmagic は、適切なレベルのセキュリティを実施するための一連のシンプルで効果的な方法を提供しています。

RDP ポート番号の変更とファイアウォールの設定

AdminTool で、RDP サービスが接続で使用する TCP/IP ポート番号を変更することができます。デフォルトは 3389 です。任意のポートを選択できます。ただし、そのポートがネットワークでまだ使用されていないこと、ファイアウォールおよび各 Tsmagic ユーザアクセスプログラムで同じポート番号を設定していることが前提です。

Tsmagic には、独自のポート転送およびトンネリング機能があります。設定されている RDP ポートに関係なく、RDP は HTTP および HTTPS ポート番号でも使用できます。

ユーザがネットワークの外部から Tsmagic サーバにアクセスする場合は、選択したポート上のすべての着信接続が Tsmagic サーバに転送されるようにする必要があります。ホームタブで、「RDP ポート」の隣にある鉛筆ボタンをクリックします。

The screenshot shows the Tsmagic AdminTool interface. On the left is a sidebar with navigation icons for Home, Applications, Printer, Web, Farm, Session, System Tools, Settings, Add-on, and License. The main area displays system information and a configuration dialog for the RDP port. The dialog box, titled 'Tsmagic', has a tab 'ポート番号の入力' (Port Number Input) and shows the current port '3389'. Below the dialog, there are several status messages: 'システム監査 - 2025/0...' (System Audit - 2025/0...), 'バージョン 18.10.1.14 - 最新バージョンを使用しています' (Version 18.10.1.14 - Using the latest version), '永久ライセンスがアクティブ化されました。Enterprise edition, 5 ユーザー。' (Permanent license activated. Enterprise edition, 5 users), and a warning '警告: Tsmagicのサポートおよびアップデートサービスは2025-02-14に期限切れとなります。' (Warning: Tsmagic support and update service expires on 2025-02-14). At the bottom, there are three red warning icons: '2FA - 警告: ライセンスが期限切れまたは無効です。' (2FA - Warning: License expired or invalid), 'Tsmagic Securityをインストールしますか?' (Install Tsmagic Security?), and 'Tsmagic Server Monitoringをインストールしますか?' (Install Tsmagic Server Monitoring?).

RDP ポートを変更して保存します。

サーバ側のセキュリティ・オプション

AdminTool を使用すると、管理者によって生成された TSMagic 接続プログラムを使用していないユーザのアクセスを拒否できます。この場合、TSMagic 以外のリモートデスクトップクライアント(正しいサーバ・アドレス、ポート番号、有効なログオン、および有効なパスワードを持っていることが前提)とのセッションを開こうとするすべてのユーザは、自動的に切断されます。

管理者は、リモートデスクトップユーザグループのメンバーだけにセッションを開くことを許可することができます。

管理者は、セッションを開くためにパスワードが必須であるかどうかを指定することができます。

管理者は、適用可能なローカルグループポリシーを設定することによって、ターミナルサービスセッション中にクライアントとリモートコンピュータの間で送信されるすべてのデータに暗号化レベルを適用するかどうかを指定できます。

ステータスが [有効] に設定されている場合、サーバへのすべての接続の暗号化は、管理者が決定したレベルに設定されます。既定では、暗号化は [高] に設定されています。

管理者は、TSMagic 接続クライアントを持つユーザだけがセッションを開くことができるように、ルールとして設定することもできます。 標準の RDP または Web アクセスによる着信アクセスは、自動的に拒否されます。

セッション権限

[セッション] - [権限]タブをクリックすると、複数の高度なセキュリティオプションが表示されます。



The screenshot shows the TSMagic administration console. The top bar includes the TSMagic logo, the title 'Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢', and a 'ライトモード' (Light Mode) toggle. The sidebar on the left lists various management categories. The main panel is titled 'セッション > 権限' (Sessions > Permissions) and displays three configuration sections:

- Microsoft リモートデスクトップクライアントの制限** (Microsoft Remote Desktop Client Restrictions):
 - ☒ すべてのユーザーに対してRDPクライアントからのアクセスを許可 (外部からのアクセスを拒否 (LANのみ))
 - ☐ 管理者のみによるRDPクライアントからのアクセスを許可
 - ☐ Microsoft RDPクライアントからのアクセス拒否
- サーバー高度なセキュリティオプション** (Server High Security Options):
 - ☐ リモートデスクトップユーザーのメンバーへのアクセス制限
 - ☐ 暗号化されたエンドツーエンドの通信
 - ☐ このサーバーへのすべての着信アクセスのブロック
 - ☐ UACの停止、Windowsアクセスの増加
 - ☒ Windowsキーを許可
 - ☐ 少なくとも1つの割り当てられたアプリケーションを持つユーザーのみを許可します。
 - ☒ セッション内での切り取り/貼り付けを許可します。
- Webポータルへのアクセス制限** (Web Portal Access Restrictions):
 - ☒ 制限なし
 - ☐ Webポータルへのアクセスは全員にとって必須です。
 - ☐ Webポータルは管理者を除いて必須です。
 - ☐ 管理者アカウントに対してWebポータルを禁止します。

Microsoft リモートデスクトップクライアントの制限

- **すべてのユーザーに対して RDP クライアントからのアクセスを許可**：全てのユーザの mstsc.exe を使用した接続を許可します。
- **管理者のみによる RDP クライアントからのアクセスを許可**：管理者のみの mstsc.exe を使用した接続を許可します
- **Microsoft RDP クライアントからのアクセス拒否**：mstsc.exe を使用した接続をすべて拒否します。
- **外部からのアクセスを拒否 (LAN のみ)**：LAN からのプライベート IP だけがセッションを開くことができます。

サーバー高度なセキュリティオプション

- **リモートデスクトップユーザのメンバーへのアクセス制限**：この制約は、ローカルユーザグループ にのみ適用されます。
- **暗号化されたエンドツーエンドの通信**：高 128 ビット暗号化を使用してクライアント/サーバ通信を暗号化します。ターミナルサーバにアクセスするクライアントが 128 ビット暗号化もサポートしている場合は、このレベルを使用します。
- **このサーバへのすべての着信アクセスのブロック**：すべてのアライブセッションはアクティブのままですが、着信接続の試行はすべてブロックされます。このチェックボックスをオンにする場合は、サーバのコンソールに物理的にアクセスできることを確認してください。サーバがクラウド環境でホストされている場合は、このオプションを使用しないでください。
- **UAC の停止、Windows アクセスの増加**：ユーザアカウント制御を無効にし、Windows から不要なセキュリティポップアップをすべて削除します。アプリケーションの起動時にユーザ制限メッセージが表示されます。
- **Windows キーを許可**：TSMagic セッション内で Windows のキーと組み合わせを使用できます。
- **少なくとも 1 つの割り当てられたアプリケーションを持つユーザーのみを許可します。**：1 つ以上のアプリケーションを割り当てられたユーザのみセッションを開くことができます。
- **セッション内での切り取り貼り付けを許可します。**：このチェックボックスをオフにすると、CTRL C/CTRL V コマンドが無効になります。

Web ポータルへのアクセス制限

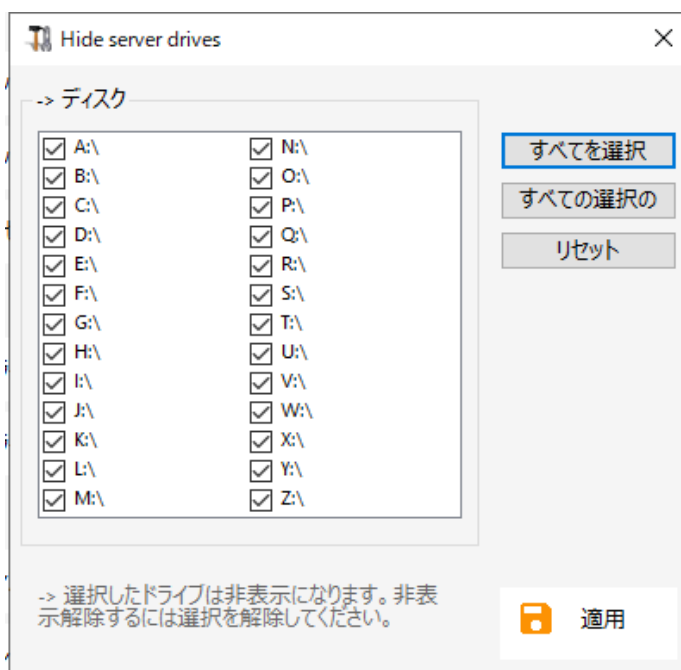
- **制限なし**：制限なし
- **Web ポータルへのアクセスは全員にとって必須です。**：Web Portal はすべてのユーザに必須であり、ユーザは Web Portal を介してのみ接続できます。
- **Web ポータルは管理者を除いて必須です**：ユーザは、管理者を除き、Web ポータル経由でのみ接続できます。
- **管理者アカウントに対して Web ポータルを禁止します。**：管理者は Web ポータル経由で接続できません。

サーバのディスクドライブを非表示にする：

AdminTool には、サーバのディスクドライブを非表示にして、ユーザが [マイコンピュータ] または標準の Windows ダイアログボックスからフォルダにアクセスできないようにするツールが含まれています。[セッション] タブで、[ディスクドライブ非表示] をクリックします。



このツールはグローバルに機能します。つまり、設定を適用した後は、管理者であってもドライブに通常アクセスできなくなります。次の例では、すべてのドライブが「すべて選択」ボタンで選択されています。これにより、すべての人に非表示にするドライブに対応するすべてのボックスがオンになります。



注: この機能は強力ですが、ディスクドライブへのアクセスを無効にするものではありません。ユーザにドライブが表示されなくなるだけです。

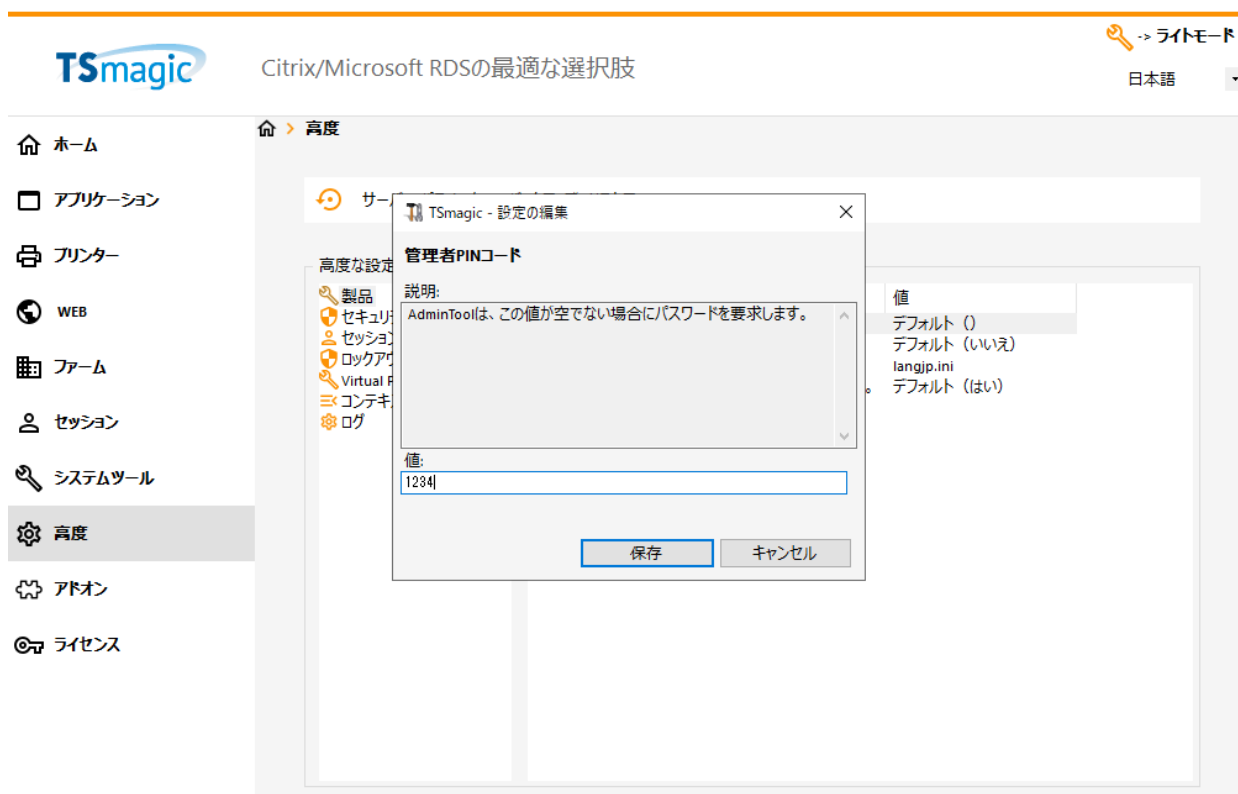
このツールは、ディスクドライブに非表示のフラグを設定しますが、[ドキュメントと設定] のルートフォルダおよびユーザの一覧全体にも HIDDEN プロパティを追加します。

管理者がこれらのファイルを表示したい場合、次の操作を行う必要があります。

1. ディスクドライブ文字を入力します。例えば「D:¥」 と入力すると D: ドライブに移動します。
2. フォルダービューのプロパティで[隠しファイルとフォルダーの表示]をオンにします。

管理者ピンコード

管理者は、AdminTool の [ADVANCED] タブの [Product] で、起動時に毎回要求されるピンコードを設定することにより、AdminTool へのアクセスを保護できます。



ADD-ONS

ADD-ONS の内容は、TSMagic ではサポート対象外です。利用は出来ません。TSMagic Security、二要素認証については初回インストール後 15 日間のみ試用出来ますが、それ以降は利用する事は出来ません。

- TSMagic Security
- 二要素認証
- TSMagic Server Monitoring


Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢


-> ライトモード

日本語

ホーム

アプリケーション

プリンター

WEB

ファーム

セッション

システムツール

高度

アドオン

ライセンス

アドオン


TSMagic Security - サーバーを保護してください

サーバーをブルートフォース攻撃や外部からの侵入から保護してください。
ファイルを破壊される前にランサムウェアをブロックしてください。
ユーザーのアクセスを制限し、高度にセキュリティの強化された環境に閉じ込めてください。


二要素認証 - ユーザーの身元を確認

パスワードは紛失されたり、フィッシング攻撃で盗まれたりし、非常に短時間で解読されることさえあります。
二要素認証はこの問題を簡単かつ効果的に解決し、ユーザーの携帯端末にコードを送信する追加のセキュリティレイヤーを提供します。


TSMagic Server Monitoring - サーバーを監視

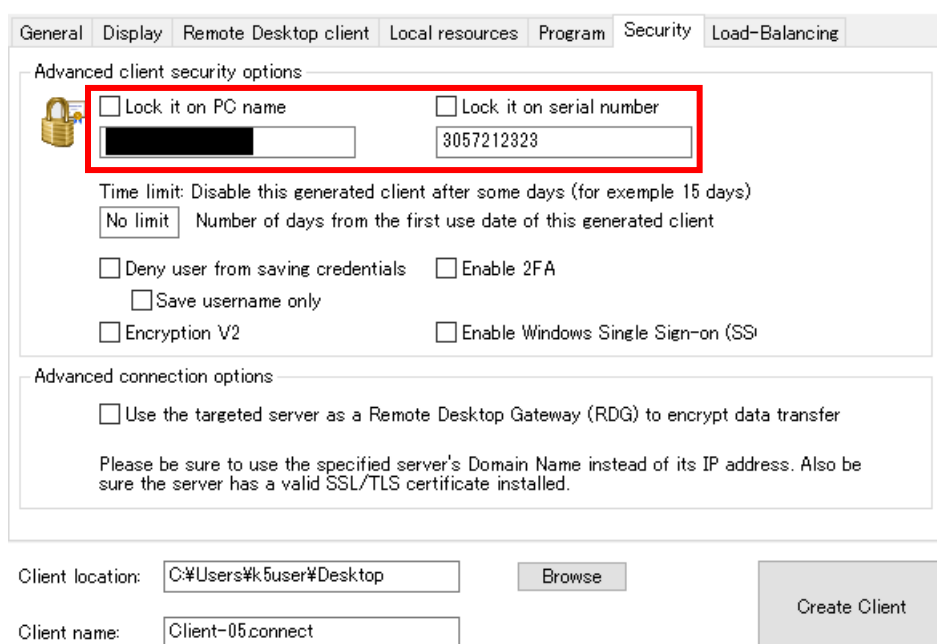
TSMagic Server Monitoringはソフトウェアリソースを最適化し、不要なコストを削減するのに役立ちます。
サーバーの使用状況（CPU、メモリ、I/O、ディスク）に関する事実とデータを提供します。
変更、リソース使用状況、およびイベントをリアルタイムのメールアラートで追跡します。

TSMagic アクセสプログラムのセキュリティオプション:

TSMagic クライアントジェネレータの[Security]タブでは、TSMagic クライアントを次のようにロックする機能を提供します。

- Lock it on PC name : 設定された名前の PC 以外からは起動できません。
- Lock it on serial number : 物理ドライブのシリアル番号(PC の HDD または USB スティック)。これは、高いレベルのセキュリティを設定するための非常に簡単で強力な方法です。接続する唯一の方法は特定のクライアントを使用することであり、この特定のクライアントは特定の USB スティックまたは PC HDD でしか起動できません。お客様の中には、指紋を読み取る USB スティックを各ユーザに配布している方がいます。生成された各プログラムはデバイスのシリアル番号でロックされています。このようにして、クライアントのプログラム自体へのアクセスを制限したり、USB メモリからコピーし他の場所から使用できないようにすることができます。

Windows Client Generator



General Display Remote Desktop client Local resources Program Security Load-Balancing

Advanced client security options

☐ Lock it on PC name ☒ Lock it on serial number

☐ [Redacted]

Time limit: Disable this generated client after some days (for exemple 15 days)

Number of days from the first use date of this generated client

☐ Deny user from saving credentials ☐ Enable 2FA

☐ Save username only

☐ Encryption V2 ☐ Enable Windows Single Sign-on (SS)

Advanced connection options

☐ Use the targeted server as a Remote Desktop Gateway (RDG) to encrypt data transfer

Please be sure to use the specified server's Domain Name instead of its IP address. Also be sure the server has a valid SSL/TLS certificate installed.

Client location:

Client name:

サーバ管理

AdminTool の [ホーム] タブでは、TSMagic サーバに関する必要な情報がすべて表示されます。



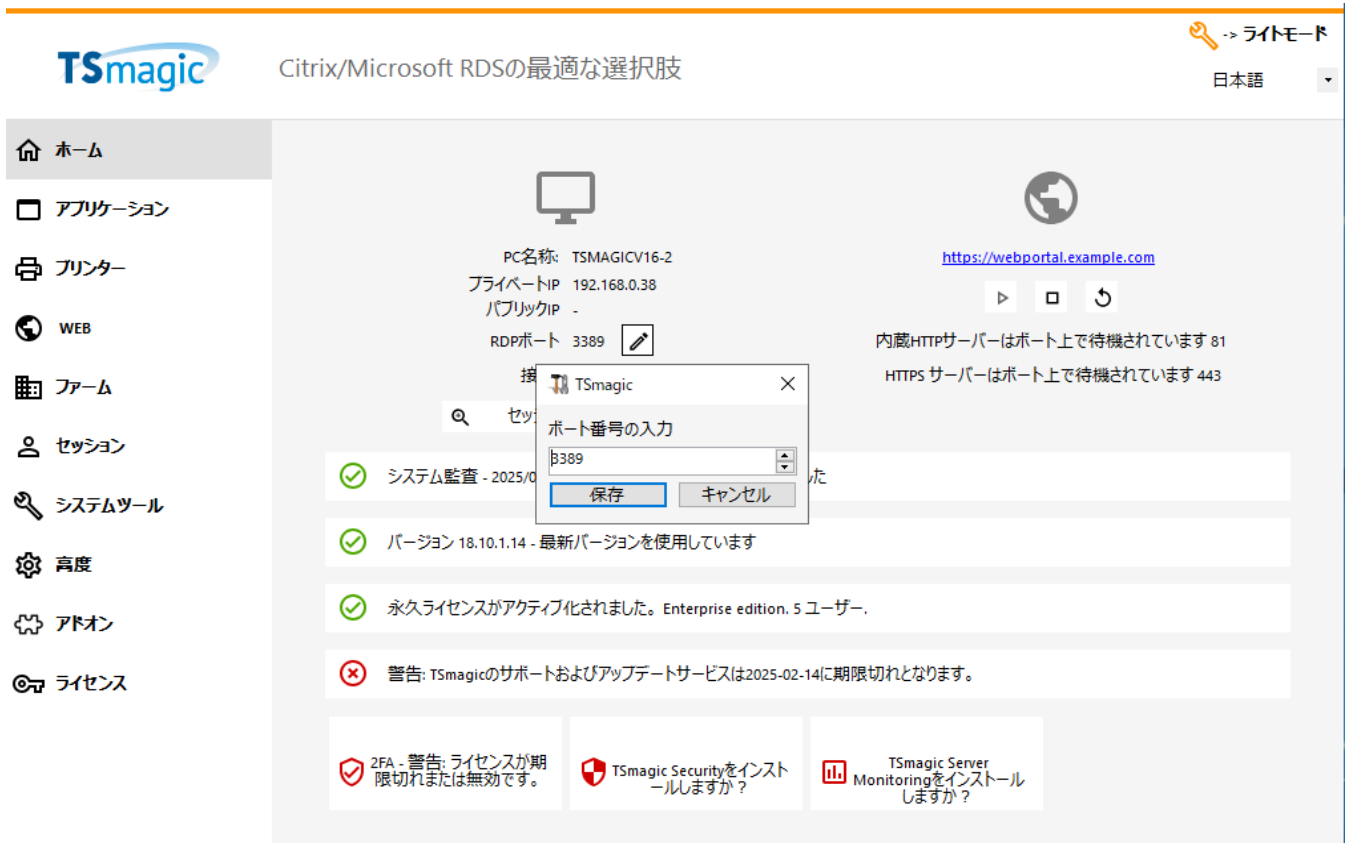
The screenshot shows the TSMagic AdminTool interface. The top header includes the TSMagic logo, the text "Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢", and a "ライトモード" (Light Mode) toggle. A language dropdown is set to "日本語". The left sidebar contains navigation links: ホーム (Home), アプリケーション (Applications), プリンター (Printers), WEB, フォーム (Forms), セッション (Sessions), システムツール (System Tools), 高度 (Advanced), アドオン (Add-ons), and ライセンス (Licenses). The main content area displays server information: PC name (redacted), Private IP (redacted), Public IP (redacted), RDP port 3389, and 1 connection. It also shows a URL "https://webportal.example.com" and status for HTTP (port 81) and HTTPS (port 443) servers. A search bar labeled "セッションマネージャ" (Session Manager) is present. Below this, a list of system checks is shown with green checkmarks for "システム監査" (System Audit), "バージョン" (Version), and "永久ライセンス" (Permanent License). A red warning icon indicates a support and update service deadline. At the bottom, three red warning icons highlight license expiration, security tool installation, and server monitoring installation.

RDP ポート番号の変更とファイアウォールの設定

AdminTool を使用すると、RDP サービスが接続を受け入れるための TCP/IP ポート番号を変更する事ができます。デフォルトは 3389 です。任意のポートを選択できますが、そのポートがネットワークでまだ使用されていないこと、ファイアウォールおよび各 TSmagic ユーザアクセスプログラムで同じポート番号を設定していることが前提です。

TSmagic には、独自のポート転送およびトンネリング機能があります。設定されている RDP ポートに関係なく、RDP は HTTP および HTTPS ポート番号でも使用できます。

ユーザがネットワークの外部から TSmagic サーバにアクセスする場合は、選択したポート上のすべての着信接続が TSmagic サーバに転送されるようにする必要があります。



The screenshot shows the TSmagic AdminTool interface. On the left is a sidebar with navigation icons for Home, Applications, Printers, Web, Farm, Sessions, System Tools, Settings, Add-ons, and Licenses. The main area displays system information for PC 名称: TSMAGICV16-2, プライベートIP: 192.168.0.38, and RDPポート: 3389. A modal dialog box titled 'TSmagic' is open, showing 'ポート番号の入力' (Port number input) with '3389' entered. Below the dialog, there are status messages: 'システム監査 - 2025/0' (checked), 'バージョン 18.10.1.14 - 最新バージョンを使用しています' (checked), and '永久ライセンスがアクティブ化されました。Enterprise edition. 5 ユーザー。' (checked). A warning message states: '警告: TSmagicのサポートおよびアップデートサービスは2025-02-14に期限切れとなります。' (Warning: TSmagic's support and update services will expire on 2025-02-14). At the bottom, there are three red warning icons: '2FA - 警告: ライセンスが期限切れまたは無効です。' (2FA - Warning: License is expired or invalid), 'TSmagic Securityをインストールしますか?' (Install TSmagic Security?), and 'TSmagic Server Monitoringをインストールしますか?' (Install TSmagic Server Monitoring?).

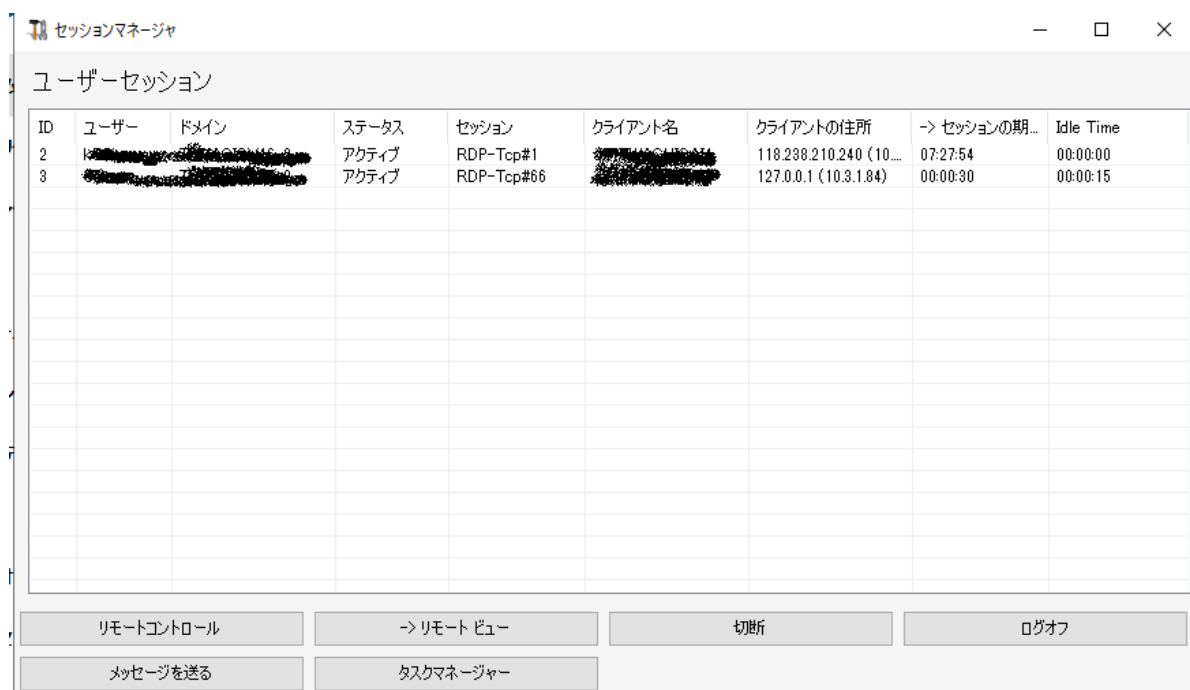
ユーザとセッションの管理

セッションマネージャは、RDP ポートのすぐ下にあります。



The screenshot shows the Tsmagic web interface. The left sidebar contains a list of navigation items: ホーム (Home), アプリケーション (Applications), プリンター (Printers), WEB, フォーム (Forms), セッション (Sessions), システムツール (System Tools), 高度 (Advanced), アドオン (Add-ons), and ライセンス (Licenses). The 'セッション' (Sessions) item is highlighted. The main content area displays system information, including PC name, private IP, public IP, RDP port (3389), and connection status (1). A search bar with the text 'セッションマネージャ' (Session Manager) is highlighted with a red box. Below the search bar, there are several status messages: a green checkmark indicating system monitoring is active, a green checkmark indicating the latest version is used, a green checkmark indicating the license is activated, and a red X warning about the support and update service expiration. At the bottom, there are three prompts: a 2FA warning, a Tsmagic Security installation prompt, and a Tsmagic Server Monitoring installation prompt.

サーバのタスクマネージャを表示したり、リモート制御のアクティブ化、切断、ログオフ、またはユーザへのメッセージの送信を行うことができます。



次のオペレーティングシステムで管理者アカウントを使用してリモートセッションを介してリモート制御をアクティブ化出来ます。

- Windows Server2016
- Windows Server2019
- Windows Server2022

クライアント側では、リモート制御を受け入れるように次のメッセージが表示されます。

リモート制御要求

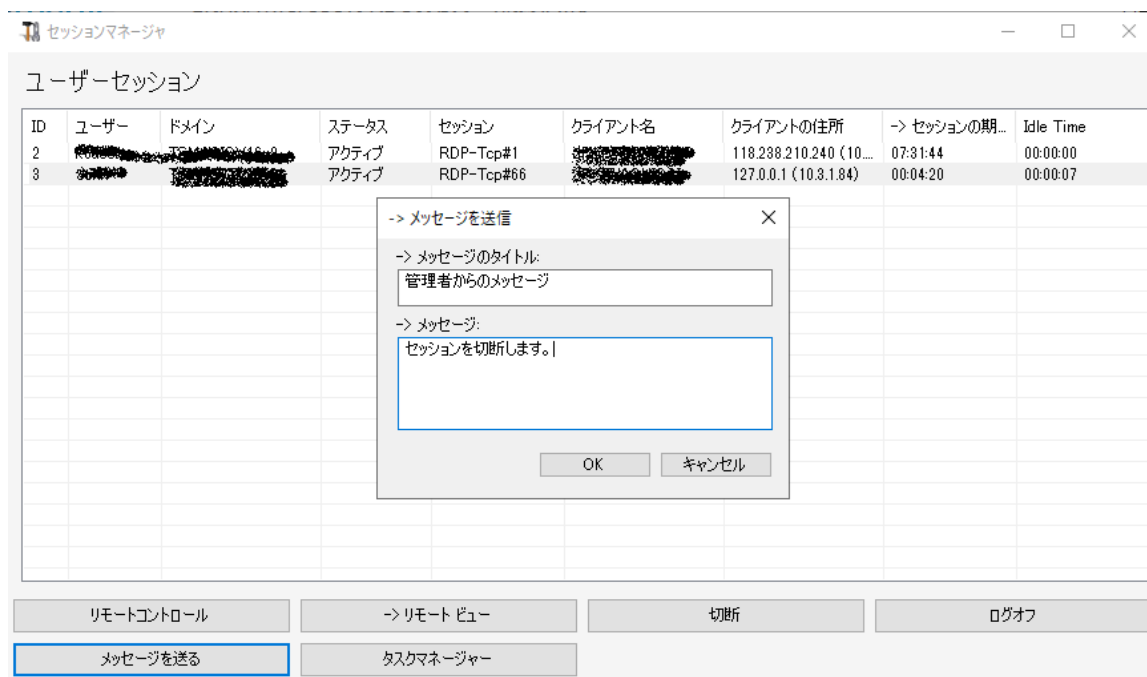


TSMAGICV15¥k5user がセッションのリモート制御を要求しています。この要求を受け入れますか？

はい(Y)

いいえ(N)

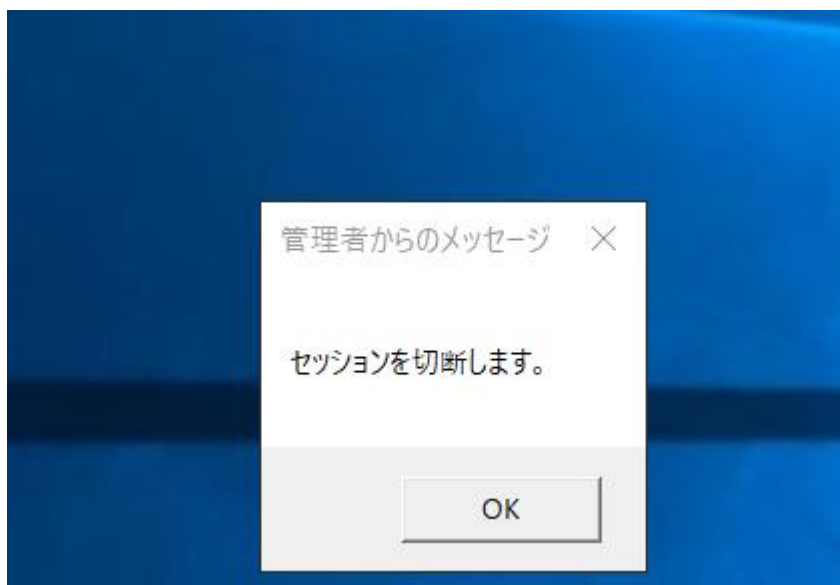
ユーザにメッセージを送信することもできます。



The screenshot shows the 'セッションマネージャ' (Session Manager) window. It contains a table titled 'ユーザーセッション' (User Sessions) with columns: ID, ユーザー (User), ドメイン (Domain), ステータス (Status), セッション (Session), クライアント名 (Client Name), クライアントの住所 (Client Address), セッションの期... (Session Date), and Idle Time. Two sessions are listed with IDs 2 and 3. A modal dialog box titled '-> メッセージを送信' (Send Message) is open, showing a message title '管理者からのメッセージ' (Message from Administrator) and a message body 'セッションを切断します。' (Terminate session.). The dialog has 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons. At the bottom of the window, there are buttons for 'リモートコントロール' (Remote Control), 'リモート ビュー' (Remote View), '切断' (Terminate), 'ログオフ' (Log Off), 'メッセージを送る' (Send Message), and 'タスクマネージャ' (Task Manager).

ID	ユーザー	ドメイン	ステータス	セッション	クライアント名	クライアントの住所	-> セッションの期...	Idle Time
2	[REDACTED]	[REDACTED]	アクティブ	RDP-Top#1	[REDACTED]	118.238.210.240 (10...	07:31:44	00:00:00
3	[REDACTED]	[REDACTED]	アクティブ	RDP-Top#66	[REDACTED]	127.0.0.1 (10.3.1.84)	00:04:20	00:00:07

サーバ側で送信されたメッセージ



クライアント側に表示されるメッセージ

[システムツール]- [ユーザーとグループ] タブでは、ユーザを追加/編集または削除できます。


Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢

 ライトモード
日本語

ホーム

アプリケーション

プリンター

WEB

ファーム

セッション

システムツール

高度

アドオン

ライセンス

システムツール

サービス

ユーザーとグループ

サーバー プロパティ

Windowsシステムツールキット

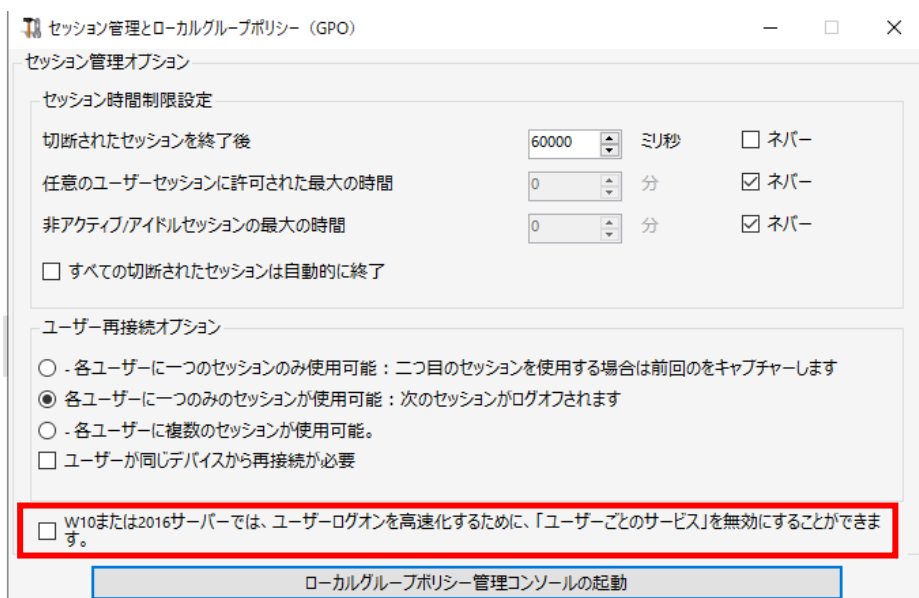
ローカルグループポリシー エディタ

イベントビューア

IIS マネージャ

サーバー 再起動

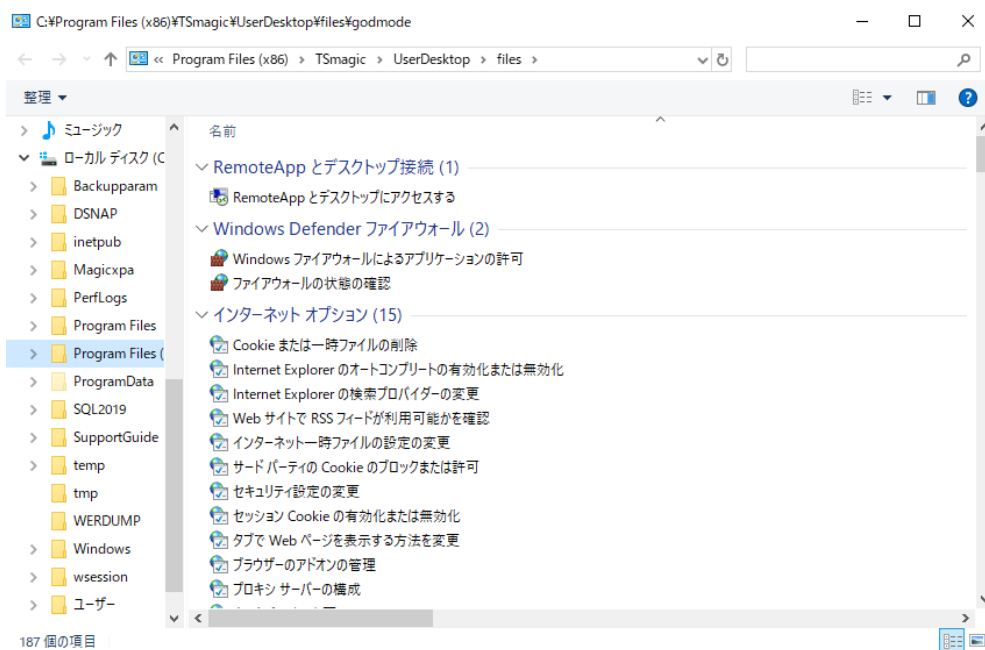
[セッション]-[セッション管理設定] タブでは、セッションおよびユーザ毎にさまざまな接続設定を行うことができます。



Windows Server 2016 では、新しい "ユーザごとのサービス" が導入され、サービスはユーザごとにすべてのプロセスを開始するため、ユーザのログオン時間が遅くなります。TSMagic では、ユーザのログオン速度を上げるために、ユーザごとのサービスを無効にすることができます。

サービスとプロパティ

Windows システムツールキットは、すべての Windows 管理ツールを要約した拡張コントロールパネルです。



[サーバープロパティ] : Windows のコントロールパネルを開きます

[サービス] : Windows のサービスウィンドウを開きます

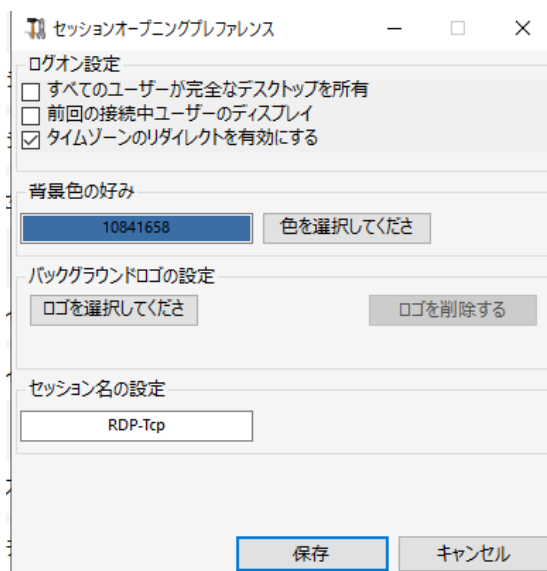
[セッション]-[セッションオープニング好み]

シェルセッション設定、ログオン設定、セッションの背景色を選択し、独自のロゴを追加したりセッションリストに表示されるセッション名を変更することができます。



- 前回の接続中ユーザーのディスプレイ
接続時に、前回接続されたユーザ画面を表示する。
- タイムゾーンのリダイレクトを有効にする
クライアントコンピューターはタイムゾーン設定をリモートデスクトップサービスセッションにリダイレクトできます。このポリシー設定を有効にすると、タイムゾーンリダイレクトが可能なクライアントは、タイムゾーン情報をサーバに送信します。

背景色の変更やロゴの設定、ユーザセッション名のカスタマイズも可能です。



[セッション]-[セッション事前起動の設定]

The screenshot shows the TSMagic web interface. The top navigation bar includes the TSMagic logo, the text 'Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢', and a 'ライトモード' (Light Mode) toggle. The left sidebar contains a menu with options: ホーム (Home), アプリケーション (Applications), プリンター (Printers), WEB, ファーム (Farms), セッション (Sessions), システムツール (System Tools), 高度 (Advanced), アドオン (Add-ons), and ライセンス (Licenses). The main content area is titled 'セッション' (Sessions) and lists several settings: セッション管理設定 (Session Management Settings), セッションオープニング好み (Session Opening Preferences), セッション事前起動の設定 (Session Pre-launch Settings) - highlighted with a red box, クライアント側がファイルを開きます (Client opens files), クライアント側が URL を開きます (Client opens URLs), ディスクドライブ 非表示 (Hide disk drives), コンテキストメニュー (Context menu), 権限 (Permissions), and クライアントジェネレーター (Client generator).

The screenshot shows the 'セッション事前起動の設定' (Session Pre-launch Settings) page. The top navigation bar is the same as the previous screenshot. The left sidebar is also the same. The main content area is titled 'セッション事前起動の設定' and contains the following information:

- A green checkmark icon and text: 'セッション事前起動が有効になっています。クリックして無効にします。' (Session pre-launch is enabled. Click to disable).
- A lightning bolt icon and text: '今すぐプレローンチを試してみてください。' (Try pre-launch now).
- Explanatory text: 'セッション事前起動は、TSMagic 管理者がユーザーセッションを予定された時間に開始できるようにします。事前起動が有効になっていると、ユーザーはサーバー上でロードされるのを待たずにアクティブなセッションに接続します。' (Session pre-launch allows TSMagic administrators to start user sessions at scheduled times. When enabled, users can connect to active sessions without waiting for the server to load).
- Text: 'この機能を使用するには、新しいセッションを開くために TSMagic サービスがユーザーの資格情報を知っている必要があります。有効になっている場合、構成されたユーザーが TSMagic Web ポータルを通じて認証するたびにユーザーの資格情報が保存されます。' (To use this feature, TSMagic services must know the user's credentials to open a new session. When enabled, user credentials are saved each time a configured user authenticates through the TSMagic Web portal).
- Text: 'ユーザーの資格情報が保存されており、有効でない限り、事前起動セッションは機能しません。' (User credentials are saved, and pre-launch sessions do not function unless they are enabled).
- Text: 'セッション事前起動を有効にすると、選択したユーザーとグループに自動的に以下のセッション設定が適用されます。' (When session pre-launch is enabled, the following session settings are automatically applied to the selected users and groups).
- A section titled '前提条件' (Prerequisites) with three green checkmarks:
 - キャプチャーセッションモードが有効になっています (Capture session mode is enabled).
 - 切断されたセッションには、十分なアイドル時間 (2時間以上) が許可されています (Sufficient idle time (2 hours or more) is allowed for disconnected sessions).
 - 切断されたセッションは自動的に終了されません (Disconnected sessions are not automatically terminated).
- A section titled 'ユーザーとグループ' (Users and Groups) with a table:

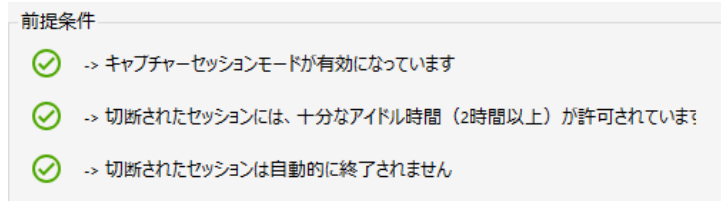
ユーザー/グループ名	常に事前起動	事前起動前
<div> <div>+</div> ユーザーまたはグループを追加 </div> <div> <div>-</div> 削除 </div> <div> <div>🕒</div> スケジュール </div>		

概要

セッション事前起動を使用すると、Tsmagic 管理者は、スケジュールされた時間より前に起動するようにユーザセッションを構成できます。構成されたすべてのユーザのセッションを事前に準備してロードし、ユーザが接続すると特定のセッションをキャプチャできるようにするということです。これにより、接続の待機時間を短縮できます。

前提条件

Session prelaunch には、複数の前提条件が満たされている必要があります。



1. セッションをキャプチャするには、セッションキャプチャモードを有効にする必要があります。これは、マルチセッション構成がユーザに必須である場合、この機能のメリットを受けることができません。
2. ユーザが接続してキャプチャするときに、事前にロードされた準備済みセッションが存在する必要があるため、切断されたセッションに対して最低 2 時間のアイドル時間を許可する必要があります。もちろん、切断されたセッションからログオフしないようにセッション設定を設定することもできます。
3. 全体的なリソース使用量を削減するために、準備されたセッションはロードされると切断されるため、切断されたセッションを自動的にログオフしないようにセッション設定を構成する必要があります。

重要：

構成された各ユーザは、セッションの事前起動機能を有効にして Tsmagic サービスが構成されたユーザセッションを開くことができるようにした後、TsmagicWeb ポータルを介して少なくとも 1 回認証する必要があります。

セッション事前起動の互換性

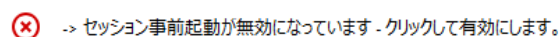
セッション事前起動は、生成されたクライアントまたは mstsc を介して開かれる HTML5 セッションおよび汎用 RDP セッションと互換性があります。

ただし、特定のプログラムを開くために作成されたリモートアプリ接続またはカスタム RDP 接続とは互換性がありません。

そのため、TsmagicWeb アプリケーションポータルからの接続はサポートされません。

機能を有効にする


セッション事前起動機能を有効にするには、ウィンドウの上部にある[セッション事前起動が無効になっています - クリックして有効にします。]のタイルをクリックするだけです。



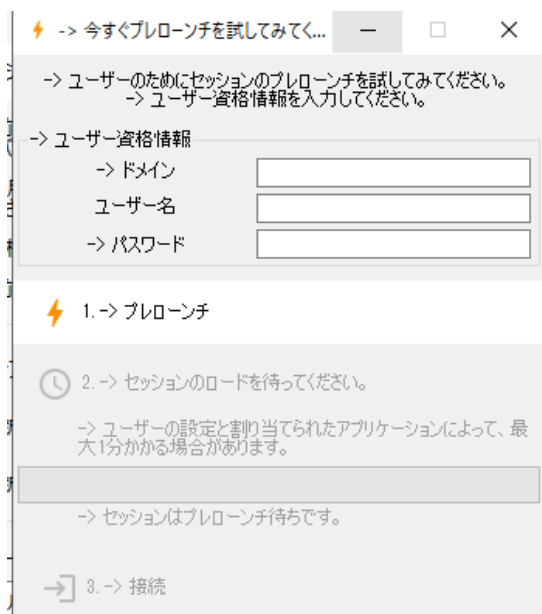
セッション事前起動を有効にするときに前提条件のいずれかが満たされていない場合、前提条件を満たし、前提条件を満たすようにセッション設定を自動的に構成して使用するかどうかを尋ねられます。セッション設定を変更するには、再起動が必要になる場合があることに注意してください。

セッション事前起動をテストする

機能を有効にすると、上部にある[今すぐプレローンチを試してみてください。]ボタンをクリックしてテストできます。

 -> **今すぐプレローンチを試してみてください。**

表示されるウィンドウで、Tsmagic サービスがこの特定のユーザのセッションを事前に起動できるように、ユーザ資格情報を入力します。



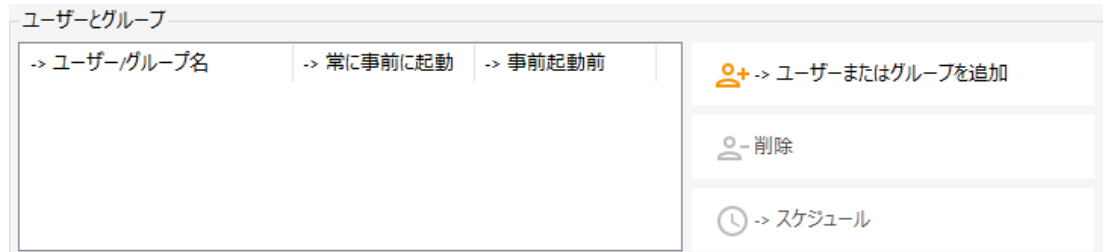
「プレローンチ」をクリックして、このユーザの新しいセッションを開始してロードします。

完全にロードされるまで待ってから、[接続]をクリックして、新しくロードされたセッションをキャプチャします。

構成されたユーザとグループを管理する

セッション事前起動のユーザとグループを追加するには、[ユーザーまたはグループを追加]をクリックするだけです。

構成済みユーザを編集または削除するには、構成済みユーザ/グループリストで一致するユーザ/グループを選択し、[スケジュール]をクリックして[事前起動]の時間を変更するか、[削除]ボタンをクリックしてユーザを削除します。

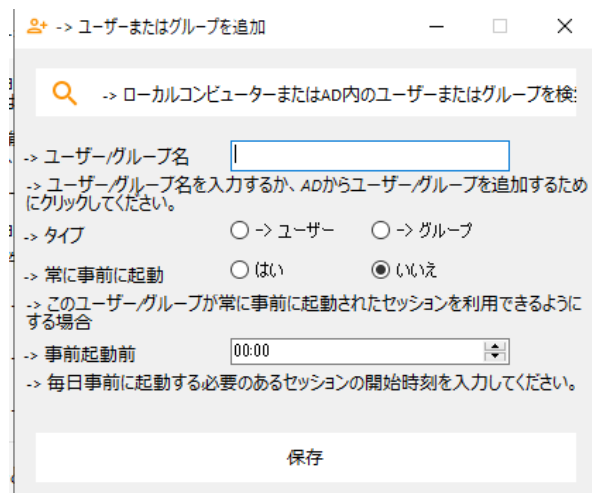


→ ユーザ/グループ名	→ 常に事前に起動	→ 事前起動前

+ → ユーザーまたはグループを追加
- 削除
🕒 → スケジュール

[ユーザーまたはグループを追加]をクリックすると、構成するユーザ/グループ名と、セッションをロードする必要がある時間の入力を求められます。

また、[常に事前起動]で「はい」を選択することで、接続時にセッションをスケジュールする代わりに、このユーザ/グループが常に事前起動するように設定することもできます。



+ → ユーザーまたはグループを追加

🔍 → ローカルコンピューターまたはAD内のユーザーまたはグループを検

→ ユーザー/グループ名

→ ユーザー/グループ名を入力するか、ADからユーザー/グループを追加するためにクリックしてください。

→ タイプ ☐ → ユーザー ☐ → グループ

→ 常に事前に起動 ☐ はい ☒ いいえ

→ このユーザー/グループが常に事前に起動されたセッションを利用できるようにする場合

→ 事前起動前

→ 毎日事前に起動する必要があるセッションの開始時刻を入力してください。

保存

アプリケーションの公開

概要

TSMagic では 4 種類のアプリケーション公開方法をサポートしています。

- Microsoft リモートデスクトップ
セッションでは完全な Windows リモートデスクトップが表示されます。
- リモートタスクバー
ユーザのデスクトップにコピーされたアプリケーション、フォルダ、ショートカット、ドキュメントなどは、TSMagic リモートタスクバーで公開されます。
この場合、ユーザは、管理者が決定したアプリケーション以外のアプリケーションにはアクセスできません。
アプリケーションはより細かく制御できます。
- フローティングパネルとアプリケーションパネル
すべてのアプリケーションは、ミニドロップダウンリストまたはカスタマイズ可能なフォルダーで公開されます。
- 1 つ、または複数の特定のアプリケーションをユーザ/グループに割り当てます。
この場合、ユーザには、セッションを開くときに割り当てられたアプリケーションのみが表示されます。

覚えておく必要がある優先度ルールがあります。：Microsoft リモートデスクトップが最も優先順位が高く、次に TSMagic リモートタスクバー、次に特定のアプリケーションの順になります。

ユーザに特定のアプリケーションが割り当てられていて、TSMagic リモートタスクバーまたは Microsoft リモートデスクトップがある場合、優先度が低いため、接続時に特定のアプリケーションは自動的に起動されません。

Admin Tool を使用したアプリケーションの管理

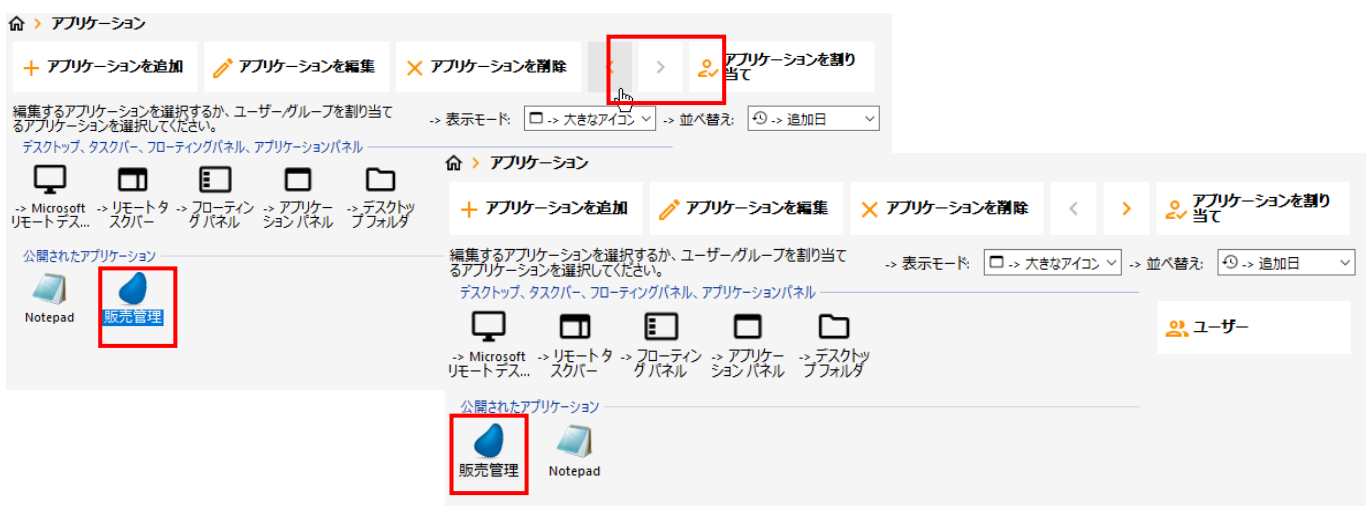
AdminTool を使用してアプリケーションを追加、編集、または削除するには、[アプリケーション] タイルの[公開] タブをクリックします。



アプリケーションを公開するには、「アプリケーションを追加」 タイルをクリックします。

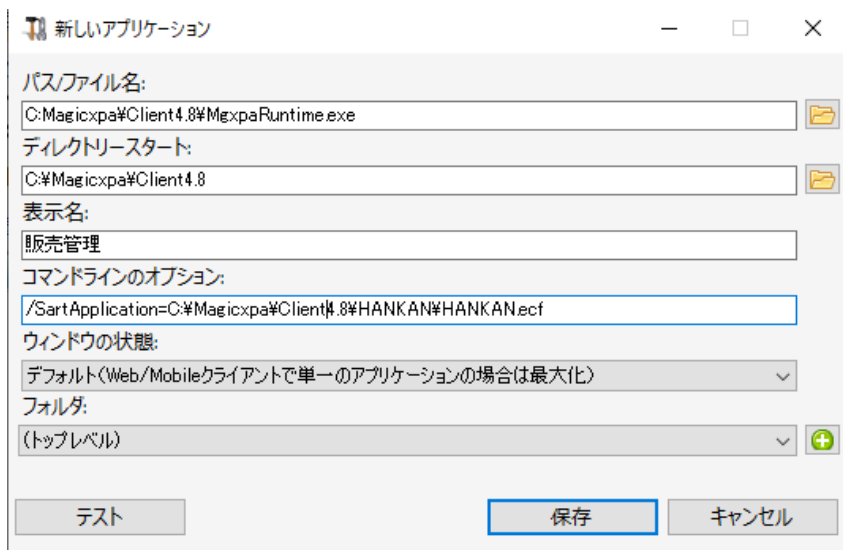
1. 上図は Magic xpa アプリケーションである「販売管理」の公開例です。アプリケーションを公開するには、[アプリケーションを追加] ボタンをクリックし、フォルダーアイコンをクリックしてアプリケーション実行可能ファイルのパスを見つけ、表示名フィールドにこのアプリケーションの名前を設定します。
2. 変更を保存するには、[保存] ボタンをクリックする必要があります。
3. 新しいアプリケーションを追加したら、[テスト] ボタンを使用して、アプリケーションが機能することを確認してからユーザに割り当てることをお勧めします。
4. アプリケーションごとに、最大化、最小化、すべてのユーザへの割り当て、または起動後に非表示にするかどうかを指定できます。
5. アプリケーションのショートカットプロパティで設定されるパラメータを追加する必要がある場合は、コマンドラインのオプションで追加します。

「アプリケーションを割り当て」 ボタンの横にある矢印ボタンで、アプリケーションの順序を変更出来ます。



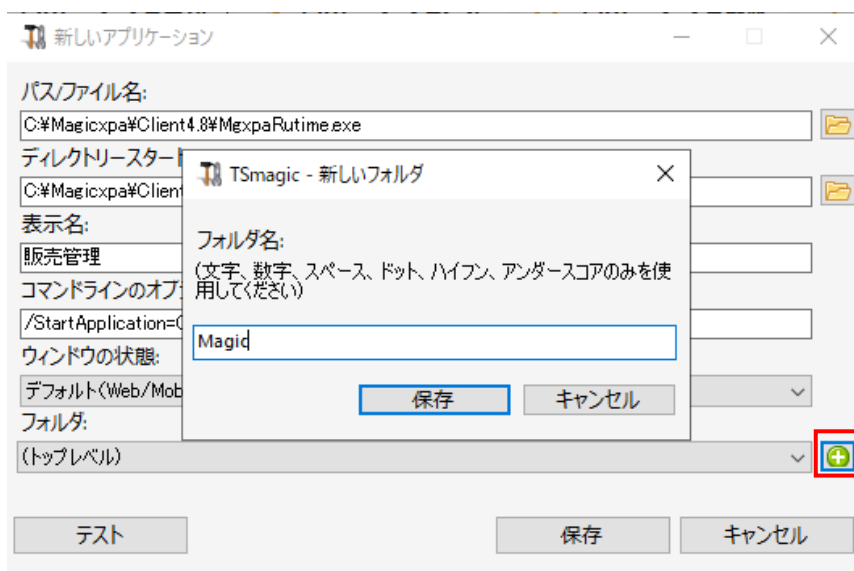
Admin Tool を使用したアプリケーションフォルダの管理

[Publish] タブでは、アプリケーションだけでなくフォルダを登録し、アプリケーションをフォルダ毎に管理することも可能です。



す。

フォルダを作成するには、まずアプリケーションを登録し、フォルダ選択の右にある「+」ボタンをクリックします。

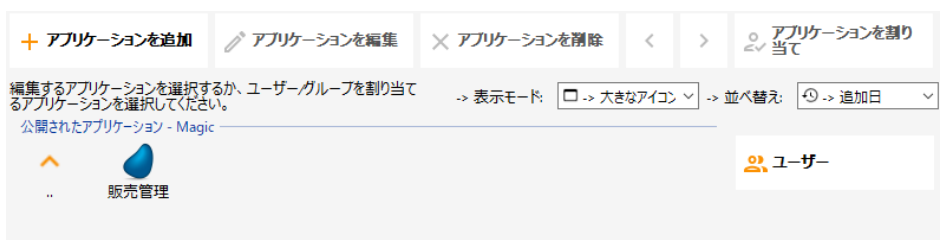


次に、作成するフォルダの名前を入力します。

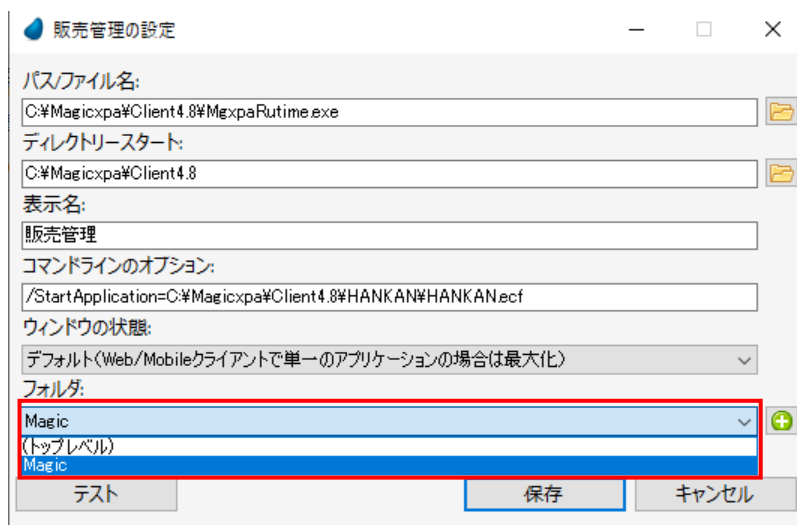
「アプリケーション」にフォルダアイコンが表示されます。



フォルダアイコンをダブルクリックすると、フォルダ内のアプリケーションが表示され、編集、削除が可能になります。



フォルダが作成済みであれば、[アプリケーションを追加] や [アプリケーションを編集] から直接フォルダを指定することが出来ます。



重要な注意事項

- インストール後のデフォルト設定は、[Microsoft リモートデスクトップ] です。
- TSMagic リモートタスクバーは、ユーザのデスクトップ フォルダにコピーされたすべてのショートカットを公開します。TSMagic リモートタスクバーを選択すると、[すべてのユーザ] デスクトップ フォルダで利用できるショートカットを自動的にコピーしたり、アプリケーション コントロールを使用してユーザに割り当てられたアプリケーションからショートカットを自動的に作成したりするように要求できます。
- サーバ管理者アカウント（Administrator）に対してアプリケーションを割り当てると Windows リモートデスクトップ接続した際に TSMagic のアプリケーション割り当て設定が適用されサーバメンテナンスが出来なくなります。サーバ管理者アカウントに対してはアプリケーションの割り当てを行わないでください。

ユーザまたはグループへのアプリケーションの割当て

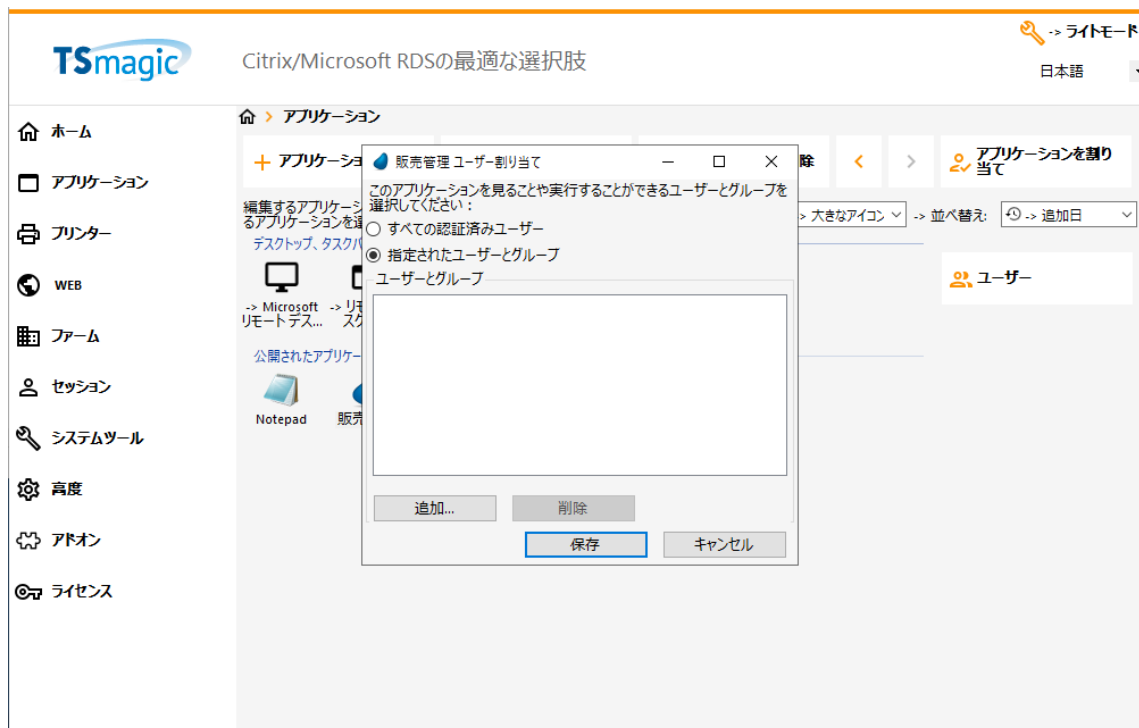
概要

公開したアプリケーションは、1人以上のユーザやグループに公開できます。

これを行うには、割り当てるアプリケーションをダブルクリックするか、アプリケーションをクリックしてから[アプリケーションを割り当て] タイルをクリックします。

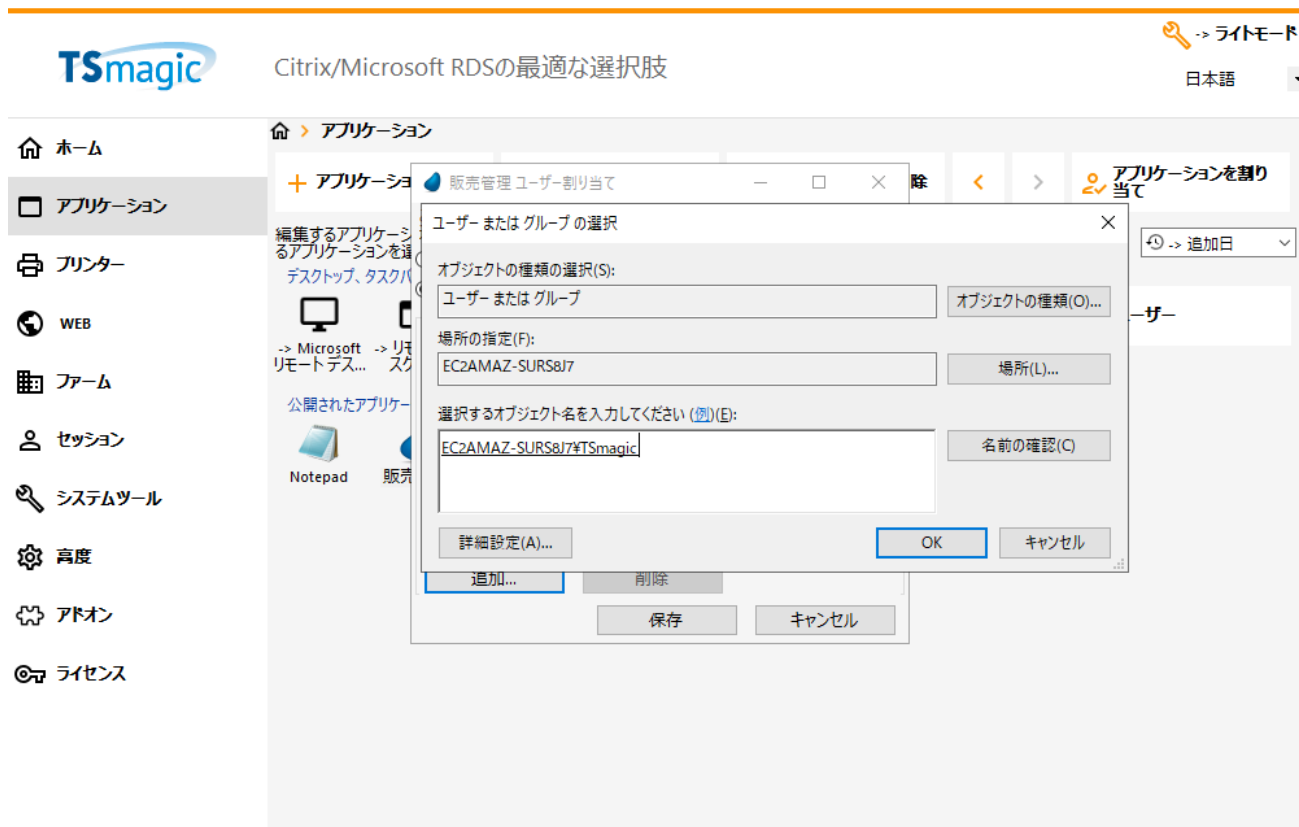


次のウィンドウが表示され、選択したユーザまたはグループにアプリケーションを割り当てることができます。

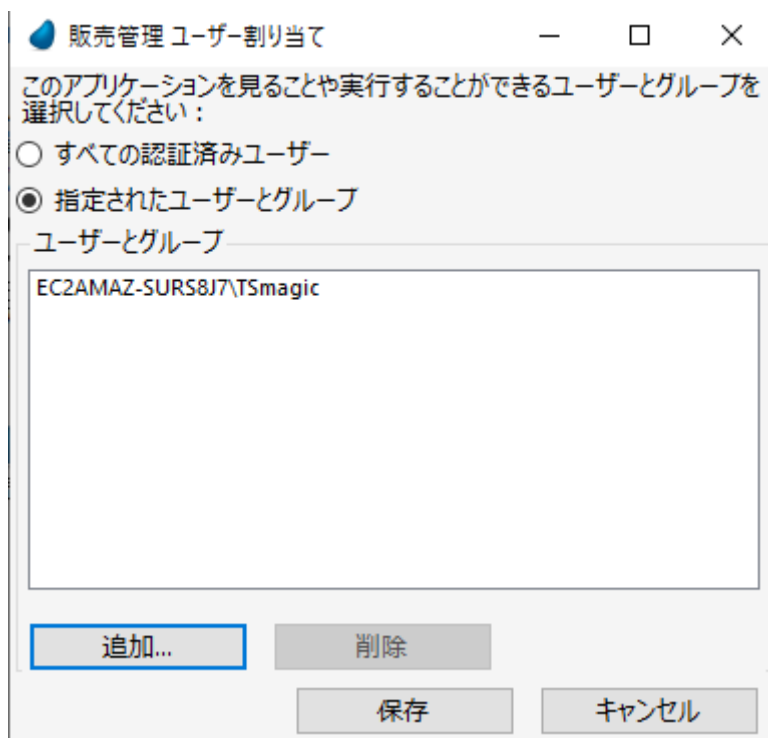


ユーザ(またはグループ)にアプリケーションを割り当てる方法

アプリケーションは、すべての認証済ユーザに割り当てることも、指定したユーザおよびグループに割り当てることもできます。アプリケーションを特定のユーザまたはグループに割り当てる場合は、「アプリケーションを割り当て」をクリックし、表示されるダイアログで「追加」ボタンをクリックし、アプリケーションを割り当てるユーザまたはグループを設定します。次の例では、「Basic」は Remote Desktop Users グループに割り当てられます。



保存時:

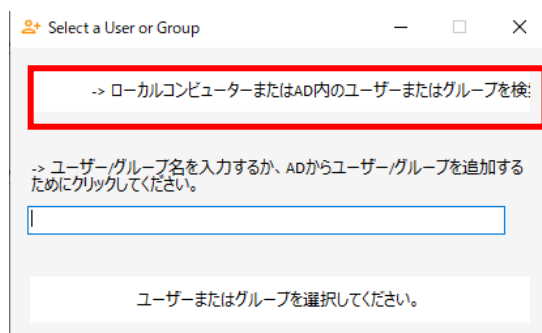


ユーザ(またはグループ)ごとのアプリケーションをまとめて管理する

[アプリケーション] タイルの[ユーザー] タブをクリックすると、ユーザまたはグループごとのアプリケーション画面に切り替わります。ここでは、「ユーザー/グループを選択」 タイルをクリックし、ユーザまたはグループを選択することにより、ユーザごとまたはグループごとに割り当てられているアプリケーションの管理が出来ます。



「ローカルコンピューターまたはAD内のユーザーまたはグループを検索」をクリックします。



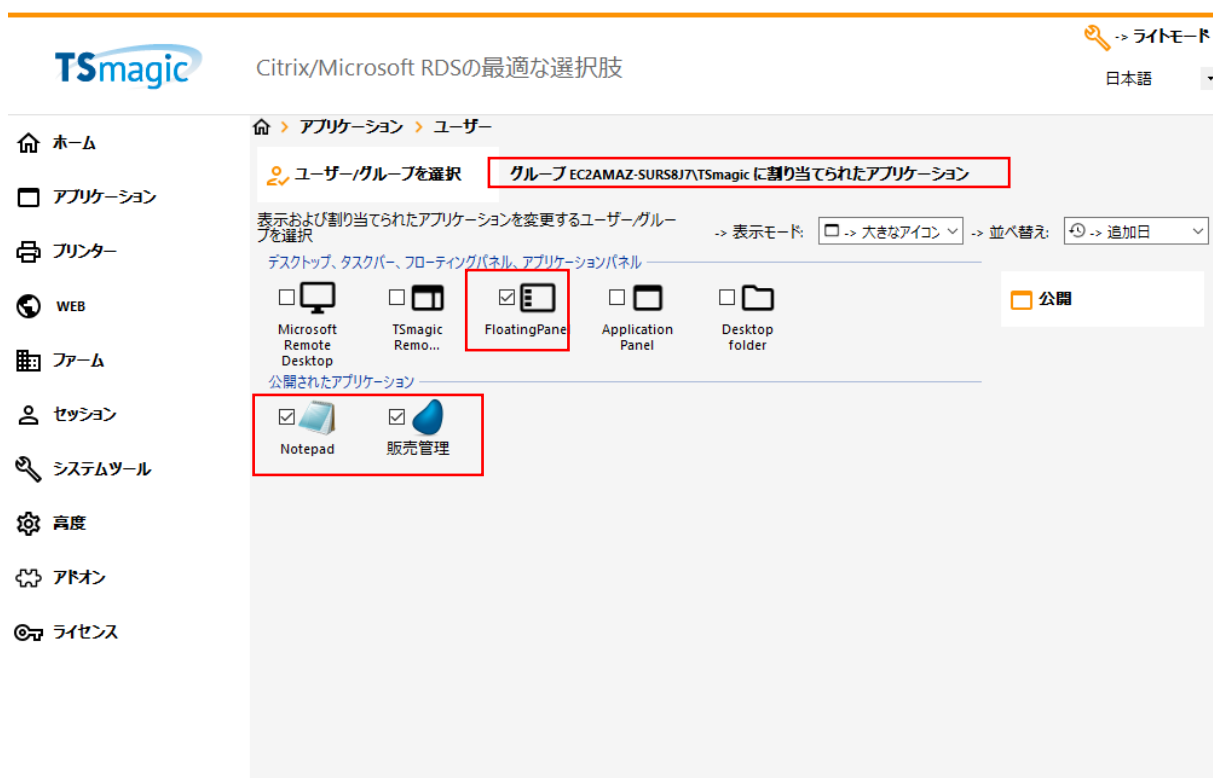
ユーザまたはグループを指定します。



選択したユーザまたはグループに公開したいアプリケーションをチェックします。



この例では、FloatingPanel、Notepad、販売管理 が、すべてグループ「Tsmagic」に割り当てられています。



The screenshot displays the Tsmagic web interface for managing Citrix/Microsoft RDS settings. The left sidebar contains navigation links: ホーム, アプリケーション, プリンター, WEB, フォーム, セッション, システムツール, 高度, アドオン, and ライセンス. The main content area is titled 'Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢' and shows the 'ユーザー' (User) configuration page. A red box highlights the 'グループ EC2AMAZ-SURS8J7\Tsmagic に割り当てられたアプリケーション' (Applications assigned to group EC2AMAZ-SURS8J7\Tsmagic). Below this, a section titled '表示および割り当てられたアプリケーションを変更するユーザー/グループを選択' (Select user/group to change displayed and assigned applications) includes a '表示モード' (Display Mode) dropdown set to '大きなアイコン' (Large Icons) and a '並べ替え' (Sort) dropdown set to '追加日' (Add Date). The 'デスクトップ、タスクバー、フローティングパネル、アプリケーションパネル' (Desktop, Taskbar, Floating Panel, Application Panel) section shows icons for 'Microsoft Remote Desktop', 'Tsmagic Remote...', 'FloatingPanel', 'Application Panel', and 'Desktop folder'. A red box highlights the 'FloatingPanel' icon. The '公開されたアプリケーション' (Published Applications) section shows icons for 'Notepad' and '販売管理' (Sales Management), both of which are checked and highlighted with a red box. A '公開' (Publish) button is visible on the right.

Azure Active Directory を使用するユーザへのアプリケーションの割り当て

アプリケーション> ユーザーから Azure Active Directory ユーザをアプリケーションに割り当てるには、Azure Active Directory 名およびユーザ名を入力し、「ユーザーまたはグループを選択してください。」をクリックします。



ローカルまたは Active Directory ユーザは、「ローカルコンピュータまたは AD 内のユーザー/グループを検索」をクリックして選択する必要があります。

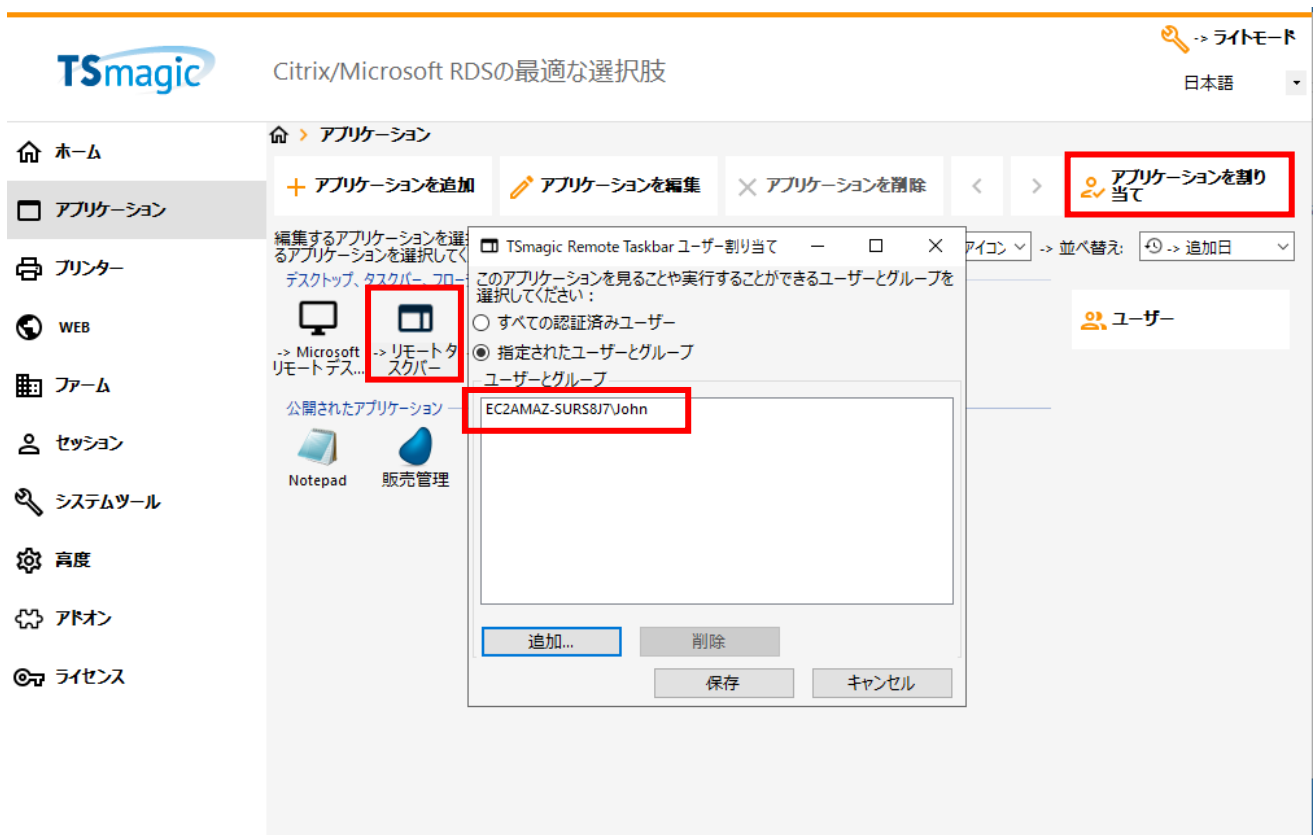
リモートタスクバーとデスクトップテーマ

サーバ上の管理者ツール

AdminTool を使用すると、管理者はアプリケーションの割り当て時に、**Microsoft リモートデスクトップ**、**TSmagic リモートタスクバー**、**フローティングパネル**、または**アプリケーションパネル**の 4 つの表示モードから選択できます。TSmagic リモートタスクバー、フローティングパネル、およびアプリケーションパネルは、どの接続方法でも使用できます。

TSmagic リモートタスクバー

アプリケーションをユーザに割り当てるときに、TSmagic リモートタスクバーを有効にできます。ユーザは、TSmagic のタスクバーを 1 回クリックするだけでリモートアプリケーションを起動し、ローカルデスクトップをフルに利用することができます。「リモートタスクバー」をダブルクリックするか、選択してから「アプリケーションを割り当て」タイルをクリックすることで、ユーザまたはグループにリモートタスクバーを割り当てることができます



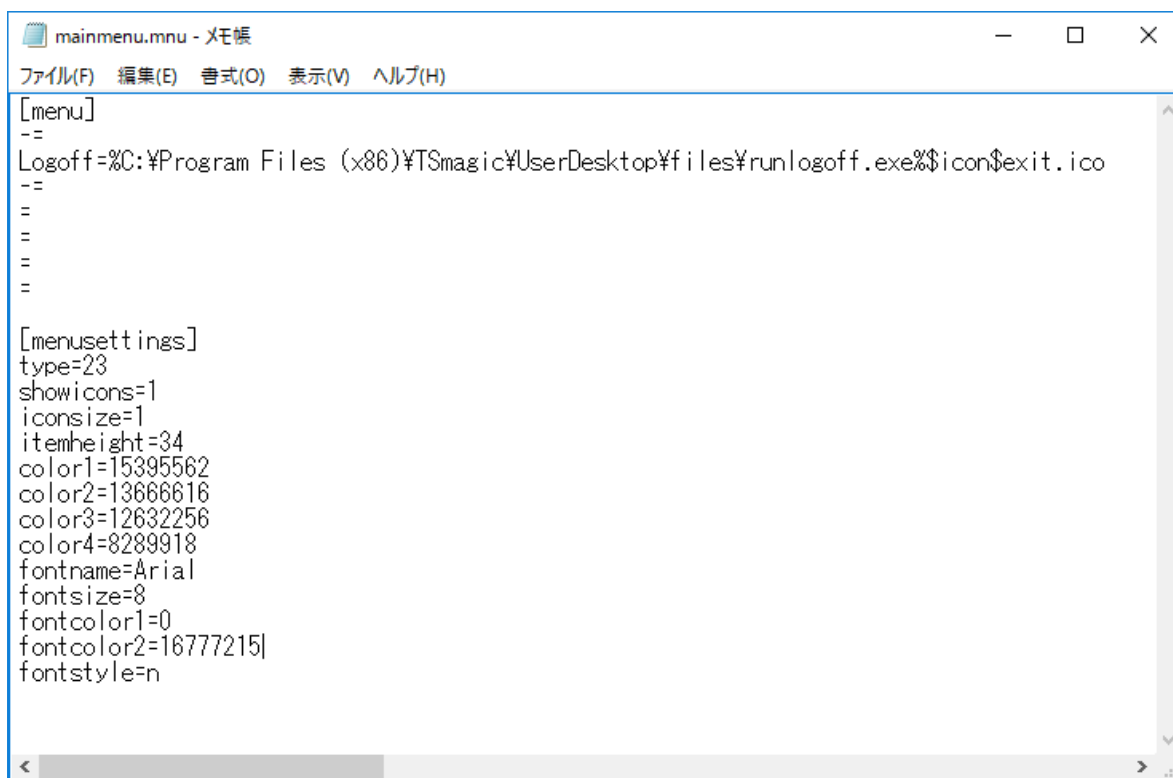
管理者は、ユーザがセッションを開くときに表示する既定のリモートデスクトップテーマを決定できます。リモートタスクバーを選択し、「アプリケーションを編集」をクリックします。



- 管理者のみがユーザのテーマを選択できます。
- 最大化されたアプリケーションをフルスクリーンモードで表示するか、Tsmagic タスクバーと銀または青のタスクバーを重ねないようにするかを選択できます。
- タスクバー上の最小化されたボタンの位置を変更できます（画面の上部、下部、右側、左側、または中央）。
- 「通知領域を非表示」を選択することで、システムトレイのアイコンを非表示にすることもできます。
- 「ログオフボタンを非表示」を選択すると、タスクバー上にログオフボタンが表示されなくなります。

ユーザメニューを編集することで、管理者はアプリケーションおよび機能を追加/抑制できます。ユーザメニューのカスタマイズは簡単です。

ユーザメニューの内容 (C:\Program Files (x86)\TSMagic\UserDesktop\mainmenu.mnu) は、管理者がメモ帳を使用して変更できます

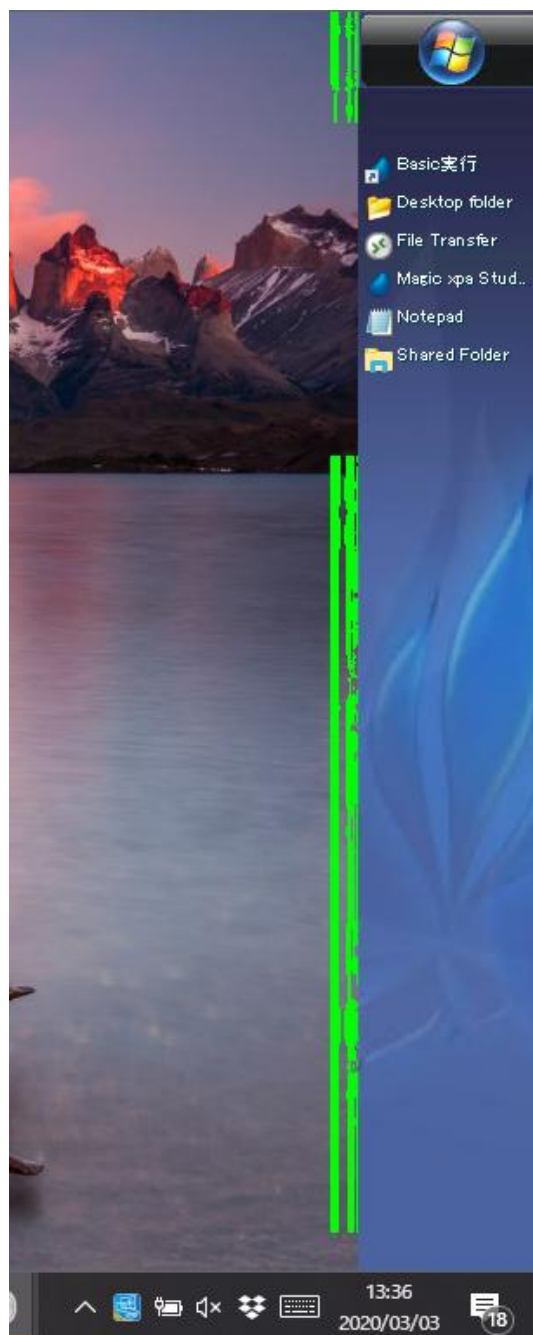


```
[menu]
-=
Logoff=%C:\Program Files (x86)\TSMagic\UserDesktop\files\runlogoff.exe%%$icon$exit.ico
-=
=
=
=
=

[menusettings]
type=23
showicons=1
iconsize=1
itemheight=34
color1=15395562
color2=13666616
color3=12632256
color4=8289918
fontname=Arial
fontsize=8
fontcolor1=0
fontcolor2=16777215
fontstyle=n
```

管理者は、AdminTool の[アプリケーション]タイルで、TSMagic リモートタスクバーの 3 つの異なるスタイルを選択できます。
 ユーザは、TSMagic リモートタスクバーを 1 回クリックするだけでリモートアプリケーションを起動し、ローカルデスクトップをフルに利用することができます。

右側の青色テーマのタスクバー



右側の銀色テーマタスクバー



シンクライアントまたは任意の RDP ベースの接続プログラム

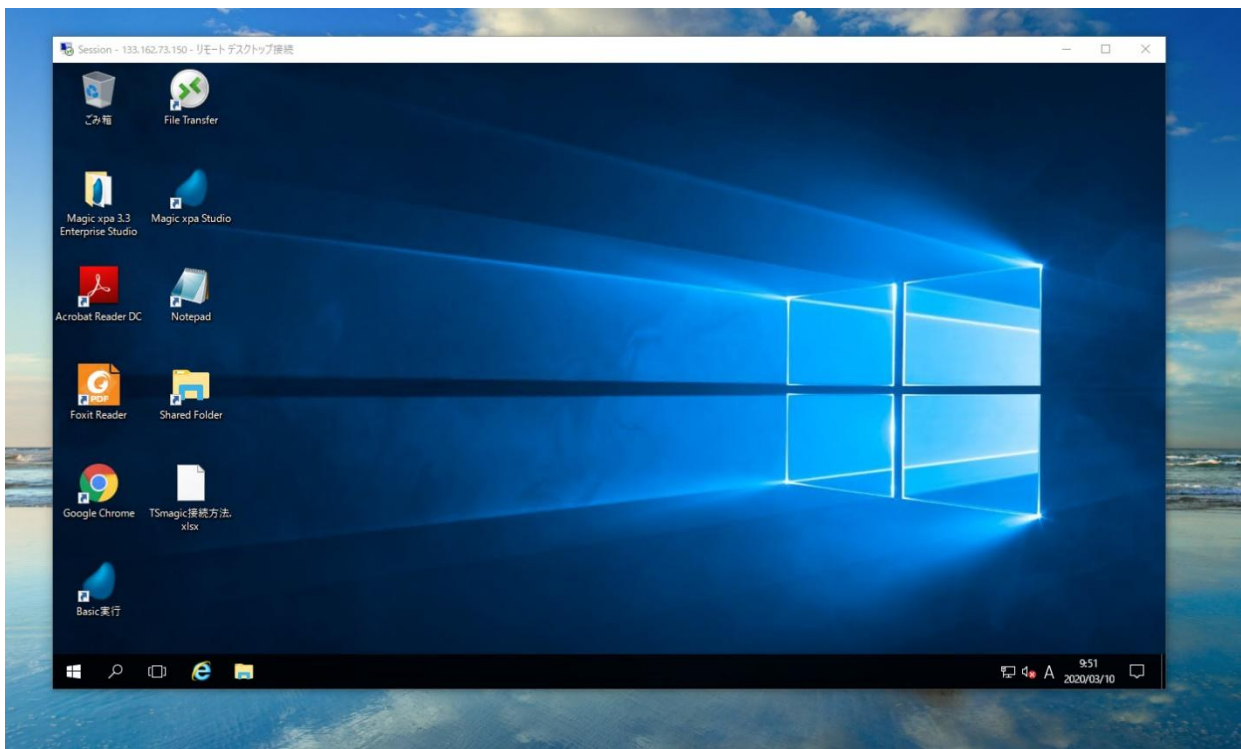
AdminTool を使用すると、管理者は、セッションを開いたときにユーザに表示されるデフォルトのリモートデスクトップテーマを簡単に決定できます。4 つの異なるスタイルのフルスクリーンリモートデスクトップから選択できます。必要に応じて、標準の Microsoft リモートデスクトップも使用できます。

これらの TSMagic デスクトップはフルスクリーンデスクトップであるため、専用のシンクライアント、RDP ベースのクライアントからセッションを開いたとき、または Web ページまたは TSMagic リモートデスクトップクライアントからアクセスしたときに、ユーザの表示はフルスクリーン表示になります。

標準のリモートデスクトップよりも利点があります。サーバのセキュリティを強化します([スタート] ボタンが無く、デスクトップを完全に制御できません)。

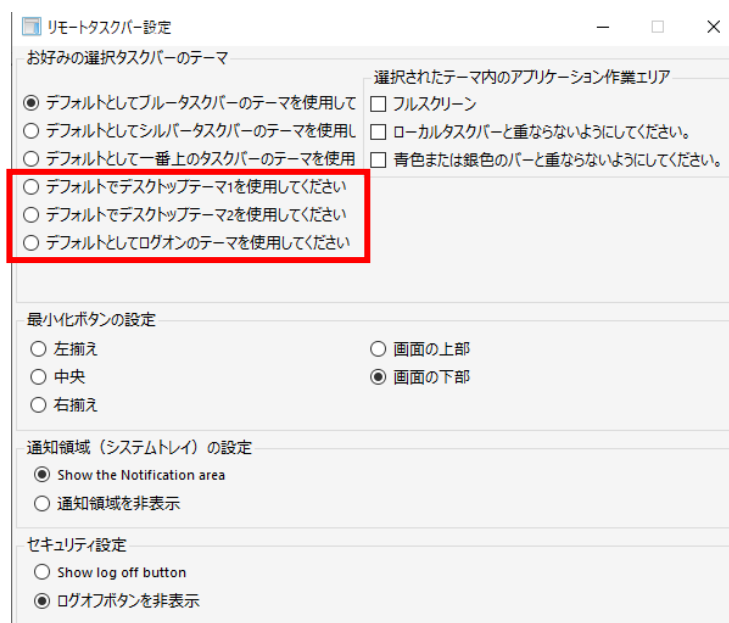
標準の Microsoft リモートデスクトップ

Windows Client Generator



- ユーザーは、スタートボタンとデスクトップのフルコントロールを含む完全なデスクトップを持っています
- 完全なデスクトップに割り当てするには、Microsoft リモート デスクトップ アプリケーションを割り当てるだけです。

デスクトップテーマを変更するには、TSmagic リモートタスクバーを割り当て、次の 3 つの推奨テーマから選択する必要があります。



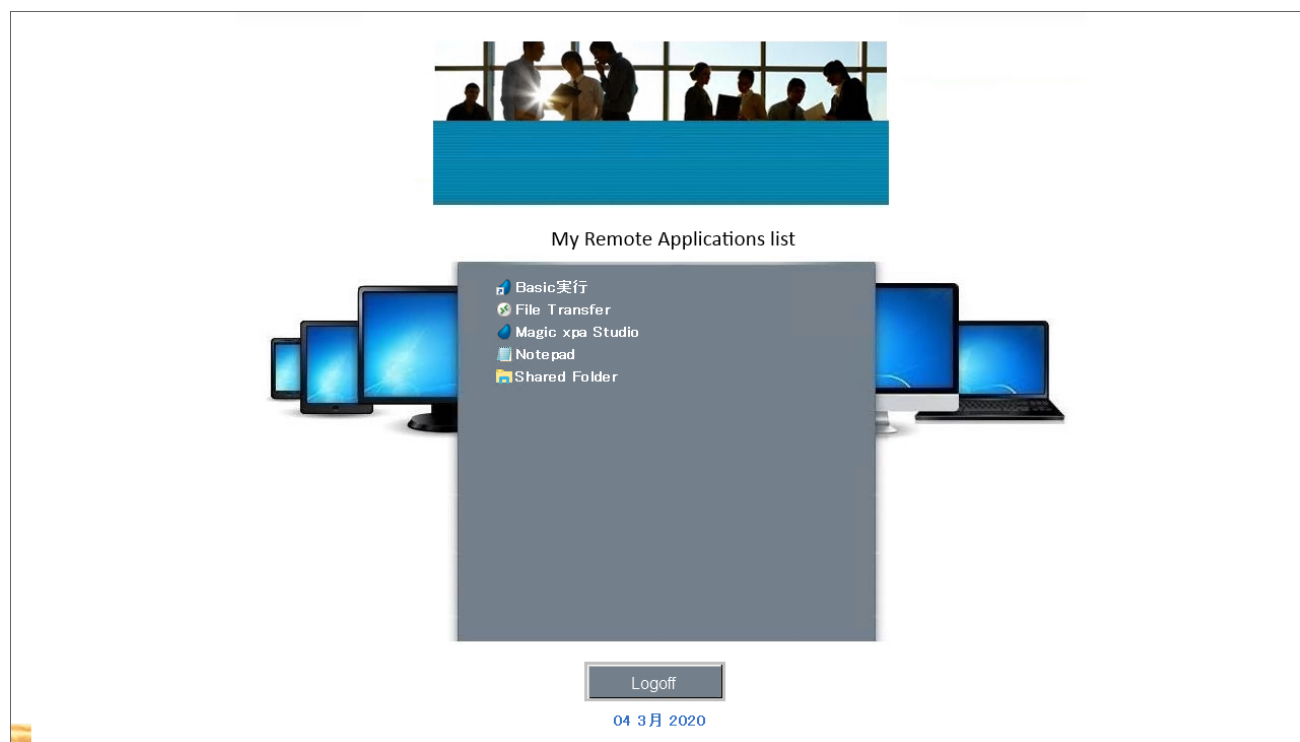
TSmagic デスクトップテーマ 1



TSmagic デスクトップテーマ 2



TSmagic ログオンテーマ



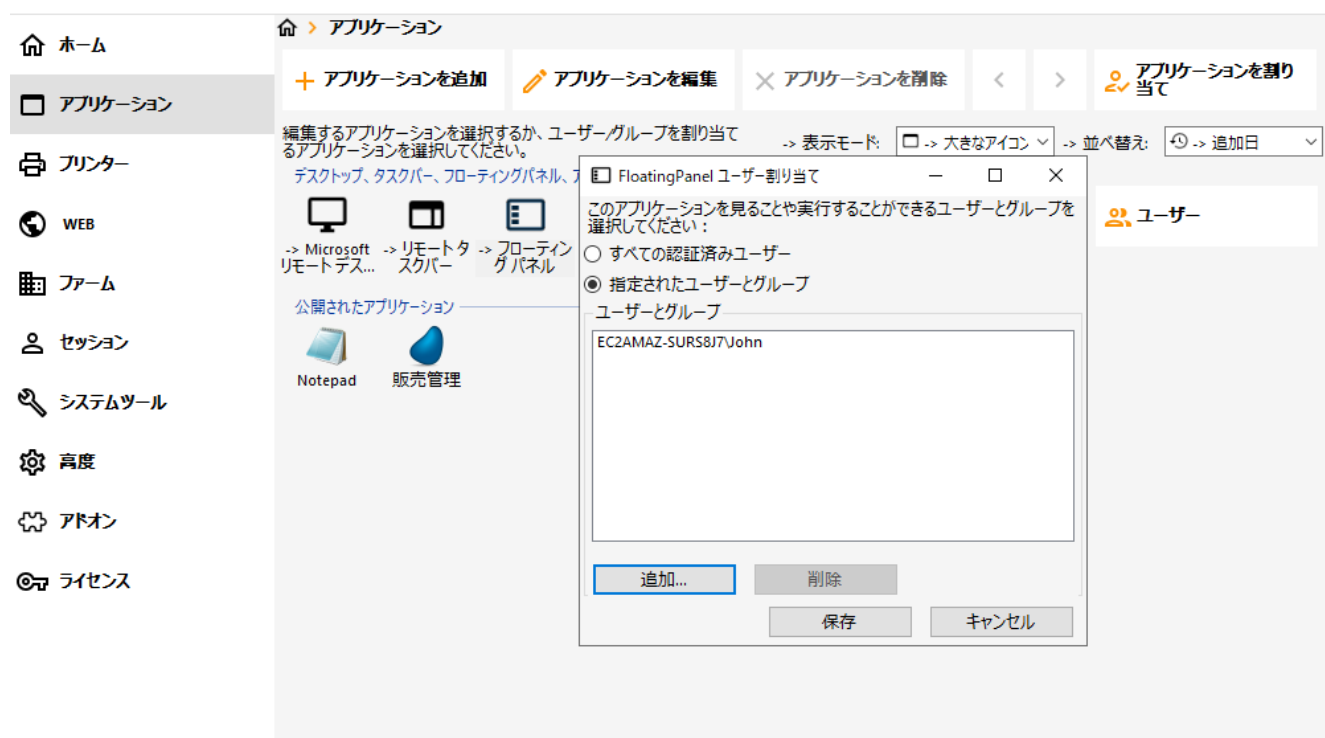
フローティングパネルとアプリケーションパネル

ユーザまたはグループに対してフローティングパネルまたはアプリケーションパネルを有効にすることを選択できます。アプリケーションを公開するこれら 2 つの方法は、どの接続方法でも使用できます。

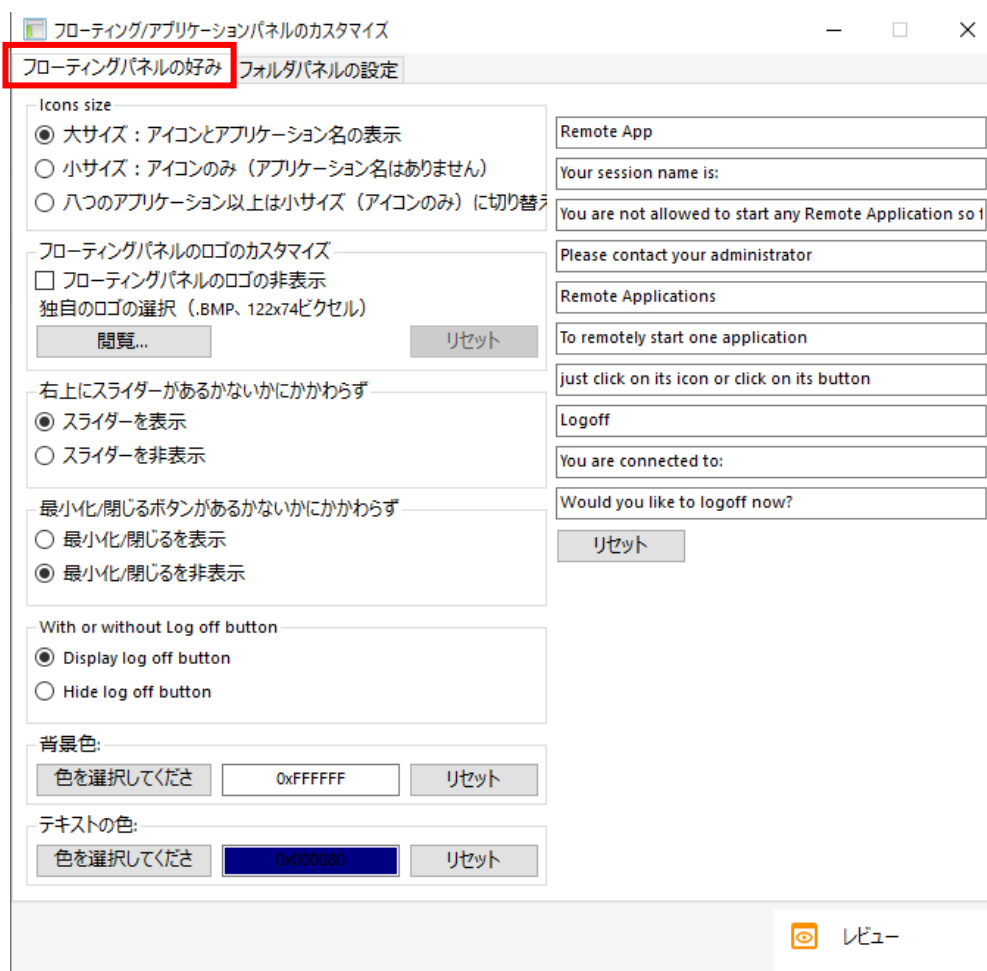
フローティングパネル

ユーザに割り当てられている場合、ユーザ画面の左側中央にアプリケーションのミニドロップダウンリストまたはフローティングパネルが表示されます。

アプリケーションとして割り当てます。



フローティングパネルを選択し、「アプリケーションを編集」タイルをクリックして、フローティングパネルをカスタマイズできます。



これらのさまざまなオプションを使用して、エンドユーザの操作性をカスタマイズできます。

フローティングパネルのさまざまな表示オプションを使用して、背景とテキストの色、スライダの有無、ロゴの有無、最小化/閉じるボタンの有無、アイコンのみの表示などを設定できます。また、ログオフアイコンの表示有無も設定できます。

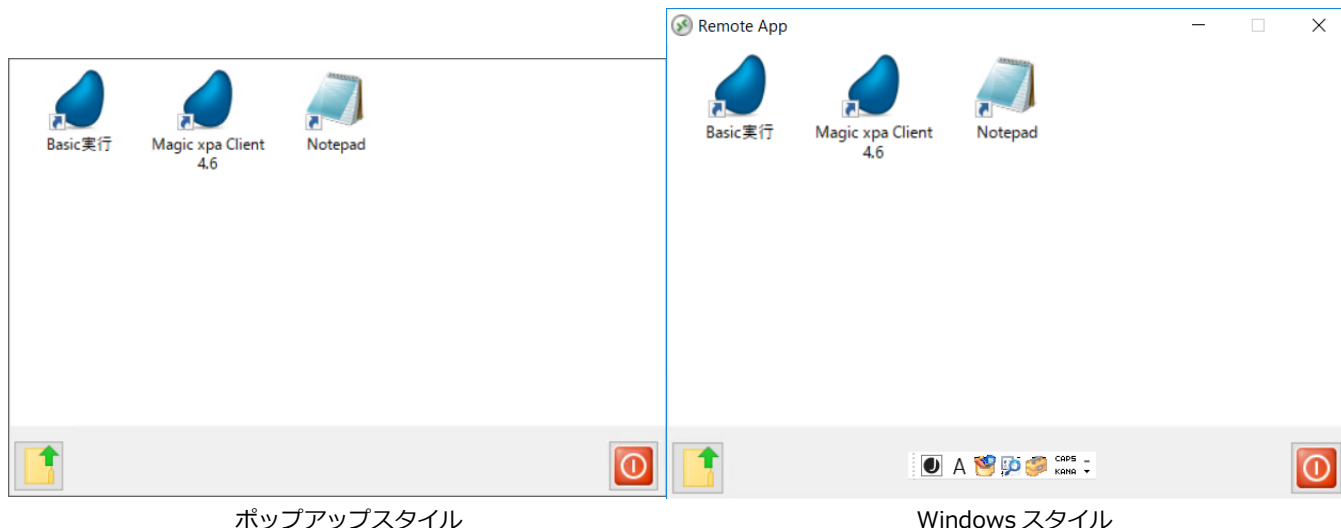


アプリケーションが8つを超えると、フローティングパネルが自動的に小さいサイズに切り替わります。アプリケーション名を表示させたい場合は、「(8つのアプリケーション以上は小さいサイズ(アイコンのみ)に切り替え不能)」を選択します。

フォルダパネルもカスタマイズ可能で、割り当てられたアプリケーション、ユーザのデスクトップフォルダ、またはセッション内の特定のフォルダコンテンツを、さまざまな表示オプションを使用して表示できます。

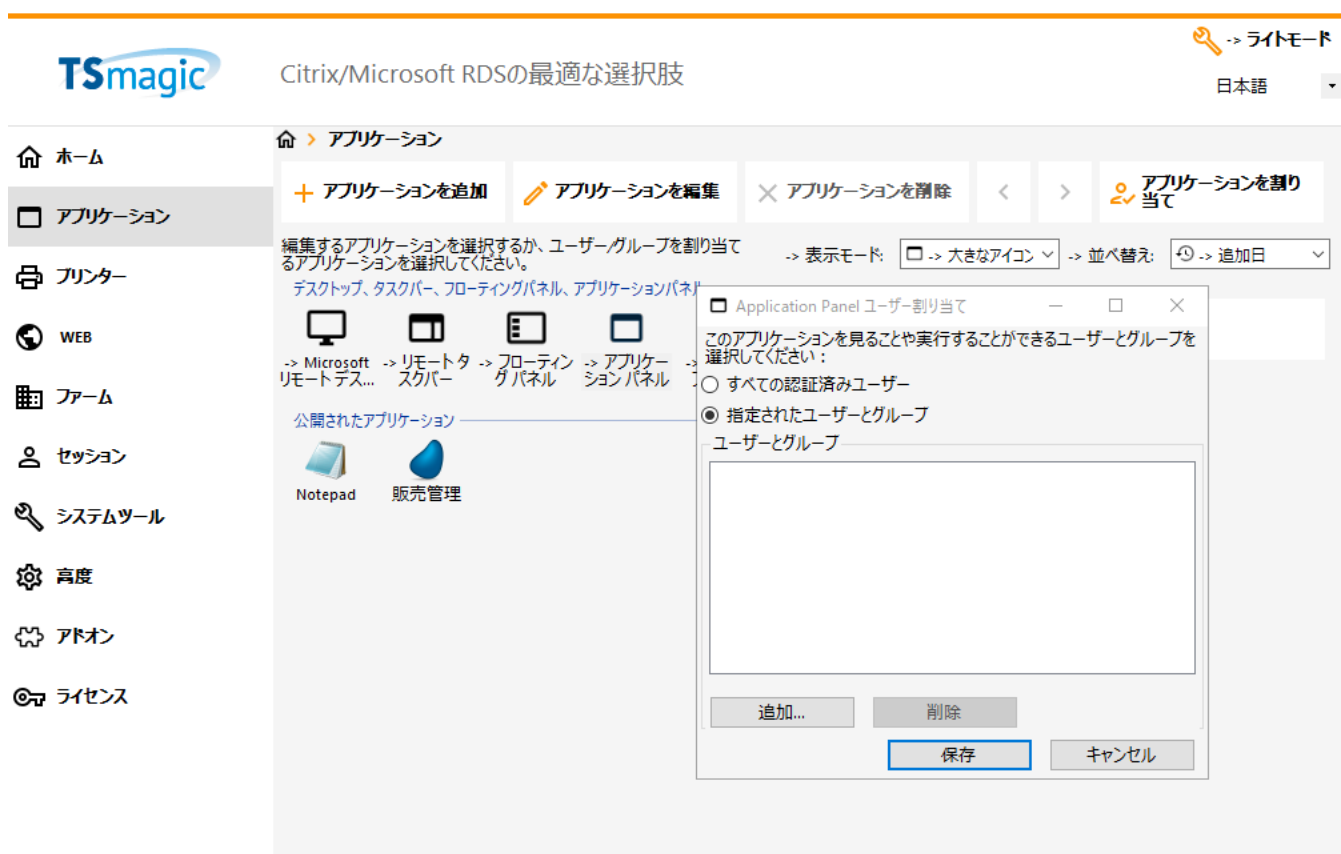


フォルダパネルのサイズ、位置、スタイル(ポップアップスタイルまたは Windows スタイル)は、必要に応じて変更できます。

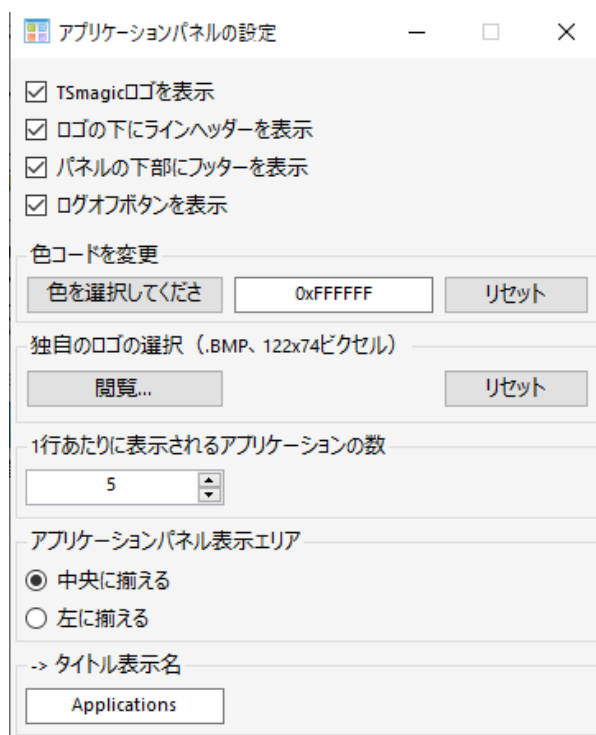


アプリケーションパネル

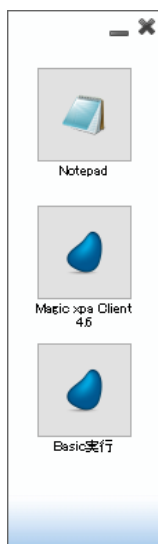
アプリケーション パネルを使用すると、Web アプリケーション ポータルと同じように、表示されるアプリケーションを整理でき、ユーザまたはグループに割り当てることができます。



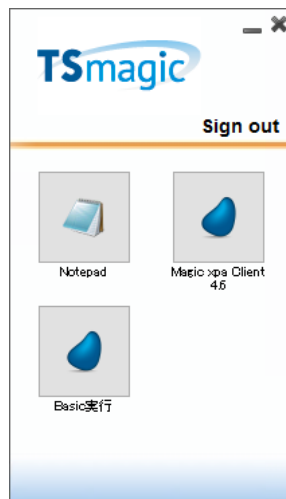
アプリケーションパネルを選択し、「アプリケーションを編集」タイトルをクリックすると、TSMagic のロゴまたは独自のロゴを表示するか、ロゴの下にヘッダーラインを表示するか、フッターイメージを表示するか、色を変更するか、または対応するボックスの選択を解除することで、ロゴをカスタマイズできます。また、1 行に表示されるアプリケーションの数、アプリケーションパネルの配置と名前を入力して、表示されるアプリケーションの数を行と列で調整することもできます。



ロゴなしで 1 列に App を表示する



2 列で TSMagic のロゴを表示する



ローカルとサーバ間のファイル転送

概要

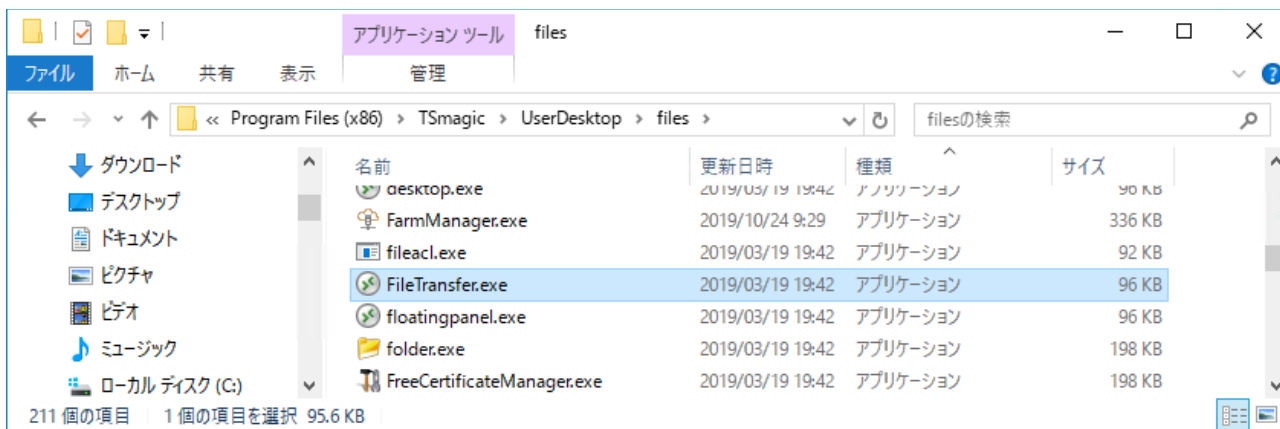
TSMagic には、ファイルを転送する独自の方法があります。:

- ローカルユーザのデスクトップから => ユーザリモートデスクトップへ、
- TSMagic サーバから => ローカルユーザのデスクトップへ

ファイル転送は仮想チャネルに基づいて行われるため、ファイルのコピーよりも高速であり、**ローカルユーザのディスクドライブがマッピングされていない場合**でも実行できます。

FileTransfer プログラムと生成されたクライアント

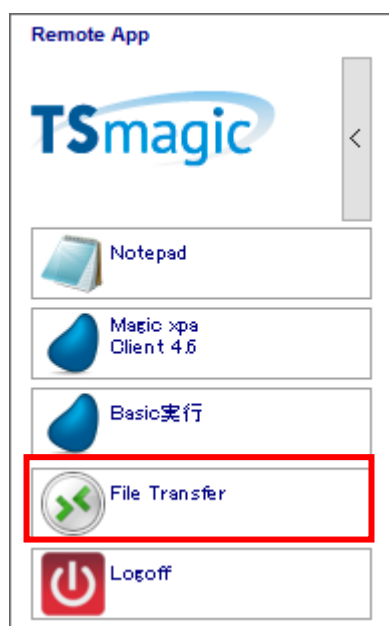
ファイル転送プログラムは、「C:\Program Files (x86)\TSMagic\UserDesktop\files\UserDesktop\files」内に「FileTransfer.exe」という名前で存在します。



ファイルの転送

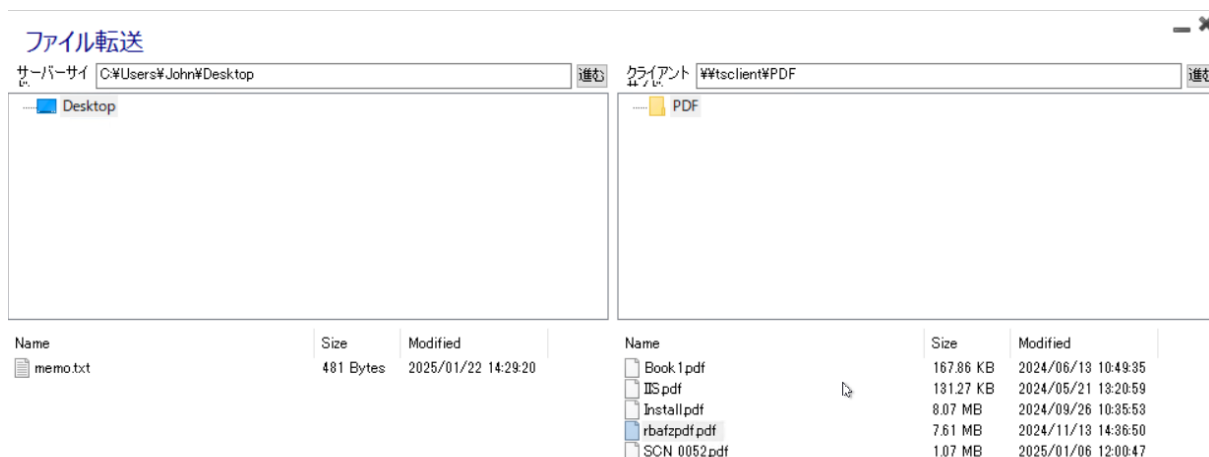
ファイルの転送は非常に簡単です。

まず、File Transfer を起動します(TSMagic フローティングパネル等から)。

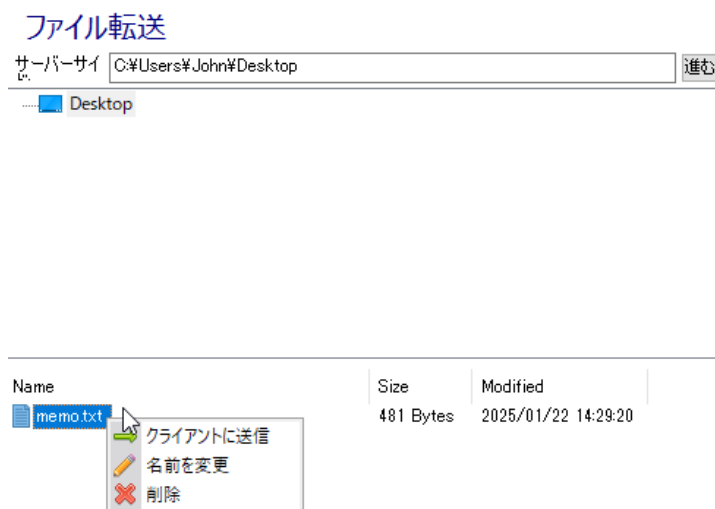


次に、フォルダツリーを使用してファイルに移動します。

- サーバのフォルダとファイルは、**ウィンドウの左側に表示されます(サーバーサイド)**
- ローカルのフォルダとファイルは、**ウィンドウの右側に表示されます(クライアントサイド)**



最後に、転送 先のファイルを右クリックし、「サーバーに送信」または「クライアントに送信」をクリックします。



ファイル転送は、ローカルからサーバへの転送、またはサーバからローカルへの転送を行います。

注意： HTML5 セッションからファイル転送ユーティリティを使用する場合、サーバからクライアントへの転送のみ行えます。

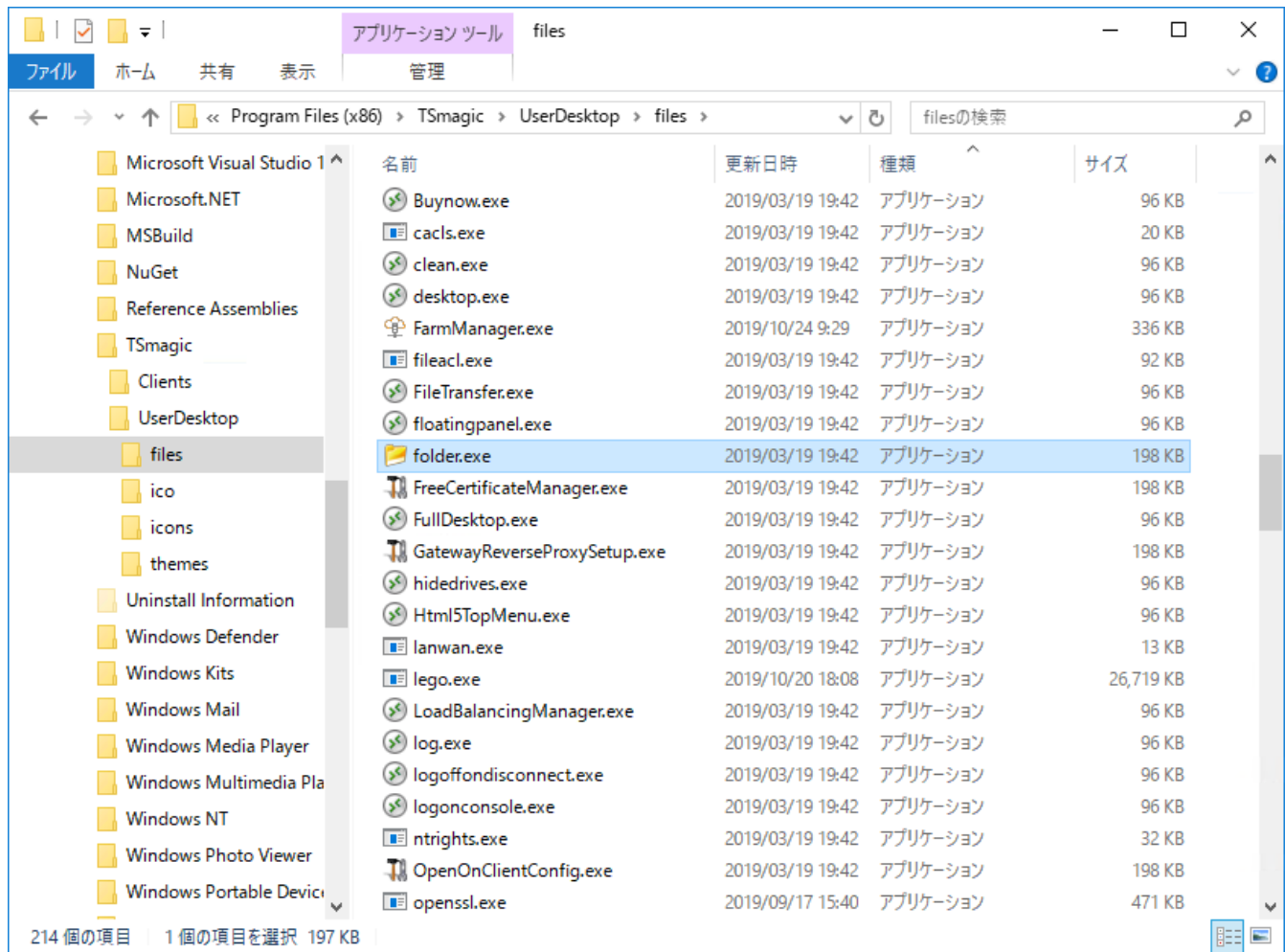
セキユアなフォルダ共有-Folder.exe

Folder アプリケーションは、ユーザが利用できるフォルダの内容を安全に表示します。

まず、共有するアプリケーションまたはドキュメントを含むフォルダをサーバ上に作成します。

explorer.exe を開き、次の場所にある folder.exe アプリケーションを探します。C:¥ Program Files

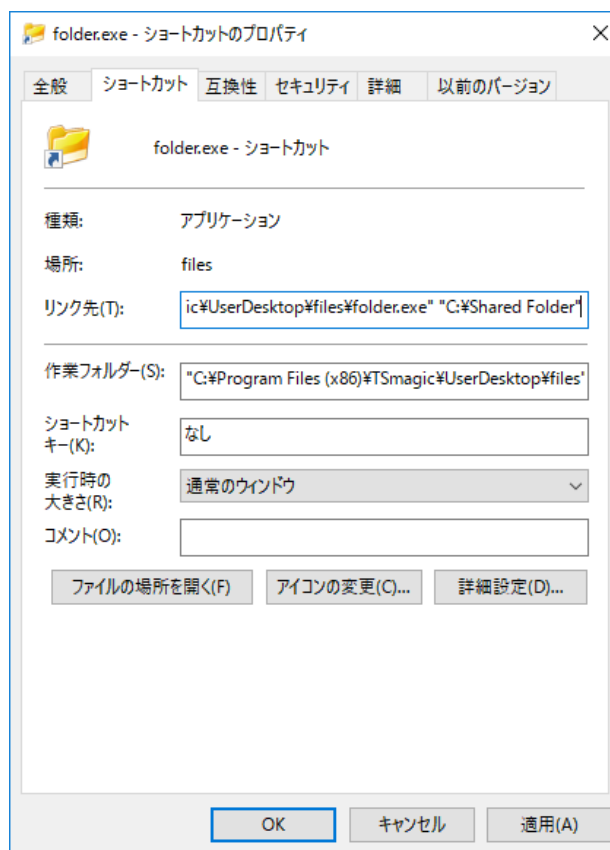
(x86)¥TSMagic¥UserDesktop¥files¥folder.exe



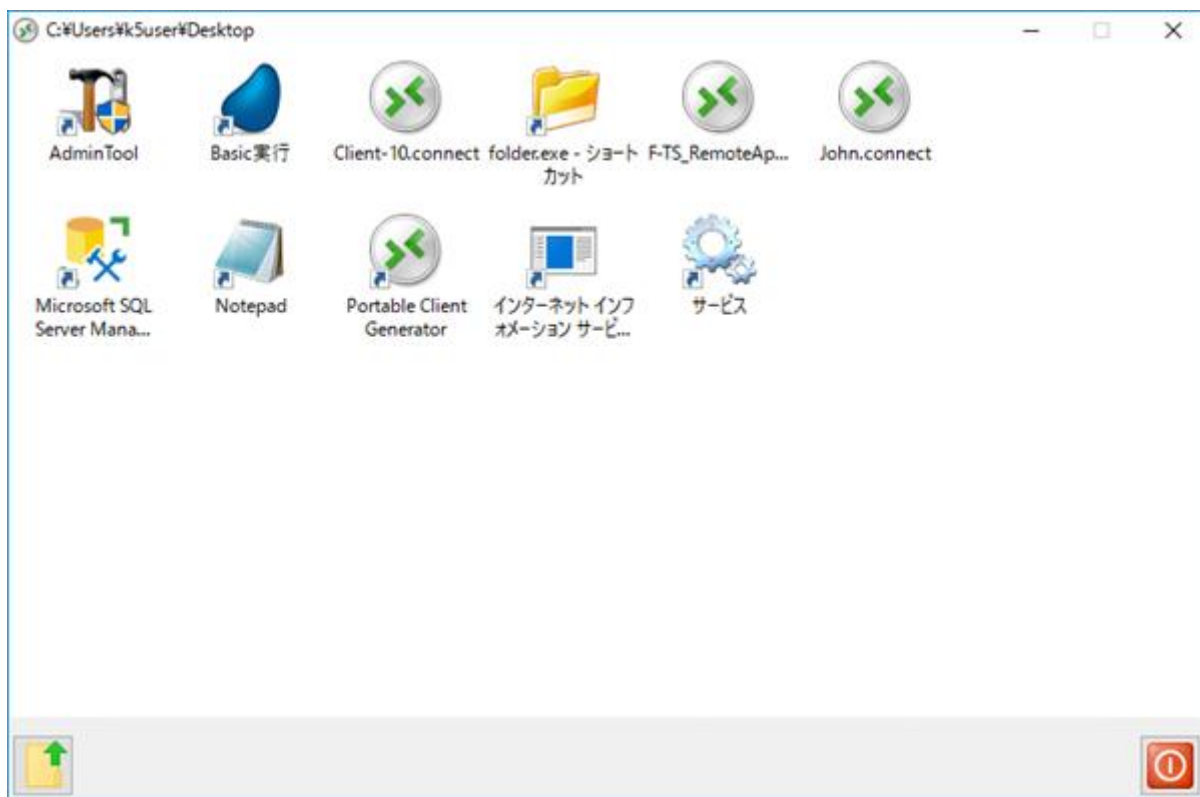
このファイルのショートカットを作成します。このショートカットを右クリックして、プロパティを編集します。

次に、元のリンク先のパスの後にフォルダのパスを入力して、ショートカットのリンク先を変更します。

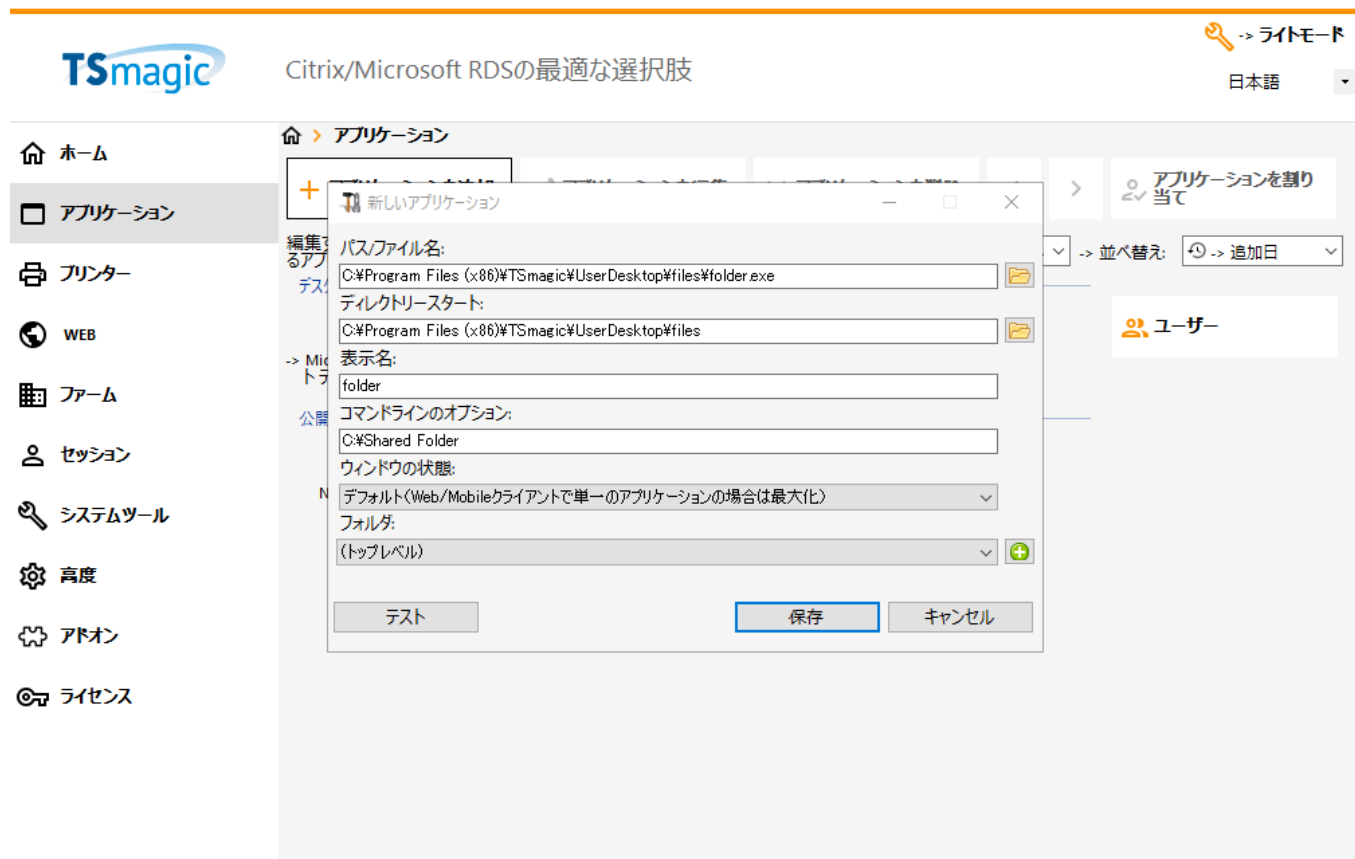
例: "C:¥Program Files (x86)¥TSMagic¥UserDesktop¥files¥folder.exe" "C:¥Shared Folder"



folder.exe のショートカットを開くと、以下のように表示されます。



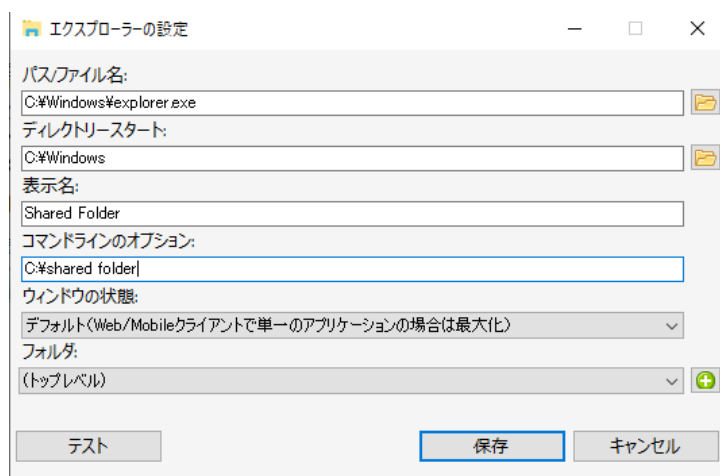
このショートカットは、ユーザのプロファイルデスクトップフォルダにコピーすることも、ユーザの folder.exe をアプリケーションとして公開することもできます。



ドキュメントのフォルダを共有する別の方法もあります。

共有フォルダをアプリケーションとして公開する:

新しいアプリケーションを追加します。表示名に、共有フォルダの名前または任意の名前を入力します。「パス/ファイル名」フィールドの右側にある参照ボタンをクリックして、C:\¥Windows¥explorer.exe を指定します。ディレクトリースタートには、Explorer.exe のパスが自動的に入力されます。コマンドラインのオプションフィールドに共有フォルダのパスを入力します。ローカルフォルダの場合もあれば、UNC パスを使用するネットワーク共有フォルダの場合もあります。以下のフィールドに共有フォルダの情報を入力します。

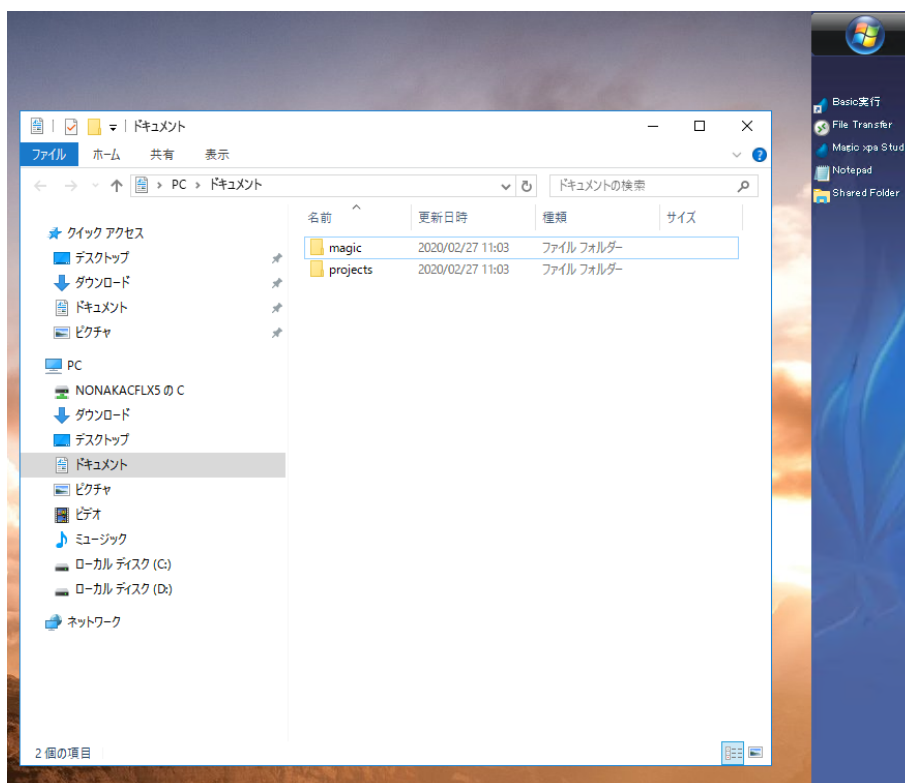


次に、「保存」をクリックします。

「アプリケーションを割り当て」により [リモートタスクバー]と [Share Folder]をユーザまたはグループに割り当てます。

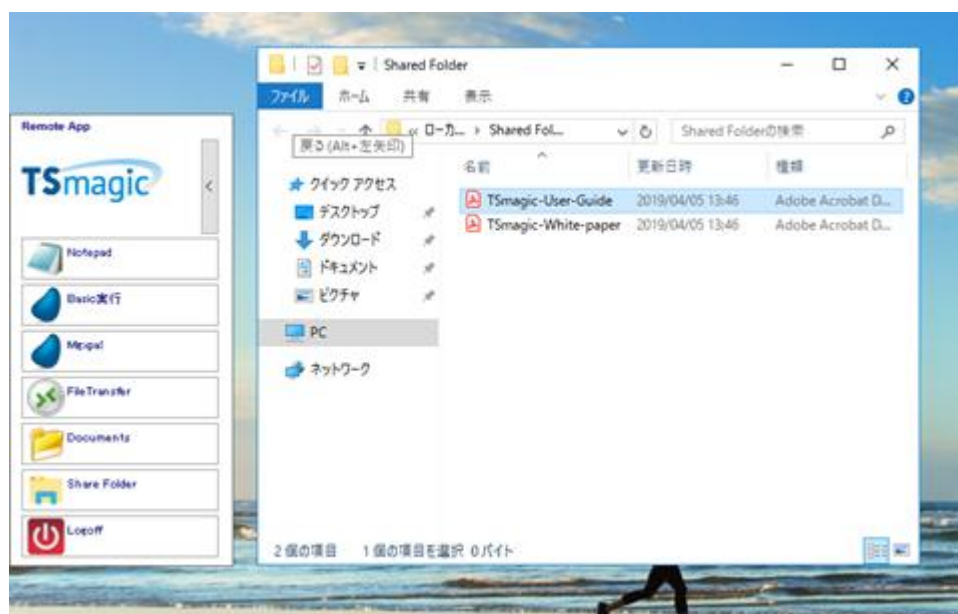


rap クライアントとのセッションを開くと、[Share Folder]アプリケーションを含む TSmagic タスク バーが表示されます。



フローティングパネルでもこれを行うことができます。「アプリケーションを割り当て」により、[フローティングパネル] と [Share Folder] をユーザまたはグループに割り当てます。

結果は次のとおりです。



クライアント側でファイルを開く

概要

ファイル拡張子に応じて、サーバ上にあるドキュメントをクライアント側で開くことができます。

たとえば、サーバに Office がインストールされていなくても、Microsoft Office Word 文書を開くことができます。

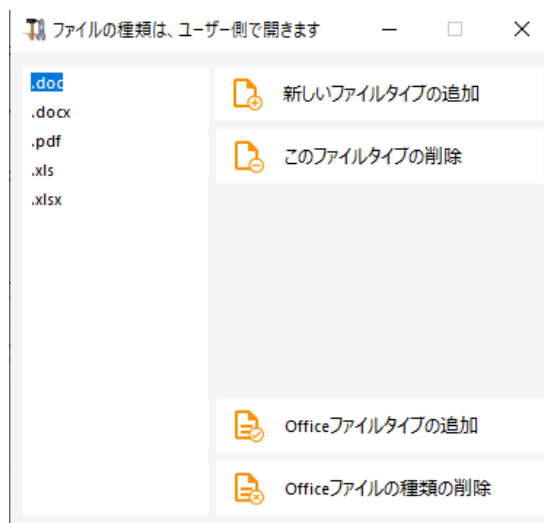
.docx（または.xlsx）ドキュメントは、ユーザ側に自動的にアップロードされローカルの Office を使用して開かれます。

クラウド サーバでアプリケーションをホストしていて、アプリケーションが Excel、Access、または Word ドキュメントを利用する場合、この機能はサーバ上の Office ライセンスを気にしません。

クライアント側で開くファイルタイプの構成

「クライアント側がファイルを開きます」タイルは、AdminTool の「セッション」タブにあります。クリックすると、構成ウィンドウが表示されます。





「新しいファイルタイプの追加」ボタンを使用すると、リストに拡張子(Microsoft Office Word の「.docx」など)を追加できます。

TSMagic 接続クライアントのいずれかを使用している場合は、**このリストにある拡張子を持つすべてのファイルがクライアント側で開かれます。**

- 生成された TSMagic クライアント (RemoteApp、Remote Desktop)
- TSMagic Web Portal からの HTML5 接続

注意:この機能は以下ではサポートされていません:

- 任意の RDP クライアント(例:mstsc.exe)

トラブルシューティング

クライアント側で開くようにファイルタイプを設定し、それが機能しない場合（ファイルがサーバ側で開かれている場合）、Windows コンテキストメニューの「アプリケーションで開く」リストを確認することをお勧めします。

- ファイルを右クリックします。
- [アプリケーションから開く]メニュー項目をクリックします。
- このリストに複数のアプリケーションがある場合は、「既定のプログラムを選択する」をクリックし、「OpenOnClient.exe」を選択します。

この TSMagic のツールは、コンピュータを使用するすべてのユーザにその設定を適用しますが、次の規則に注意してください。

- Windows では、各ユーザがこの既定のプログラムを別のプログラムに変更できます。
- HTML5 接続クライアントを使用すると、ファイルはダウンロードされ、ローカルブラウザで管理します。一部のブラウザは特定の方法で一部のファイルタイプを処理するため、ブラウザの設定も 2 回確認する必要があります。

これらのルールは、クライアント側がファイルを開く機能を使用する際のほとんどの問題を説明しています。拡張子に割り当てられているデフォルトのプログラムをチェックすることをお勧めします。

- サーバにログインしているユーザ用
- クライアント上のユーザ用
- クライアント上のブラウザ用(HTML5 使用時)

クライアント側で URL を開く

概要

サーバにあるすべての Web サイトリンクと Web サイトショートカットをクライアント側で開くことができます。

たとえば、クライアントで直接 YouTube ビデオを開くことができるため、サーバの帯域幅と CPU パワーを大幅に節約できます。

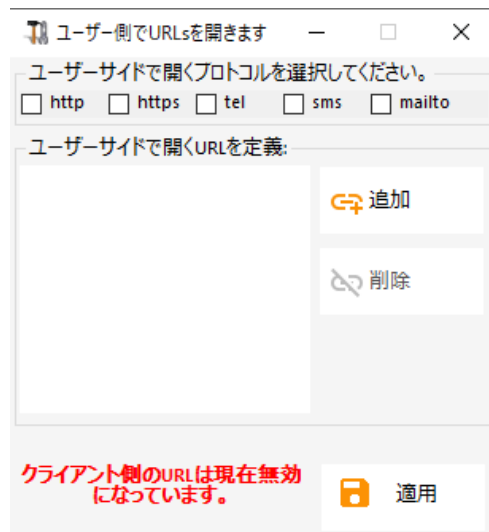
Web アドレス（URL）は、ユーザ側に自動的に転送され、ローカルのデフォルトブラウザを使用して開かれます。

サーバでこの機能を有効にする

「クライアント側が URL を開きます」タイルは、AdminTool の「セッション」タブにあります。クリックすると、構成ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows the TSMagic AdminTool interface. The top bar includes the TSMagic logo, the text 'Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢', and a 'ライトモード' (Light Mode) toggle. The left sidebar contains navigation icons for 'ホーム' (Home), 'アプリケーション' (Applications), 'プリンター' (Printers), 'WEB', 'ファーム' (Firmware), 'セッション' (Sessions), 'システムツール' (System Tools), '高度' (Advanced), 'アドオン' (Add-ons), and 'ライセンス' (Licenses). The main content area is titled 'セッション' and lists several configuration options. The option 'クライアント側が URL を開きます' (Client opens URL) is highlighted with a red rectangular box. Other visible options include 'セッション管理設定', 'セッションオープニング 好み', 'セッション事前起動の設定', 'クライアント側がファイルを開きます', 'ディスクドライブ 非表示', 'コンテキストメニュー', '権限', and 'クライアント ジェネレーター'.



デフォルトでは、http および https プロトコルボックスはチェックされていません。

対応するボックスをチェックすることで、各プロトコルを有効にすることができます。

チェックボックスをチェックし、「適用」ボタンをクリックすることにより、サーバ上の全てのユーザに対してその設定が有効になります。設定後、ユーザは次のセッションからこの機能が有効になります。（一度ログオフしてからログインする必要があります）

TSMagic 接続クライアントのいずれかを使用する場合、すべての Web リンクとショートカットはクライアント側で開かれます

- 生成された任意の TSMagic クライアント(RemoteApp、Remote Desktop)

警告:この機能は以下ではサポートされていません:

- 任意の RDP クライアント(例:mstsc.exe)。
- TSMagic Web Portal からの HTML5 接続

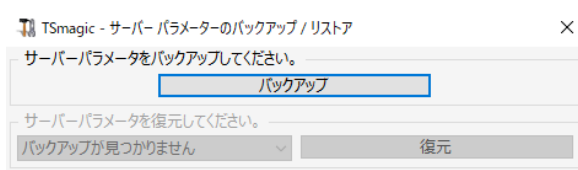
Windows 8 以降の OS

Windows 8 以降、Microsoft はユーザのデフォルトブラウザの自動変更を禁止しています。

これにより、サーバで機能がアクティブ化されると、ユーザが初回 Web リンクを開いたときにどのアプリケーションで開くかのダイアログが表示されます。ここでは「URL On Client」を選択する必要があります。

TSMagic 設定のバックアップ

[高度]タブでは、「サーバーパラメータのバックアップ/リストア」ボタンをクリックすると、TSMagic の設定をバックアップまたは復元できます。



TSMagic の設定をサーバ A からサーバ B に移行するには、以下の手順で行ってください。

1. サーバ A で「バックアップ」ボタンをクリックし、新しいバックアップを作成します。バックアップデータは「C:\¥ Backup Param」フォルダにあるアーカイブディレクトリに作成されます。
2. 作成されたバックアップフォルダ（例：backup-2025-03-20_11-26-03）を、サーバ A のアーカイブディレクトリからサーバ B のアーカイブディレクトリにコピーします。
3. サーバ B の「バックアップ/リストア」ウィンドウの[サーバパラメータを復元してください。]セクションで、復元するバックアップ名を選択します。
4. 「復元」をクリックして設定を復元します。
5. 設定がロードされるまで 2 分程かかります。

高度な印刷オプション: Virtual Printer V1

Tsmagic Virtual Printer は、信頼性が低く、ハードウェアに依存し、管理が難しい従来のリモートデスクトップソリューションに代わる新しいソリューションです。Tsmagic Virtual Printer 独自の圧縮アルゴリズムは、画質品質を維持しながらデータ転送を最小限に抑えることで、リモート印刷ジョブの転送速度を向上させます。

注：Tsmagic Virtual Printer は、Tsmagic HTML5 クライアントではサポートされていません。

前提条件

Tsmagic Virtual Printer サポート OS

- Windows 10（2025 年 10 月末まで）
- Windows 11
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows Server 2022
- Windows Server 2025

以下の環境では利用できません

- Tsmagic HTML5 クライアント
- クライアント側にセットアップをインストールできないシンクライアントデバイス

構成

Tsmagic Virtual Printer は、次の 2 つのコンポーネントで構成されます。

- Tsmagic サーバにインストールされるサーバ側コンポーネント
- ユーザの Windows クライアントにインストールされるデスクトップコンポーネント

クライアント用のインストールモジュールは、Tsmagic サーバの「C:\Program Files (x86)\Tsmagic\UserDesktop\files\addons」フォルダにある「Setup-VirtualPrinter-Client.exe」になります。Tsmagic Virtual Printer を利用する場合、このモジュールを Windows クライアントにインストールして下さい。

以下のリンクを使用して Tsmagic Web サーバからダウンロードすることもできます。

「[TsmagicWeb サーバアドレス]/addons/Setup-VirtualPrinter-Client.exe」

次のパラメータを使用してセットアップを実行することにより、コマンドラインからクライアントのサイレントインストールを実行することもできます。

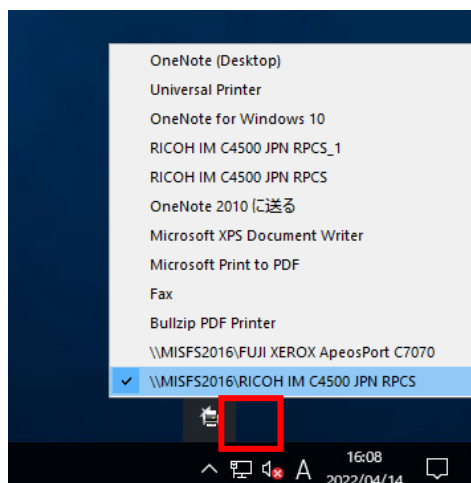
/SUPPRESSMSGBOXES /VERYSILENT /SILENT /no_ui

Tsmagic Virtual Printer のサーバ側モジュールは、Tsmagic インストール時に自動的にインストールされ、サーバ上のプリンタとして「Virtual Printer」が登録されます。（「C:\Program Files (x86)\Tsmagic\UserDesktop\files\addons\Setup-VirtualPrinter-Server.exe」にセットアップモジュールがあります。）クライアントには「VirtualPrinter-Client」をインストールする必要があります。

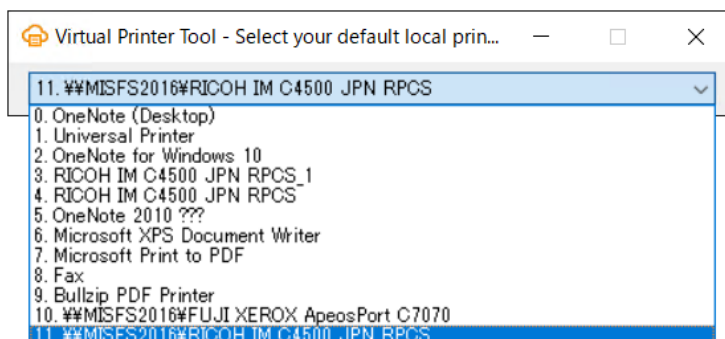
Microsoft RDP クライアント（mstsc）または、Tsmagic 生成クライアントを使用して Tsmagic サーバにリモート接続すると、「Virtual Printer」プリンタを使用してリモートセッションからローカルプリンタに印刷できます。デフォルトでは、選択されるローカルプリンタはローカルのデフォルトプリンタです。

「Virtual Printer」プリンタにマップされるローカルプリンタを変更する方法は 2 通りあります。

1. フルデスクトップを使用している場合は、システムトレイの仮想プリンタアイコンを使用して、使用するローカルプリンタを選択できます。



2. フルデスクトップにアクセスできない場合は、「C:\Program Files (x86)\Tsmagic\UserDesktop\files」にある「VirtualPrinterTool.exe」（Virtual Printer Tool）を使用する必要があります。Virtual Printer Tool は、Tsmagic にアプリケーションとして登録し、ユーザに割り当て実行するか、Tsmagic サーバの[高度] 設定によりログオン時に自動的に実行するようにすることができます。



Virtual Printer Manager には専用のタブがあります。

Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢

-> ライトモード
日本語

ホーム
アプリケーション
プリンター
WEB
ファーム
セッション
システムツール
高度
アドオン
ライセンス

プリンター

-> ユニバーサルプリンター

-> ユニバーサルプリンター（novaPDF）がインストールされました

ユニバーサルプリンター 準備完了

ユニバーサルプリンターマネージャ

仮想プリンター

仮想プリンターがインストールされています。

最新バージョンの仮想プリンターをご利用中です。

仮想プリンターマネージャ

Set a default printer for all users

ユニバーサルプリンターがデフォルトプリンターとして設定されています

Default printer for all users: Universal Printer

Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢

-> ライトモード
日本語

ホーム
アプリケーション
プリンター
WEB
ファーム
セッション
システムツール
高度
アドオン
ライセンス

プリンター > 仮想プリンターマネージャ

仮想プリンターがインストールされています。

最新バージョンの仮想プリンターをご利用中です。

仮想プリンターはデフォルトプリンターではありません。

仮想プリンターマネージャ

仮想プリンターをインストールしてください。

仮想プリンターを削除してください。

仮想プリンターを更新してください。

仮想プリンターをデフォルトプリンターに設定してください。

仮想プリンターのプロパティ

仮想プリンターを表示

©Magic Software Japan K.K.

103

Virtual Printer Manager、Virtual Printer オプションのインストール、アンインストール、表示、および処理に必要なすべてのツールが用意されています。

現在の Virtual Printer ステータスに関する情報は上部にあります。

次のボタンを使用して、操作を実行できます。

- **仮想プリンターをインストールしてください** : Virtual Printer のインストール
- **仮想プリンターを削除してください** : Virtual Printer の削除
- **仮想プリンターを更新してください** : Virtual Printer の更新
- **仮想プリンターをデフォルトプリンターに設定してください** : Virtual Printer を通常使うプリンタに設定
- **仮想プリンターを表示** : ウィンドウが開き、印刷ドキュメントの状態の確認、印刷の一時停止、再開、またはキャンセルを行うことができます。印刷の環境設定とプロパティを設定することもできます。
- **仮想プリンターのプロパティ** : Virtual Printer のプロパティが表示されます。

[高度] - [Virtual Printer] の [ログオン時に仮想プリンターツールを実行します] パラメータにより、ユーザのログオン時にリモートセッションで Virtual Printer Tool を自動的に実行させるようにすることができます。このパラメータを有効にすることにより、Virtual Printer Tool を必要とする全てのユーザにアプリケーションを割り当てて、全てのユーザが直接利用できるようにするという手間を省くことができます。



Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢

 ライトモード
日本語

- ホーム
- アプリケーション
- プリンター
- WEB
- ファーム
- セッション
- システムツール
- 高度
- アドオン
- ライセンス


サーバー パラメーターのバックアップ/リストア

高度な設定

-  製品
-  セキュリティ
-  セッション
-  ロックアウト
- Virtual Printer
-  コンテキストメニュー
-  ログ

名前	値
ログオン時に仮想プリンターツールを実行します。	いいえ

©Magic Software Japan K.K.

104

Virtual Printer V2

TSMagic V18.60.x より、Virtual Printer の新しいバージョンが利用可能になりました。

このバージョン（V2）には、Virtual Printer コンポーネントの重要な更新が含まれています。

Virtual Printer V2 のリリースにより、開発元の Fabulatech 社により Virtual Printer V1 のサポートは終了されました。今後 Virtual Printer V1 で発生した不具合に対するアップデートは行われません。

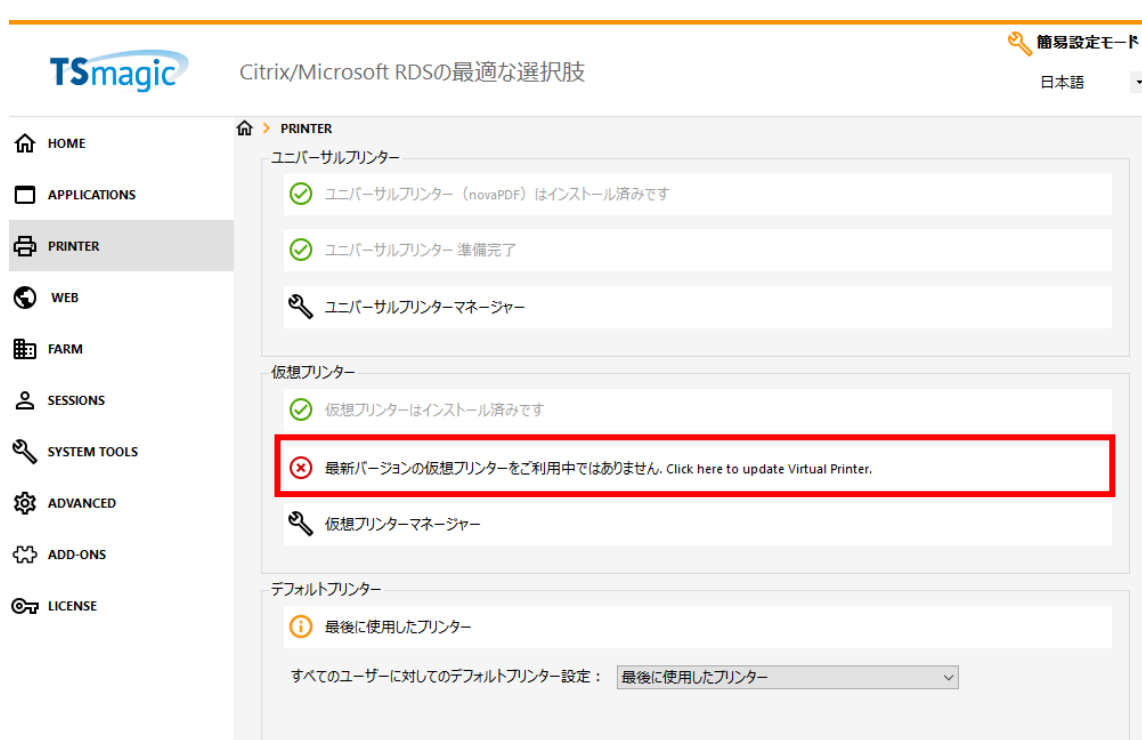
注意：Virtual Printer V1.x と V2.x には互換性がないため、正常に動作させるにはクライアント側とサーバ側が同じメジャーバージョンである必要があります。

TSMagic を V18.60.x にアップデートすると、Virtual Printer のセットアッププログラムは Virtual Printer V2 の物になります。セットアッププログラムは「C:\Program Files (x86)\TSMagic\UserDesktop\files\addons」に保存されています。TSMagic をアップデートしても、Virtual Printer V1 から Virtual Printer V2 へのアップデートは自動では行われません。サーバ側のアップデートは AdminTool/PRINTER パネルから行うことが出来ます。

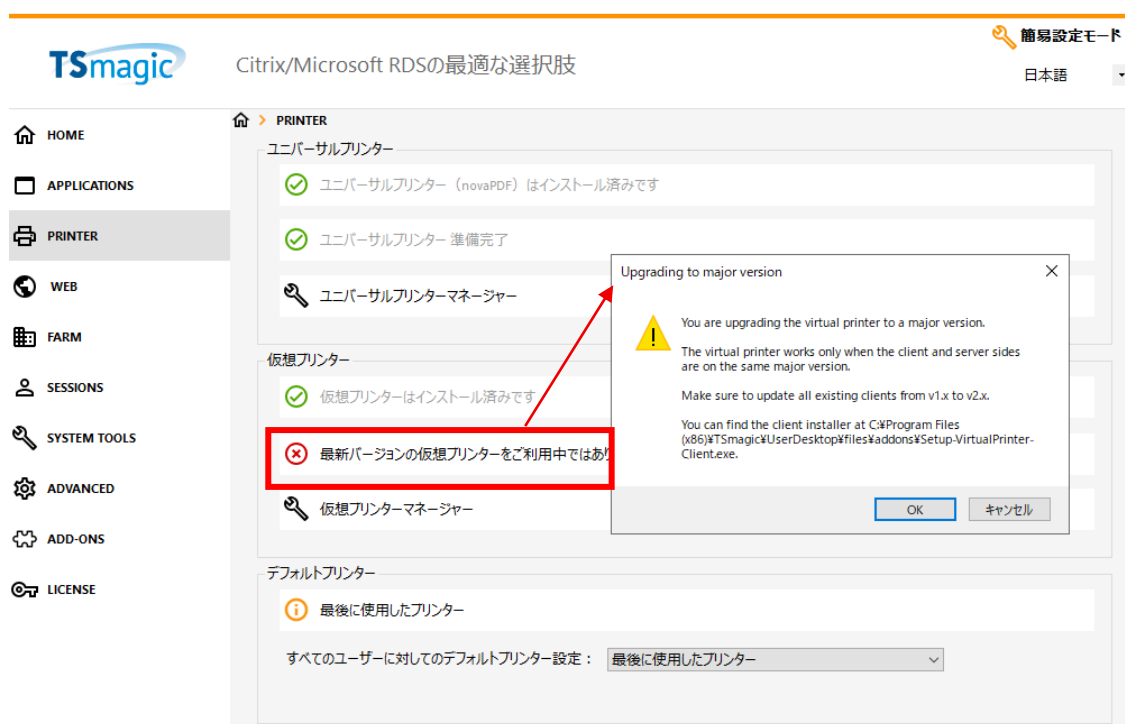
アップデート方法

AdminTool は利用可能な新しい Virtual Printer のバージョンを検出します。

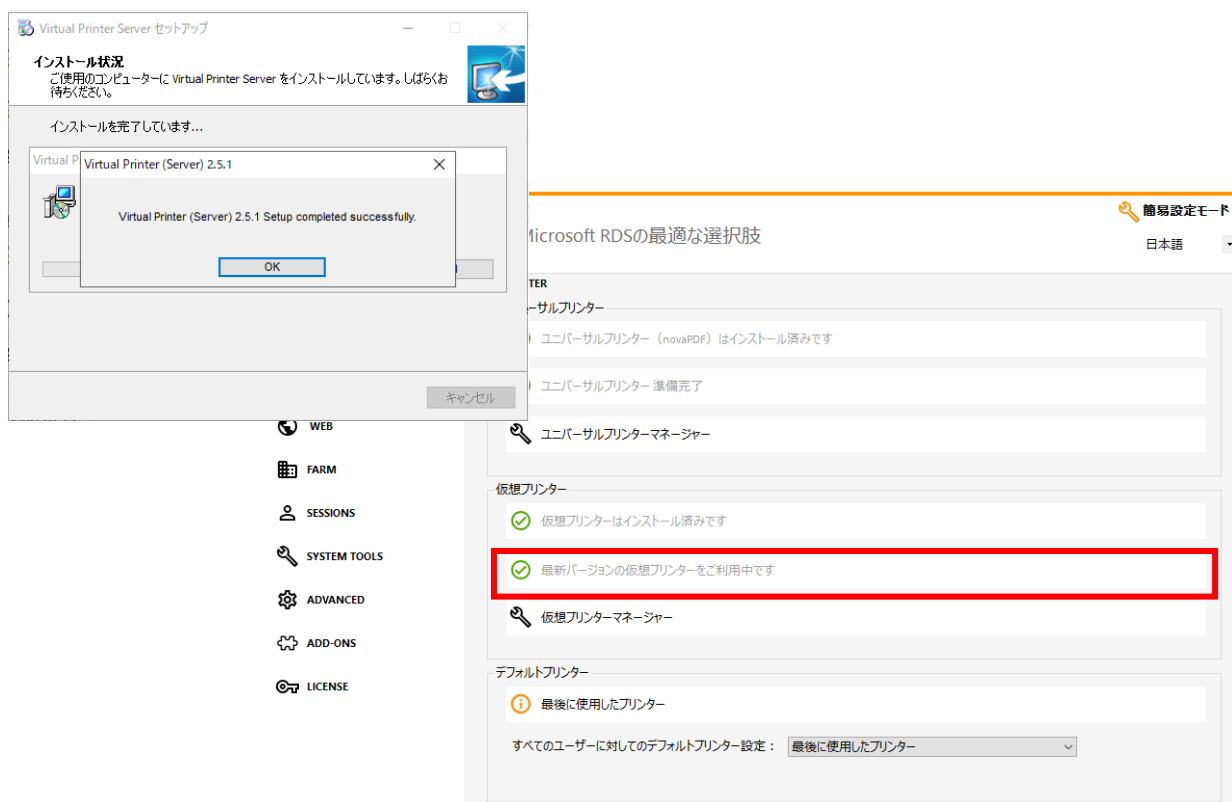
「最新バージョンの仮想プリンターをご利用中ではありません。」ボタンをクリックするまで、現在インストールされている Virtual Printer のバージョンは変更されず、以前と同じように動作します。（V1 の動作）



「最新バージョンの仮想プリンターをご利用中ではありません。」ボタンをクリックすると、Virtual Printer のメジャーバージョンアップをするかどうかの確認ダイアログが表示されます。



「OK」をクリックすると Virtual Printer V2 のインストールが開始され、Virtual Printer が最新の状態になります。



注意：Virtual Printer を利用するにはサーバ側とクライアント側の Virtual Printer モジュールが同一メジャーバージョンである必要があります。サーバ側のモジュールをバージョンアップしたら、クライアント側のモジュールも更新してください。

クライアントモジュールのインストーラは以下にあります。

「C:\Program Files (x86)\Tsmagic\UserDesktop\files\addons\Setup-VirtualPrinter-Client.exe」

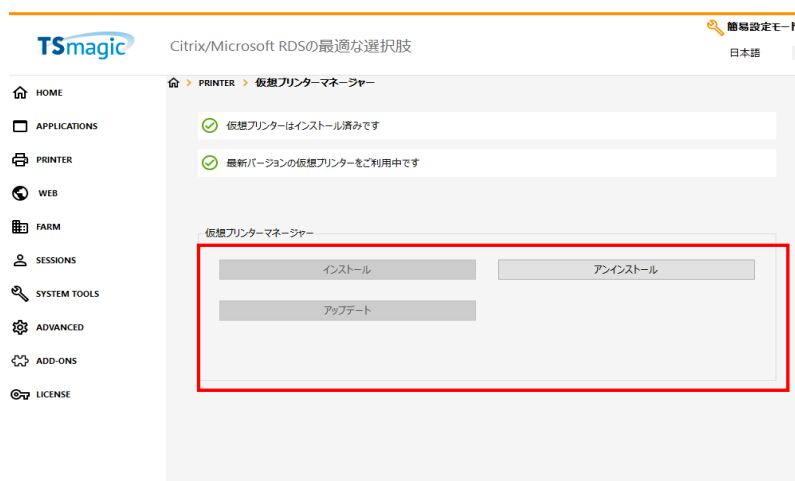
重要な変更

サーバ上のプリンタリストに「Virtual Printer」が表示されなくなりました。代わりに、クライアントの各ローカルプリンタが RDP セッション内の対応する仮想プリンタとしてマッピングされるようになりました。これにより、Virtual Printer Tool で出力先プリンタを選択しなくても、直接セッション内で利用可能な仮想プリンタに対して出力することができるようになりました。

以下の画面は、ユーザが RDP セッション#31 に接続しているセッションの「デバイスとプリンター」一覧を開いたものです。ローカルのプリンタが表示され、セッションで直接使用することが出来ます。各仮想プリンタの名前は「[\$printerName] (Virtual Devices - [\$sessionID])」という形式で表示されます。

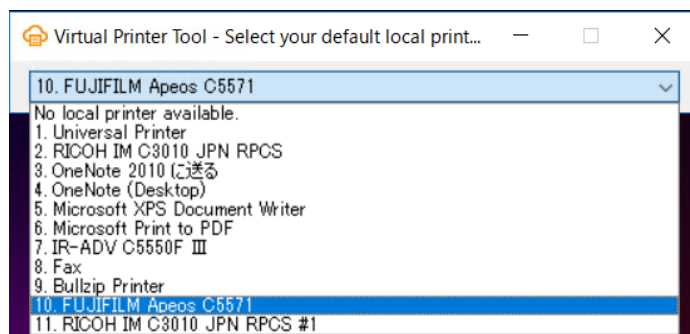


このため、仮想プリンターマネージャーの画面からは、「デフォルトプリンターとして設定、プロパティを開く、キューを開く」のボタンが削除されました。



設定方法

サーバ上のプリンタリストから「Virtual Printer」は無くなりましたが、AdminTool 上でデフォルトプリンタを「Virtual Printer」に設定することにより、デフォルトの出力先を Virtual Printer Tool で指定した仮想プリンタにすることができます。



仮想プリンタにマップされたデバイス名のカスタマイズ

レジストリ「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Policies¥Virtual Devices¥Virtual Printer (Server)」キーに2つの値を追加します。

名前	種類	データ
PrinterNameTemplate	文字列値	\$p-\$u
PrinterNamingMode	DWORD (32 ビット) 値	ff

PrinterNameTemplate はテンプレート文字列で、3つの変数が利用可能です。

- \$p : プリンタ名
- \$u : 完全なユーザ名 (ドメイン/ユーザ名、またはコンピュータ名/ユーザ名)
- \$s : セッション番号

プリンタ名はサーバ上でユーザごとに一意である必要があるため「\$p」の指定は必須です。

「\$p」に加えて「\$u」または「\$s」の指定は必須です。

テキストエディタで以下の内容のファイルを作成し、拡張子を「.reg」にしてサーバ上で管理者で実行することにより値を追加することが可能です。

Windows Registry Editor Version 5.00

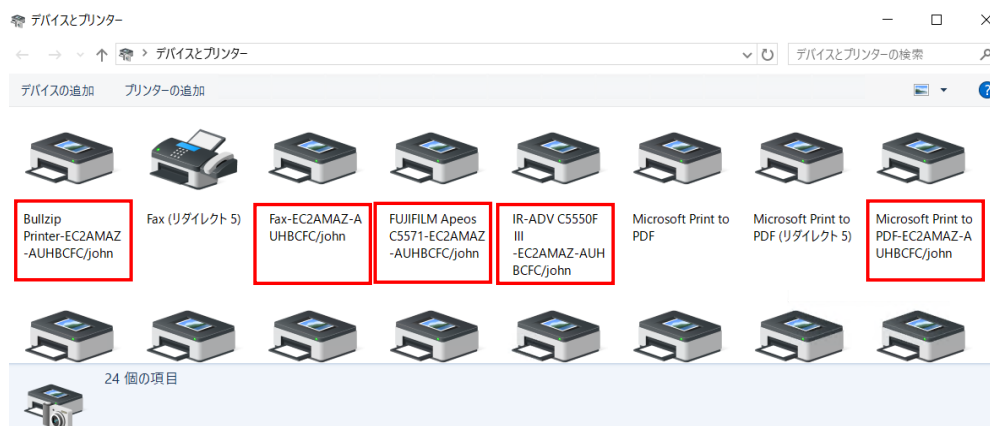
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Policies¥Virtual Devices¥Virtual Printer (Server)]

"PrinterNamingMode"=dword:000000ff

"PrinterNameTemplate"="\$p-\$u"

例: PrinterNameTemplate を"\$p-\$u"にした場合、仮想プリンタ名は次の画像のようになります。

[プリンタ名]-[ドメイン/ユーザ名]



Universal Printer

Tsmagic Universal Printer を使用すると、Tsmagic リモートアクセスでサポートされている任意の PC またはモバイルデバイスからドキュメントのプレビューや印刷を行うことができます。

TsmagicV17 以降、Universal Printer は novaPDF(<https://www.novapdf.com/>)を利用するようになり、100%業界標準の PDF ファイルを生成するようになりました。サーバで生成された PDF ドキュメントは、クライアントに送信され、クライアントのローカルプリンタから印刷できるようになります。

NovaPDF 11 Server サービスは、ファイアウォールやウィルス対策の除外リストに含まれている必要があります。

注意：PDF プレビュー時の一時ファイル名は [[印刷ジョブ名]-[YYYYMMDD]-[HHMMSS].pdf] となります。

Universal Printer を設定する

Universal Printer を設定するには、AdminTool を開き、[プリンター]メニューをクリックします。

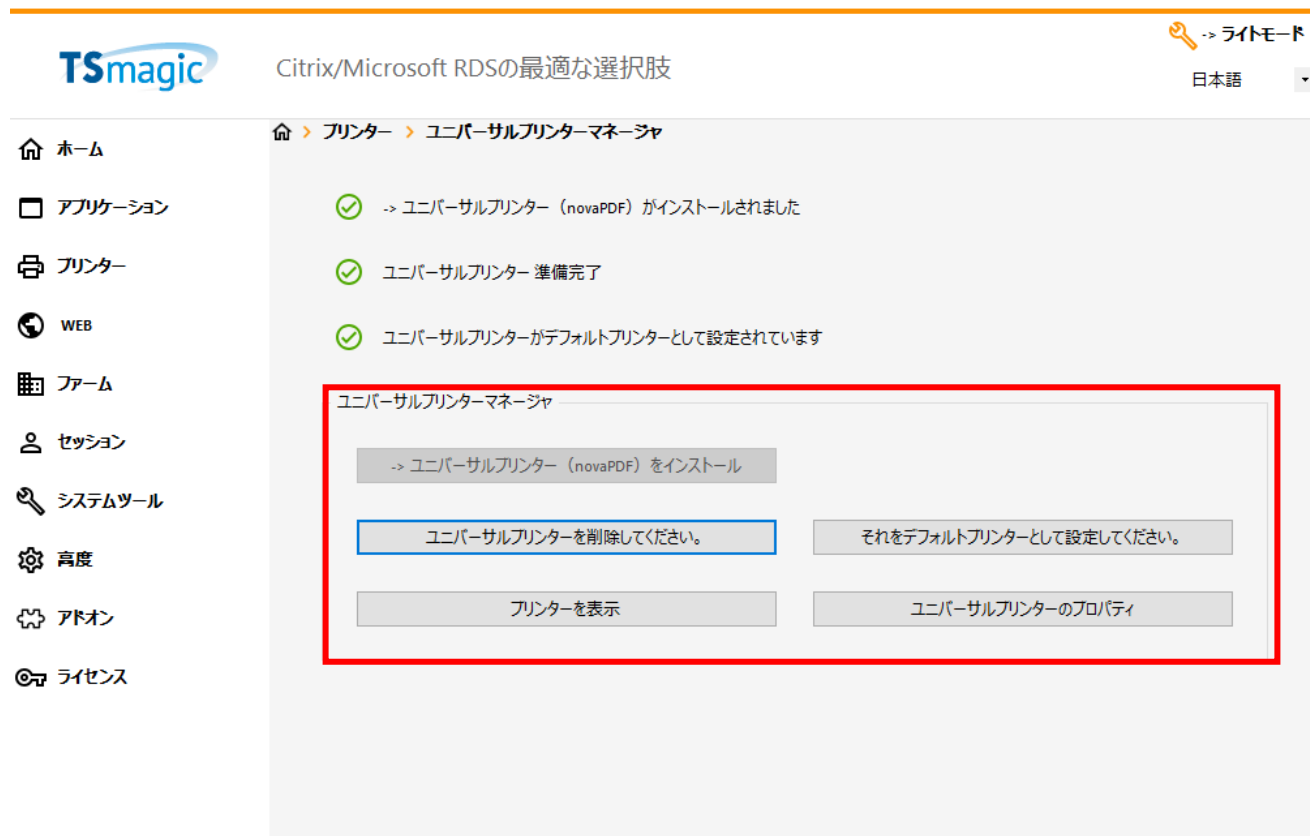


Universal Printer セクションには 3 つのタイルがあり、次のことを行うことができます。

- Universal Printer のインストール状況の確認。Universal Printer がインストールされていない場合は、タイルをクリックすることにより Universal Printer がインストールされます。
- Universal Printer の状況を確認します。Universal Printer が印刷ジョブを受信する準備が出来ていない場合、タイルにはエラーに関する情報が表示される場合があります。
- 「ユニバーサルプリンターマネージャ」でユニバーサルプリンターマネージャのメニューを開きます。

ユニバーサルプリンターマネージャ

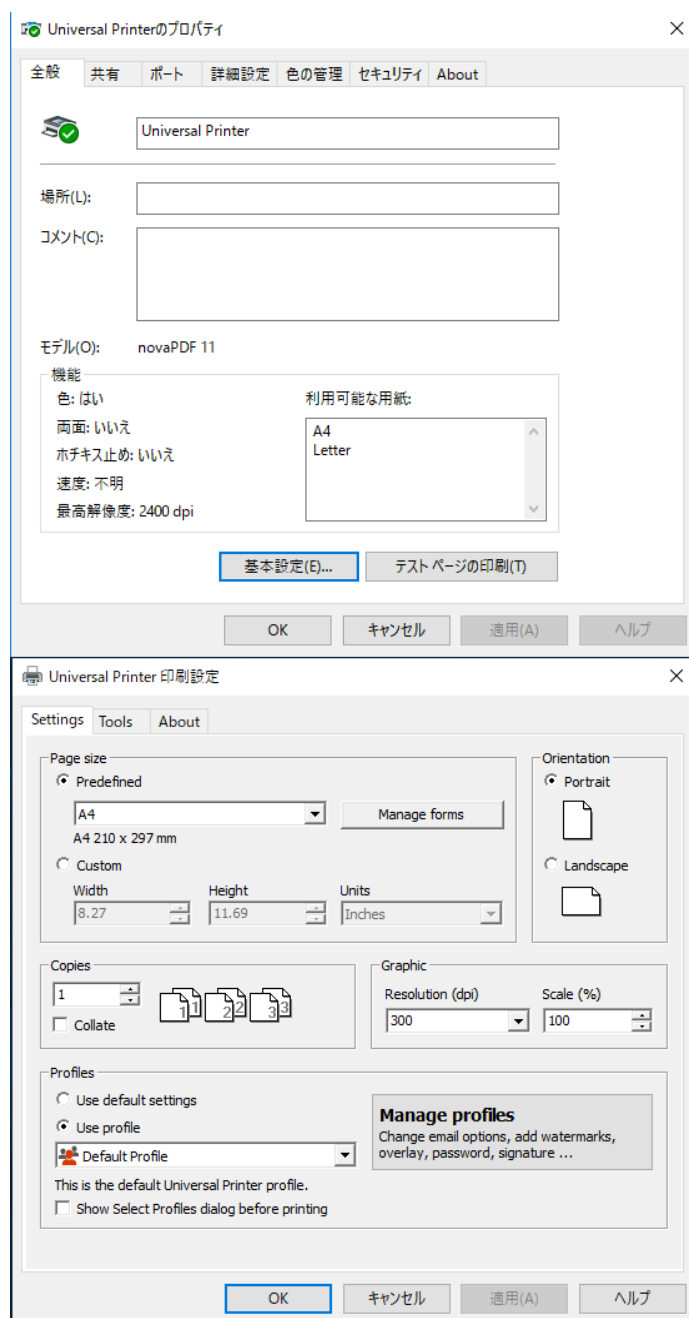
ユニバーサルプリンターマネージャを使用すると、管理者は Universal Printer のステータスを確認したり、Universal Printer を削除したり、印刷キューやプリンタのプロパティにアクセスすることができます。



次のボタンを使用して、次の操作を実行できます。

- **ユニバーサルプリンター（novaPDF）をインストール**：Universal Printer のインストール
- **ユニバーサルプリンターを削除してください**：Universal Printer の削除
- **それをデフォルトプリンターとして設定してください**：Universal Printer をデフォルトプリンタに設定
- **プリンターを表示**：ウィンドウが開き、印刷ドキュメントの状態の確認、印刷の一時停止、再開、またはキャンセルを行うことができます。印刷の環境設定とプロパティを設定することもできます。
- **ユニバーサルプリンターのプロパティ**：プリンタの印刷プロパティが表示されます。

Universal Printer のプロパティ



[ユニバーサルプリンターのプロパティ]—[基本設定]をクリックすると、Universal Printer 印刷設定画面が表示され、印刷用の用紙サイズや縦横方向等を設定することができます。

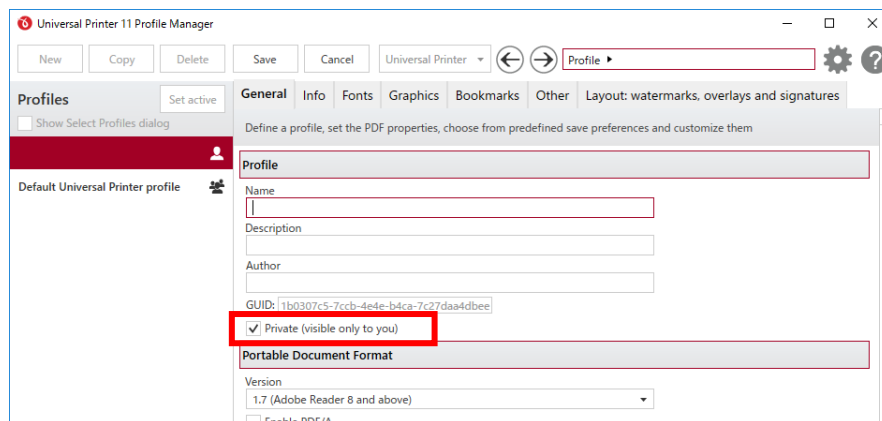
Universal Printer は novaPDF を利用しており、Universal Printer 印刷設定画面下部の[Profiles]セクションで、[Manage profiles]ボタンより Profile Manager を起動して、フォントや透かし等を定義するプロファイルを作成し、ユーザが印刷時にプロファイルを選択できるようにすることができます。

Profile Manager 起動時にパスワード入力が必要です。デフォルトのパスワードは「pass@word1」になります。

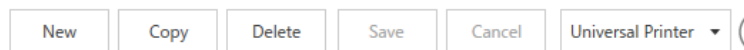
Profile Manager を使用すると、PDF ファイル作成時に使用される設定の構成を印刷プロファイルとして作成し、印刷時に使用するプロファイルを指定できるようになります。

初期状態では「Default profile」と「Print Opened Documents Profile」というプロファイルが存在します。プロファイル作成時に[General]タブの「Private(visible only to you)」のチェックボックスの設定によって次の2種類のプロファイルを作成することができます。

- **Privateプロファイル**：（チェックあり）作成したユーザのみが利用できるプロファイル
- **Publicプロファイル**：（チェックなし）Universal Printer を使用する全てのユーザが利用できるプロファイル



Universal Printer 11 Profile Manager

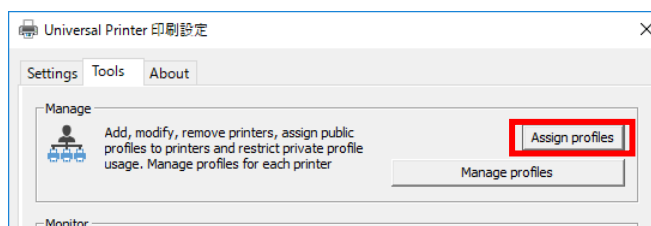


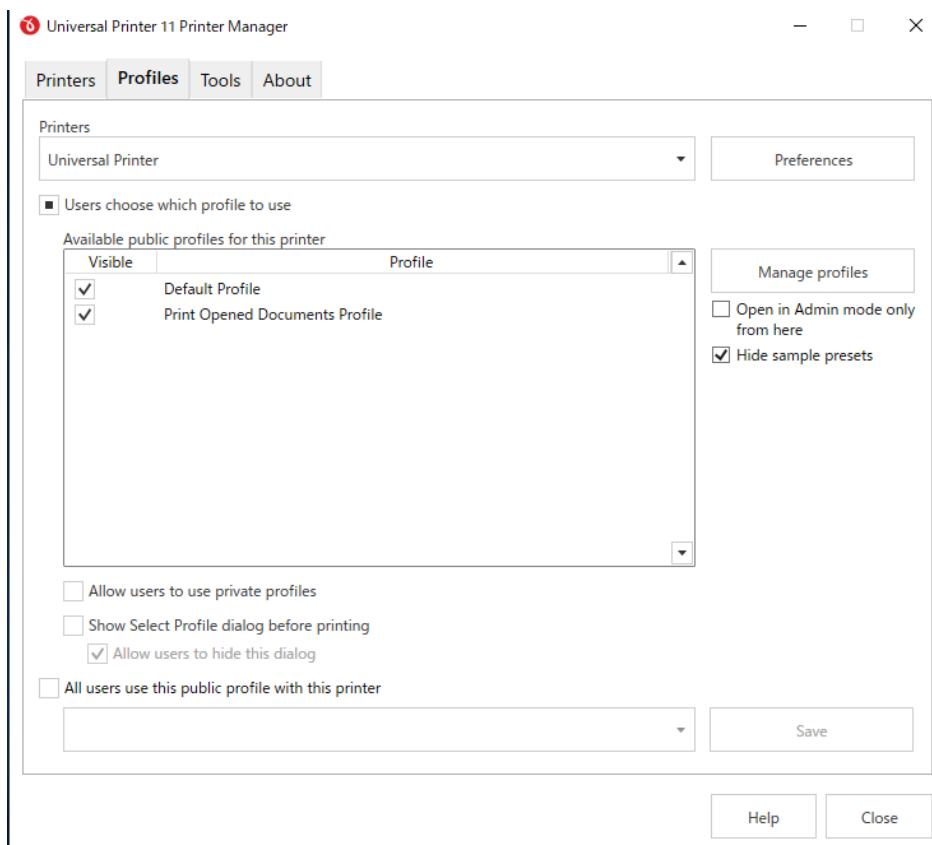
- **New** : プロファイルを新規に作成する。
- **Copy** : 選択中のプロファイルをコピーする。
- **Delete** : 選択中のプロファイルを削除する。
- **Save** : 編集中のプロファイルの内容を保存する。
- **Cancel** : プロファイルの編集をキャンセルする。

プロファイルの詳細については、novaPDF のドキュメント「Profile Manager」(<https://www.novapdf.com/profile-manager-help.html>)を参照してください。

[Universal Printer 印刷設定] – [Tools] タブの「Assign profiles」ボタンをクリックすると、novaPDF の Printer Manager が開き、作成したプロファイルをユーザが利用できるように設定することができます。

Printer Manager 起動時にパスワード入力が必要です。デフォルトのパスワードは「pass@word1」になります



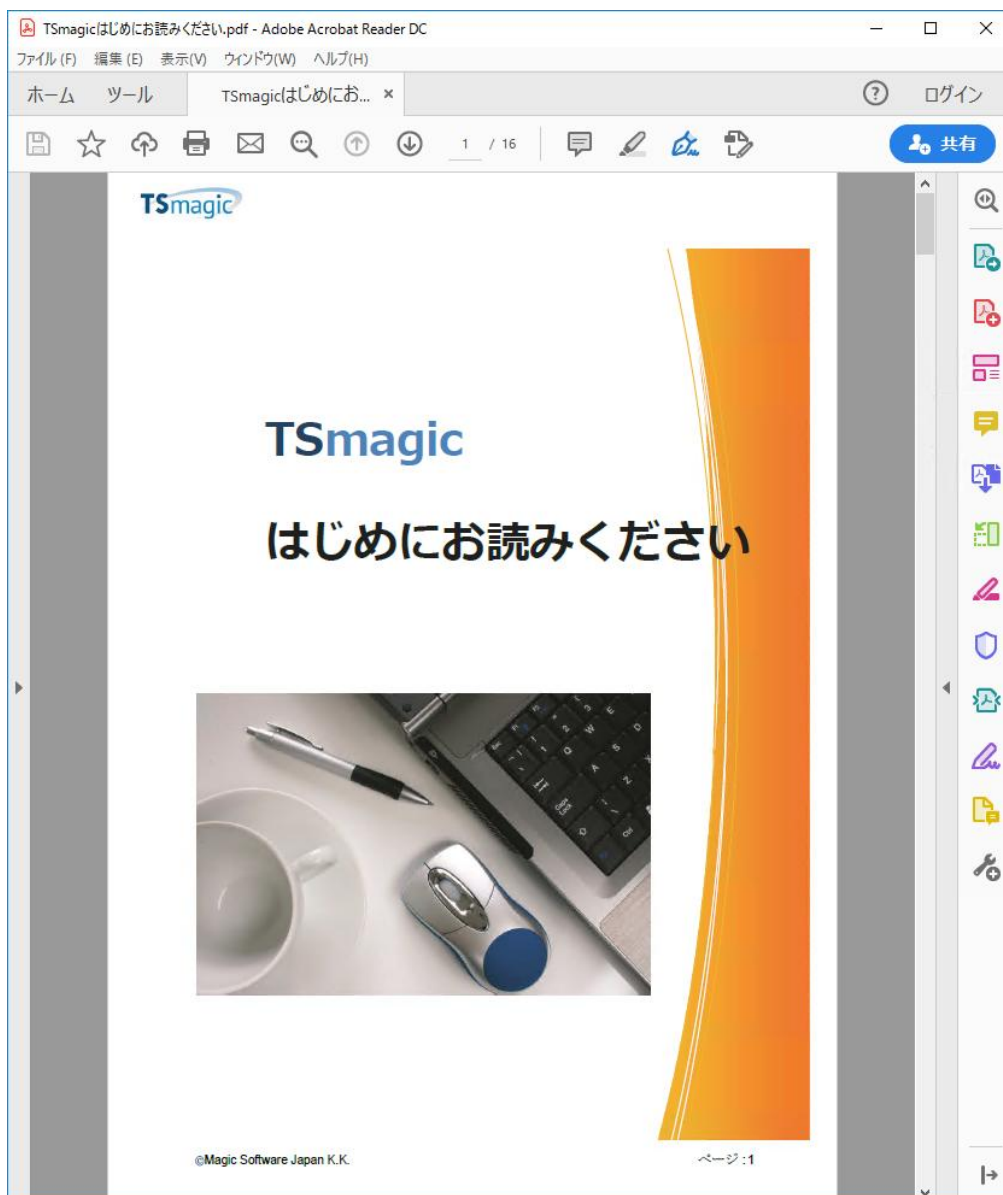


- **Users choose which profile to use :** このオプションを選択すると、登録されている Public プロファイルから、ユーザのプロファイル選択リストに表示するプロファイルを設定することができます。
- **All users use this public profile with this printer :** このオプションを選択すると、全てのユーザはここで選択されたプロファイルを使用するように固定され、他の Public Profile を選択することができなくなります。

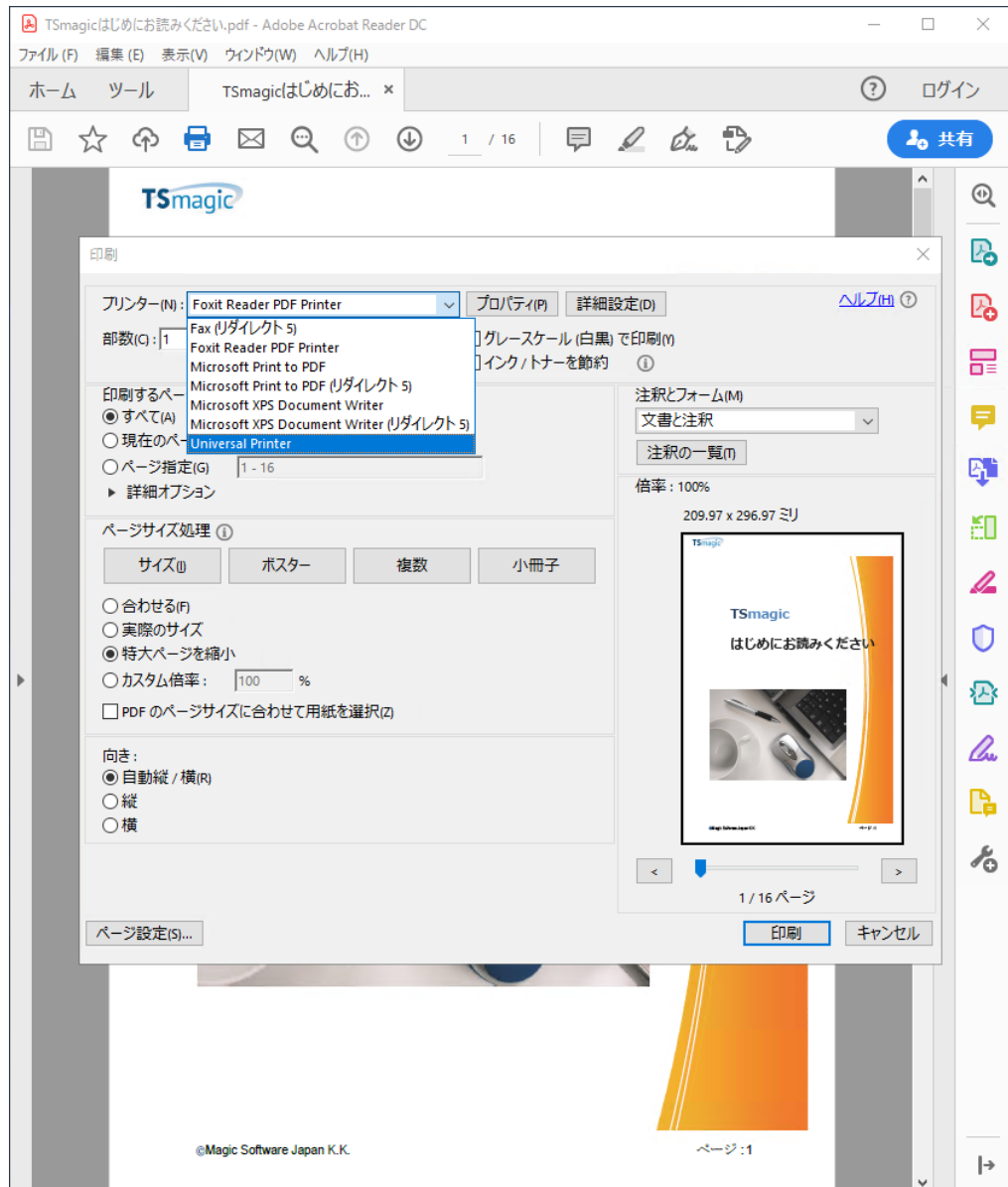
ユニバーサルプリンタで印刷する

このプリンタを使用して印刷すると、印刷キュー内のドキュメントは Universal Printer(novaPDF)によって自動的に PDF ファイルに変換されます。

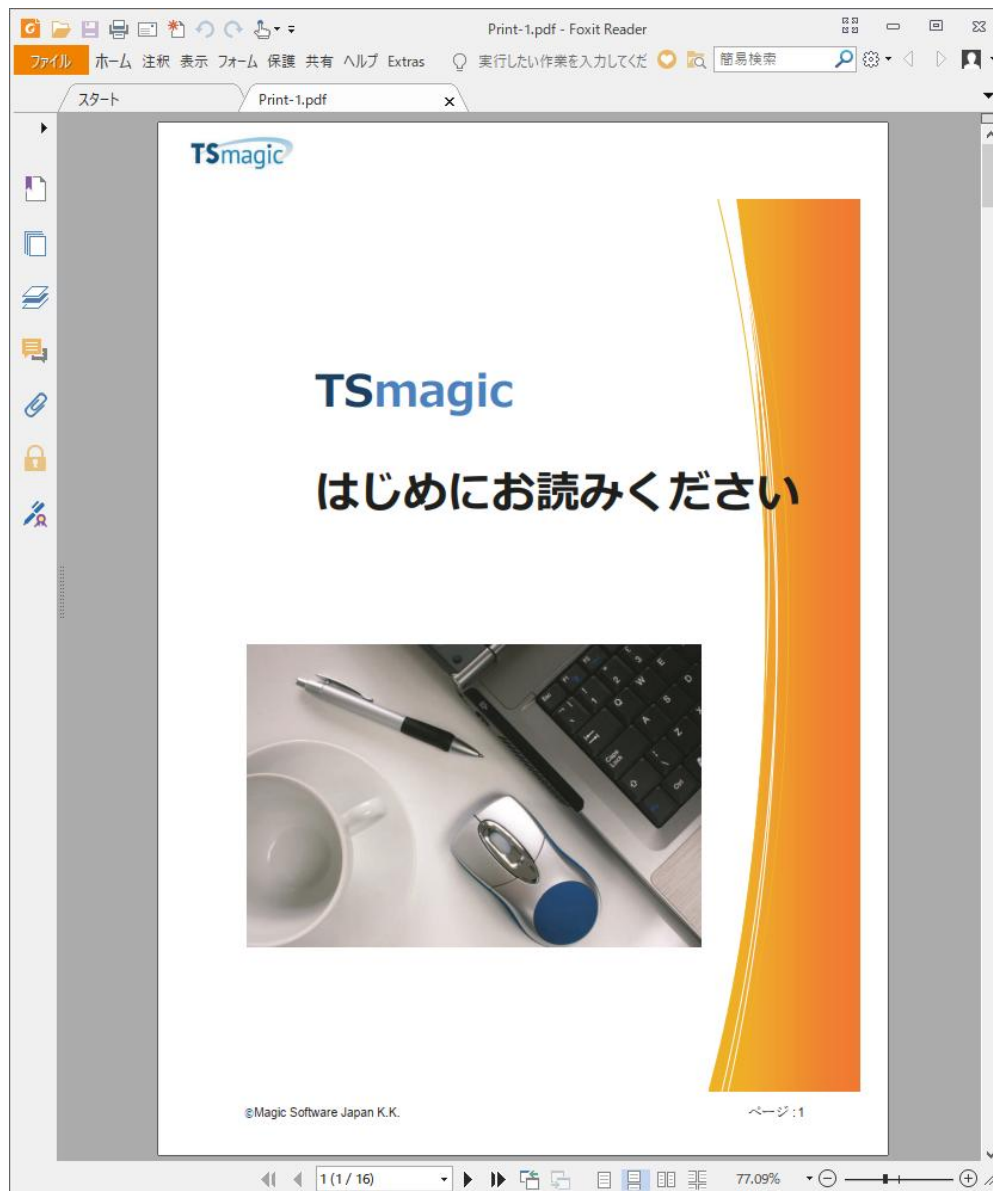
例：Cloud 上にある PDF を Acrobat で開き、印刷します。



プリンター選択で Universal Printer を選択します。



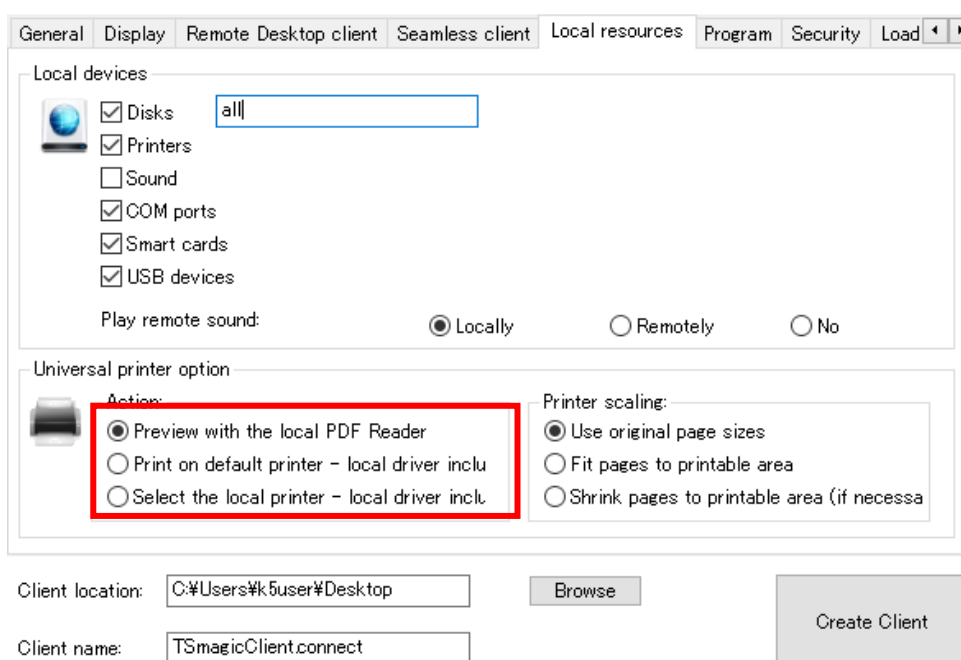
生成された PDF ファイルは、ユーザのワークステーションのローカル PDF リーダーに自動的にプッシュされます。各印刷ジョブは、ユーザのローカルディスク上で準備が整うとすぐに開かれます。



ポータブルクライアントジェネレータの[Local resources]タブで、3つの印刷オプションから選択できます。

- **Preview with the local PDF Reader :** ドキュメントがクライアントにプッシュされ、ローカルのデフォルト PDF Reader で開かれます。ユーザは、そこからローカルのプリンタで印刷したり、ローカルディスクドライブに保存したりできます。**ローカルに送られる PDF の一時ファイル名は [[印刷ジョブ名]-[YYYYMMDD]-[HHMMSS].pdf] となります。(2バイト文字は空白になります)**
- **Print on default printer :** ドキュメントはユーザのデフォルトプリンタで自動的に印刷されます(このオプションは、TSMagic 接続クライアントを使用する場合のみ使用可能です)。
- **Select the local printer :** プリンタの選択ダイアログが表示され、ユーザは自分のローカルプリンタから出力先プリンタを選択できます(このオプションは、TSMagic 接続クライアントを使用する場合のみ使用可能です)。

Windows Client Generator



General Display Remote Desktop client Seamless client Local resources Program Security Load

Local devices

☒ Disks all

☒ Printers

☐ Sound

☒ COM ports

☒ Smart cards

☒ USB devices

Play remote sound: ☒ Locally ☐ Remotely ☐ No

Universal printer option

Action:

☒ Preview with the local PDF Reader

☐ Print on default printer - local driver incl.

☐ Select the local printer - local driver incl.

Printer scaling:

☒ Use original page sizes

☐ Fit pages to printable area

☐ Shrink pages to printable area (if necessary)

Client location: C:\Users\k5user\Desktop Browse

Client name: TSMagicClient.connect Create Client

novaPDF プリンタの設定

[Universal Printer 印刷設定] - [tools] からは次の操作を実行できます。

- デフォルトのパスワードを変更する
- 印刷ジョブの進行状況を監視する
- 印刷ジョブの履歴を確認する

プロファイル

プロファイルを使用すると、レイアウト、透かし、圧縮レベルなどをカスタマイズできます。

Profile Manager を使用すると、プロファイルを管理できます。プロファイルは、ユニバーサル プリンターを使用して印刷するとき使用される構成で構成されます。たとえば、高品質印刷、レビュー目的、ドキュメントの機密指定など、特定の出力要件に合わせてさまざまな印刷プロファイルを設定できます。

Profile Manager を開くには、[デバイスとプリンター] を開き、[Universal Printer] を右クリックして [印刷設定] を選択します。次に、[Manage profiles] ボタンをクリックします。デフォルトのパスワードは、pass@word1 です

既定のプロファイル

- **Default Profile** : 一度に 1 つまたは複数のドキュメントを印刷するために使用されます。ほとんどのシナリオに適しています。
- **Print Opened Documents Profile** : PDF ビューアを使用してドキュメントを開いたときに自動的に印刷できます。

HTML5 セッションを開くと、現在のユーザに対して「Print Opened Documents Profile」が自動的に選択されます。ただし、同じユーザで RDP モードで別のセッションが開かれている場合、HTML5 セッションでの自動印刷は無効になります。この場合、Default Profile が適用されます。

プロファイル

デフォルトでは、ユーザは 2 つのプロファイルの中から使用するプロファイルを選択できます。ユーザは 1 つのプロファイルをアクティブとして指定して、印刷時にプロファイルの選択ダイアログボックスを表示しないようにすることもできます。

重要 : 既定のプロファイルには、生成された PDF ドキュメントに埋め込まれたフォントなど、ほとんどの環境で必要ないいくつかの機能が埋め込まれているため、カスタムプロファイルを作成する場合には、既存のプロファイルをコピーしてカスタムすることをお勧めします。

トラブルシューティング

ログ取得を有効にすると、トラブルシューティングに役立ちます。

サーバ側のログ

[AdminTool] – [高度] – [ログ] セクションで設定できます

- **セッションオープニングログ** : C:¥wseesion¥trace
- **ユニバーサルプリンターログ** : C:¥wseesion¥UniversalPrinter¥logs
- **セッションイベントログ** : C:¥Users¥[ユーザ ID]¥AppData¥Roaming¥UniversalPrinter¥logs

クライアント側のログ

レジストリに次のキー値を作成することにより有効になります

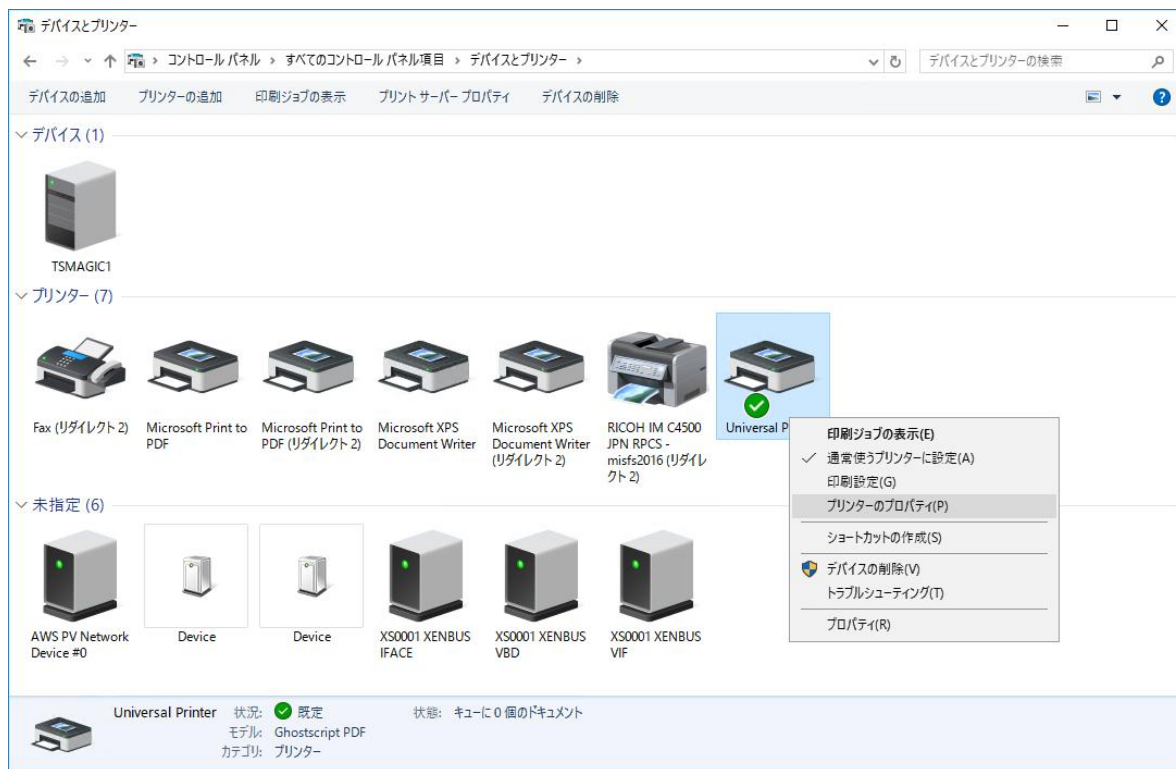
[コンピューター¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Digital River¥ConnectionClient] 「Debug」 = 「true」 (文字列値)

- **接続クライアント**
- **Universal Printer クライアント**

ログは次の場所に出力されます「C:¥Users¥[ローカル PC ログインユーザ ID]¥RDP6¥logs」または「C:¥Program Files (x86)¥Connection Client¥RDP6¥logs」

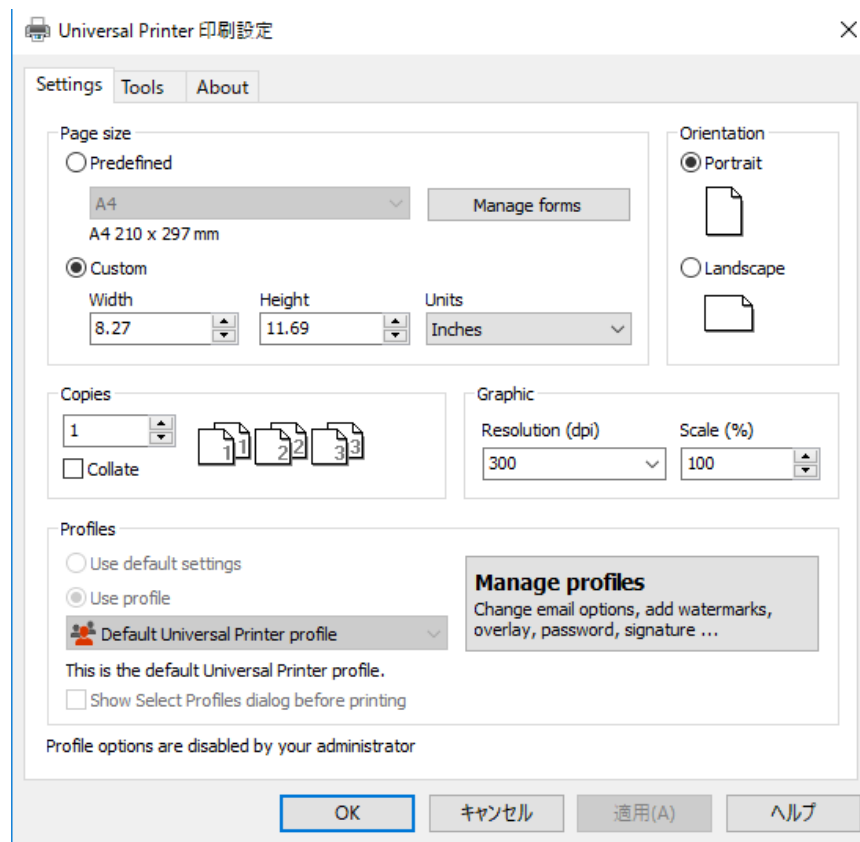
ページ形式の印刷をカスタマイズする

特定のページ形式が必要で、プリンタがプリンタリダイレクトと互換性がない場合は、コントロールパネルの [デバイスとプリンタ] メニューを開いて [Universal Printer] ページ形式を設定できます。[Universal Printer] を右クリックし、[プリンタのプロパティ] で次の項目を選択します



[基本設定]をクリックします。

Custom を選択し、希望の設定を入力します。これは、レシートプリンタやラベルプリンタで特に役立ちます。



標準リダイレクトプリンタ機能を使用した印刷

これは、リモートデスクトップユーザにより一般的に使用され、Microsoft ターミナルサービスが使用する物と同等です。プリンタを使用する場合は、クライアントジェネレータの [Local resources] タブで、[Printers]のチェックボックスをオンにしてください。

標準のプリンタリダイレクト機能を使用するのは、多くの前提条件を満たす必要があるため難しい場合があります。USB 接続プリンタは推奨されません。また、HTML5 クライアントでは、プリンタのリダイレクトはサポートされていません。

Windows Client Generator

The screenshot shows the 'Local resources' tab of the 'Windows Client Generator' window. Under 'Local devices', the 'Printers' checkbox is checked and highlighted with a red rectangle. Other checked options include 'Disks', 'COM ports', 'Smart cards', and 'USB devices'. The 'Sound' checkbox is unchecked. Below this, the 'Play remote sound' section has 'Locally' selected. In the 'Universal printer option' section, the 'Action' dropdown is set to 'Preview with the local PDF Reader'. The 'Printer scaling' section has 'Use original page sizes' selected. At the bottom, the 'Client location' is 'C:\Users\k5user\Desktop' and the 'Client name' is 'TSmagicClient.connect'. A 'Create Client' button is visible on the right.

多くの場合、正常に動作させるには、クライアントとサーバの両方に同じバージョンのプリンタドライバをインストールする必要があります。

つまり、サーバが Windows2019 で、クライアントコンピュータが Windows10 32 ビットの場合は、サーバに 32 ビットのプリンタドライバをインストールする必要があります。

- ターミナルサーバ環境でのインストール手順については、ハードウェアマニュアルを参照することをお勧めします。USB プリンタを使用しないことをお勧めします。COM または LPT プリンタを使用すると、互換性と信頼性が向上します。

ラベルプリンタやレシートプリンタなどの一部の特殊なプリンタは、TSmagic セッションでのリダイレクトには適さない場合があります。RDS またはターミナルサーバ環境での互換性とインストール手順については、ハードウェアの製造元に必ず確認してください。

ポータブルクライアントジェネレータ

概要

TSMagic では、デフォルトでポータブルクライアントジェネレータ用のアイコンが作成されます。



AdminTool の [セッション] タブからもアクセスできます。

2 種類の接続クライアントを作成でき、ユーザのデスクトップまたは USB スティックにコピーしてポータブルで使用できます。

注：接続クライアントは Mac コンピュータとは互換性がありません。

接続クライアントは、拡張子「.connect」を持つフラットファイルが作成されます。

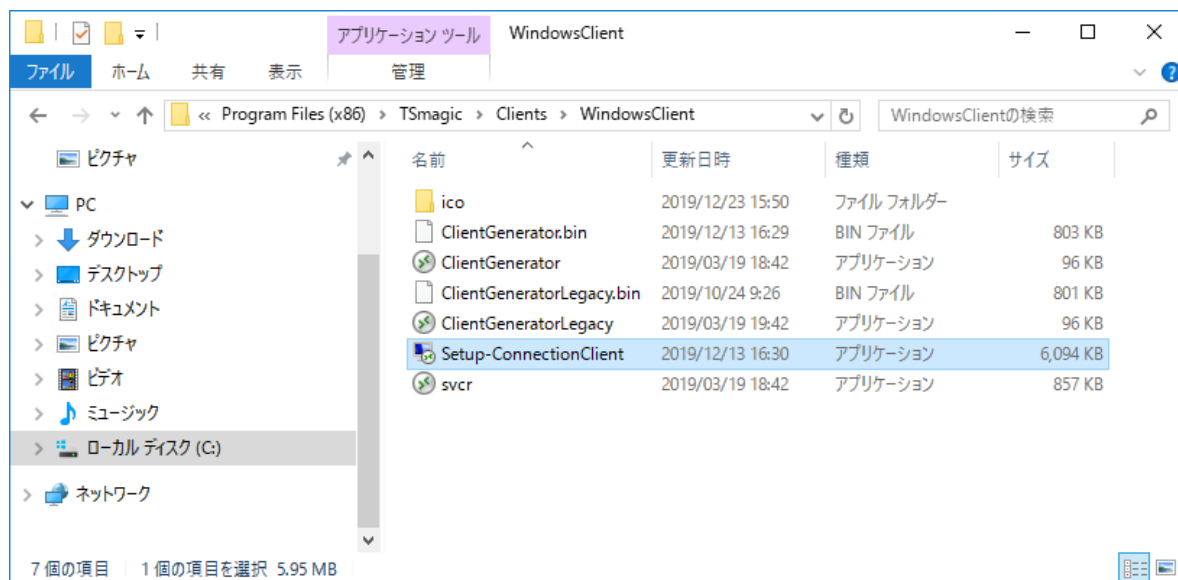


クライアント側の前提条件

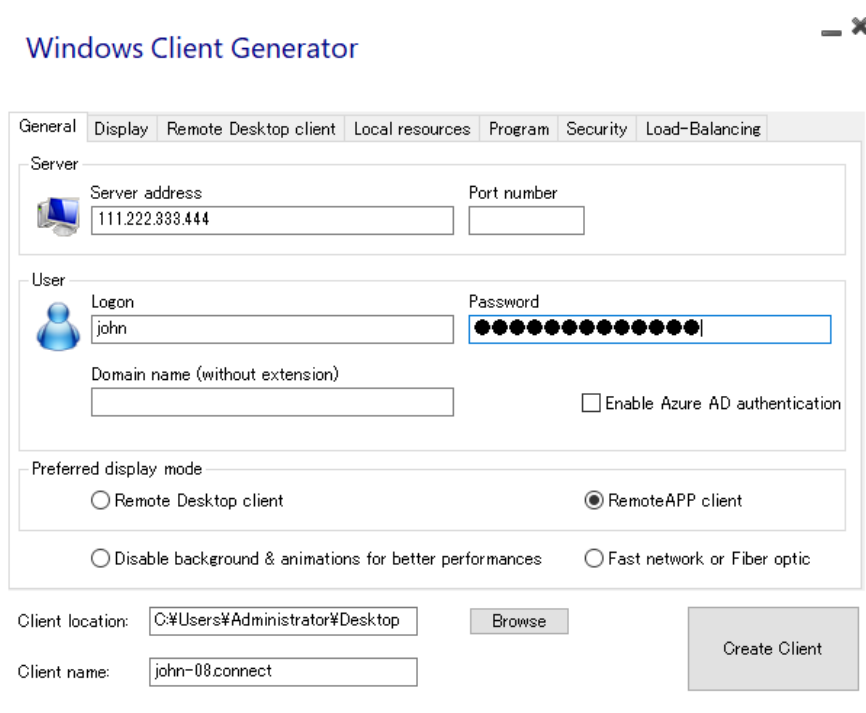
クライアント側では、各ユーザは"Setup-ConnectionClient.exe" という名前の署名済みプログラムを事前に実行する必要があります。このプログラムはサーバ内の次のフォルダにあります。

C:\Program Files (x86)\Tsmagic\Clients\WindowsClient

C:\Program Files (x86)\Tsmagic\Clients\www\ConnectionClient



詳細概要



メインウィンドウ - General

クライアントジェネレータを起動すると、最初に表示されるタブは [General] タブです。ここには、開始に必要な基本的な接続設定がすべて含まれています。

- **Server address:** クライアントの接続先 Tsmagic サーバの IP アドレスを入力します。
- **Port number:** サーバのポート番号を入力します。入力しない場合のデフォルトは 3389 です。
- **Logon, Password:** ユーザ名とパスワードを入力した場合、クライアントプログラムはセッションごとにユーザに再入力を求めません。
このログオン/パスワードの保存をリセットするには、リモートデスクトップクライアントのショートカットを作成および編集し、ターゲットフィールドの最後に -reset on スイッチを追加する必要があります。

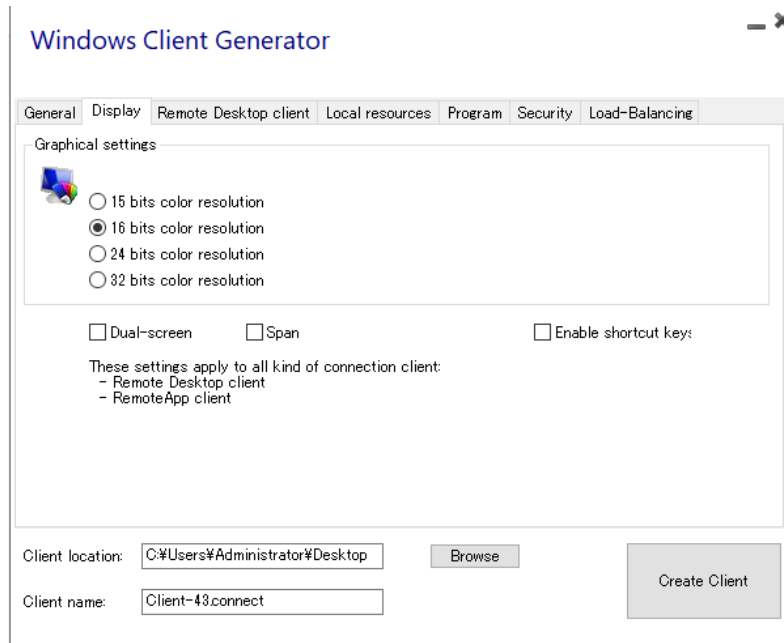
認証情報

- 資格情報を保存しない場合は、ポータブルクライアントジェネレータの Logon フィールドに「nosavecredential」と入力します。
- ログオン画面にユーザ名、パスワード、およびドメイン名を表示しない場合は、Logon フィールドにユーザ名を設定した上、パスワードフィールドに「nopassword」と入力します。（接続時に Windows のパスワード入力画面が表示されますが表示されません。）
- 自動ログオンを有効にする場合、ユーザ名フィールドに「*SSO」と入力します。クライアントのプログラムは、初回接続時にログオン情報の入力を求められますが、この情報はユーザのワークステーションに保存されるため、以降はログオン情報の入力は必要ありません。
- Domain name : ドメイン環境下である場合には入力します。
- **Preferred display mode:** 次のオプションから優先表示モードを選択できます。
 - Remote Desktop client : リモートセッション環境が表示されます。
 - RemoteAPP client : Microsoft RemoteApp 接続。リモートアプリケーションがローカルにインストールされているかのように表示します。最小化されたアプリケーションよりも優れたグラフィックパフォーマンスを発揮します。
- **ネットワーク速度:** ネットワーク速度に応じて、次の 2 つのオプションから選択できます。
 - Disable background & animations for better performances : 背景表示とグラフィックアニメーションを無効にします。
 - Fast network or Fiber optic : 背景表示とグラフィックアニメーションを有効にします。
- **Client location:** 生成されるクライアントの保存場所を指定します。
- **Client name:** クライアントには任意のファイル名を付けることができます。

Display

このタブでは、画面の色深度を変更できます。

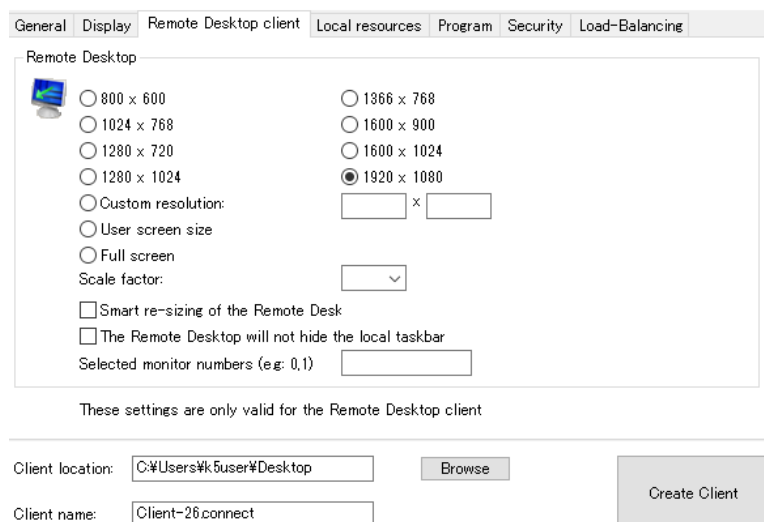
セッションをデュアルスクリーンに適応させることも可能です。Span オプションを使用すると、両方の画面にわたってセッションを拡張できます。



Remote Desktop Client

このタブでは、ユーザに対して Remote Desktop client モードでの接続時に有効にする解像度を選択できます。

Windows Client Generator



The screenshot shows the 'Remote Desktop client' tab of the 'Windows Client Generator' dialog. The 'Remote Desktop' section contains several options for resolution and scaling. The '1920 x 1080' option is selected. Below the resolution options, there are checkboxes for 'Smart re-sizing of the Remote Desk' and 'The Remote Desktop will not hide the local taskbar'. A text field for 'Selected monitor numbers (e.g. 0,1)' is also present. At the bottom, there are fields for 'Client location' (set to 'C:\Users\k5user\Desktop') and 'Client name' (set to 'Client-26.connect'), along with 'Browse' and 'Create Client' buttons.

- **Smart re-sizing of the Remote Desktop**

スマートサイズ指定が有効になります。

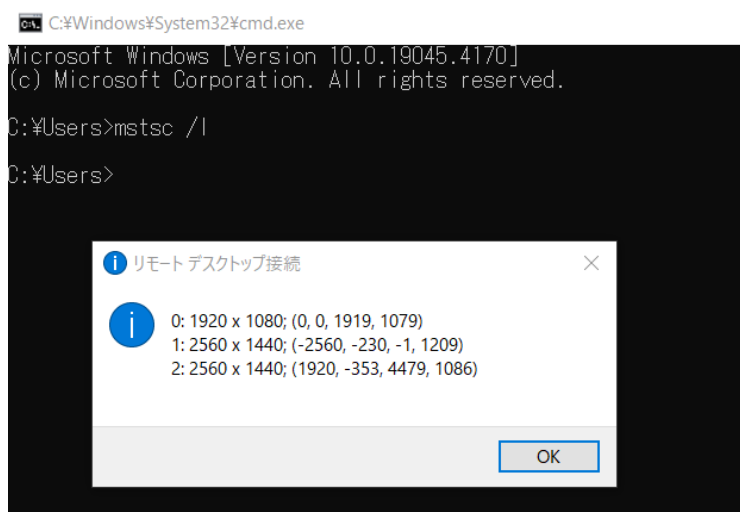
- **The Remote Desktop will not hide the local taskbar**

リモートデスクトップがローカルのタスクバーを隠したり重なったりしないようにします。

- **Select monitor numbers**

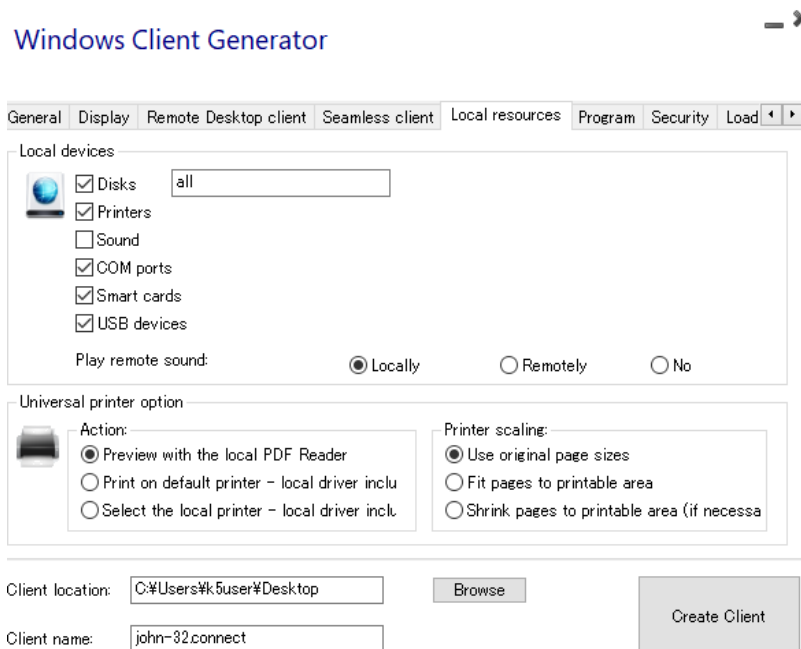
RDP セッションに使用するモニターを指定できます。ここでは、使用するモニターの画面番号のリストを入力します。
(番号はカンマ、スペース、またはセミコロンで区切ります)

画面番号はコマンド「mstsc /l」で確認できます。



Local resources

このタブでは、リモートセッションでリダイレクトするデバイスを選択できます。



[Disks]の右にある入力フィールドでは、リモートセッションで使用可能にするドライブを指定できます。ドライブ名をカンマ区切りで指定します。(例：C:,D:)

[Disks]がチェックされていてドライブが指定されていない場合、すべてのドライブがリモートセッションに含まれます。

[Printers]は LTP ポートに対応します。

Program

このタブでは、スタートアプリケーションを設定することができますが、AdminTool を利用してユーザごとにアプリケーションを割り当てることを推奨します。

Windows Client Generator

— ✕

General	Display	Remote Desktop client	Seamless client	Local resources	Program	Security	Load
---------	---------	-----------------------	-----------------	-----------------	---------	----------	------

Startup program ?

We recommend to use the AdminTool
to assign Application(s) to users or to groups.
However, you can specify here after one application to be started at logon.

Path/Filename

Browse

Start Directory

Command line option

Client location:

C:\Users\k5user\Desktop

Browse

Create Client

Client name:

john-32.connect

Security

TSMagic では、ユーザの接続を安全に保つために、物理的セキュリティの 2 つの追加レイヤを提供します。

接続は、USB キーの ID でロックするか、コンピュータ名でロックするか、または両方のセキュリティレイヤを同時に使用できます。

Advanced client security options

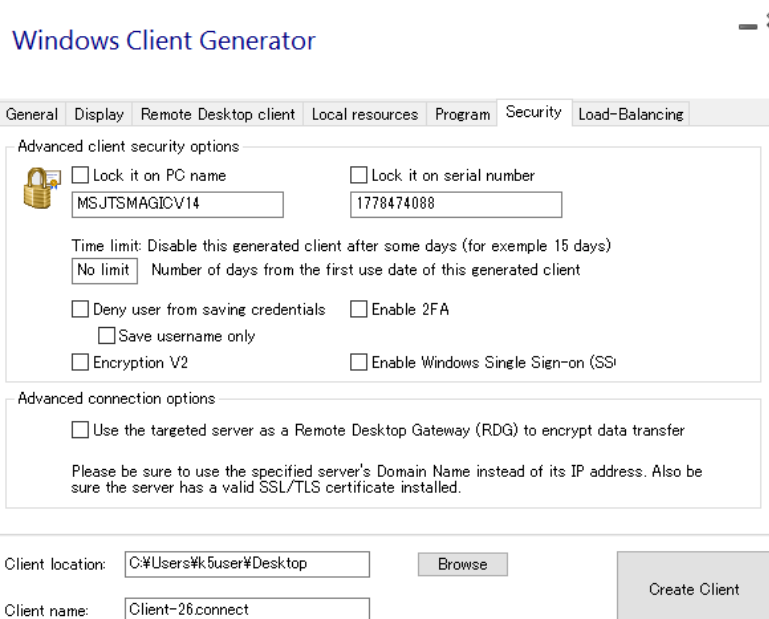
- Lock it on serial number
ユーザは USB キーを挿入し、管理者が配置した接続プログラムを使用し、対象となる WindowsPC から接続を開始できます。
- Lock it on PC name
ユーザは、そのユーザの接続用にサーバに名前が登録されているコンピュータからのみ接続できます。

接続クライアントを USB キーにロックするには、「C:\Program Files

(x86)\TSMagic\Clients\WindowsClient\ ClientGenerator.exe」を USB キーにコピーします。

ここで、クライアントジェネレータを起動し、シリアルロックを確認します。（[Security]タブにある番号）

作成した接続クライアントは USB キーにコピーして使用して下さい。



- Time limit では、接続クライアントの最初の使用日からの有効期間（日数）を指定できます。
- Deny user from saving credentials : 接続クライアントの資格情報を保存する機能を表示しない
- Save username only : ユーザ名のみを保存する
- Encryption V2 : 暗号化に Encryption V2 を使用する。connection ファイルの内容が暗号化されます。

- Enable 2FA :サポートしていません（使用できません）
- Enable Windows Single Sign-on(SSO) : シングルサインオンを有効にする（ドメイン環境である必要があります）

リモートデスクトップクライアントを介した SSO のグループポリシーの構成

ドメインコントローラから次の手順を実行します。

1. グループポリシーの管理コンソールを開きます。
2. グループポリシーオブジェクト（GPO）を適用するドメイン名を右クリックし、[このドメインに GPO を作成し、このコンテナにリンクします]を選択します。
3. GPO に名前を付け、「OK」をクリックします。
4. 作成したポリシーを右クリックし、[編集]を選択します。
5. 次の場所に移動します：[コンピュータの構成/ポリシー/管理用テンプレート/システム/資格情報の委任]
6. [既定の資格情報の委任を許可する]をダブルクリックして設定を開きます。
7. 設定を有効にして、[表示]をクリックします。
8. [値]フィールドに、「TERMSRV/サーバの完全修飾ドメイン名」の形式で入力し、「OK」をクリックします。
9. [適用]をクリックし、「OK」をクリックしてウィンドウを閉じます。
10. クライアントマシンから、管理者としてコマンド「gpupdate /force」を実行してグループポリシーを更新します。

Advanced connection option

ターゲットサーバがアクセス可能な特定のドメイン名を所有し、有効な SSL/TLS 証明書がインストールされている場合は、「Use the targeted server as a Remote Desktop Gateway (RDG) to encrypt data transfer」を有効に出来ます。

このオプションにより、接続中の RDP データ転送が TLS カプセルかを使用して暗号化されるため、データ暗号化の点で VPN の代替として使用できます。

Load-Balancing

Load-Balancing を有効にして、ファームの1つのサーバに接続することもできます。

サーバで Load-Balancing 機能を有効にしていない場合には、[Use Load-Balancing]にはチェックをしないでください。

[Gateway Web port number]を入力する必要があります。これは、ファームの全てのサーバで使用されている Web ポート番号と同じである必要があります。



The screenshot shows the 'Windows Client Generator' dialog box with the 'Load-Balancing' tab selected. The 'Enable Load-Balancing?' section contains a checkbox for 'Use Load-Balancing' which is unchecked, and a text box for 'Gateway Web port number' containing the value '80'. Below this, there is explanatory text: 'When 'Use Load-Balancing' is checked, it enables using the Gateway with Load-Balancing to connect to an Application Server of the farm. Prior using this advanced feature, please read our documentation'. At the bottom, there are fields for 'Client location' (containing 'C:\Users\k5user\Desktop') and 'Client name' (containing 'john-32connect'), a 'Browse' button, and a 'Create Client' button.

接続クライアントのログ

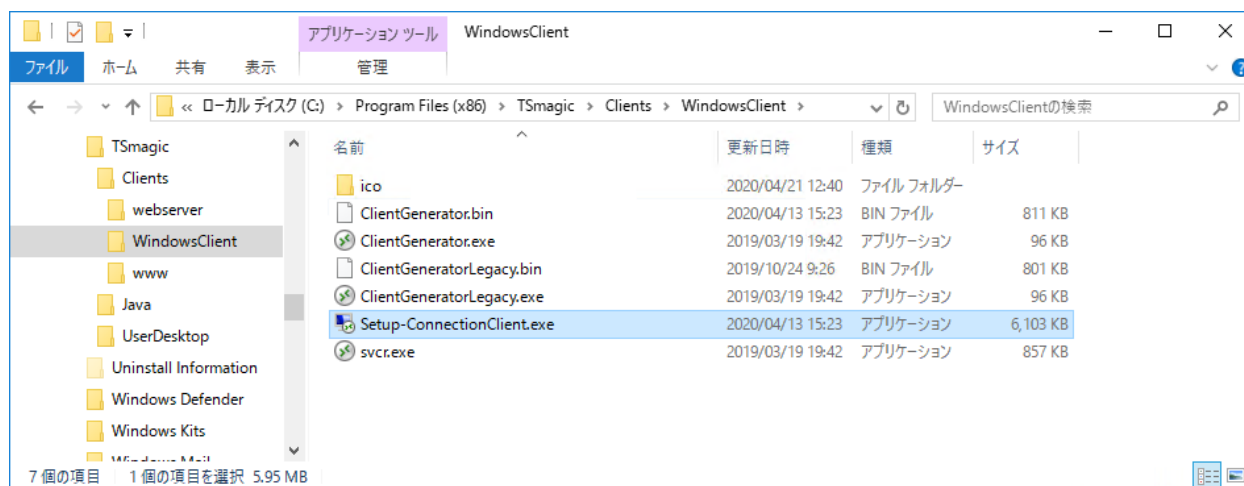
レジストリに次のキー値を作成することにより有効になります

「コンピューター¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Digital River¥ConnectionClient」 「Debug」 = 「true」

ログは次の場所に出力されます「C:¥Users¥[ローカル PC ログインユーザ ID]¥RDP6¥logs」または「C:¥Program Files (x86)¥Connection Client¥RDP6¥logs」

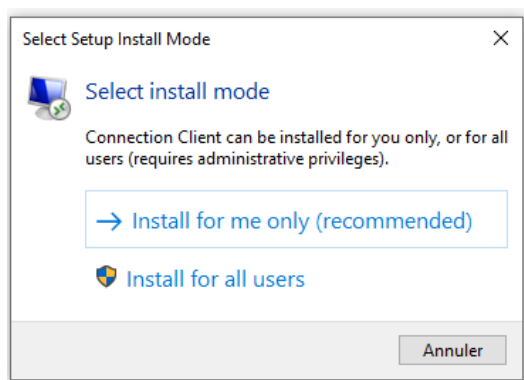
TSMagic クライアント Setup プログラム

クライアント側では、**各ユーザが前提条件として「Setup-ConnectionClient.exe」という名前の署名付きプログラムを実行する必要があります。**このプログラムは、サーバの TSMagic プログラムフォルダに存在します。C:¥Program Files (x86)¥TSMagic¥Clients¥WindowsClient:



また、C:¥Program Files (x86)¥TSMagic¥Clients¥www¥ConnectionClient フォルダにも存在しており、ユーザは Web サーバアドレスを入力し、ダウンロード、実行する事が出来ます。
<http://xxxxxxxxxxx/ConnectionClient/Setup/ConnectionClient.exe>

「Install for all users」でインストールすると、コンピュータ上の全てのユーザが TSMagic の接続クライアントを使用出来るようになります。

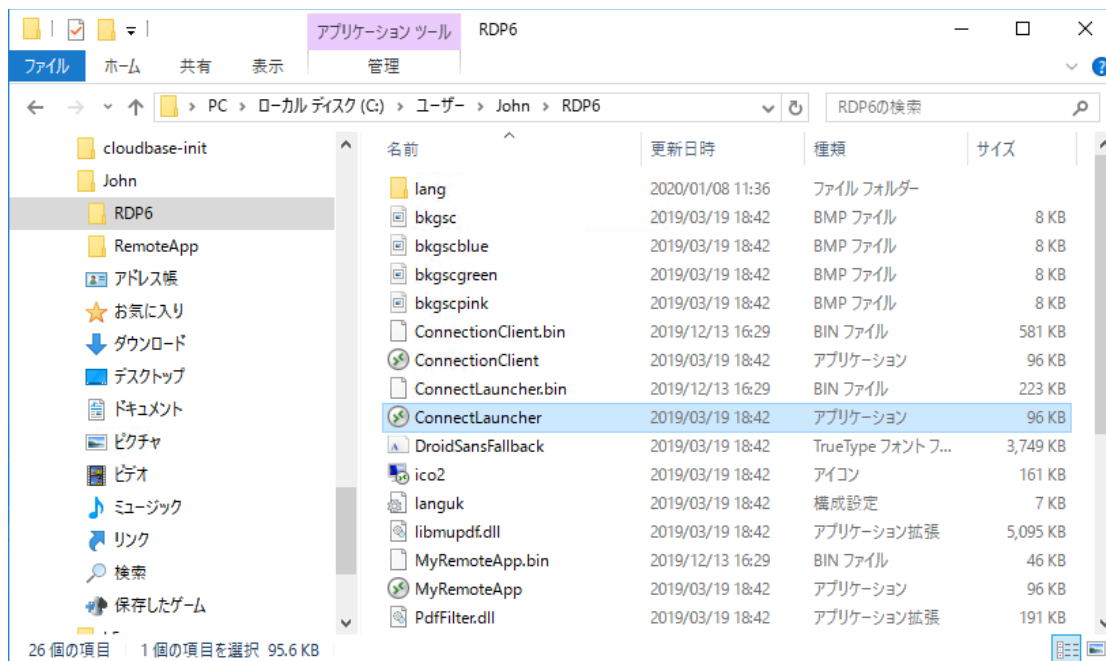


生成されたクライアントのパラメータの編集または削除

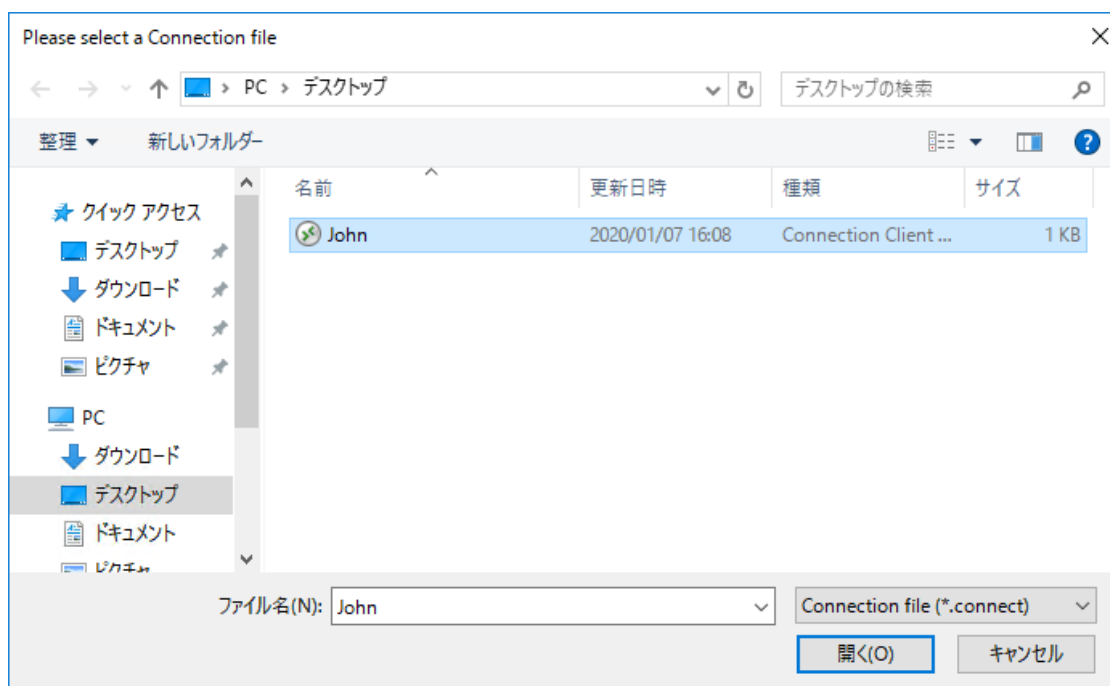
接続クライアントのパラメータを変更する理由は様々です。TSMagic サーバの IP アドレスが変更された、UniversalPrinter の設定を変更するなど. . .

ConnectLauncher.exe を使用してパラメータの修正を行うことができます。

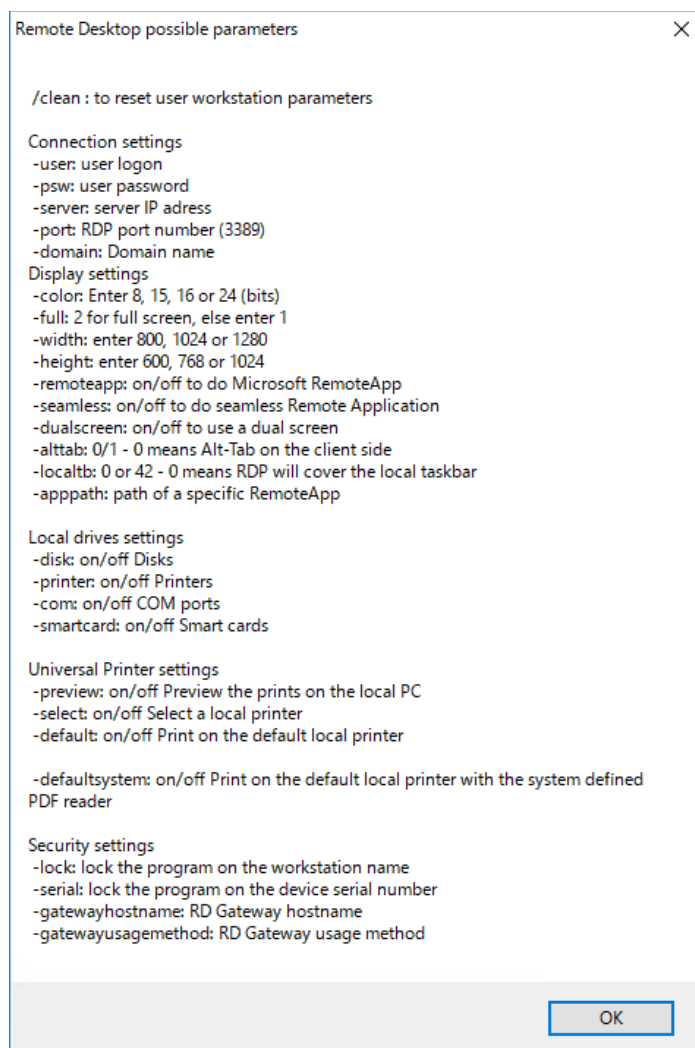
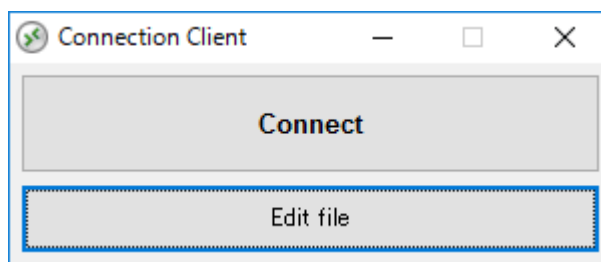
- ConnectLauncher.exe は、Setup-ConnectionClient.exe インストール時に「Install for me only(recommended)」を選択した場合にはユーザのプロファイルの RDP6 フォルダに、「Install for all users」を選択した場合には C:¥Program Files (x86)¥Connection Client¥RDP6 に作成されます。



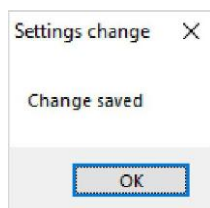
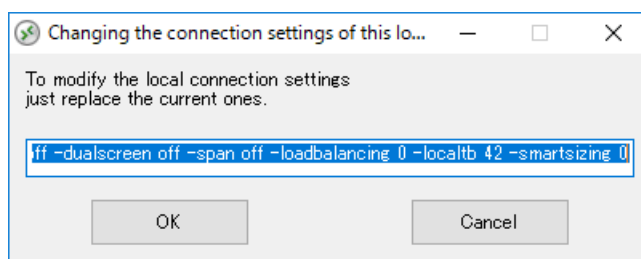
ConnectLauncher.exe をダブルクリックすると connect ファイルの選択画面が開きますので、編集したい connect ファイルを選択して「開く」を選択してください。



「Connect」「Edit file」のランチャーが表示されますので、「Edit file」を選択。

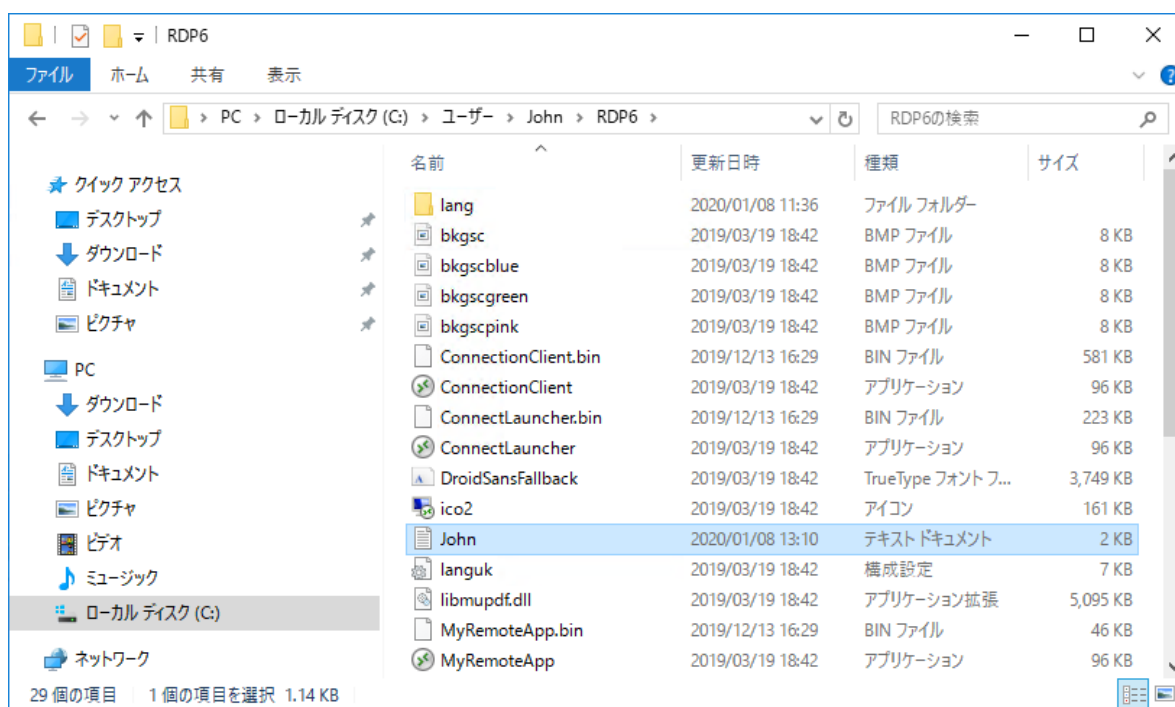


「OK」をクリックすると、すべてのパラメータのリストが小さなウィンドウに表示されます。設定に合わせてこれらを編集できるようになりました。変更を適用するには、一旦ログオフしてから再度ログオンする必要があります。



生成されたクライアントのパラメータを消去する

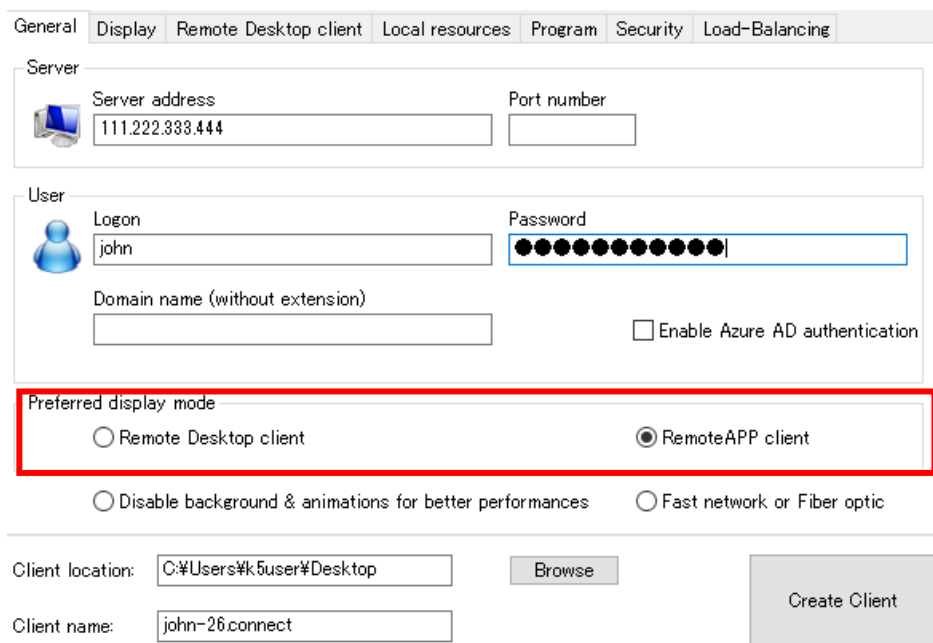
クライアントを少なくとも 1 回起動した後、RDP6 フォルダにある「[Client name].txt ファイルを削除することにより、パラメータを消去できます。



RemoteApp 接続クライアント

クライアントジェネレータの [General] タブでは、次の2つの表示モードから選択できます。

Windows Client Generator



General | Display | Remote Desktop client | Local resources | Program | Security | Load-Balancing

Server

Server address: 111.222.333.444 Port number:

User

Logon: john Password:

Domain name (without extension):

☐ Enable Azure AD authentication

Preferred display mode

☐ Remote Desktop client ☒ RemoteAPP client

☐ Disable background & animations for better performances ☐ Fast network or Fiber optic

Client location: C:\Users\%k5user\Desktop Browse

Client name: john-26.connect Create Client

RemoteApp 接続クライアント

RemoteApp 接続クライアントは透過色の設定に依存しません。これにより、アプリケーションを完全に表示できるだけでなく、Windows のネイティブな動作も可能になります。

- クライアント側では、RDP6 以上のインストールが必要です。
 - サーバ側では、Windows Server 2016 から Windows Server 2022 を実行しているマシンに TSMagic をインストールする必要があります。
- 注意：RemoteApp は、Windows10 1803/1809、Windows 2019/2022 Essentials Edition ではサポートされていません。

最小化されたアプリケーションは、ローカルアプリケーションと同様に、Windows タスクバー内に直接表示されます。この例では、Firefox と Paint がローカルで起動されています。メモ帳、Word はリモートで起動します。



RemoteApp 接続クライアントでは、ユーザのログオン時にシームレスに起動する 1 つの固有のアプリケーションを公開するように選択できます。TSMagic リモートタスクバー、フローティングパネル、またはアプリケーションパネルを使用して、アプリケーションを公開することもできます。

RemoteApp クライアントでは、ユーザには Microsoft リモートデスクトップ ウィンドウが表示されません。これらのアプリケーションは、あたかもネイティブのローカルアプリケーションであるかのように、ローカルデスクトップ上に表示されます。ユーザには、管理者によって割り当てられたアプリケーションのみが表示されます。

- ユーザに「公開されたアプリケーション」のみが割り当てられている場合は、セッションが開かれたときにこれらのアプリケーションがシームレスに表示されます。最後のアプリケーションが閉じられると、セッションは終了します。

Microsoft リモートデスクトップ、TSMagic リモートタスクバー、フローティングパネル、およびアプリケーションパネルのルール

- Microsoft リモートデスクトップ、TSMagic リモートタスクバー、フローティングパネル、アプリケーションパネルの 4 つのアプリケーションのうち 1 つを割り当てることにより、ユーザの作業環境をカスタマイズできます。
- ユーザにアプリケーションが割り当てられていない場合は、Microsoft リモートデスクトップが表示され、Desktop folder のショートカットが表示されます。
- ユーザに複数のアプリケーションと Microsoft リモートデスクトップが設定されている場合は、リモートデスクトップが表示されます。
- ユーザに複数のアプリケーションと TSMagic リモートタスクバー が設定されている場合、Desktop folder のショートカットを表示するタスクバーが表示されます。

RemoteApp クライアントの機能

通常、ユーザがアプリケーションを起動するには、クライアントジェネレータで生成された TSMagic ポータブルクライアントで行います。

1 度 TSMagic ポータブルクライアントを起動すると、**通知領域にアイコンが追加**され、各ユーザにすべてのリモートアプリケーションのリストが表示されます。このアプリケーションリスト内で、ユーザは起動するアプリケーションを選択することができます。

RemoteApp On Client を使用すると、サーバに直接インストールされたアプリケーションをユーザに提供し、RemoteApp プログラムをローカルプログラムと並行して実行でき、カスタムの「ランチャー」アプリケーションと統合して、ユーザが RemoteApp プログラムを簡単に見つけて起動することができます。

ユーザのアプリケーションリストは、[スタート] メニューの [すべてのプログラム] の下にある [My Remote Applications] という名前のフォルダにも表示されます。管理者は新しい接続クライアントを生成し、それを AdminTool で許可します。このガイドでは、管理者がこの機能を有効にし、新しく生成された接続クライアントをユーザに提供した場合に何が起きるかを段階的に説明します。

例:ユーザ「Laura(ローラ)」は、TSMagic を使用してリモートアプリケーションにアクセスしています。そのために、彼女は LauraPortableClient.connect という名前の生成されたクライアントを使用しています。これを PC で実行すると、以下の画面が表示されます。



RemoteApp On Client 機能を利用するには、少なくとも 1 回はアプリケーションを実行する必要があります。管理者がユーザにアプリケーションを追加または削除した場合、その変更は次のログイン時にサーバ側で設定されます。現在のセッションでは、その変更は反映されません。AdminTool の [高度] タブには、この RemoteApp On クライアント機能を有効または無効にするオプションがあり、既定では有効になっています。

RemoteApp On Client で起動されたアプリケーションは、それぞれ異なるセッションで動作します。

ホーム

アプリケーション

プリンター

WEB

ファーム

セッション

システムツール

高度

アドオン

ライセンス

高度

サーバー パラメーターのバックアップ / リストア

高度な設定

製品	名前	値
製品	すべてのユーザーのデスクトップ	いいえ
セキュリティ	アプリケーションのコマンドライン	いいえ
セッション	リモートアプリケーションメニュー	デフォルト (はい)
ロックアウト	リモートアプリケーションメニュータイトル	デフォルト (My Remote A...
Virtual Printer	背景色	デフォルト (10841658)
コンテキストメニュー	デスクトップショートカットを作成します。	デフォルト (はい)
ログ	「すべてのユーザー」デスクトップショートカットを使用し...	デフォルト (いいえ)
	割り当てられたアプリケーションがない場合の代替アプ...	デフォルト (はい)
	通知センターを無効にする	デフォルト (いいえ)
	子プロセスハンドラを無効にする	デフォルト (いいえ)
	割り当てられたアプリケーションがない場合は、強制的...	デフォルト (いいえ)
	プリンター: ログオン時にユーザー設定をリセット	デフォルト (いいえ)
	スクリーンセーバーを許可	いいえ
	ダウンロード先フォルダ	%DESKTOP%
	アップロード先フォルダ	%DESKTOP%
	クライアントのURL - "tel:" プロトコルを有効にする	デフォルト (いいえ)
	Windowsシェルを使用します。	デフォルト (はい)
	WinXshellを強制します。	デフォルト (いいえ)
	セッションを開く際に遅延を追加します。	デフォルト (0)
	子プロセスの待機時間	デフォルト (2000)
	ファイルブラウザー	Windows エクスプローラー...
	ファイル転送サーバーサイドのデフォルトパス	デフォルト (%DESKTOP%)

メニュー名を変更するには、[リモートアプリケーションメニュータイトル] をクリックし、値ボックスに追加します。

ホーム

アプリケーション

プリンター

WEB

ファーム

セッション

システムツール

高度

アドオン

ライセンス

高度

サーバー パラメーターのバックアップ / リストア

高度な設定

製品	名前	値
製品	すべてのユーザーのデスクトップ	いいえ
セキュリティ	アプリケーションのコマンドライン	いいえ
セッション	リモートアプリケーションメニュー	デフォルト (はい)
ロックアウト	リモートアプリケーションメニュータイトル	デフォルト (My Remote A...
Virtual Printer	背景色	デフォルト (10841658)
コンテキストメニュー	デスクトップショートカットを作成します。	デフォルト (はい)
ログ	「すべてのユーザー」デスクトップショートカットを使用し...	デフォルト (いいえ)
	割り当てられたアプリケーションがない場合の代替アプ...	デフォルト (はい)
	通知センターを無効にする	デフォルト (いいえ)
	子プロセスハンドラを無効にする	デフォルト (いいえ)
	割り当てられたアプリケーションがない場合は、強制的...	デフォルト (いいえ)
	プリンター: ログオン時にユーザー設定をリセット	デフォルト (いいえ)
	スクリーンセーバーを許可	いいえ
	ダウンロード先フォルダ	%DESKTOP%
	アップロード先フォルダ	%DESKTOP%
	クライアントのURL - "tel:" プロトコルを有効にする	デフォルト (いいえ)
	Windowsシェルを使用します。	デフォルト (はい)
	WinXshellを強制します。	デフォルト (いいえ)
	セッションを開く際に遅延を追加します。	デフォルト (0)
	子プロセスの待機時間	デフォルト (2000)
	ファイルブラウザー	Windows エクスプローラー...
	ファイル転送サーバーサイドのデフォルトパス	デフォルト (%DESKTOP%)

TSmagic - 設定の編集

リモートアプリケーションメニュータイトル

説明:

リモートアプリケーションメニューに表示するタイトル

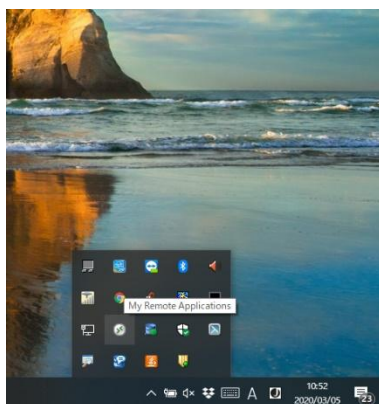
値:

My Remote Applications

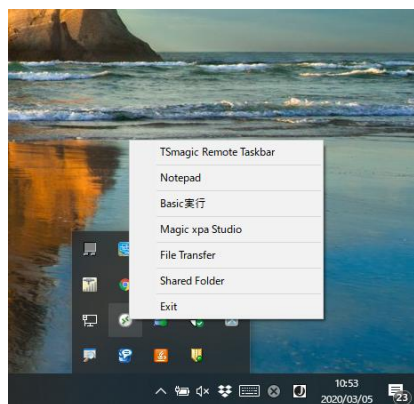
保存 キャンセル

新しく生成されたクライアントが実行されると、ローカルタスクバーの通知領域に新しいアイコンが表示されます。

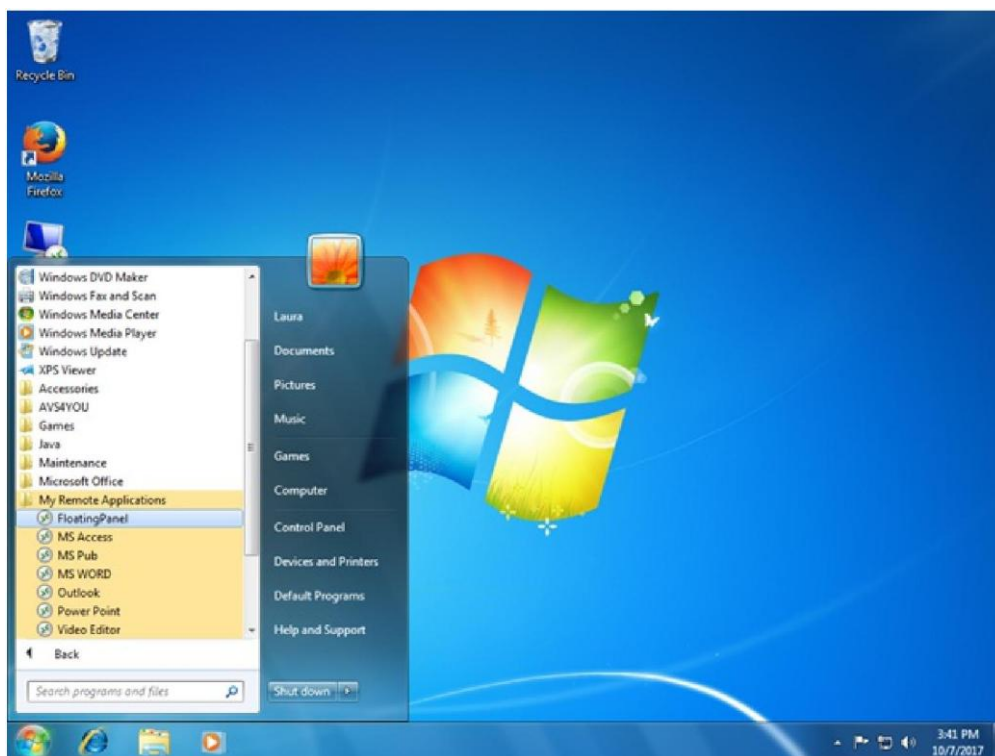
My Remote Applications 新規アイコン



アプリケーションリストメニュー



また、「My Remote Applications」という名前の新しいエントリがスタートメニューのプログラムリストに表示されます。



リストにあるアプリケーションの 1 つを選択し、RemoteApp として起動できるようになります。提供された LauraPortableClient.exe を使用する必要はありません。

この技術の背景にある技術的背景

生成されたクライアントは、ローカル PC のユーザプロファイル C:\Users\%UserName%\RDP6 フォルダ内にいくつかのファイルを追加します。

MyRemoteApp.exe と MyRemoteApp.bin は、通知領域に新しいアイコンを作成し、[スタート] ボタンの [すべてのプログラム] リストに新しいエントリを作成するために開始されるプログラムコードです。

MyRemoteApp.ini は、サーバから受信したファイルです。サーバ側でこのユーザに割り当てられた各アプリケーションの詳細を提供します。サーバへの新しい接続ごとに更新されます。通常、サーバからこのファイルを受け取るには、ログオンするたびに 30 秒かかります。RemoteApp.txt によって、この PC 上で最後に生成されたクライアントの名前が提供されます。

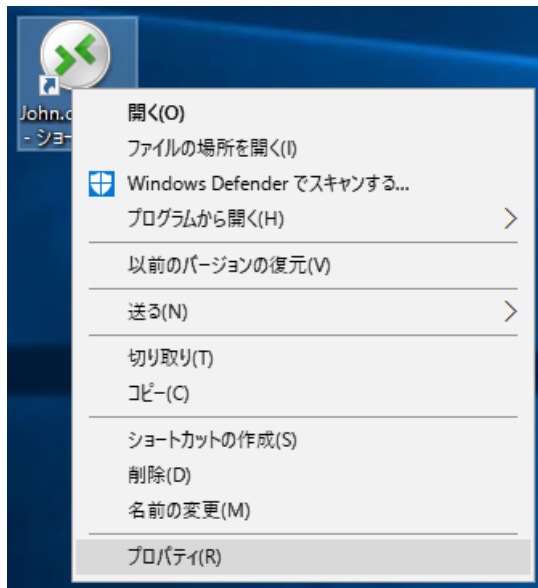
コメント:

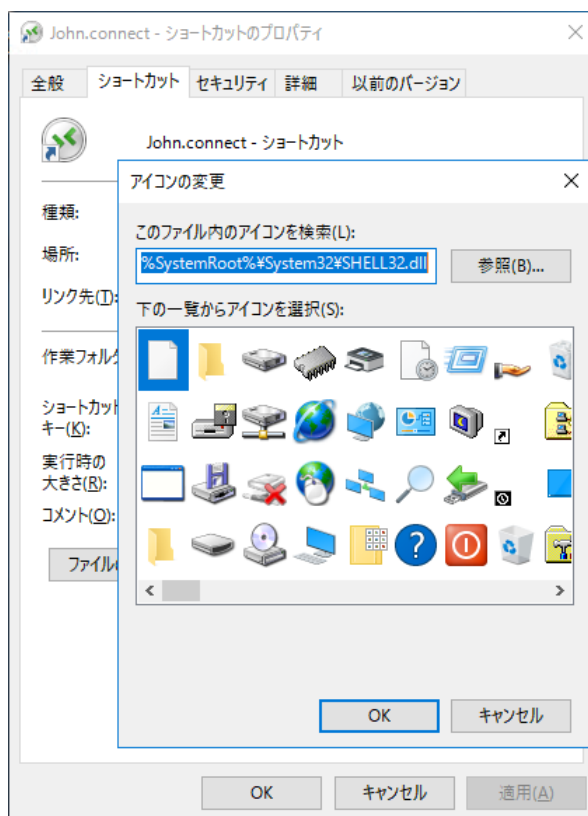
ユーザが自分の PC で管理者権限を持っている場合は、再起動のたびに MyRemoteApp.exe が自動的に起動され、[スタート] ボタンも更新されます。そうでない場合、管理者は、新しい機能を有効にするために、新しく生成されたクライアントを「管理者として」実行する必要があります。これにより、HKLM に適切なレジストリエントリが作成されます。**ユーザが 1 つのサーバにしか接続していない場合、このシステムは完璧です。ただし、複数の接続クライアントを使用して異なるサーバ上のセッションを開いている場合は、MyRemoteApp.ini ファイルが最後の接続の値で更新されることに注意してください。**ユーザが混乱する可能性があるため、このような場合は、この機能を使用しないことをお勧めします。

Tsmagic クライアントのアイコンを変更する方法

クライアントのアイコンを変更する

生成されたクライアントのアイコンを変更するには、クライアントのショートカットを作成し、ショートカットのプロパティに移動します。





組み込み Web サーバ管理

リモートデスクトップサーバは、アクセスしやすく、安全である必要があります。このため、TSMagic ではステータスと操作を簡単に管理できる組み込みの Web サーバを利用しています。

管理コンソールは、AdminTool で使用できます。この管理コンソールでは、TSMagic 内蔵 Web サーバのステータスを表示および設定できます。

TSMagic をインストールすると、Web サーバはデフォルトでポート 80 と 443 で待機状態になります。（インストール時にポートを指定する事も可能です）定義されたポートが使用可能であり、Java がサーバにインストールされていることを確認してください

Web サーバコンポーネントのステータス

Web サーバのメインコンポーネントの状態は、AdminTool [HOME]ダッシュボードに表示されます。



The screenshot shows the TSMagic AdminTool interface. The top bar includes the TSMagic logo, the text "Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢", and a "ライトモード" (Light Mode) toggle. A language dropdown is set to "日本語". The left sidebar contains navigation links: ホーム (Home), アプリケーション (Applications), プリンター (Printers), WEB, フォーム (Forms), セッション (Sessions), システムツール (System Tools), 高度 (Advanced), アドオン (Add-ons), and ライセンス (Licenses). The main content area displays system information: PC name, private IP, public IP, RDP port (3389), and connections (1). It also shows the status of the internal HTTP server (port 81) and the HTTPS server (port 443). Below this, there are several status messages: a green checkmark indicating no system issues were found, a green checkmark indicating the latest version (18.10.1.14) is being used, a green checkmark indicating the perpetual license is activated for Enterprise edition with 5 users, and a red X warning that support and update services will end on 2025-02-14. At the bottom, there are three red warning icons: 2FA license expiration, TSMagic Security installation prompt, and TSMagic Server Monitoring installation prompt.

ポートに関する考慮事項(ローカルマシンとファイアウォール/ルータ)

TSMagic では、指定された HTTP ポートまたは HTTPS ポートのいずれかが開いている必要があります。ポート 3389 は閉じたままにすることができます。



Web サーバサービスの再起動/停止

サービスが実行されていない場合は、「Web サーバの再起動」 ボタンをクリックして Web サーバを再起動する必要があります。Web サーバが再起動され、サービスが再度実行されます



中央にある「Web サーバの停止」ボタンをクリックすると、Web サーバが停止します。HTTP および HTTPS サーバのステータスが赤で表示され、HTTP/HTTPS サービスが停止していることが示されます。



Web サーバの管理

ポートは、インストール時に変更することも、[WEB - ウェブサーバー] タブをクリックしていつでも変更できます。このタブでは、別の HTTP Web サーバの使用、Web サーバのルートパスおよび HTTP / HTTPS ポート番号の変更を選択できます。変更する前にこれらのポートが使用可能であることを確認してください。競合が発生した場合、Tsmagic Web サーバは機能しません。変更が完了したら、[Web サーバーを保存して再起動]をクリックし、AdminTool を再起動します。

Web アプリケーションポータル

概要

TSMagic Web アプリケーションポータルは、アプリケーションとデスクトップの導入およびライフサイクル管理を合理化して IT コストを削減する、柔軟性の高いソリューションを提供します。IT 部門は、オンデマンドアプリケーションを一元的に管理して Web 配信することで、アプリケーションの導入成功率を向上させ、役割ベースの管理、アプリケーション制御、セキュリティ、およびユーザーサポートを提供できます。

TSMagic Web アプリケーションポータルは、Windows アプリケーションとデスクトップを仮想化し、安全なオンデマンドサービスに変換します。

Web アプリケーション ポータルを使用すると、Microsoft Windows アプリケーション(ビジネスアプリケーション、Office アプリケーションなど)を Web に公開できます。

Citrix と同様、ユーザはポータルの Web ページにあるアプリケーションのアイコンをクリックするだけで、インターネットブラウザからアプリケーションに直接アクセスできます。

Web アプリケーションの管理

Web アプリケーションポータル機能は、TSMagic に完全に統合されています。つまり、TSMagic Applications Publishing 機能によって公開されるすべてのアプリケーションは、Web アプリケーションポータルで使用できます。

この公開プロセスの詳細については、「アプリケーションの公開」と「ユーザまたはグループへのアプリケーションの割り当て」に関するドキュメントを参照してください。

Web アプリケーション ポータルの設計

AdminTool で、[WEB]タブを開き、「Web ポータルのカスタマイズ」タイルをクリックします。





Web アプリケーションポータル機能を有効化された Web アクセスページを生成するには、「アプリケーションポータルを有効」をクリックしてオンにします。Web アクセスページをカスタマイズして、「保存」をクリックすると、この新しい Web アクセスページを公開できます。

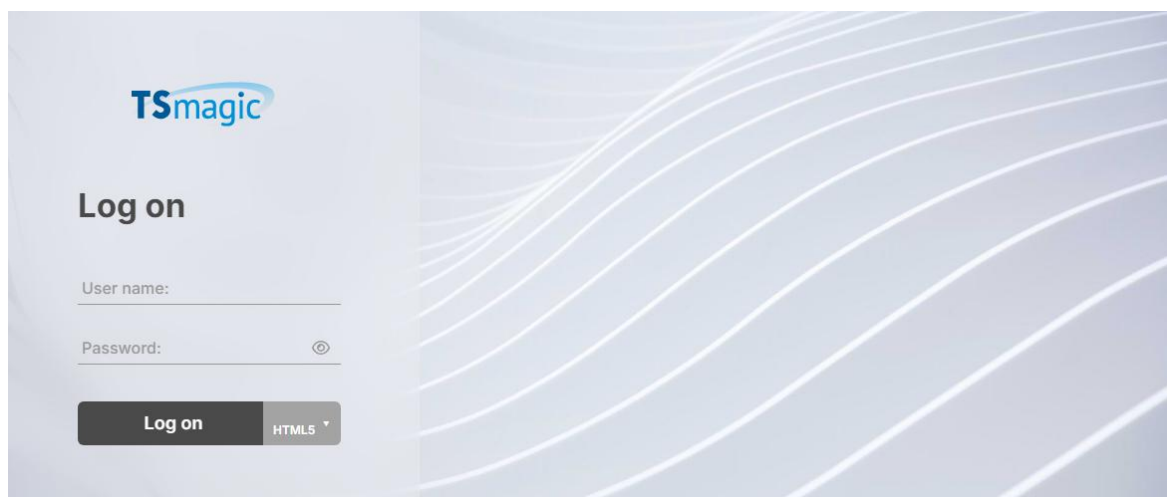
注意：ボックスとボックスの枠線の色は、「外観」タブで変更できるクラシック・テーマについてのみ変更できます。

Web アプリケーションポータルの使用

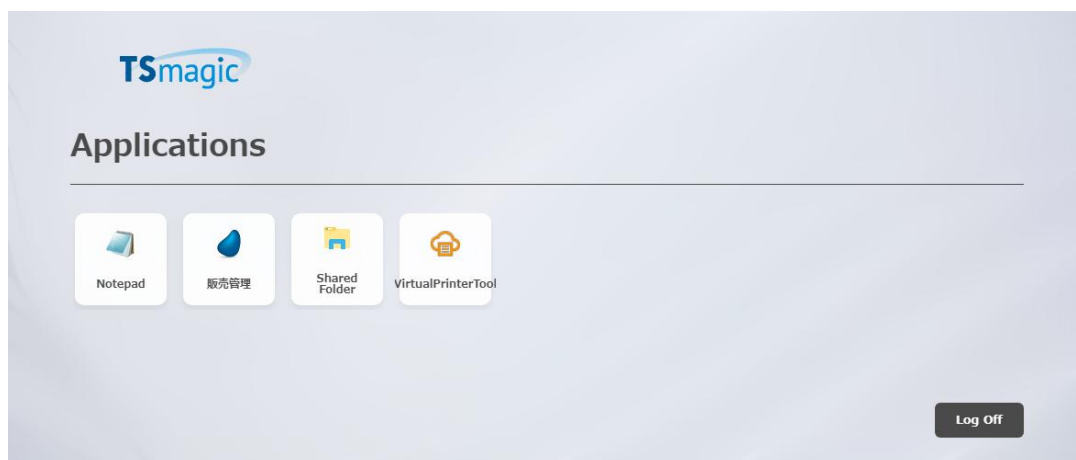
この例では、新しい Web アクセスページをデフォルト名「index」で公開しています。

アクセスするには、Web ブラウザを開き、<http://yourservername/>にアクセスします（この例では、サーバ自体から直接 <http://localhost> を使用します）

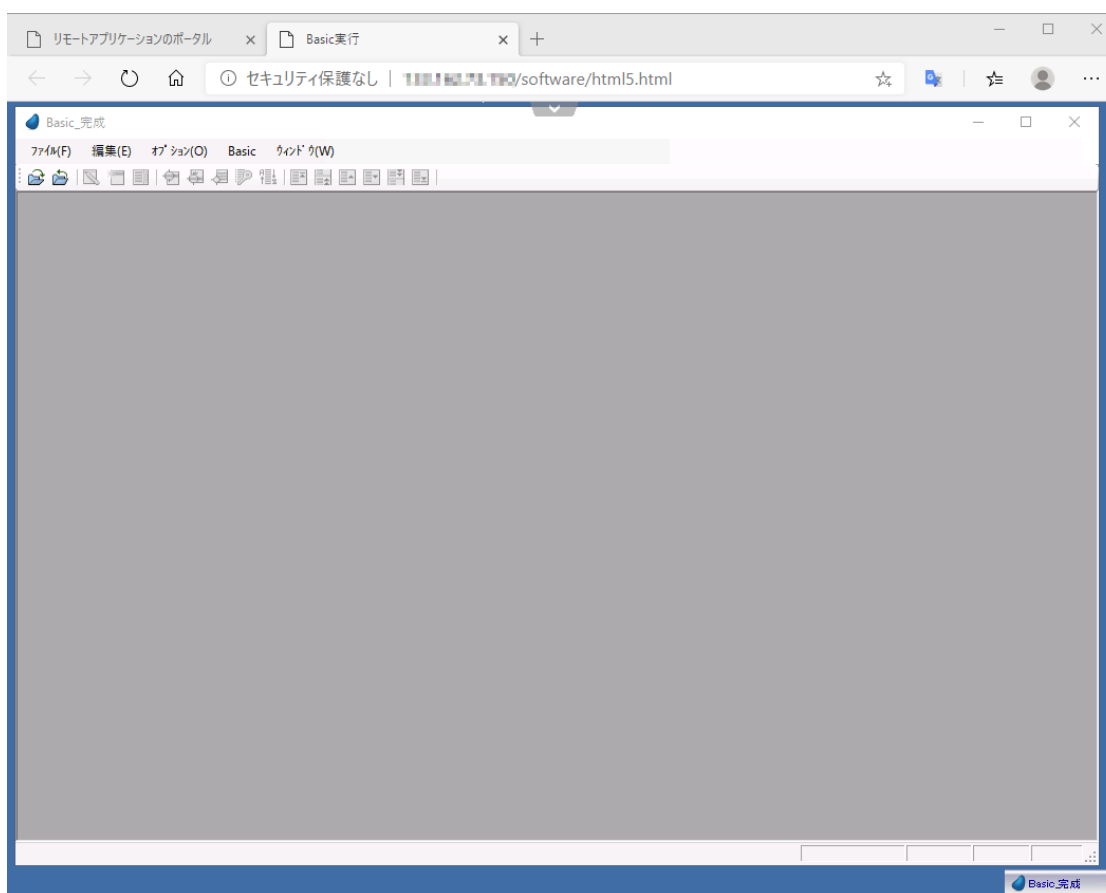
表示される最初の Web ページは、標準の Tsmagic Web ログオンページです。



ログインすると、以下の Web アプリケーション ポータルの新しい Web ページが表示されます。



Web アプリケーションポータルでは、ユーザがアクセスできるすべての公開アプリケーションのアイコンが表示されます。ユーザは、1 つ以上のアイコンをクリックして、アプリケーションを新しいタブでリモートで開くことができます。




注意：Web アプリケーションポータルを使用した場合、起動したアプリケーションごとに別のセッションで接続されます。この場合、Magic xpa Enterprise Client では起動したアプリケーションごとにライセンスが消費されます。


Web ロックアウト

Web ポータルに対するブルートフォース攻撃は、ユーザが誤った資格情報を入力するとブロックされます。15 分間に 10 回試行すると、Web ポータルはユーザのログオンを 30 分間禁止します（AdminTool の[高度]-[ロックアウト]タブでカスタマイズ可能）






Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢

 -> ライトモード
 日本語

- ホーム
- アプリケーション
- プリンター
- WEB
- ファーム
- セッション
- システムツール
- 高度
- アドオン
- ライセンス

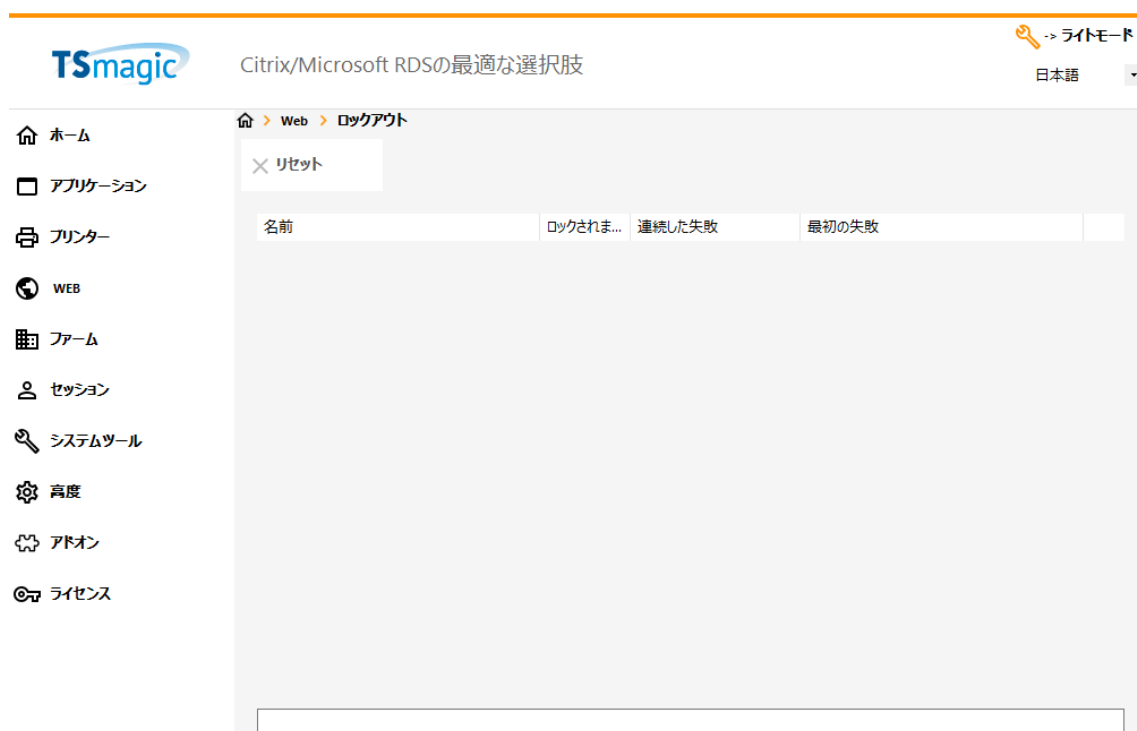

サーバー パラメーターのバックアップ / リストア

高度な設定

- 製品
- セキュリティ
- セッション
- ロックアウト
- Virtual Printer
- コンテキストメニュー
- ログ

名前	値
有効	はい
制限	10
ログイン間隔	900
ロックアウト期間	1800

AdminTool>高度>ロックアウト>ロックアウト期間の値（初期値 30 分）が過ぎると再度ログインできます。
 もしくは AdminTool>SYSTEM TOOLS>ユーザとグループの該当ユーザのアカウントのロックアウトのチェックを外せば再度ログイン
 できます。

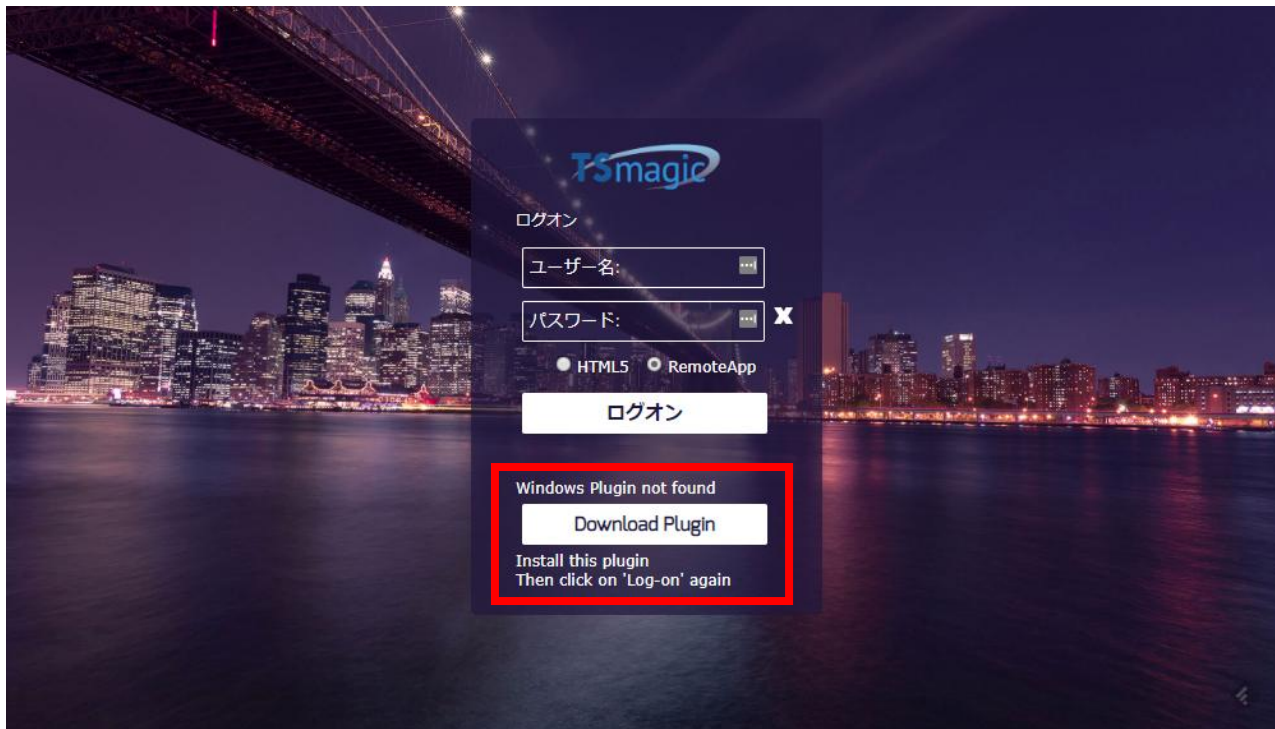


重要な注意事項

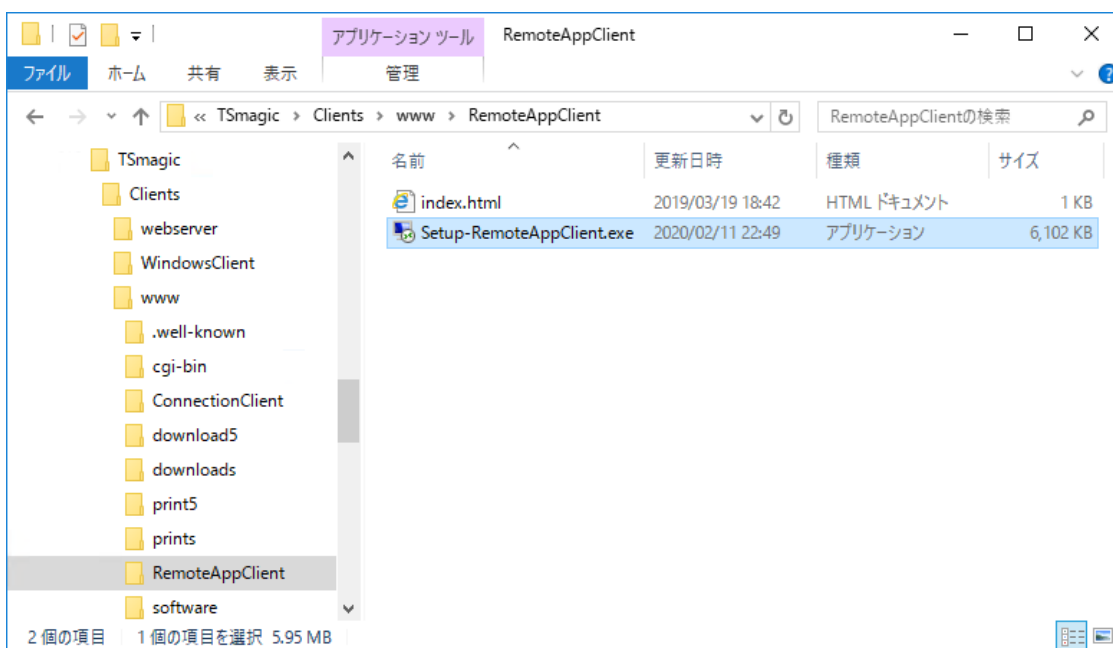
Web Applications Portal 機能はファーム/ゲートウェイ構成と互換性があり、ロード バランシングもサポートします。ファーム/ゲートウェイ構成では、ファームのすべてのサーバでアプリケーションを公開して割り当てる必要があります。

RemoteApp プラグイン

小さな Windows プラグインをダウンロードしてインストールすることで、Windows RemoteApp クライアントにアクセスできます。インストールはクライアントごとに 1 回だけが必要です。



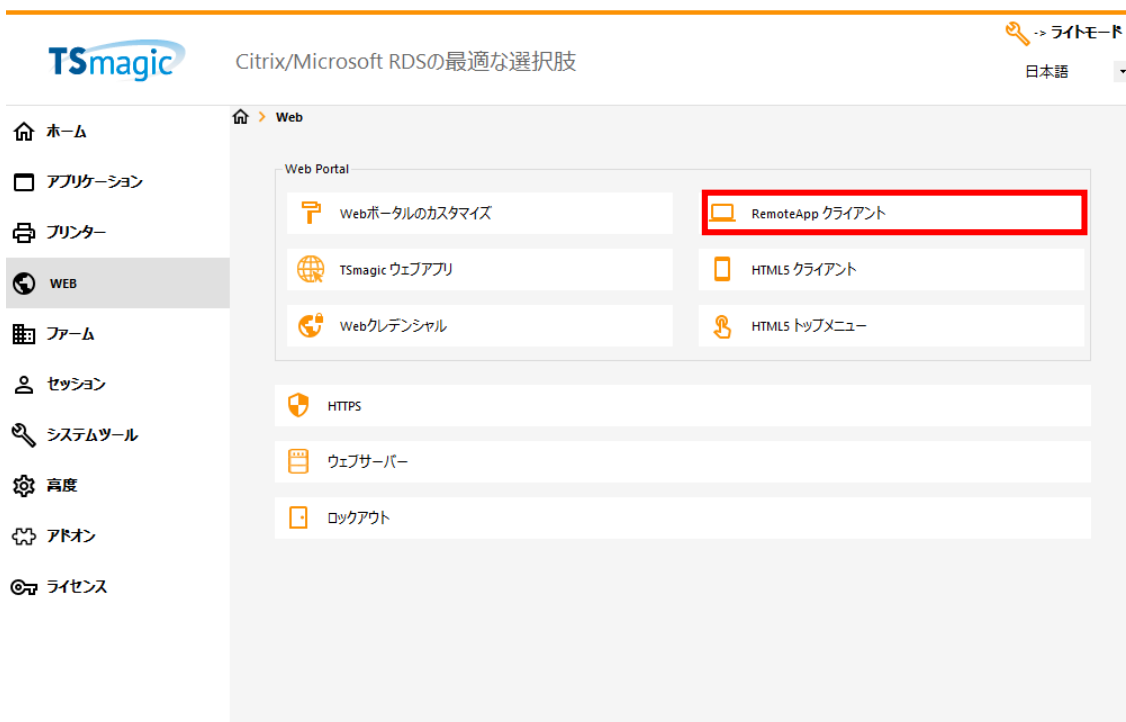
C:\Program Files(x86)\Tsmagic\Clients\www\RemoteAppClient\Setup-RemoteAppClient.exe でインストールすることもできます



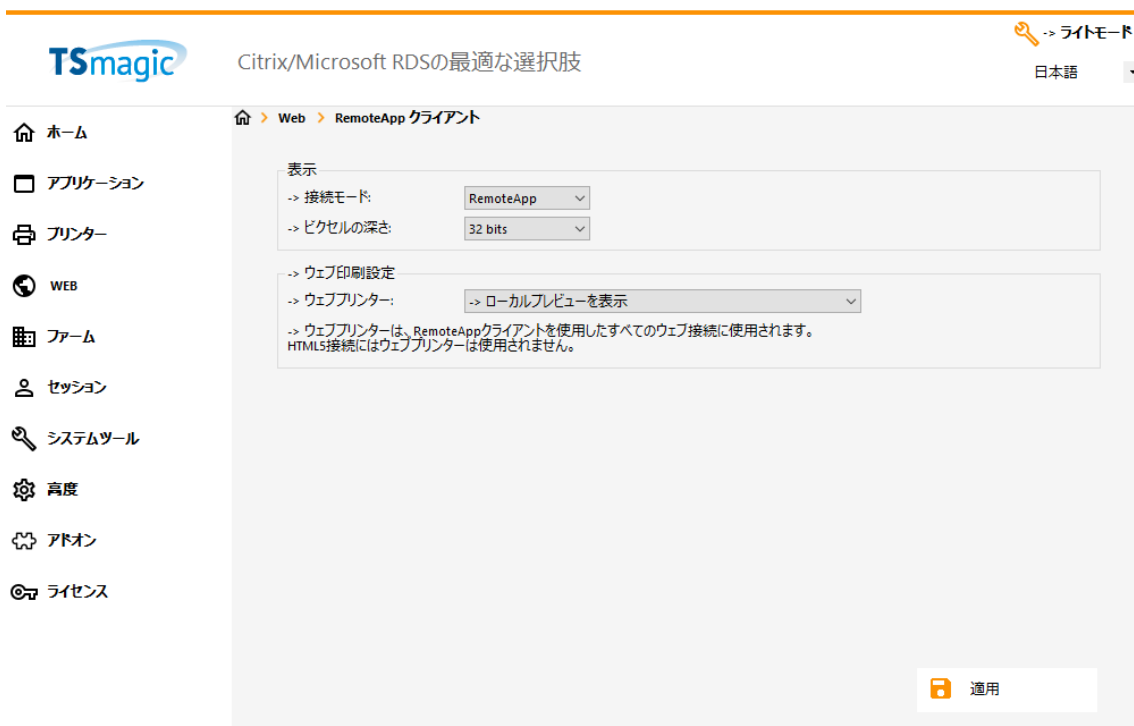
注：Tsmagic 12.40 以降、RemoteApp クライアントセットアップとクライアントセットアッププログラムは統合されており、1 つのセットアップで展開できます。したがって、RemoteApp クライアントセットアップをダウンロードする場合、Connection Client をダウンロードする必要はありません

RemoteApp クライアントタイトル

このタイトルはWindowsクライアント固有の設定用です。



表示は、RemoteApp（リモートデスクトップなしのリモート接続）または標準RDPから選択できます。また、ドキュメントをユーザのデフォルトプリンタで印刷するか、ローカルプレビューを表示するか、出力先ローカルプリンタの選択ダイアログを表示するかを設定することもできます。



Tsmagic Web App

Tsmagic Web App は、最新のブラウザ API を活用して、面倒なソフトウェアのインストールや複雑な接続クライアントなしでシームレスなリモートアクセスエクスペリエンスを提供します。

業界標準の HTML5 表示および通信プロトコルを利用するように設計された Tsmagic Web App は、使用するデバイスの種類に関係なく、ネイティブ接続ソリューションとして表示されます。

利点

新しい Tsmagic Web App は、レガシーアプリケーションと接続クライアントに比べて次の改善を使用して、パフォーマンスと価値を向上させます。

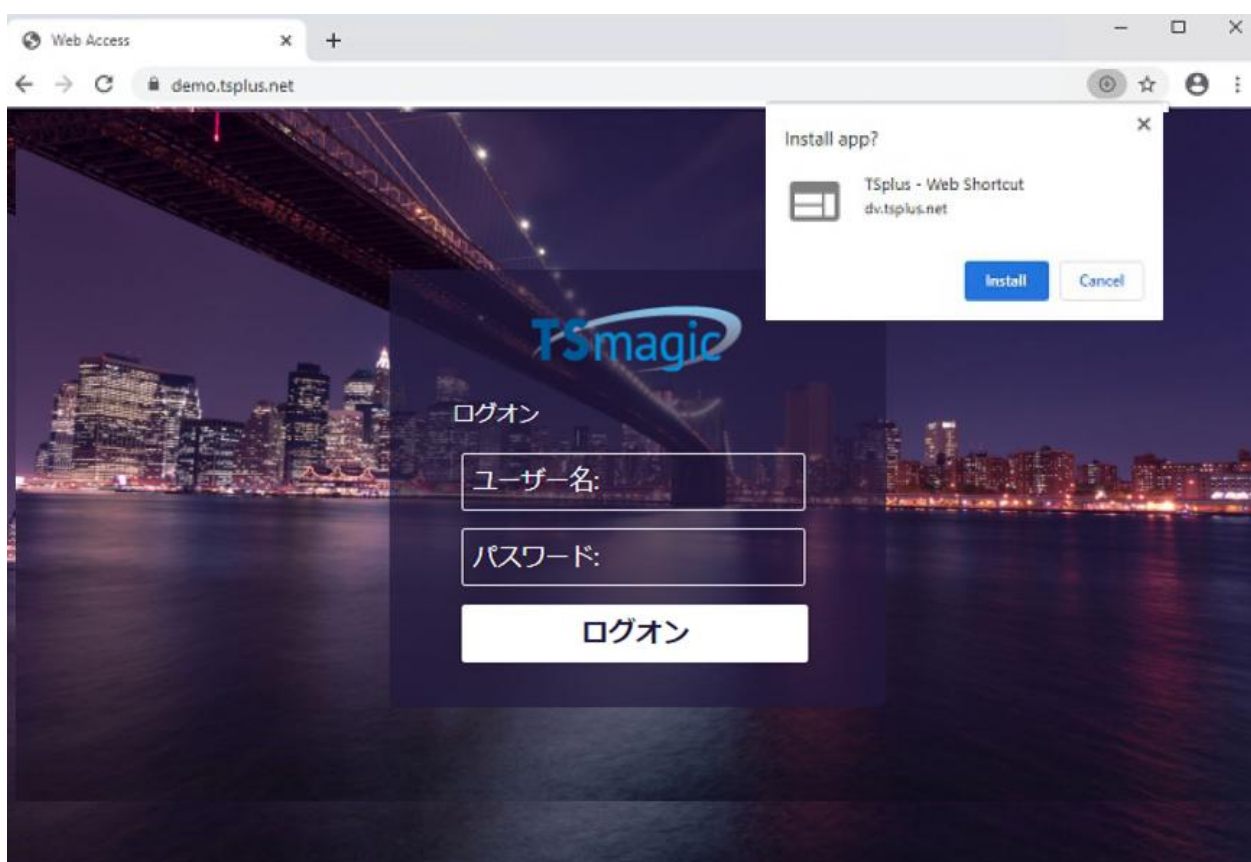
- ソフトウェアのフットプリントが小さいため、ロード時間が短縮されます。
- データ使用量の削減-Tsmagic Web App は、一般的なブラウザーベースのトラフィック管理を活用して、データ使用量を最小に抑えます
- 開いているブラウザウィンドウが多すぎるためにブラウザタブがなくなったり、セッションが失われたりすることはありません。TSplus Web アプリの動作は、他のトップレベルアプリケーションと同じマルチタスクオプションを提供します。

インストール - PC

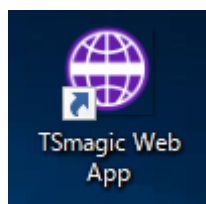
Web ブラウザーを使用して Tsmagic Web ポータルに移動します (HTTPS 構成が必要です)。

ナビゲーションバーの右側にある[+]ボタンをクリックします。

プロンプトが表示されたら、[インストール]をクリックします。



デスクトップにアイコンが作成されます。

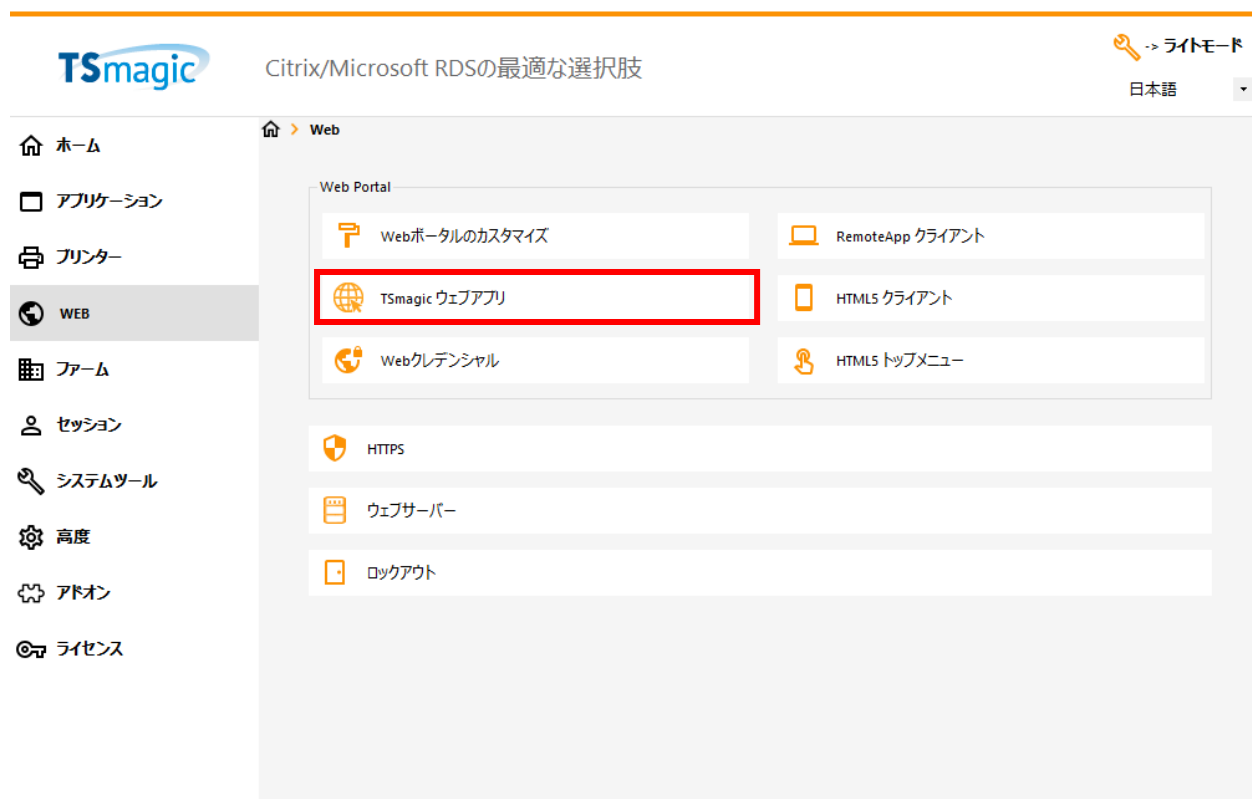


Web アプリはすぐに開きます。



管理

AdminTool で、「WEB」タブを開き、「TSMagic ウェブアプリ」タイルをクリックします。



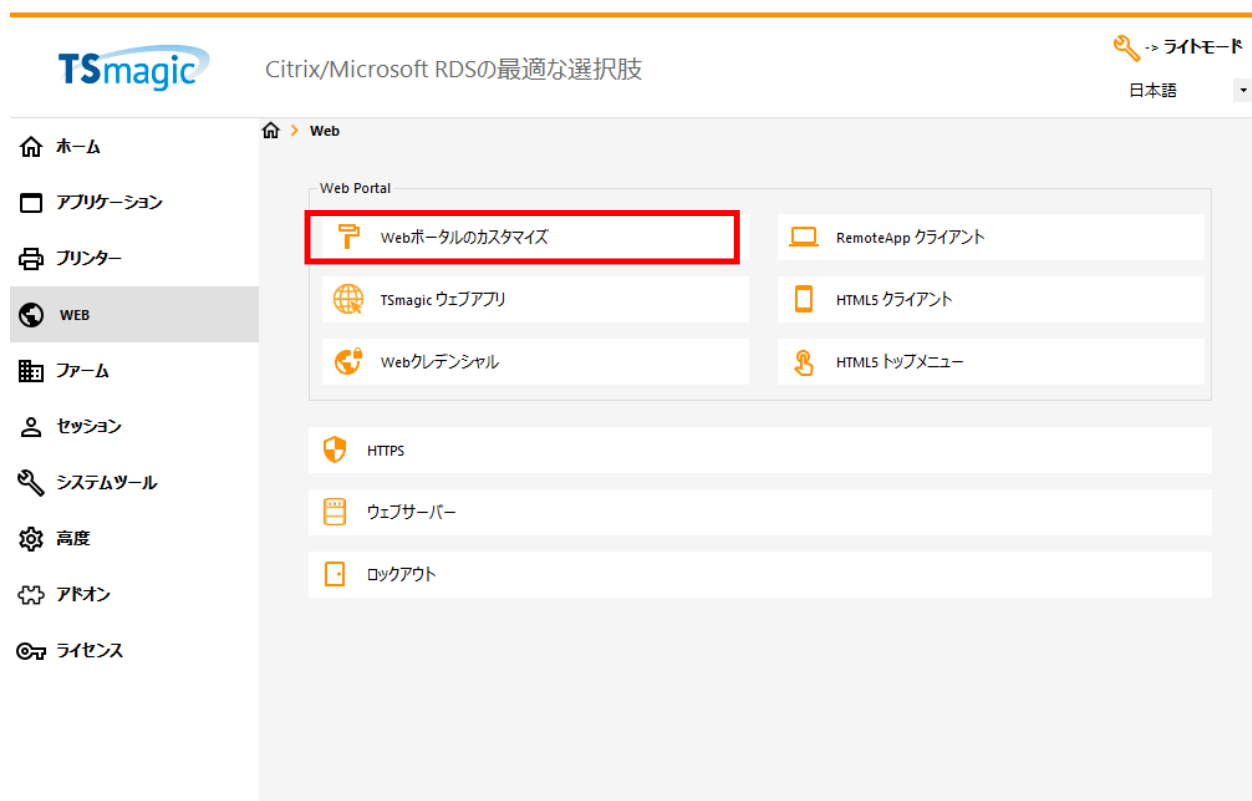
TSMagic ウェブアプリはデフォルトで有効になっていますが、無効にすることもできます。ショートカット名、背景色、テーマの色、および TSMagic ウェブアプリのアイコンを変更することができます。



「保存」をクリックすると、変更内容が記録されます。

Web ポータルカスタマイズを使用した HTML Web Access ページの作成

Web ポータルのカスタマイズを使用すると、独自にカスタマイズした HTML Web Access ページを作成できます。



Web ポータルのカスタマイズ「外観」

「外観」タブを使用すると、すべてのグラフィック設定をカスタマイズしたり、独自のロゴを追加したりできます。



Web ポータルのカスタマイズ「コンテンツ」



Web ポータルのカスタマイズ「設定」



- **利用可能なクライアント：**

2種類の Web 接続クライアントから選択します。両方がチェックされている場合、ユーザが選択することが可能です。両方のオプションが使用可能な場合、デフォルトでどちらのオプションが選択されるかを選択することも可能です。

- **ゲートウェイポータル対応の Web ページの生成：**

チェックすると、ゲートウェイポータルが有効なページが生成されます。

Web ポータルのカスタマイズ「資格情報」



Webポータルのカスタマイズ

→ 外観 → コンテンツ → 設定 → **資格情報** → ファイル転送 → アプリケーションポータル

リセット 保存

ユーザー名

→ ラベル: User name:

→ デフォルト値:

パスワード

→ ラベル: Password:

→ デフォルト値:

☒ パスワード表示アイコンを表示します

☐ Windows パスワード (パスワード) セットボタンを表示

☐ Windows パスワードの有効期限が以下の日数になる 7 日数

2段階認証

→ ラベル: 2-step verification:

ドメイン

☐ ドメインフィールドの

→ ラベル: Domain:

→ デフォルト値:

☒ 最後のログインを忘れないでください

Log on

User name:

Password:

Log on HTML5

- **ラベル：**
未入力時にユーザ名、パスワードなどに表示するテキスト
- **デフォルト値：**
ログオンフィールドに自動入力される値を指定できます。
- **ドメインフィールドの：**
チェックするとログオン情報フィールドにドメインフィールドが含まれるようになります。

Web ポータルのカスタマイズ「ファイル転送」



Webポータルのカスタマイズ

→ 外観 → コンテンツ → 設定 → 資格情報 → **ファイル転送** → アプリケーションポータル

リセット 保存

→ アップロード元:

☒ ユーザーのデスクトップ ()

☐ マイドキュメント

☐ Webファイルフォルダ

☐ カスタムフォルダ: 選択してください

→ ダウンロード先:

☒ ユーザーのデスクトップ ()

☐ マイドキュメント

☐ Webファイルフォルダ

☐ カスタムフォルダ: 選択してください

→ ファイル選択: ☒ エクスプローラ ☐ Tsmagic GUI

Log on

User name:

Password:

Log on HTML5

ファイルのアップロードやダウンロードのソースや宛先のパスを選択します。

Web ポータルのカスタマイズ「アプリケーションポータル」



入力した値の保存と初期値へのリセット

「保存」ボタンをクリックすると、入力およびチェックしたすべての値が保存されます。
これらの値をデフォルト値にリセットする場合は、「リセット」ボタンをクリックします。

Web クレデンシャル

概要

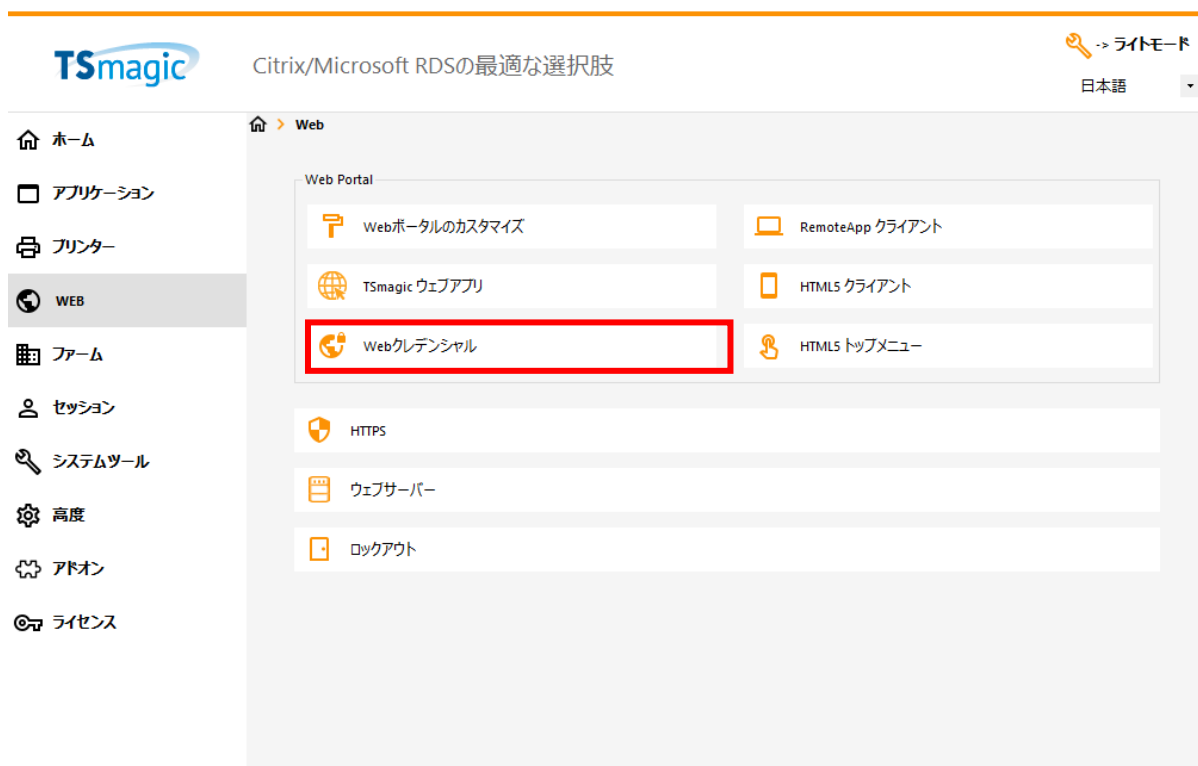
TSMagic Web認証は、電子メールアドレスまたはピンコードだけで接続できる独自機能です。

Web資格情報を使用すると、ユーザの電子メールアドレスまたはビジネスアプリケーションによって生成された単純なピンコードを使用して、サーバのアクセスを保護できます。この機能の大きな利点の1つは、これらの資格情報(電子メールやピンコード)が純粋なWeb資格情報であることです。ユーザは現在使用しているWindowsユーザアカウントを知ることができず、アプリケーションに接続するために実際のWindowsログイン/パスワードを知る必要がありません。

Web 認証情報を使用すると、カスタムの純粋な Web 認証情報を定義し、既存の Windows/Active Directory ユーザアカウントと照合できます。ユーザは、Windows/Active Directory の認証情報ではなく、これらのカスタム認証情報を使用して接続できます。

Web 資格証明の管理

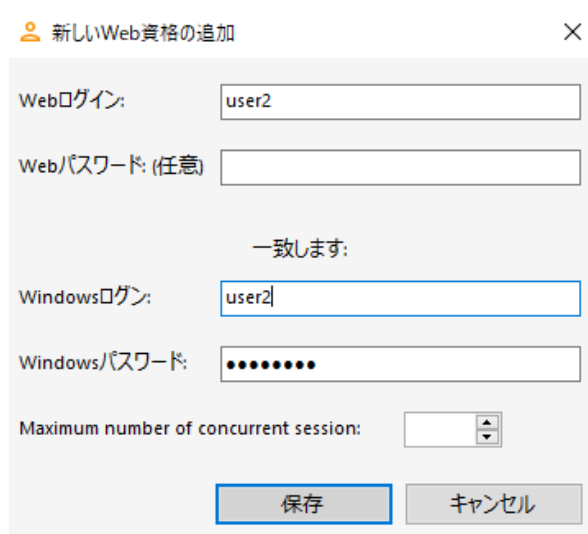
管理ツールで、「Web」タブを開き、「Web クレデンシャル」タイルをクリックします。



Web クレデンシャル Manager が開き、次のウィンドウが表示されます。



次に示すように、カスタム・ログインと(省略可能)パスワードを既存の Windows/Active Directory ユーザアカウントと一致させることで、新しい Web 認証情報を作成できます。



ユーザの同時セッション最大数も決定出来ます。

既存の Web 認証情報を編集および削除し、構成したカスタム認証情報を変更または無効にすることもできます。

注意事項

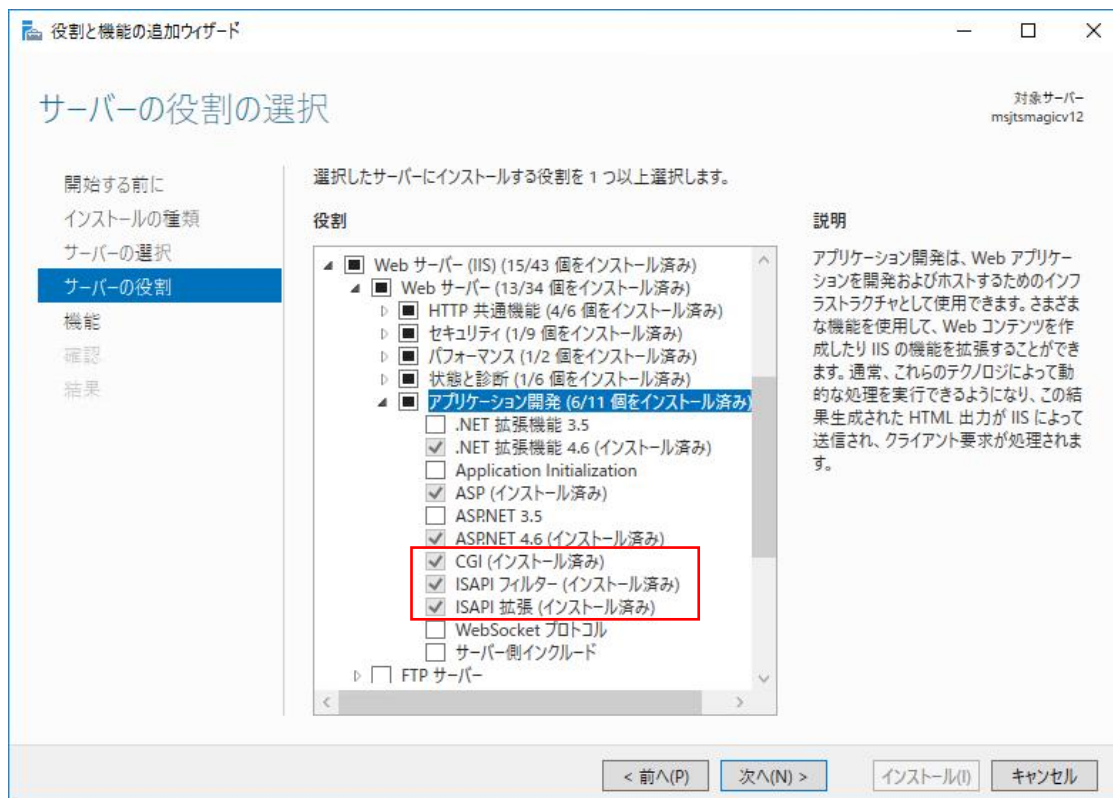
次の制限に注意してください。

- ファーム/ゲートウェイ構成では、Web 認証情報は負荷分散モードのみをサポートします。(サーバ割り当てモードでは機能しません。)
- 負荷分散モードのファーム/ゲートウェイ構成では、ファームのすべてのサーバで Web 資格情報を定義する必要があります

TSmagic の既定の Web サーバではなく IIS を使用する 方法

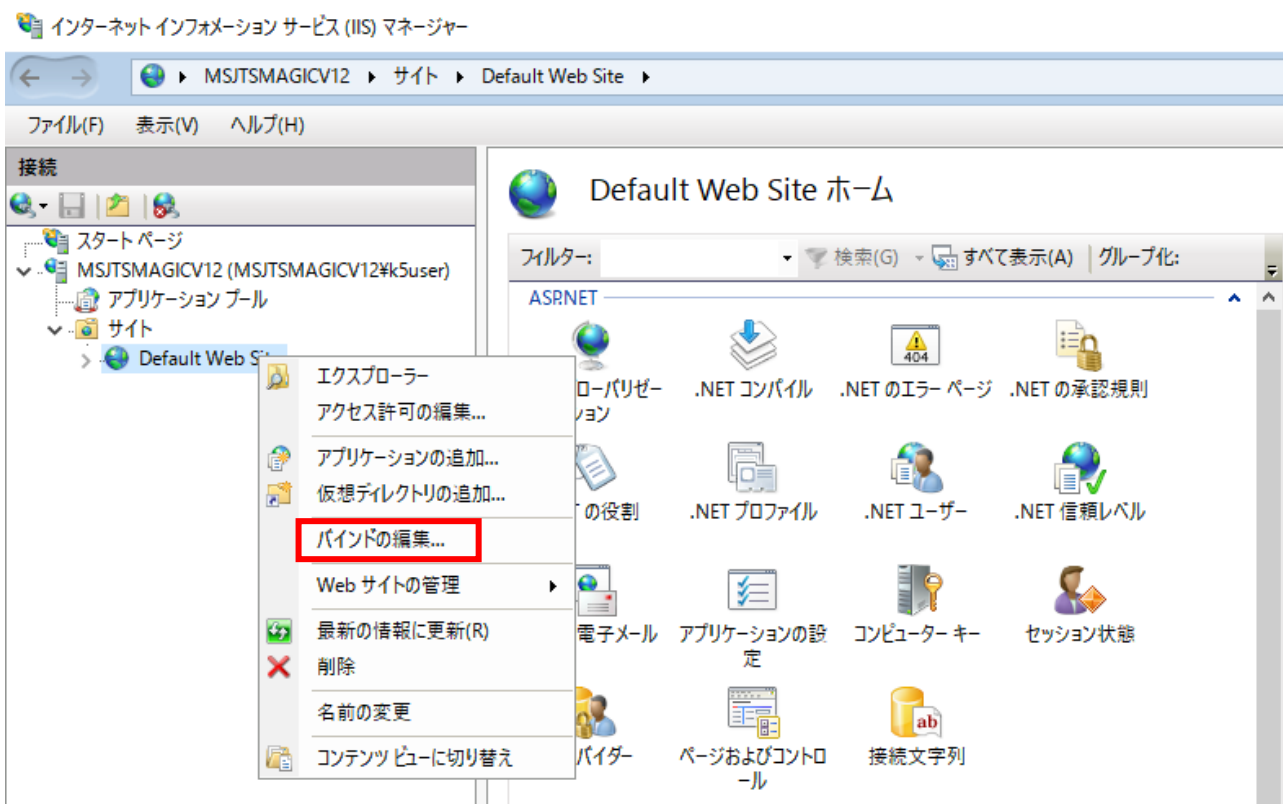
1) IIS 構成

- 以下の IIS モジュールをインストールします：CGI、ISAPI 拡張、および ISAPI フィルター

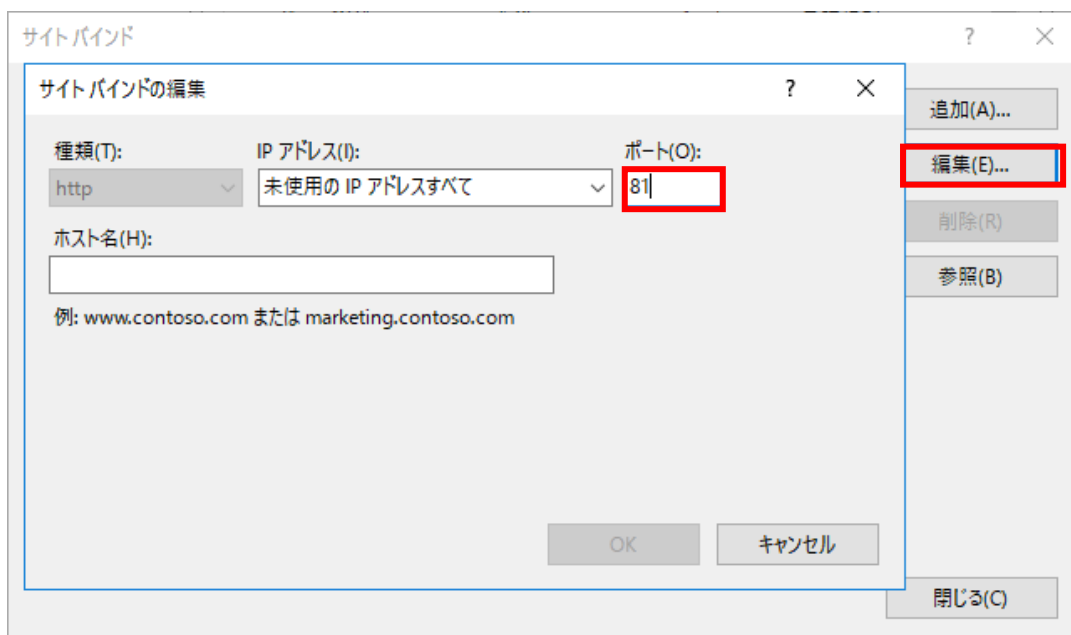


- IIS ポートの設定:

IIS 管理コンソールにアクセスして、サーバ名の下のリストを展開し、「サイト」メニューを展開して「Default Web Site」を右クリックし、「バインドの編集」をクリックします。



「http」と「編集」をクリックします。ポートを 81（使用されていないポート）に変更して [OK] をクリックし、[閉じる] をクリックします。

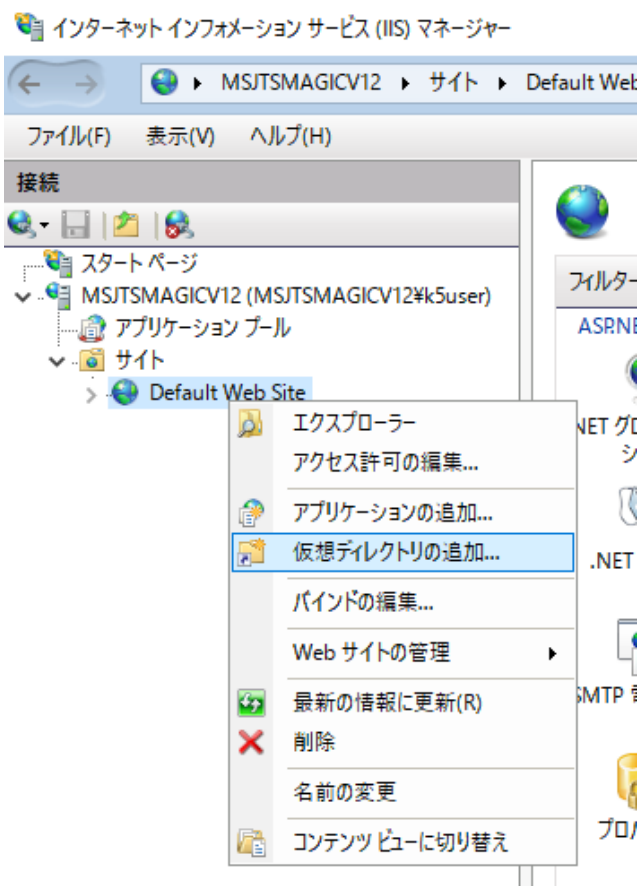


次に、IIS マネージャーを再起動します。

2) CGI 用の仮想ディレクトリの作成

注意：Web ルートディレクトリが変更されても、デフォルトの Web ルート（C:¥Program Files (x86)¥TSMagic¥Clients¥www）のすべてのファイルはコピーされません。IIS Web サーバに移行するときは、手動で確認してコピーする必要があります。

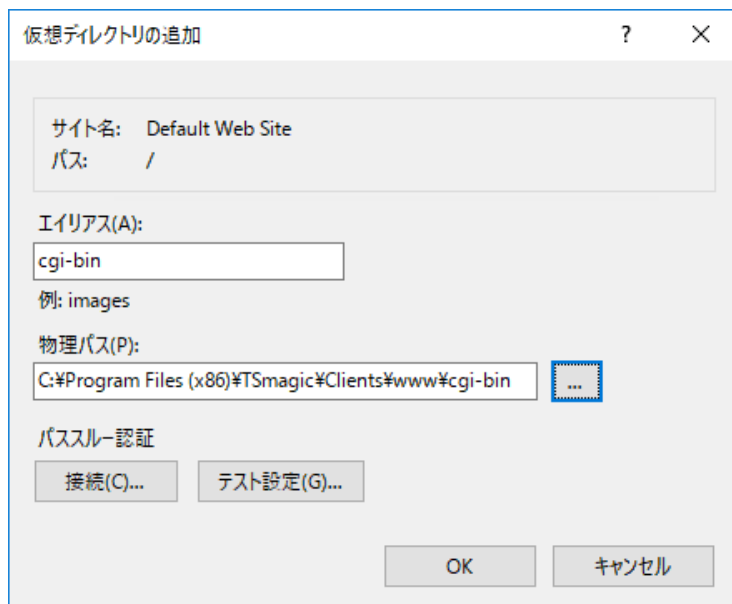
左側のパネル・メニューで、サーバの下メニューを展開し、「サイト」を選択してサイトを右クリックし、次の図に示すように新しい「仮想ディレクトリの追加」を選択します。



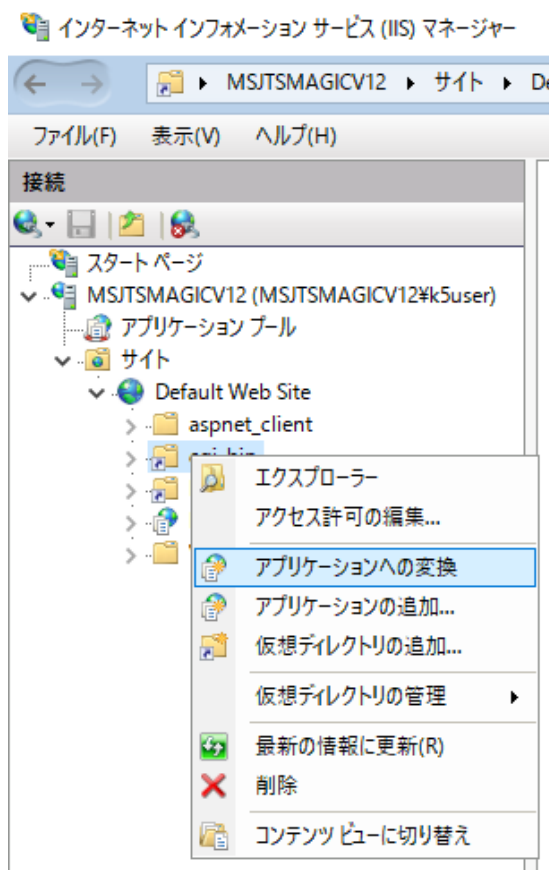
開いたウィンドウで、次のように入力します。

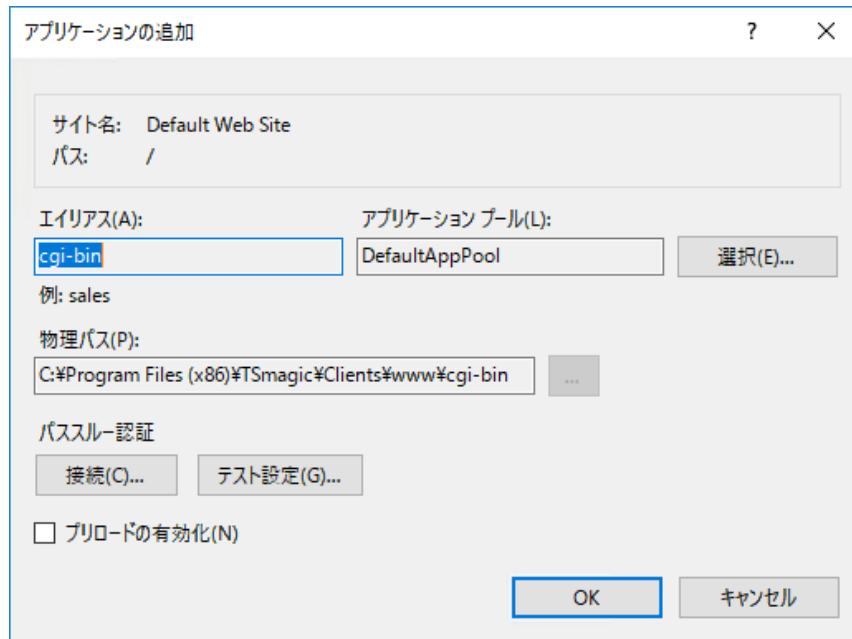
エイリアス: cgi-bin

物理パス: "C:¥Program Files(x86)¥TSMagic¥Clients¥www¥cgi-bin"

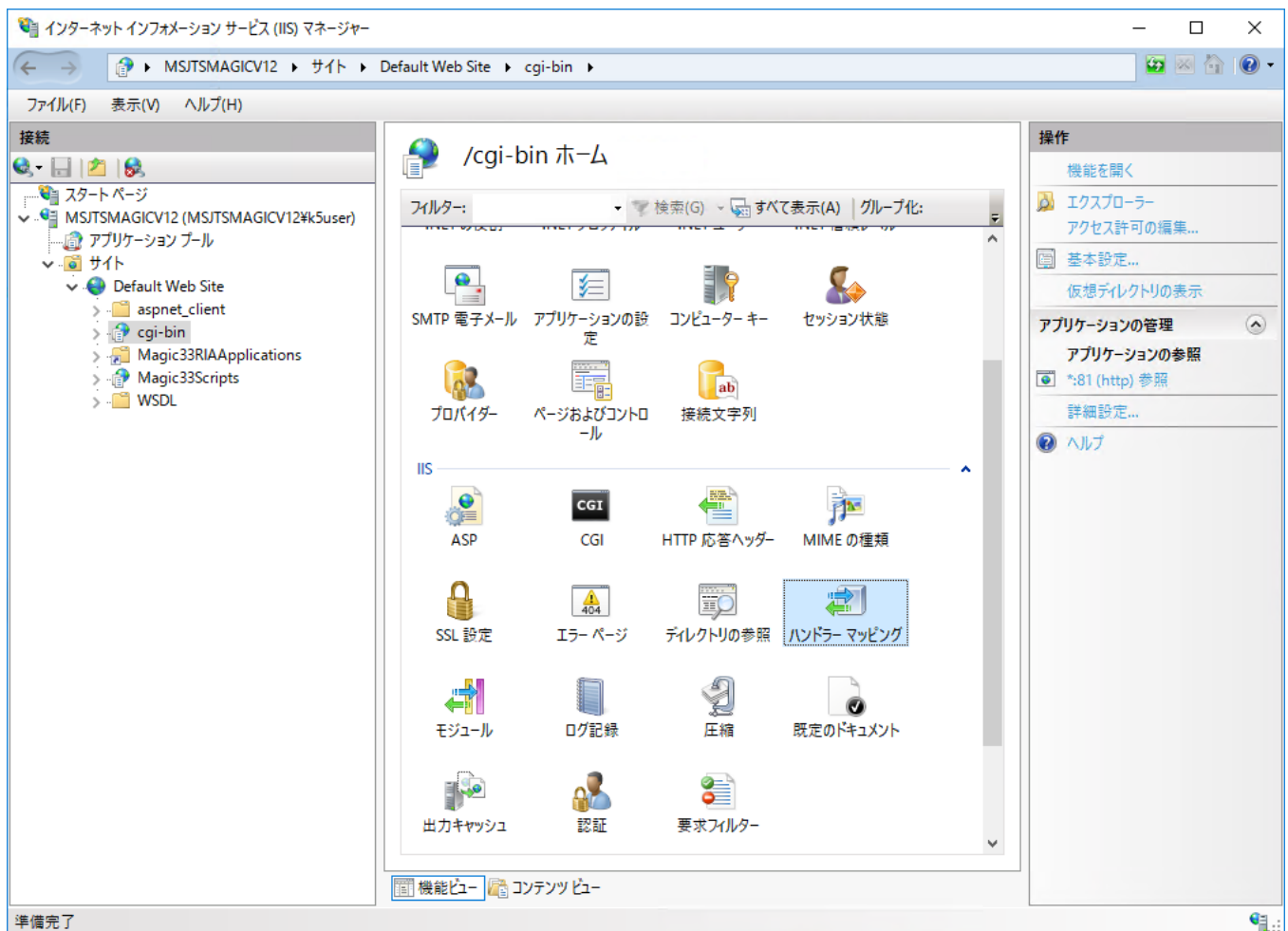


「OK」をクリックすると、「cgi-bin」仮想ディレクトリが IIS Web サイトに追加されています。次に、この「cgi-bin」仮想ディレクトリを右クリックし、「アプリケーションへの変換」をクリックします。「OK」をクリックし、デフォルト設定を受け入れます。



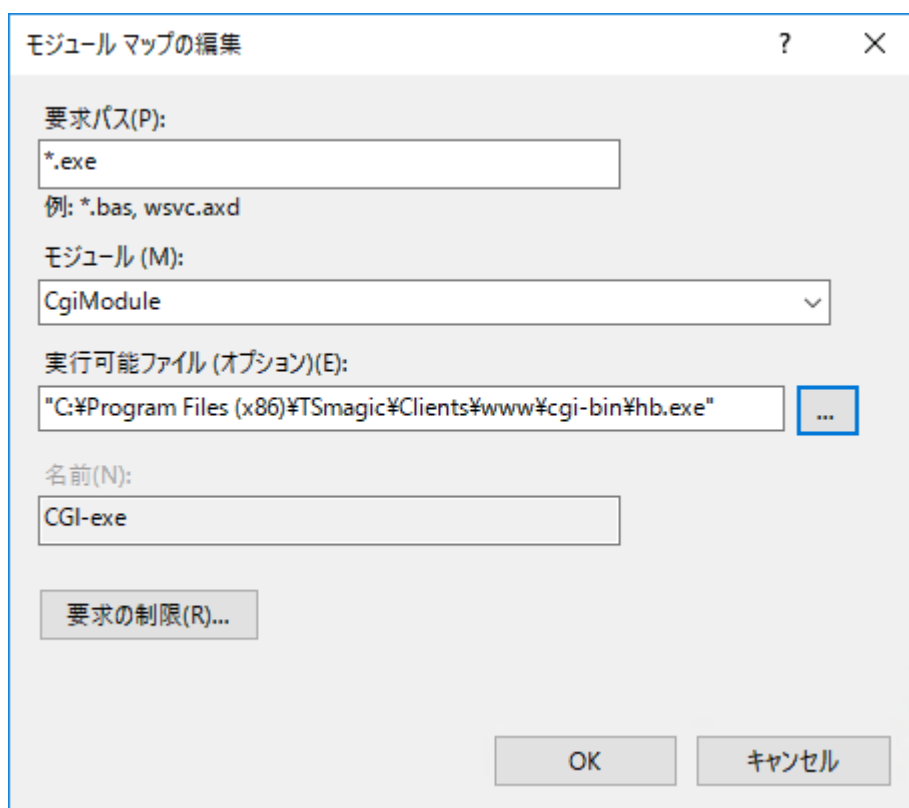
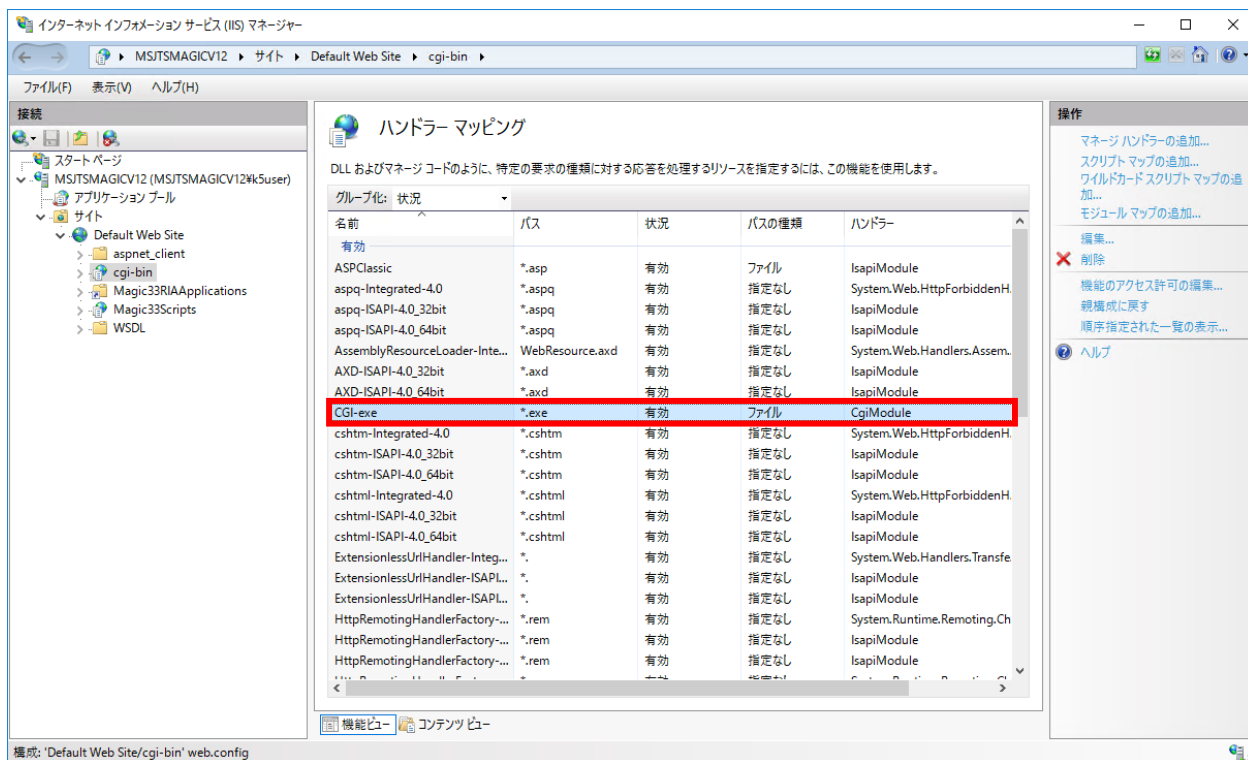


次に、マネージャウィンドウの右側で、このフォルダの「ハンドラーマッピング」アイコンを選択します。

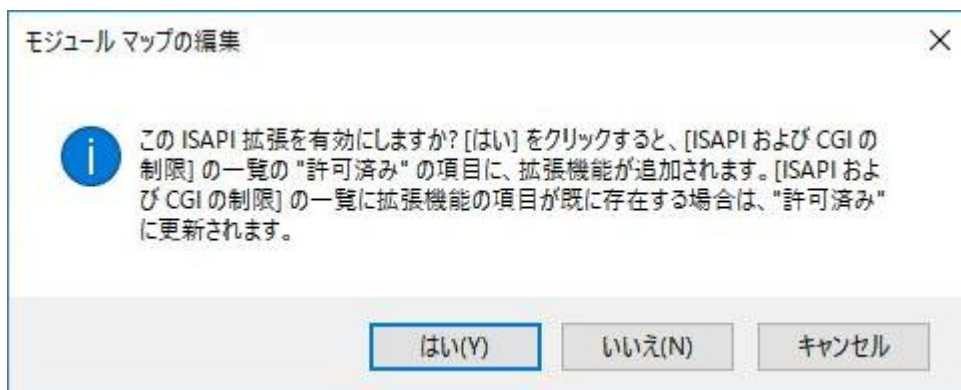


ハンドラーマッピングのリストで、「CGI-exe」をダブルクリックします。

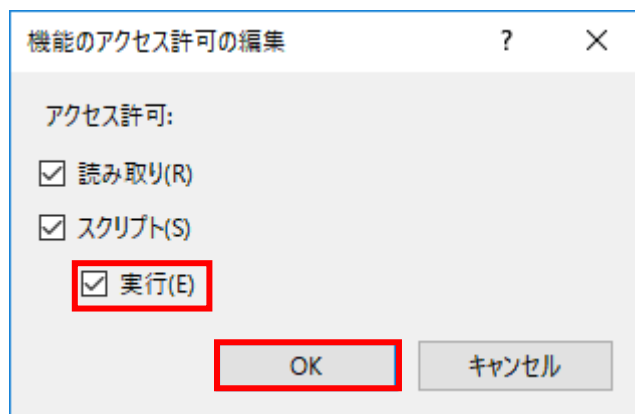
次に、[実行可能ファイル] ボックスで hb.exe 実行可能ファイルを検索し、[OK] をクリックします。



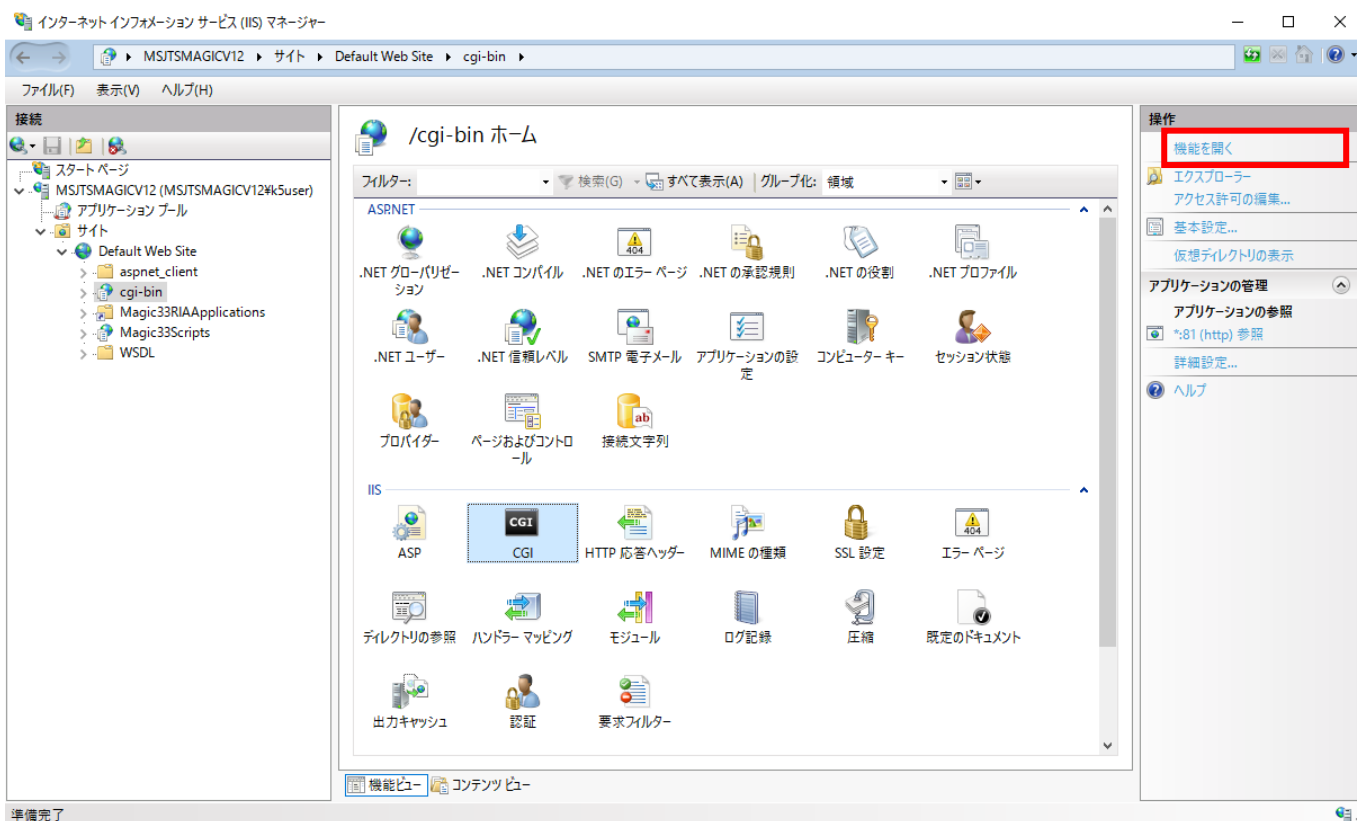
確認のプロンプトが表示されます。この ISAPI 拡張を許可するには、「はい」をクリックします。



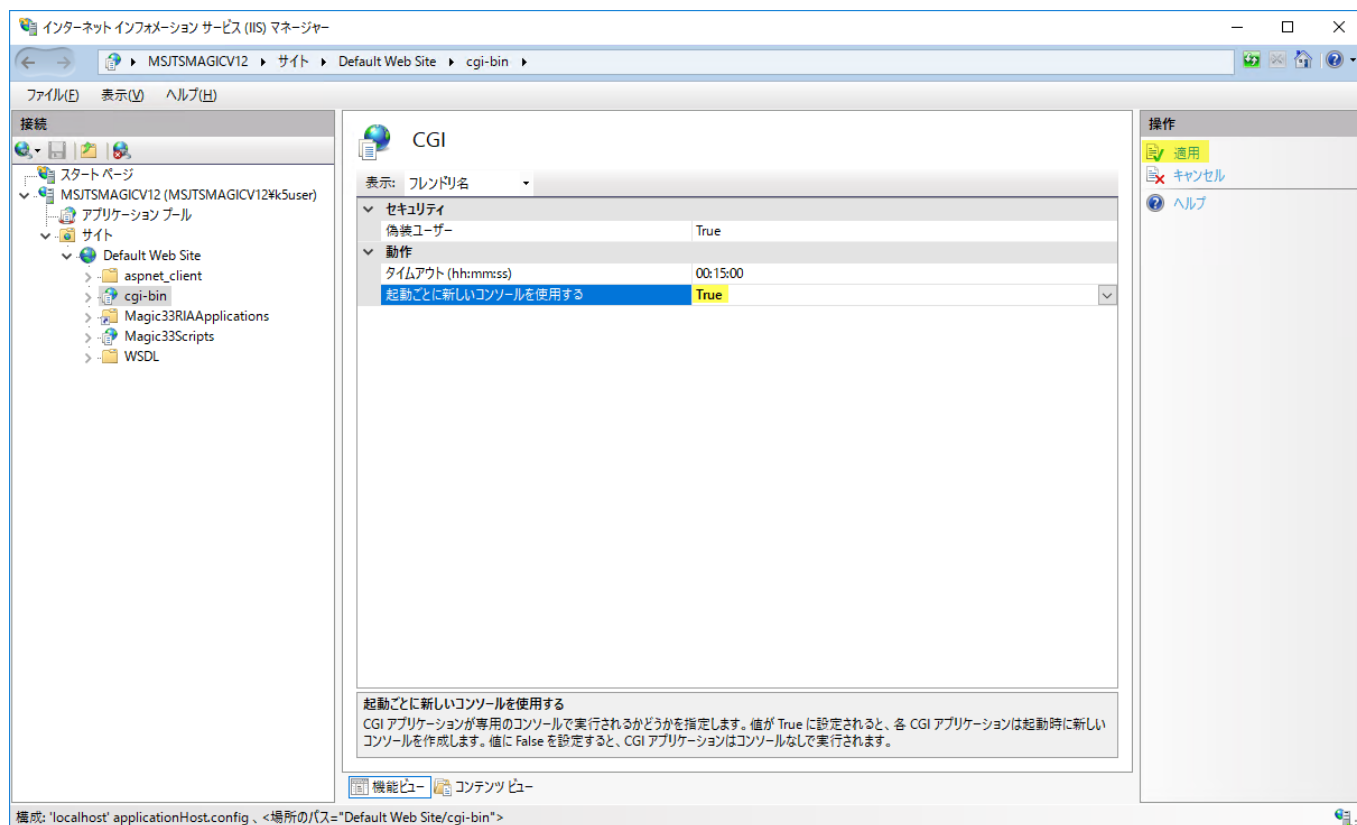
「機能のアクセス許可の編集」を開き、[実行]にチェックを入れ、[OK]をクリックします。



「CGI-bin」ホームに戻り、「CGI」をクリックして「機能を開く」を開きます

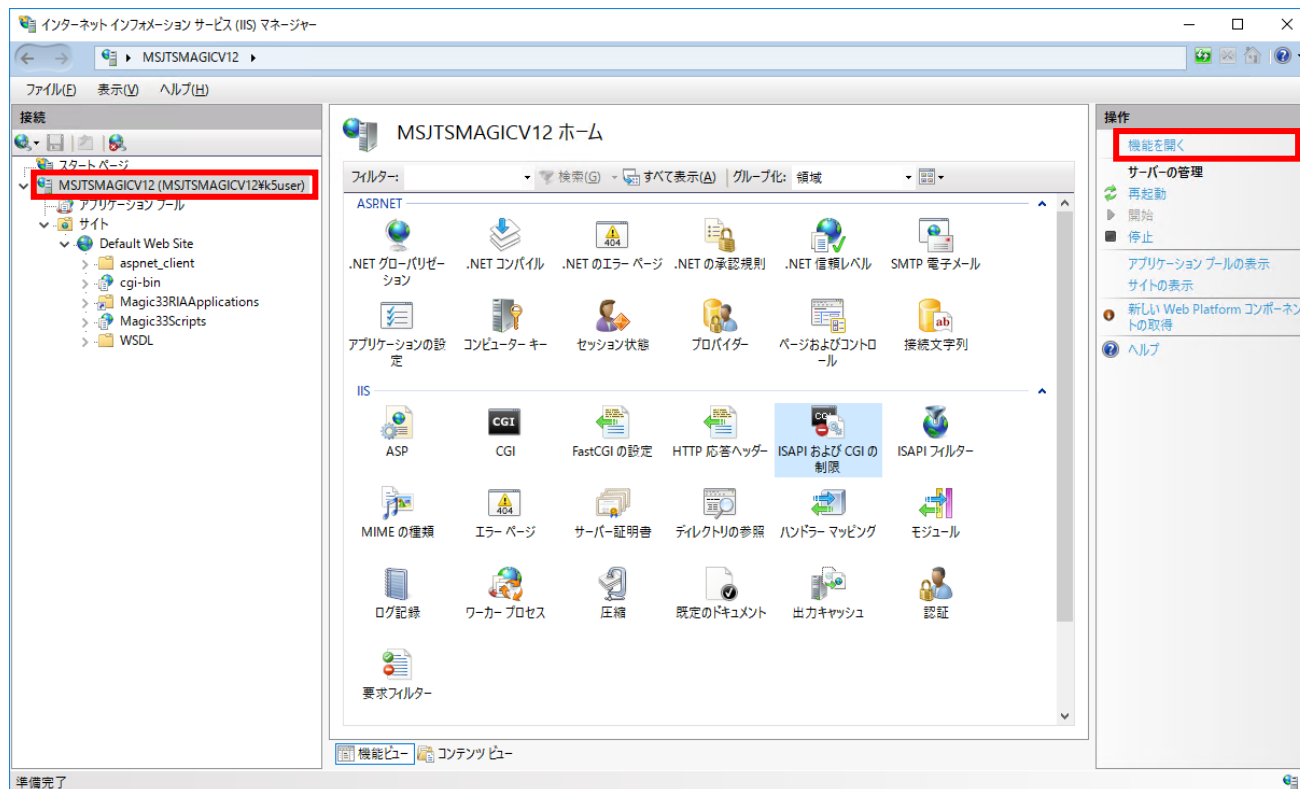


「起動ごとに新しいコンソールを使用する」の値を「True」に変更します。次に、「適用」をクリックして変更を保存します。

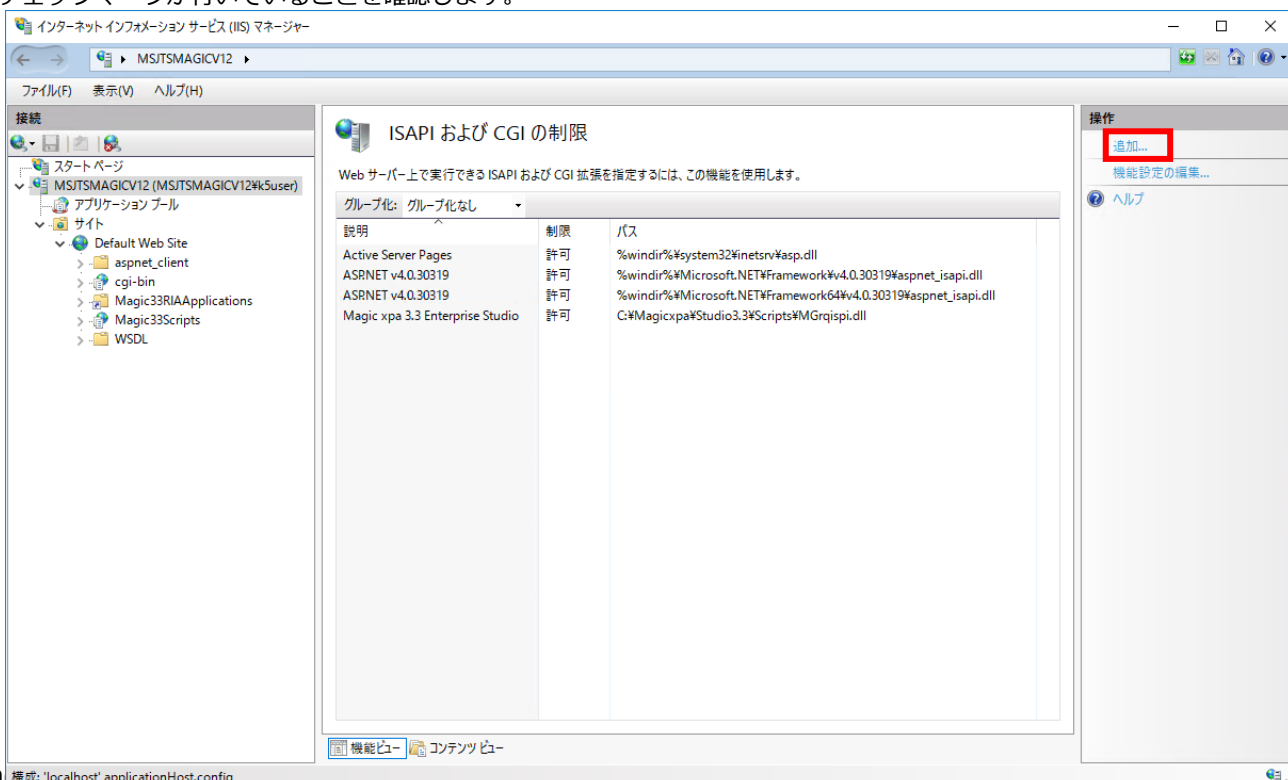


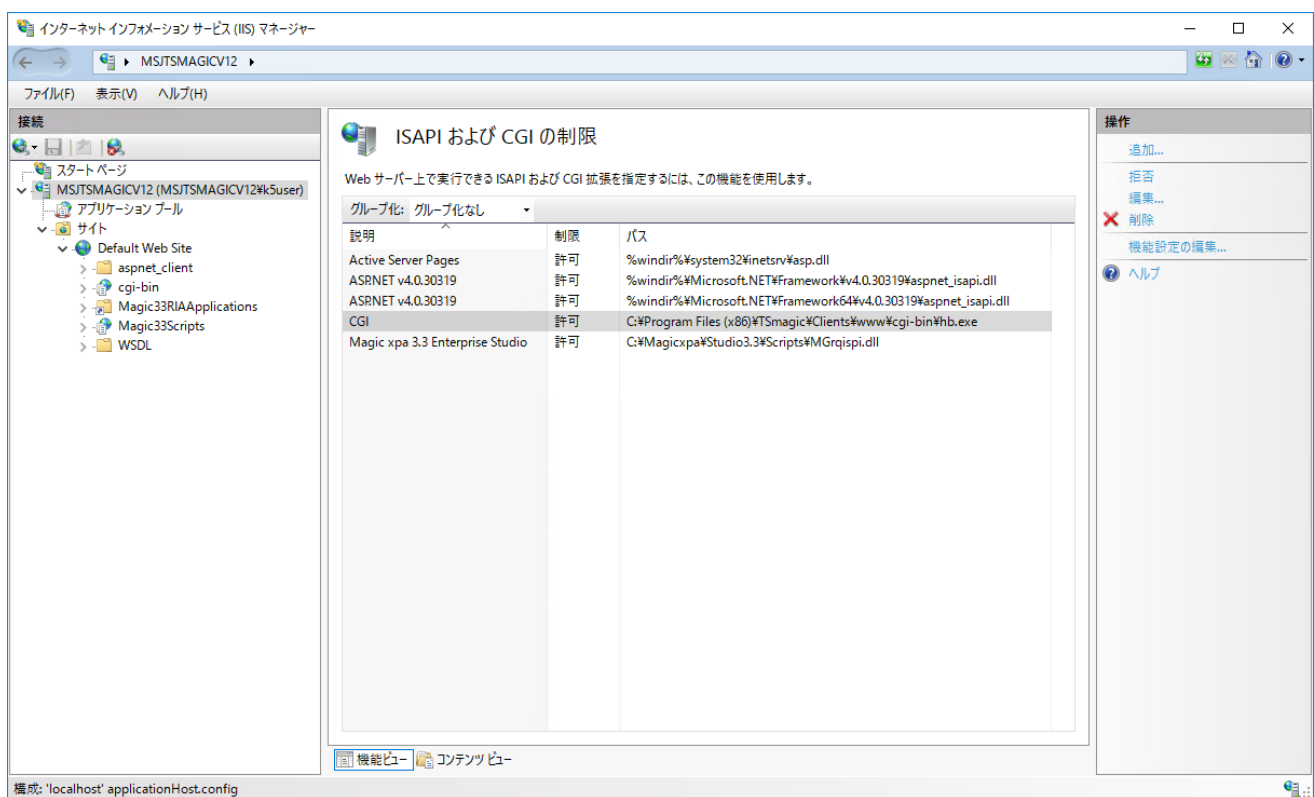
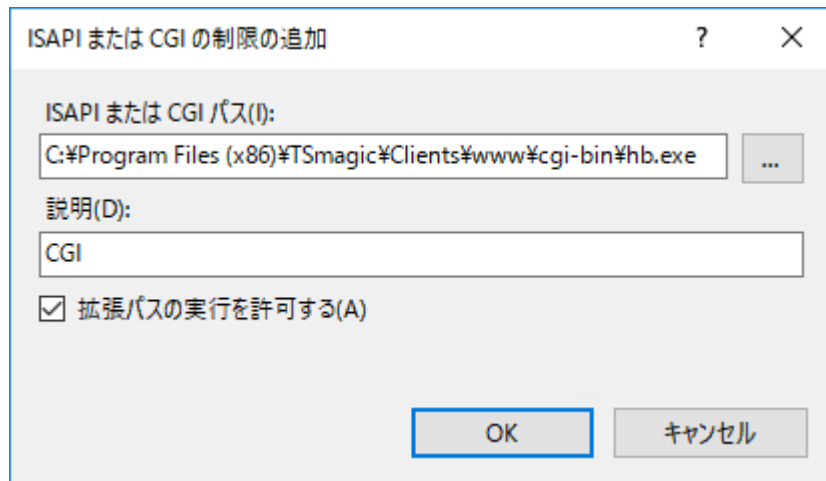
3) CGI 拡張許可の構成

最後のステップは、CGI 拡張をサーバで実行できるようにすることです。「ISAPI および CGI の制限」アイコンをクリックします。これは、ウィンドウの左側にあるメニューでマシン名をクリックすると表示されます。

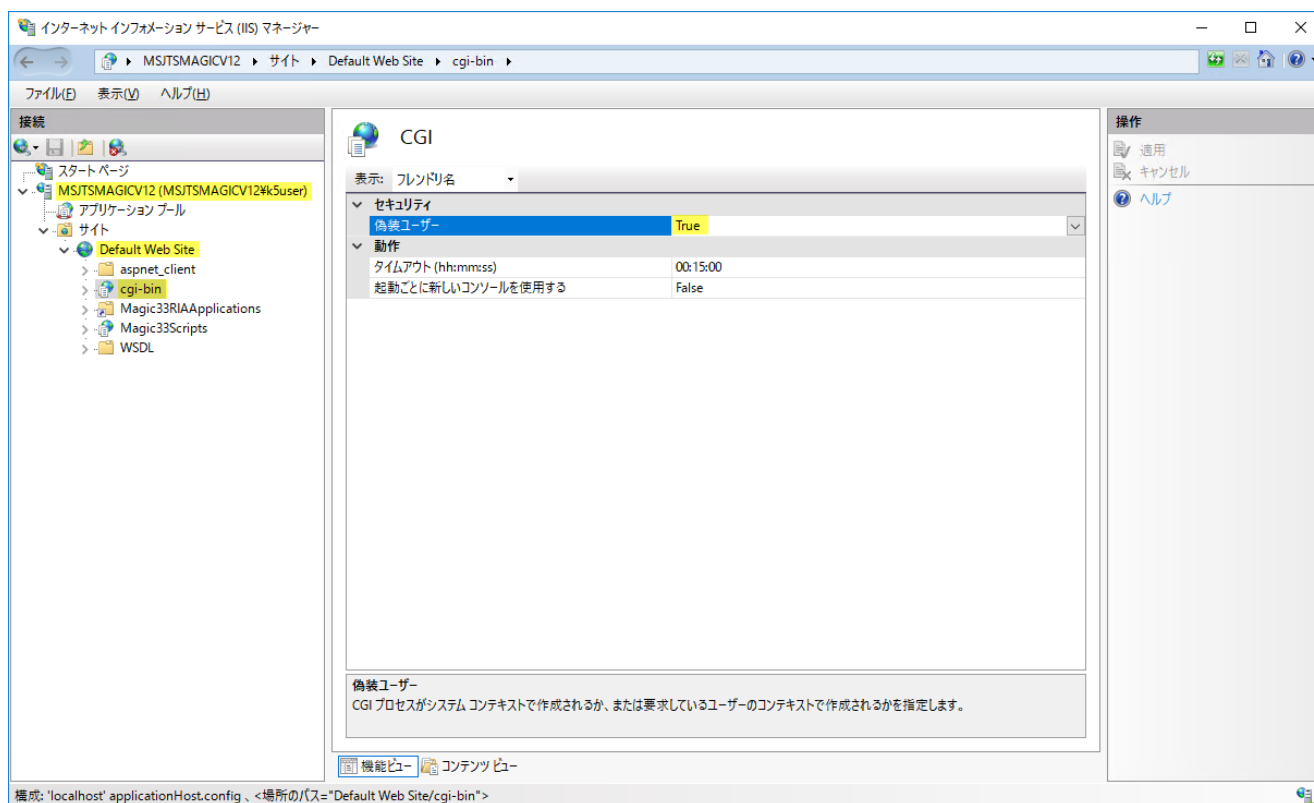


「ISAPI および CGI の制限」ページで、ウィンドウの右側にある「追加...」をクリックします。次に、TSmagic フォルダでホストされている「hb.exe」ファイルのフルパスを指定します。次の図のように、「拡張パスの実行を許可する」オプションにチェックマークが付いていることを確認します。





サーバの CGI セクションの「Default Web Site」 - 「cgi-bin」で、設定「偽装ユーザ」が「True」に設定されていることを確認してください。



以下のディレクトリに対して「Everyone」にフルコントロールアクセス権を許可してください。

「C:¥Program Files(x86)¥Tsmagic¥Clients¥www¥cgi-bin」

「C:¥Program Files (x86)¥Tsmagic¥Clients¥webserver」

「C:¥Program Files (x86)¥Tsmagic¥Clients¥webserver¥twofa」 (存在しない場合は作成)

4) IIS に MIME タイプを追加する

管理者としてコマンド・プロンプトを開き、次のコマンドを実行します。

```
%SystemRoot%¥system32¥inetsrv¥appcmd set config /section:staticContent /+[fileExtension='.dat',mimeType='text/plain']
```

```
%SystemRoot%¥system32¥inetsrv¥appcmd set config /section:staticContent /+[fileExtension='.',mimeType='text/plain']
```

IIS を再起動します。

5) IIS ディレクトリのアクセス許可を構成する

「C:¥inetpub¥wwwroot」に対して「Everyone」にフルコントロールアクセス権を許可してください。

6) TSMagic の設定

AdminTool の[WEB - ウェブサーバー]タブに移動し、「異なる HTTP Web サーバ使用」オプションを選択します。



次に、同じウィンドウで「新しい Web サーバのルートパスの選択」をクリックし、IIS ディレクトリのパス「C:\inetpub\wwwroot」を選択します。次に、「Web サーバーを保存して再起動」をクリックします。

Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢

ライトモード
日本語

- ホーム
- アプリケーション
- プリンター
- WEB
- ファーム
- セッション
- システムツール
- 高度
- アドオン
- ライセンス

Web > ウェブサーバー

デフォルトHTTP Webサーバー

内蔵HTTP Webサーバーを一つ提供 TSMagic
但し、異なるサーバー(IIS又はApacheなどが使用可能。

☐ 内蔵HTTP Webサーバー使用

☒ 異なるHTTP Webサーバー使用

IIS又はApache使用時、そのHTTPポート番号は必ず81に設定が必要。
(トンネリングはこの81接続ポートを公開のHTTPポートに転送 81)

Webサーバーのルートパスの変更

Webサーバーのデフォルトのルートパスが変更可能。
現在のWebサーバーのルートパス:
C:\Program Files (x86)\TSMagic\Clients\www

新しいWebサーバーのルートパスの選択

保存をクリックした後、新しいWebサーバーのルート・パスは以下になり:
C:\inetpub\wwwroot

Webサーバーオプション

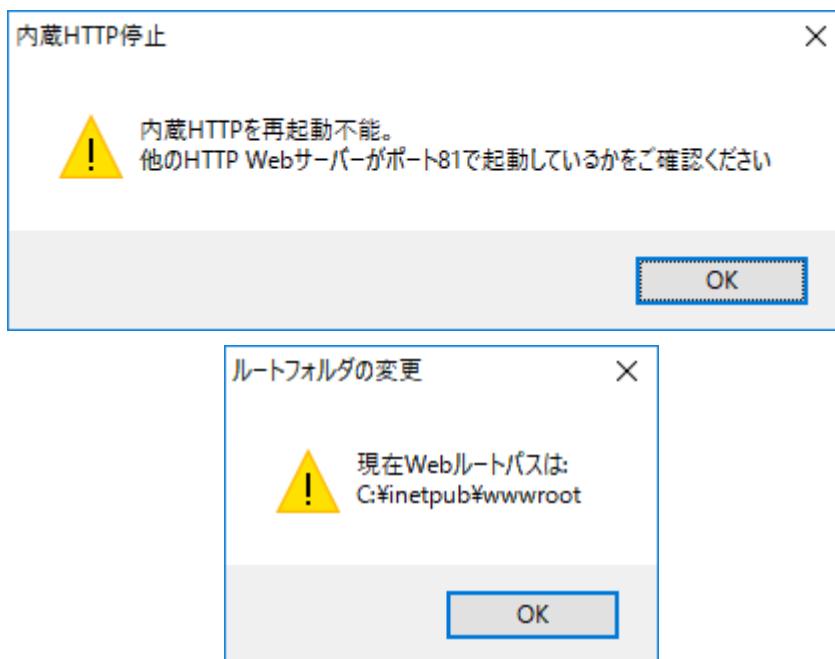
HTTP/HTTPS変更 ポート番号
IISやApacheのポート設定の変更はありません

HTTP:

HTTPS:

Webサーバーを保存して再起動

次のメッセージが表示されます。



しばらく待つと AdminTool は自動的に閉じられます。次に、AdminTool を再度開き、Web タイルをクリックします。最後に、Web サーバを再起動します。

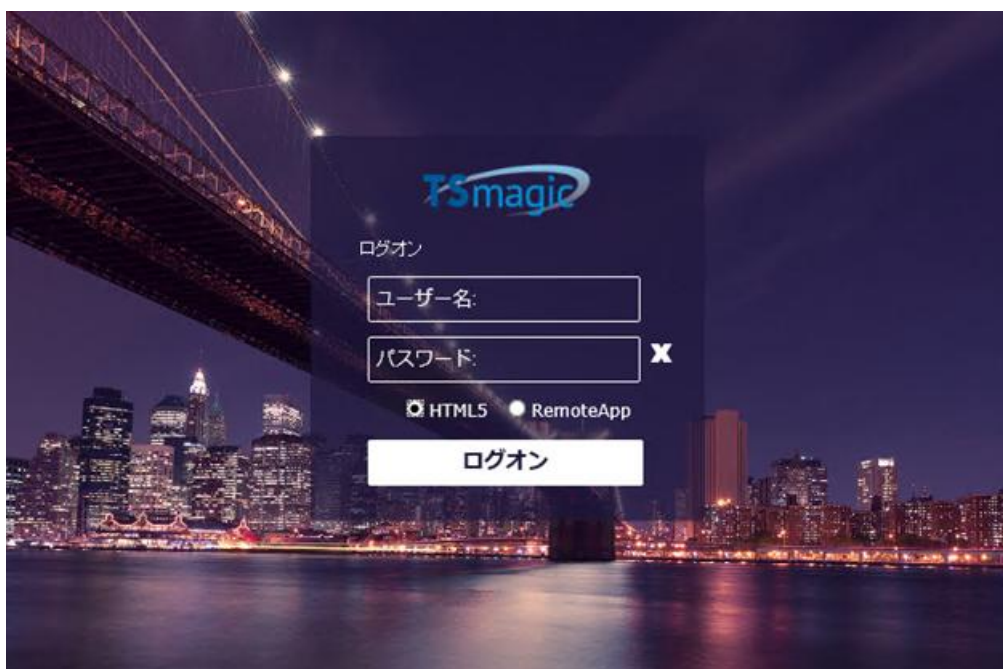
再起動後、「C:\inetpub\wwwroot\cgi-bin\remoteapp」に対して「Everyone」にフルコントロールアクセス権を許可してください。



7) ローカルホストでテストする

注意:別のユーザアカウントを使用してください。

自分の RDP セッションからサーバへの現在のユーザアカウントで試行すると、切断され、再接続できなくなります



無料で簡単にインストールできる SSL 証明書

概要

Tsmagic は、無料で有効な HTTPS 証明書を生成するための機能を提供しています。

セキュリティ保護された有効な証明書が取得され、自動的に更新されて、Tsmagic 組み込み Web サーバに自動的に構成されます。

この機能では、使用する HTTPS 接続に対して、無料で安全な HTTPS 証明書を提供するために、Let's Encrypt を使用します。

前提条件

無料証明書マネージャを使用する前に、Tsmagic サーバが以下の要件を満たしていることを確認してください。

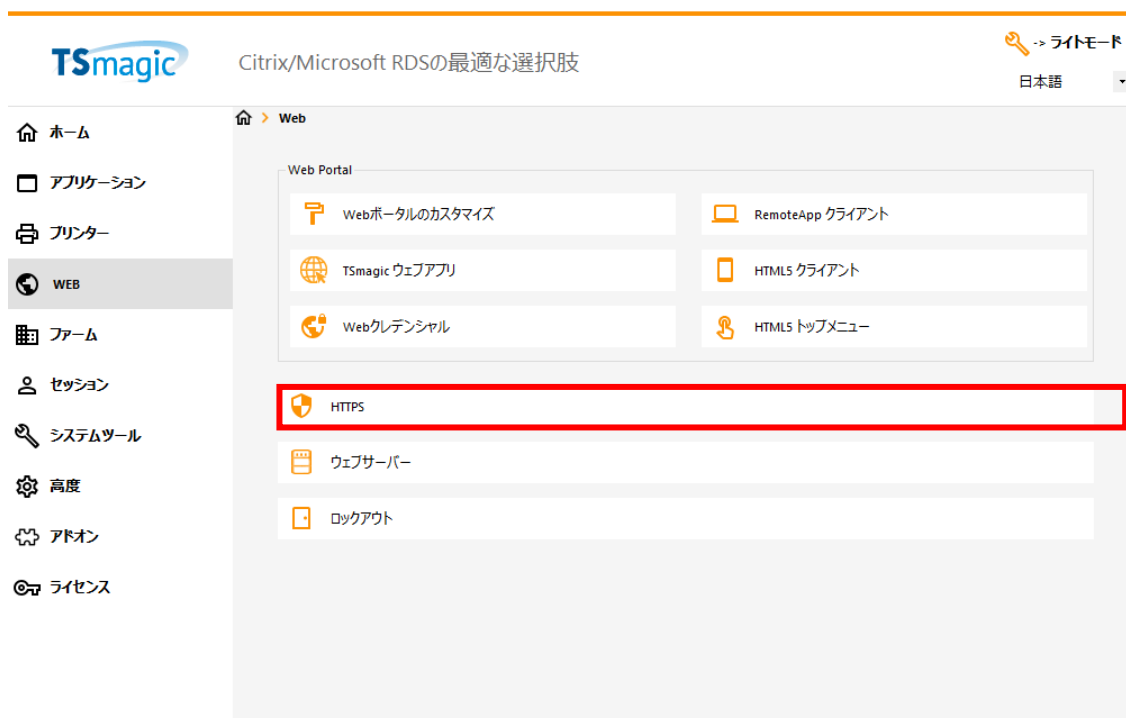
- **HTTP のポート 80 でリスンする Tsmagic 組み込み Web サーバを使用する必要があります。**
これは、Let's Encrypt ドメイン所有権検証プロセスが必要です。
- **サーバのドメイン名は、パブリックインターネットからアクセスできる必要があります。**
これは、ドメインの実際の所有者であることを検証するためにも必要です。
- このプログラムは、**アプリケーションサーバではなく、ゲートウェイサーバまたはスタンドアロンサーバで実行する必要があります**（アプリケーションサーバがパブリックインターネットからアクセス可能であり、パブリックドメイン名を持っている場合を除く）。

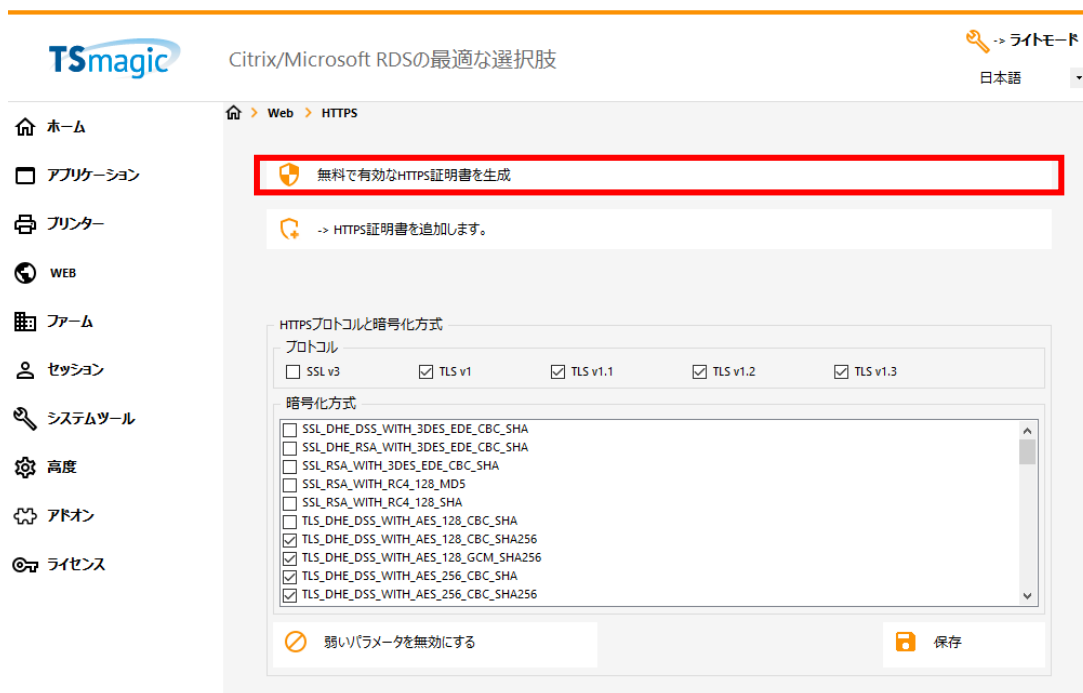
パブリックかプライベートにかかわらず、IP アドレスの証明書を取得することはできません。

内部ドメイン名（つまり、プライベートネットワーク内でのみ解決されるドメイン）の証明書を取得することはできません。

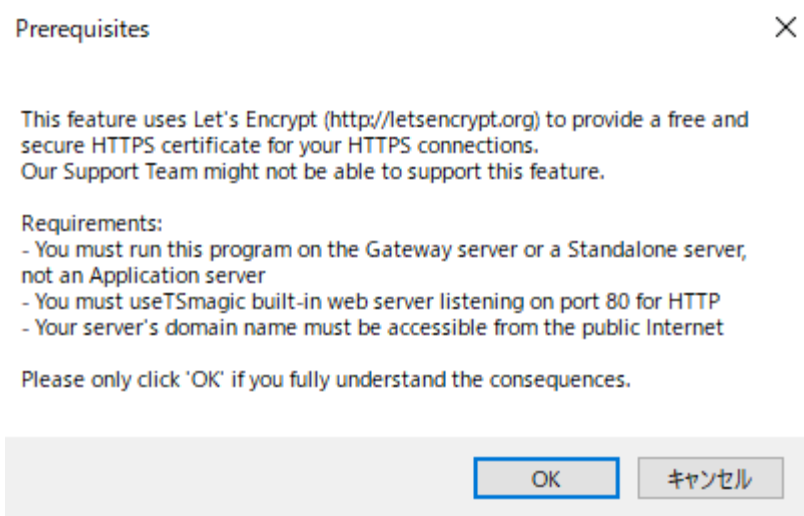
無料の証明書マネージャ GUI

Tsmagic 無料証明書マネージャ GUI を開くには、Tsmagic AdminTool を開き、[Web - HTTPS] タブをクリックし、[無料で有効な HTTPS 証明書を生成] をクリックします





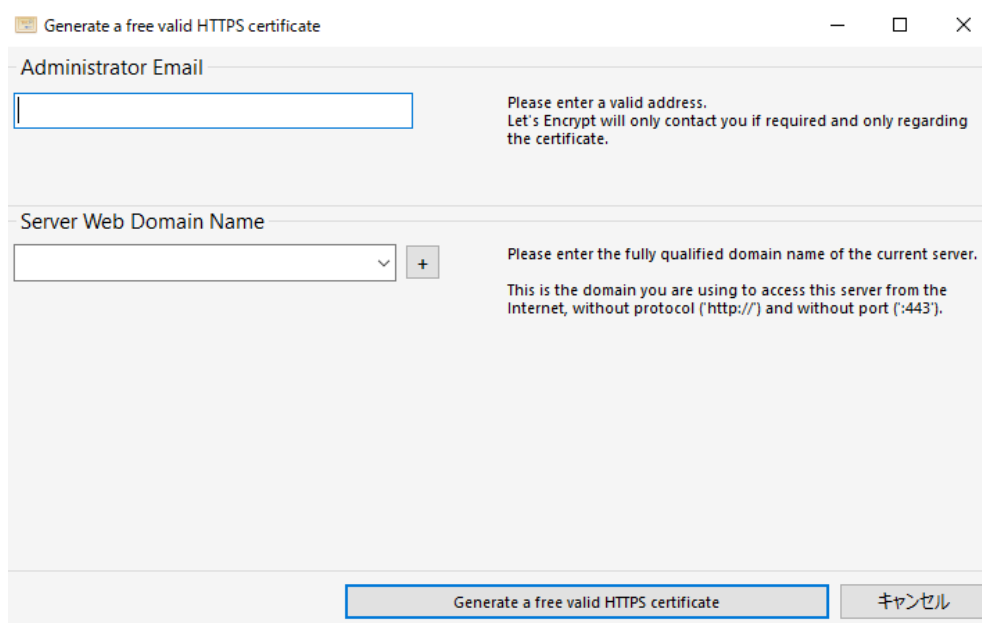
前提条件が表示されます。



有効な電子メールアドレスとパブリックドメイン名を入力するだけです。

このメールはスパムには使用されません。実際には、証明書の発行者である Let's Encrypt を除き、マジックソフトウェア・ジャパンやサードパーティーにも送信されません。

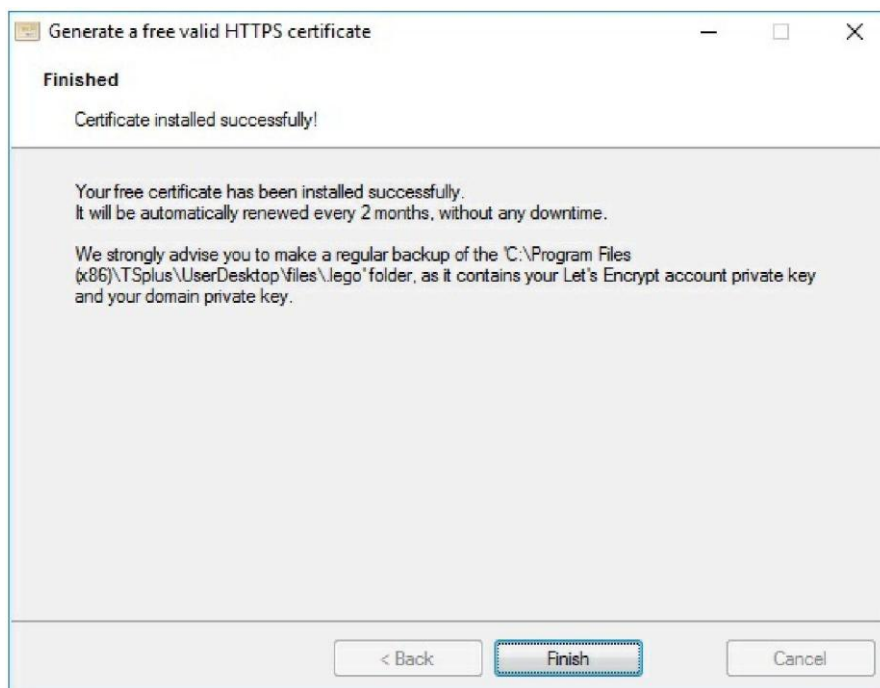
サービス利用規約に従って、必要な場合にのみお客様にご連絡いたします。



有効なメールアドレスとサーバのパブリックドメイン名を入力し、「Generate a free valid HTTPS certificate」ボタンをクリックします。

ドメイン名は、gateway.your-company.com のような、インターネットからアクセス可能なパブリックドメイン名です。別のドメイン名またはサブドメイン名をカンマで区切って入力することもできます。例：“server1.example.com,www.server1example.com”

証明書はこのドメイン名に対して生成され、このドメイン名でホストされている Web ページでのみ有効になります。ユーザが `https://server1.example.com:1234` を使用して Web Portal に接続する場合は、次のように入力する必要があります。"server1.example.com"



TSMagic 無償証明書マネージャーはすべてのデータを使用して Let's Encrypt に接続し、入力したドメイン名を本当に所有していることを検証し、一致する有効な証明書を取得します。

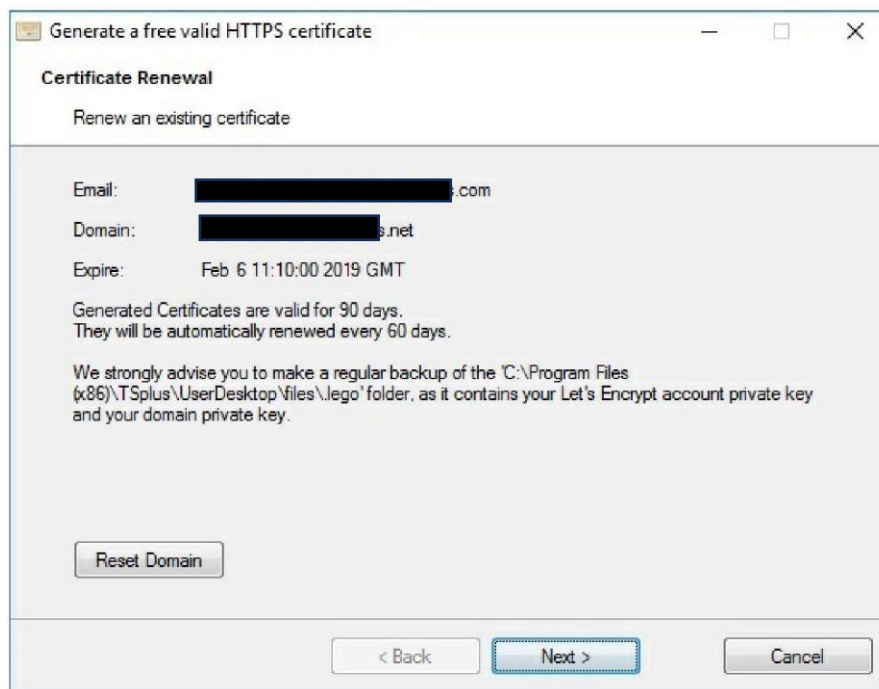
プログラムが証明書を受け取ると、必要なすべてのファイル形式変換を自動的に処理し、新しい証明書をすべての新しい接続に適用するために TSMagic ビルトイン Web サーバをリロードします。Web サーバは再起動されず、接続は停止されません。

証明書の更新

Let's Encrypt 証明書は 90 日間有効です。

TSMagic は、安全のために 60 日ごとに証明書を自動的に更新します。Windows サーバを再起動するたびにチェックが行われ、その後 24 時間ごとにチェックが行われます。

無償証明書マネージャーツールを開いて、手動で証明書を更新できます。以下のスクリーンショットに示すように、証明書のドメイン名と有効期限が表示されます。



証明書を手動で書き換えるには、「Next」ボタンをクリックします。

このウィンドウの「Reset Domain」ボタンをクリックすると、SSL 証明書が削除され、証明書マネージャを使用する前の状態に Web サーバが再設定されます。

ベストプラクティス

エラーが発生しない場合、TSMagic は 60 日ごとに証明書を自動的に更新します。60~70 日ごとに、証明書が自動的に更新されたことを確認することをお勧めします。

また、少なくとも毎月、次のフォルダとそのサブフォルダをバックアップすることをお勧めします。

C:\Program Files (x86)\TSMagic\UserDesktop\files\lego

これは、Let's Encrypt アカountの秘密キーと証明書のキーペアを含む内部フォルダです。

トラブルシューティング

エラーが発生した場合は、サポートに連絡し、次のログファイルをメールで送信してください。

```
C:¥Program Files (x86)¥Tsmagic¥UserDesktop¥files¥.lego¥logs¥cli.log
```

このログファイル(同じフォルダ内の他のログファイル)は、サポートチームが問題を調査して理解を深めるのに役立ちます。

以前に使用した証明書を復元する場合は、次のフォルダに移動します。

```
C:¥Program Files (x86)¥Tsmagic¥Clients¥webserver
```

このファイルには、使用されるすべての「cert.jks」ファイルが含まれます。これらは「キーストア」ファイルであり、削除することはなく、無効にする日時のみを変更します。

エラーコード

エラー801：無償証明書マネージャーは Let's Encrypt アカウントを登録できませんでした。インターネット接続を確認してください。Let's Encrypt でメールがまだ登録されていないことを確認してください。別のメールアドレスでもう一度お試しください。

エラー802 およびエラー803：無償証明書マネージャーは、Let's Encrypt の利用規約の URL アドレスを取得できませんでした。これは非ブロッキングエラーです。引き続き、Let's Encrypt 利用規約に同意して受け入れることができます。もちろん、最初にブラウザから必ず読んでください。

エラー804：無償証明書マネージャーは、Let's Encrypt サーバを使用して Let's Encrypt サービス利用規約への同意を検証できませんでした。インターネット接続を確認してください。再試行してください。

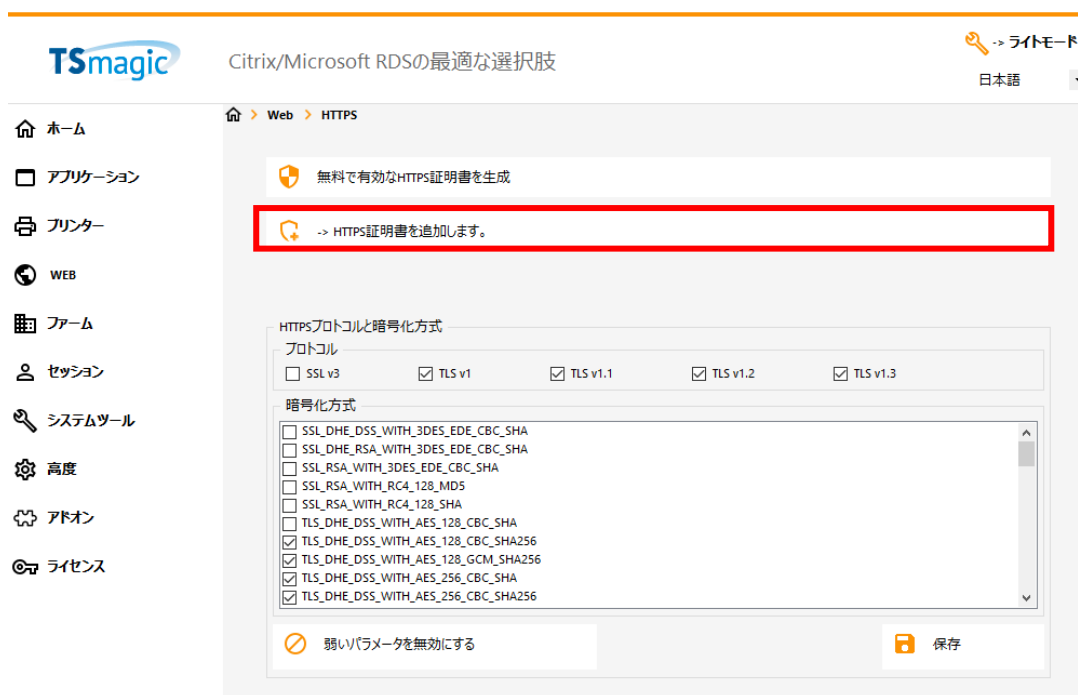
エラー805 およびエラー806：無償証明書マネージャーは、証明書の作成（エラー805）または証明書の更新（エラー806）時に入力したドメインを所有していることを検証できませんでした。すべての前提条件を再度確認します。インターネット接続を確認してください。Web サーバがポート 80 でリッスンしていることを確認してください。IIS や Apache などのサードパーティ Web サーバを使用していないことを確認してください。ドメイン名がパブリックインターネットからアクセス可能であることを確認してください。

HTTPS と SSL サードパーティ証明書

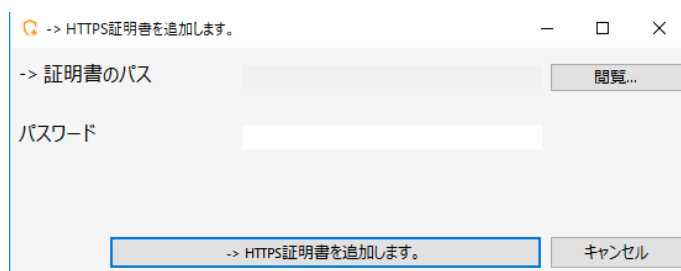
独自の証明書を追加する

既に有効な SSL 証明書を持っている場合には、それを Web サーバに追加できます。

Tsmagic AdminTool を開き、[Web – HTTPS] タブをクリックし、「HTTPS 証明書を追加します」をクリックします。



証明書を選択できるウィンドウが開きます。



証明書ファイルは「.pfx」形式である必要があります。

証明書がパスワードで保護されている場合は、パスワード欄に入力できます。

「HTTPS 証明書を追加します」ボタンをクリックして証明書を追加します。

証明書の更新は手動で行う必要があります。

セキュリティを強化する暗号スイートの選択

概要

HTTPS の背後にあるセキュリティである TLS / SSL は、いくつかの異なるアルゴリズムを使用して、接続の保護、暗号化、および認証を行うことができます。

使用するアルゴリズムの選択は、サーバとクライアントそれぞれで使用可能なアルゴリズムに応じ、サーバとクライアントとの合意によって決定されます。

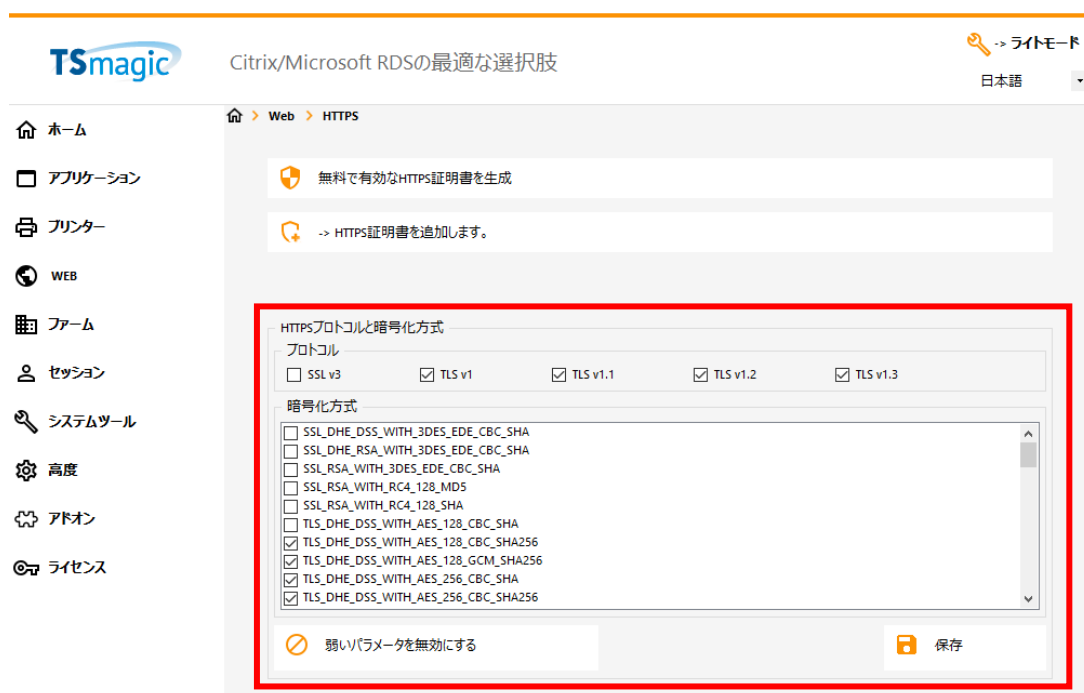
暗号スイートは、認証、暗号化、メッセージ認証、および鍵交換アルゴリズムの名前付きの組み合わせです。

TSMagic サーバは、様々な暗号スイート进行处理できます。一部のブラウザは他のものよりも安全ですが、古いブラウザやレガシーブラウザの中には、接続に比較的弱いアルゴリズムが必要なものもあります。

これが、TSMagic が有効にする暗号スイートを選択できる理由です。もちろん、TSMagic には最も弱いアルゴリズムを無効にする簡単な設定もあり、接続のセキュリティを強化します。

HTTPS プロトコルと暗号の選択

TSMagic の暗号の選択を確認するには、AdminTool を開き、「Web-HTTPS」タブをクリックします。



暗号スイートの有効化/無効化

チェックボックスをオンにすると暗号スイートを簡単に有効にでき、オフにすると暗号スイートを無効にできます。選択が完了したら、「保存」をクリックします。

これにより、選択内容が保存され、TSMagic 組み込み Web サーバに新しい設定が再ロードされます。新しい暗号スイートの選択は、サーバへの新しい接続ごとに即座に適用されます。

推奨される暗号スイートの選択

ほとんどの管理者には、「弱いパラメータを無効にする」ボタンをクリックしてから「保存」ボタンをクリックし、推奨の暗号スイートを使用することをお勧めします。

この動作は、現在脆弱であることが知られているすべての暗号スイートを無効にします。

iPhone/iPad/Android デバイスからのリモート接続

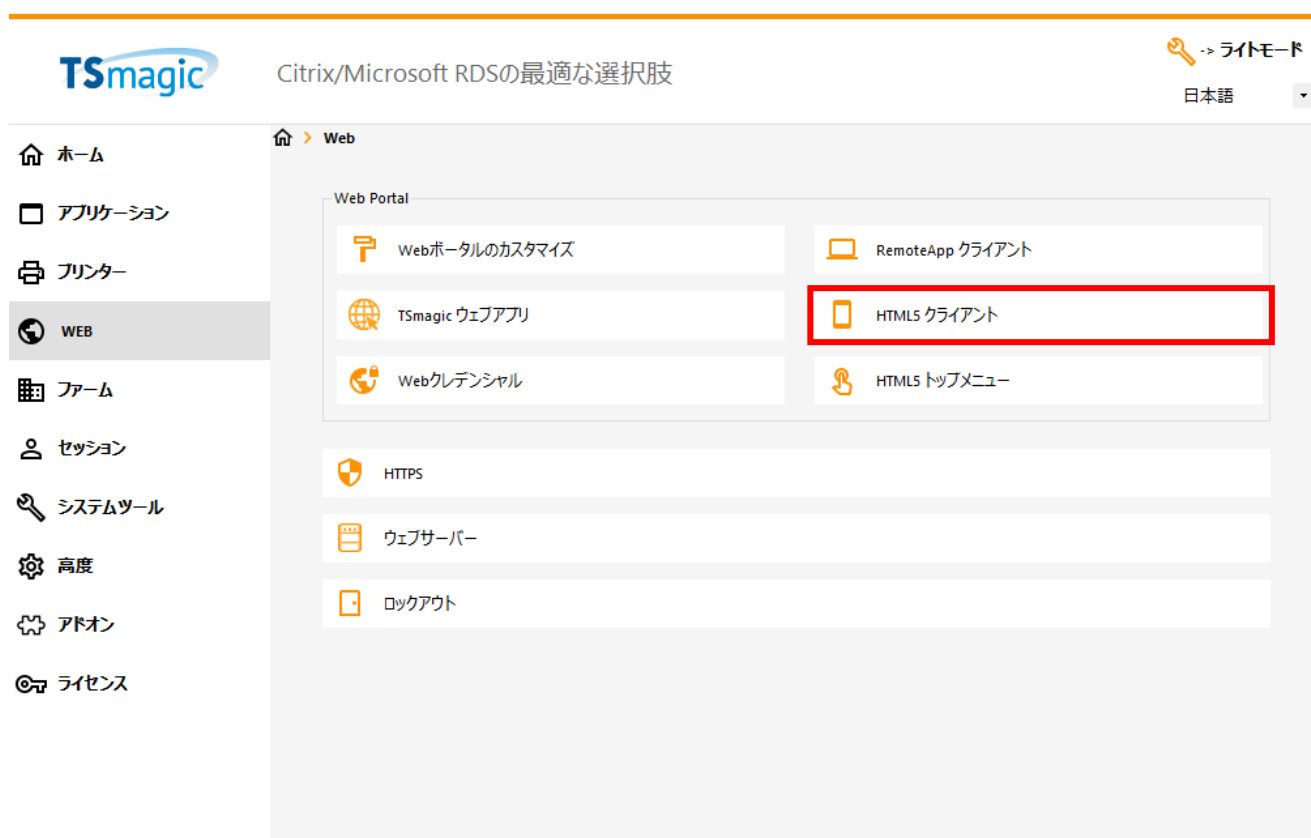
以下の HTML5 テクノロジーをサポートするモバイルデバイスから、任意のブラウザで TSMagic サーバに接続できます

- iPhone
- iPad
- Android スマートフォン
- Android タブレット

モバイルデバイス環境設定の編集

TSMagic HTML5 クライアントは、スマートフォンやタブレットからでも可能な限り最高のユーザエクスペリエンスを提供できるようになっております。キーボードは、入力フィールド上にフォーカスがあると自動的にポップアップします。マウスポインタは、スマートフォンの左または下の境界に配置されている場合でも、ボタンやフィールドを簡単に選択できます。

[WEB] タブの [HTML5 クライアント] タイルでは、モバイルデバイスまたはコンピュータ用にさまざまな HTML5 設定を設定できます。





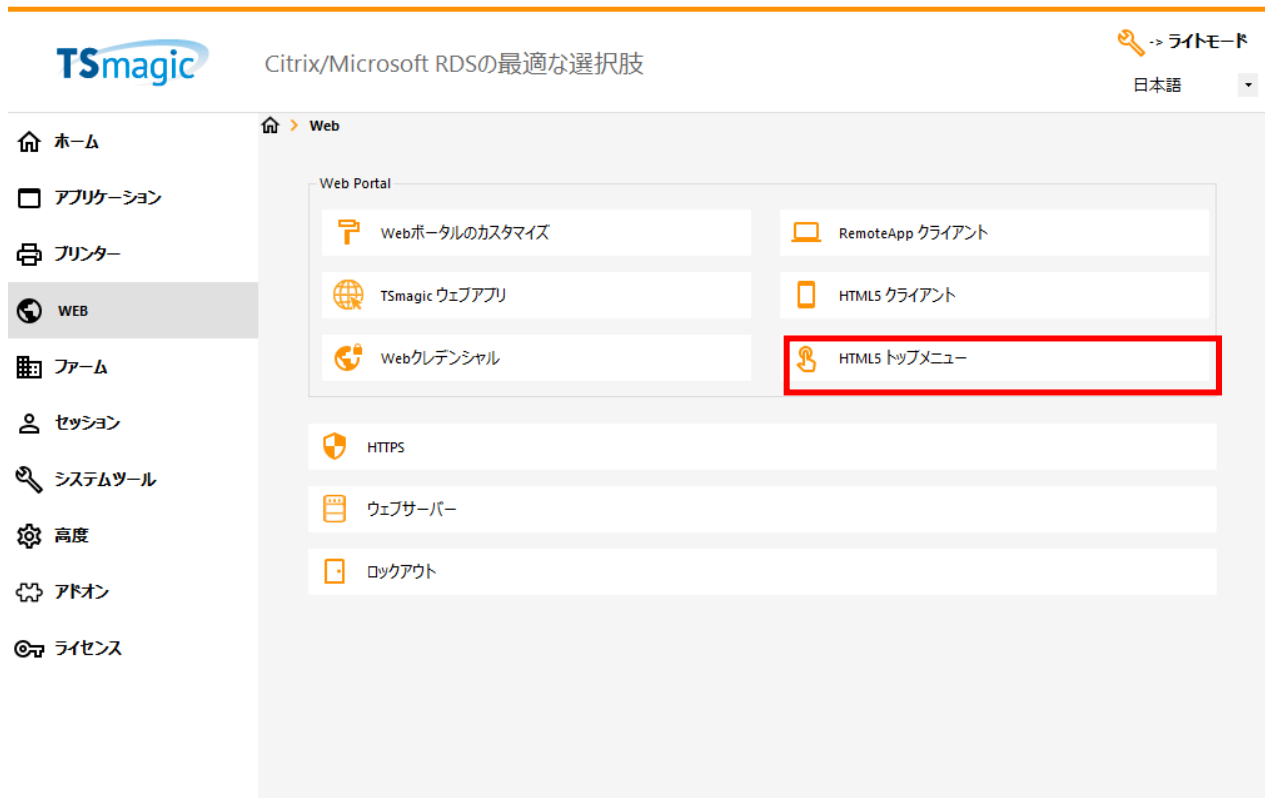
- すべてのデバイスとコンピュータ、またはモバイルデバイスでのみメニューバーを表示します。
- ファイル転送を有効または無効にします。
- 特定のタイプのデバイスで、[Ctrl]+[Alt]+[Del] ショートカットを使用できます。
- トップメニューの表示を透明と無地から選択します。
- グラフィックのカラービットの数
- 接続タイムアウト：クライアントの再接続を待機している間、セッションがアクティブなままになる時間の指定。0 を指定した場合はタイムアウトなし。
- 警告メッセージを表示または非表示にします。
- サウンドを有効または無効にします。
- 好きな背景色を選択できます。
- 背景にロゴを追加できます。
- ログオン画面メッセージとアニメーション GIF、およびその表示時間をミリ秒単位で変更します。

スマートフォンとタブレットの環境設定:

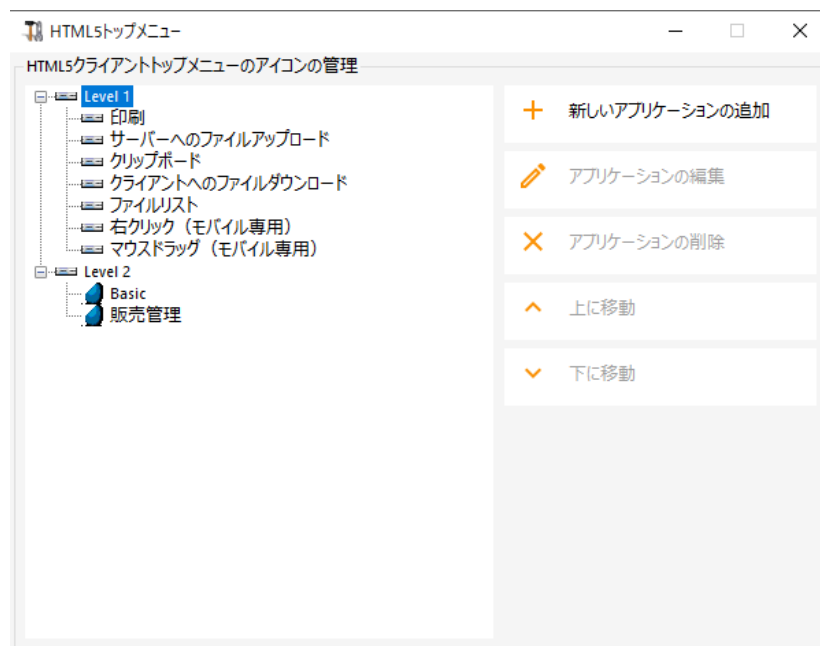
- 管理者がソフトウェアキーボードを使用している場合、入力フィールドが非表示になっていると、アプリケーションは上に移動し、ユーザは入力内容を見ることができます。
- 管理者は、マウスポインターのサイズを小、中、または大から選択することも、マウスポインターをまったく選択しないこともできます。これにより、ユーザはアプリケーションを直感的に操作できます。
- マウスとキーボードの透明度のレベルを選択することもできます。

HTML5 トップメニューを編集する

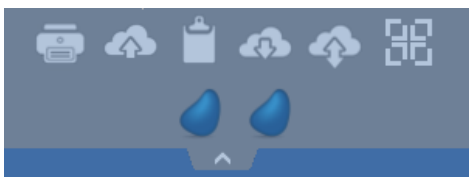
「HTML5 トップメニュー」タブでは、HTML5 のトップメニューの第 1 レベルまたは第 2 レベルに表示されるアプリケーションを追加することができます。



次の例では、Level1 で印刷、ファイル転送、クリップボードなどの HTML5 機能が統合されています。
レベル 2 で Basic、販売管理が公開されます



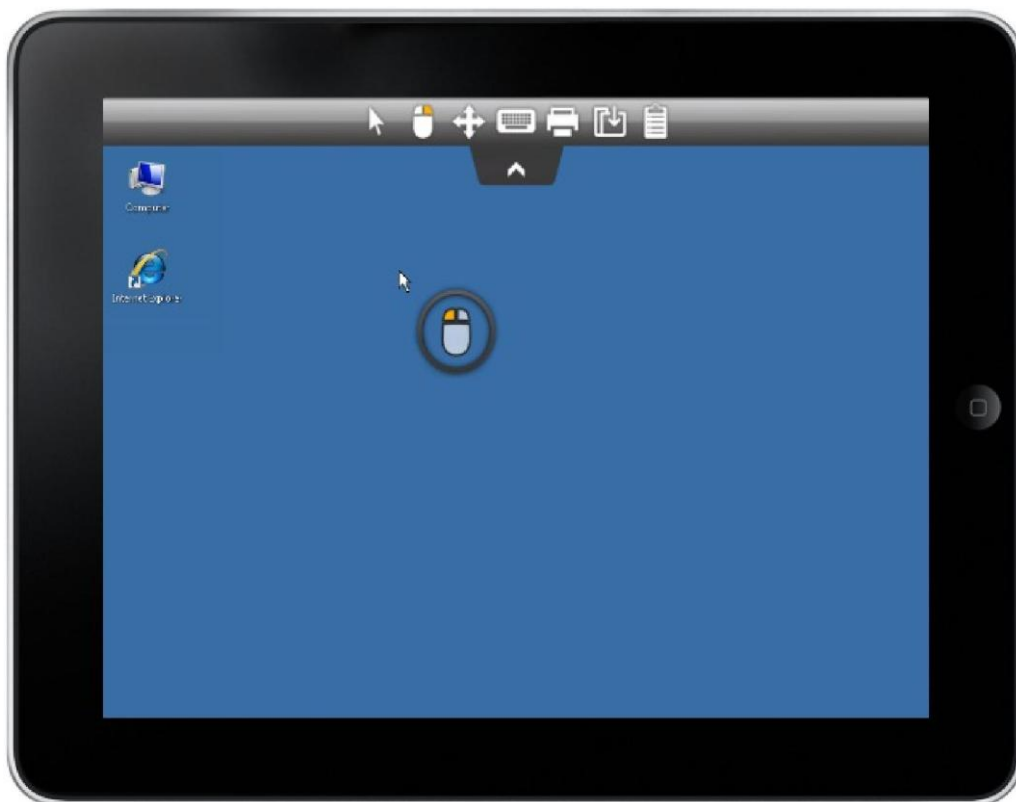
HTML5 セッションのトップメニューに表示されます。



注意：トップメニューにはアプリケーションタイトルは表示されず、アイコンのみの表示となります。（公開アプリケーションのアイコンを変更することはできません。）

さらに、右上のアイコンをクリックすると、セッションを全画面表示に切り替えることができます。

TSMagic ビルトイン HTML5 クライアントは、ユーザにタブレットとモバイルデバイスのまったく新しいメニューを提供します。この新しいメニューでは、モバイルキーボードと右クリックに簡単にアクセスできますが、ファイル共有や独自のユニバーサル印刷機能も利用できます



言語の選択

トップメニューの右側にある言語ボタンで言語を変更できます。



このメニューでは、特定の国の言語を選択できます

	Language	Locale	Value
<input type="radio"/>	Portal	as_portal	
<input type="radio"/>	Browser	as_browser	
<input type="radio"/>	Gateway	as_gateway	
<input type="radio"/>	Arabic	ar_ar	1025
<input type="radio"/>	Belarusian	be_be	1059
<input type="radio"/>	Bulgarian	bg_bg	1026
<input type="radio"/>	Bengali	bn_bn	1093
<input type="radio"/>	Bosnian (Cyrillic)	bs_cyrl_ba	8218
<input type="radio"/>	Bosnian (Latin)	bs_latn_ba	5146
<input type="radio"/>	Catalan	ca_ca	1027
<input type="radio"/>	Czech	cs_cs	1029
<input type="radio"/>		cs_cz	1029
<input type="radio"/>	Welsh	cy_gb	1106
<input type="radio"/>	Danish	da_da	1030
<input type="radio"/>		da_dk	1030
<input type="radio"/>	German (Swiss)	de_ch	2055
<input type="radio"/>	German	de_de	1031
<input type="radio"/>	Divehi	dv_dv	1125
<input type="radio"/>	Greek	el_el	1032
<input type="radio"/>		el_gr	1032
<input type="radio"/>	English (Canada)	en_ca	4105

HTML5 クライアント:サポートされているブラウザ

TSMagic でサポートするブラウザは以下のブラウザです

Websocket と Canvas をサポートするブラウザ

ブラウザ	Canvas	Websocket
Chrome	フル	フル
Microsoft Edge	フル	フル
Android 標準ブラウザ	フル	XHR
Mobile Safari	フル	フル

ブラウザが自動的にページを HTTPS アドレスに再読込する場合

これは、Websockets トランスポートがサポートされていないことを意味します。これはいくつかの Android ネイティブモバイルブラウザ上で発生します。これは、ブラウザが自動的に XHR トランスポートに切り替わるためです。

しかし、このトランスポート層は HTTP プロトコルを使用して長距離を伝送するため、要求ごとに新しい接続が作成されます。新しい接続を作成するのは非常に遅く不安定であるため(毎秒最大 20 の新規接続)、この不安定さを回避するために、ページが自動的に HTTPS アドレスにリロードされ HTTPS 接続が強制されるようにプログラムが考えられています。

物理的には、ほとんどの場合、セキュアな接続が維持され、長距離での安定性も向上します。そのため、ブラウザのロジックは、HTTP プロトコルを使用する場合のように新しい接続を作成する代わりに、すでに確立されている SSL 接続を再利用します。

「Clients¥www¥software¥html5¥settings.js」ファイルの以下のオプションで無効にすることができます

```
foresslforxhr = false;
```

ただし、XHR モードで SSL の使用を無効にすることは絶対にお勧めしません。

HTML5 クライアント:モバイルデバイスでのジェスチャの使用(タッチ)

スクリーン領域を使用:

1. 画面上での簡単なタッチ=タッチした位置にマウスを移動し、マウスの左クリック
2. 画面上の高速ダブルタップ=タッチ位置へのマウス移動と左マウスダブルクリック
3. 画面上で 1 秒間タッチしたままにする=マウスをタッチ位置に移動し、マウスを右クリック
4. カーソル領域外をタッチして移動する=表示されているセッションフレームをスクロールする(これはブラウザ固有の動作で、特にピンチズーム後にスクロールします。)
5. カーソルエリアをタッチして移動=マウスカーソルのみ移動
6. カーソル領域内をダブルタップして移動=マウスの左ボタンを押してマウスを移動ウィンドウの移動、要素の移動、サイズ変更役に役立ちます。
7. 画面をダブルタップ(カーソル領域の外側)して、指で下/上に移動=中マウススクロールページのスクロールや PDF ファイルの表示に便利です。
8. 二本指でピンチズーム=RDP セッションフレームをズーム(これはネイティブブラウザの動作です。)

マウスパッド領域の使用-マウスパッドの中央にある追加機能:

1. 中央での簡単なタッチ=左マウスクリック
2. 中央でダブルタップ=左マウスダブルクリック
3. 中央でのタッチと移動=マウスの移動とマウスパッドの移動
4. 1 秒間タッチしたままにする=マウスの右クリック

キーボードモード:

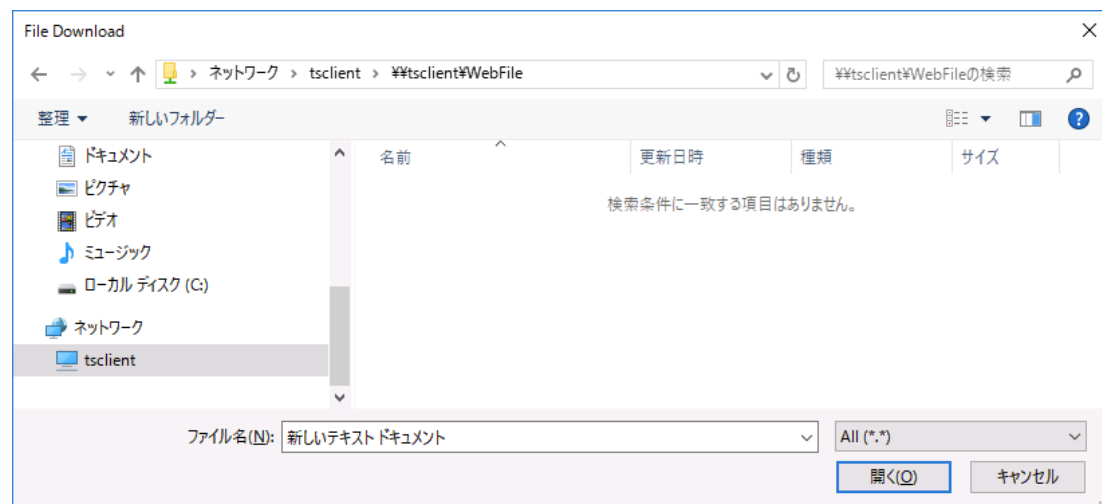
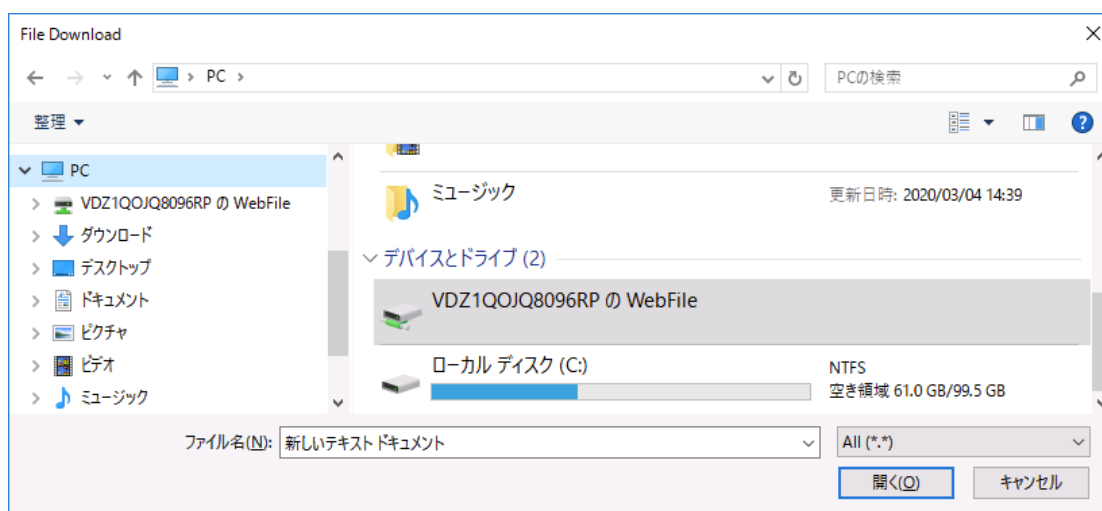
1. 画面上での簡単なタッチ=フォーカスが失われ、キーボードが無効になりますが(これはネイティブブラウザの動作です)、これによりマウスの移動と左マウスクリックが発生します。
2. 高速ダブルタップ=マウスの移動と左マウスクリック(キーボードの無効化なし)カーソルの位置を変更し、別の文字にフォーカスを設定して、キーボードモードで同時に待機する場合に便利です。
3. +上記のマウスパッドの機能

HTML5 クライアント:ファイル転送の使用

ファイル転送にはトップメニューを使用します。

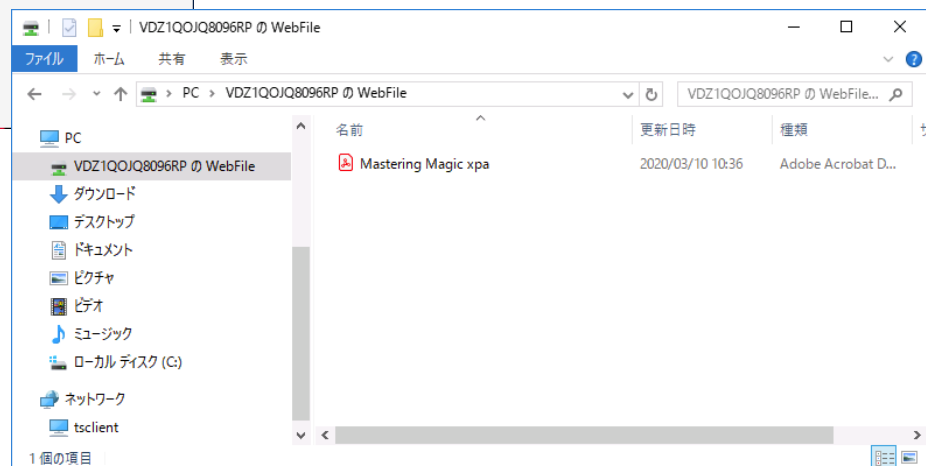
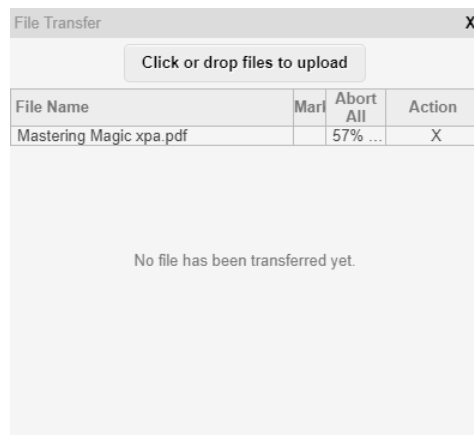
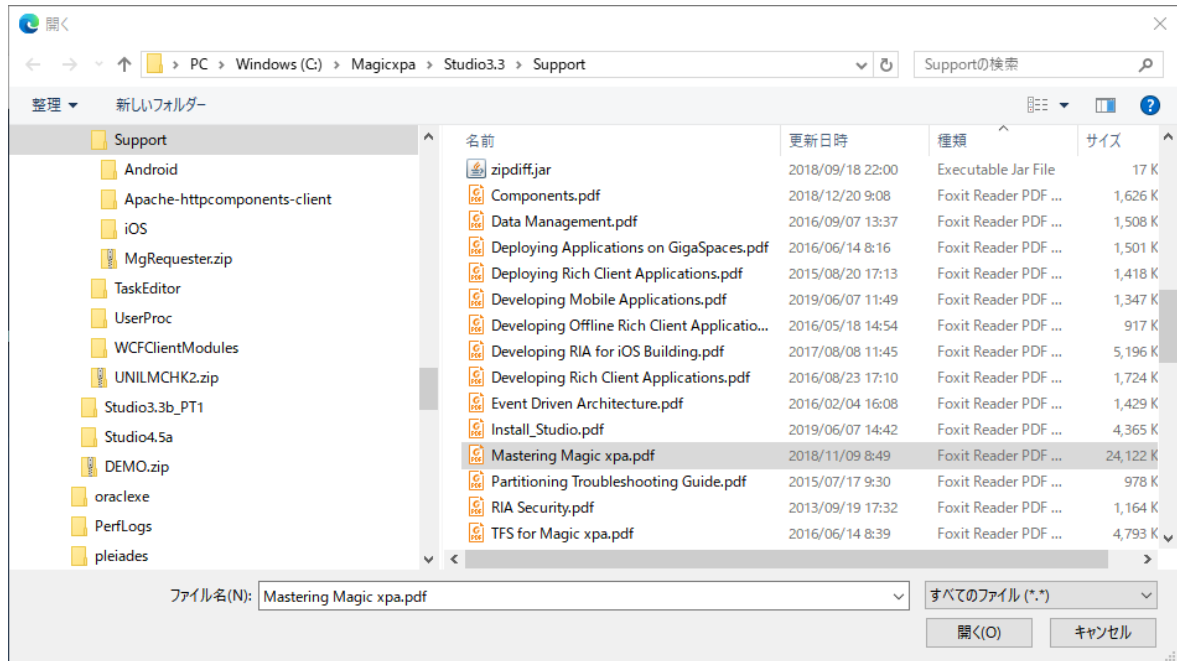


実際の RDP セッションとは異なり、ブラウザではハードドライブに直接アクセスできないため、ファイル転送はエミュレートされます。ゲートウェイのサブフォルダは、WebFile デバイスとして RDP セッションにマウントされます。RDP セッション内では、Explorer で「WebFile」をクリックするか、「¥¥tsclient¥WebFile」を直接呼び出すことにより Explorer からアクセスできます

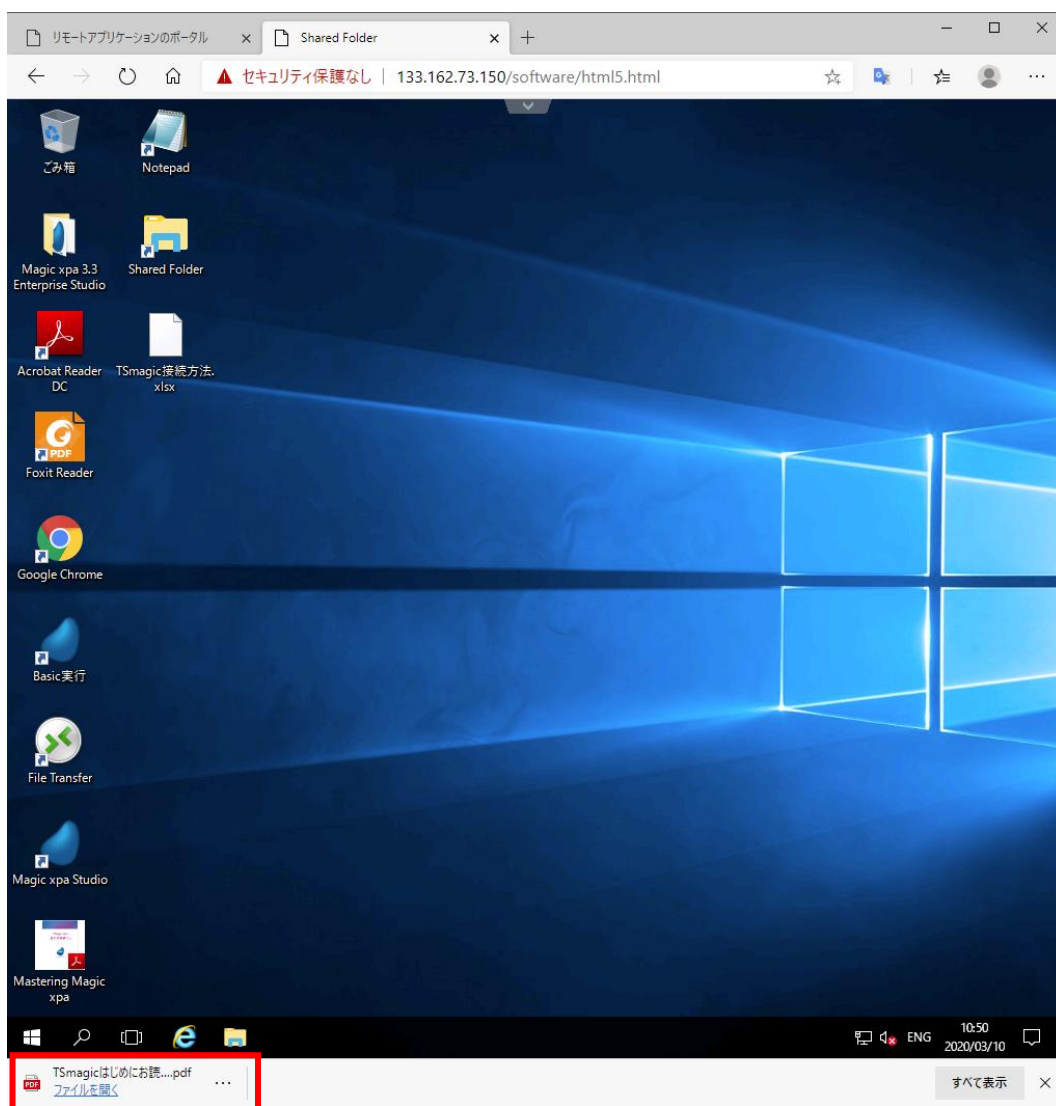
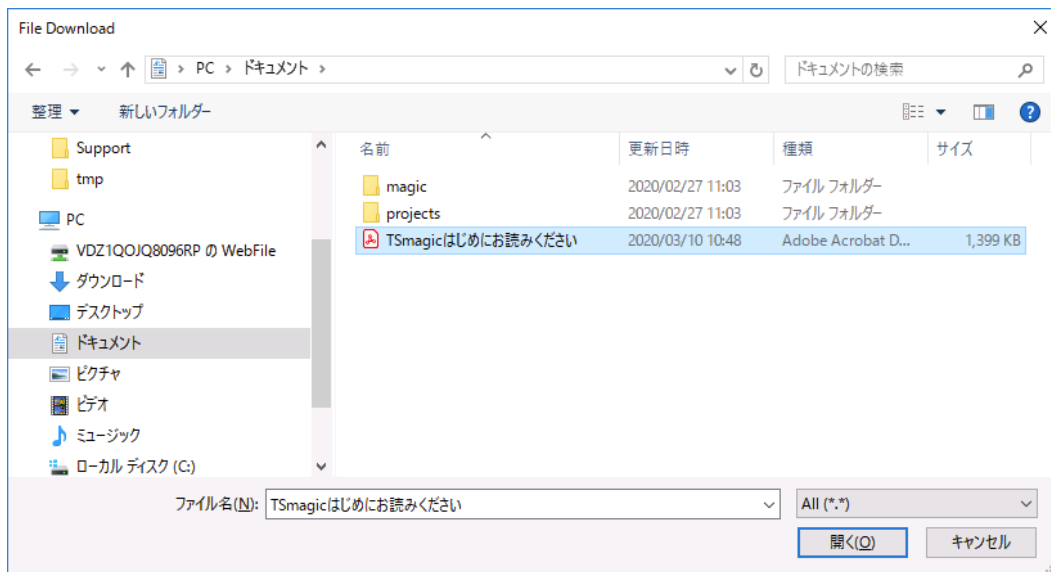


ファイルを転送するには、次の3つの方法があります。

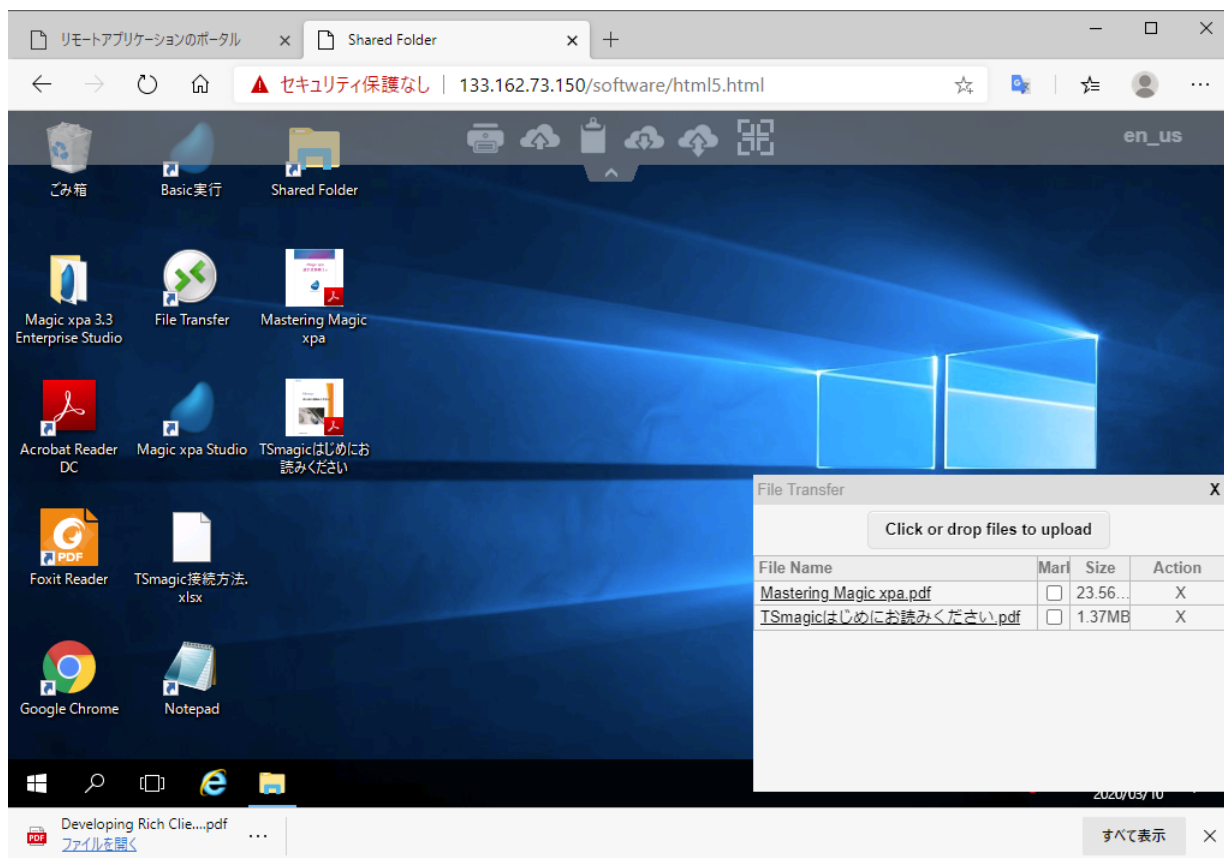
- ローカルコンピュータからサーバ :



- サーバからローカルコンピュータ :

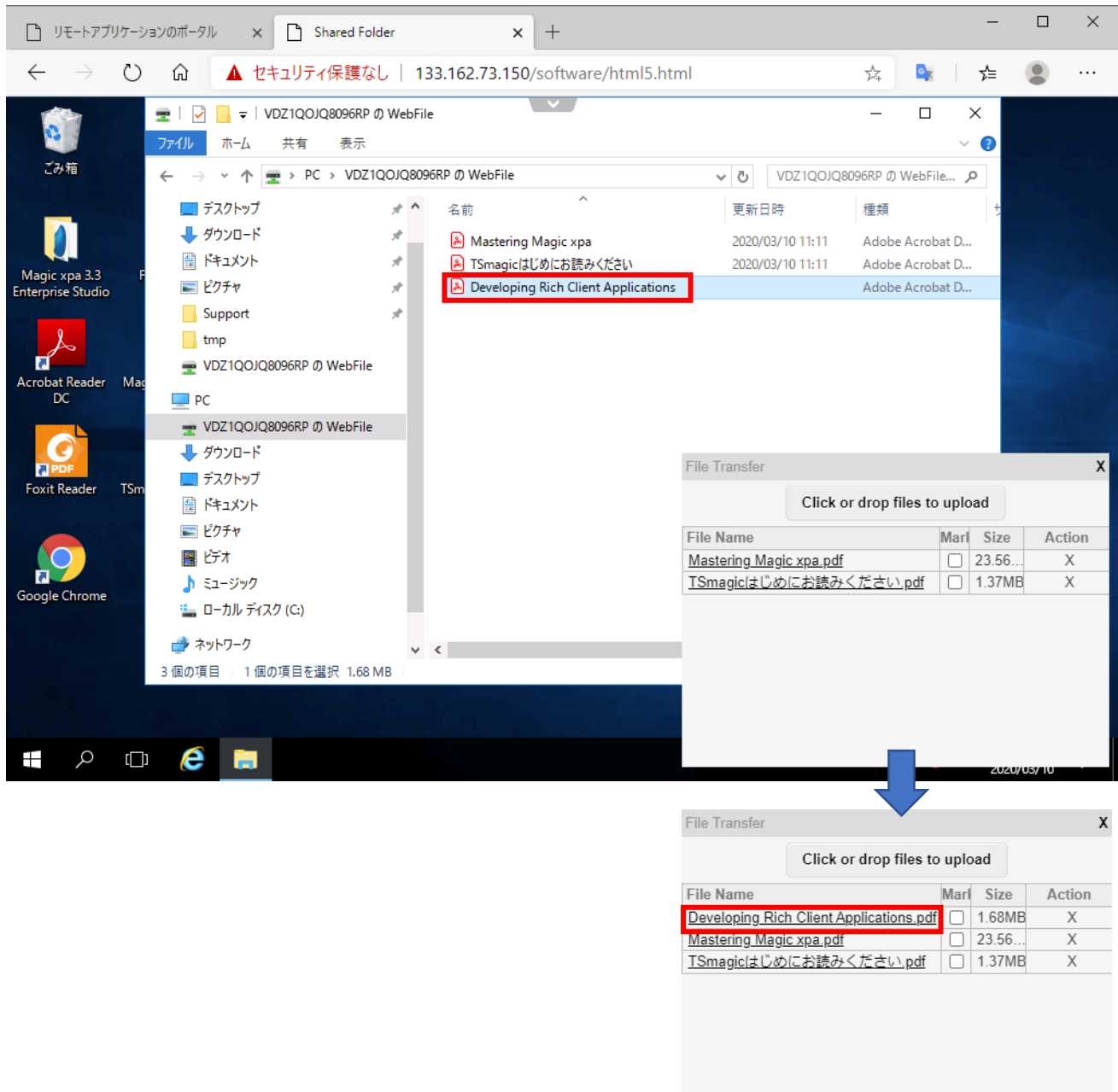


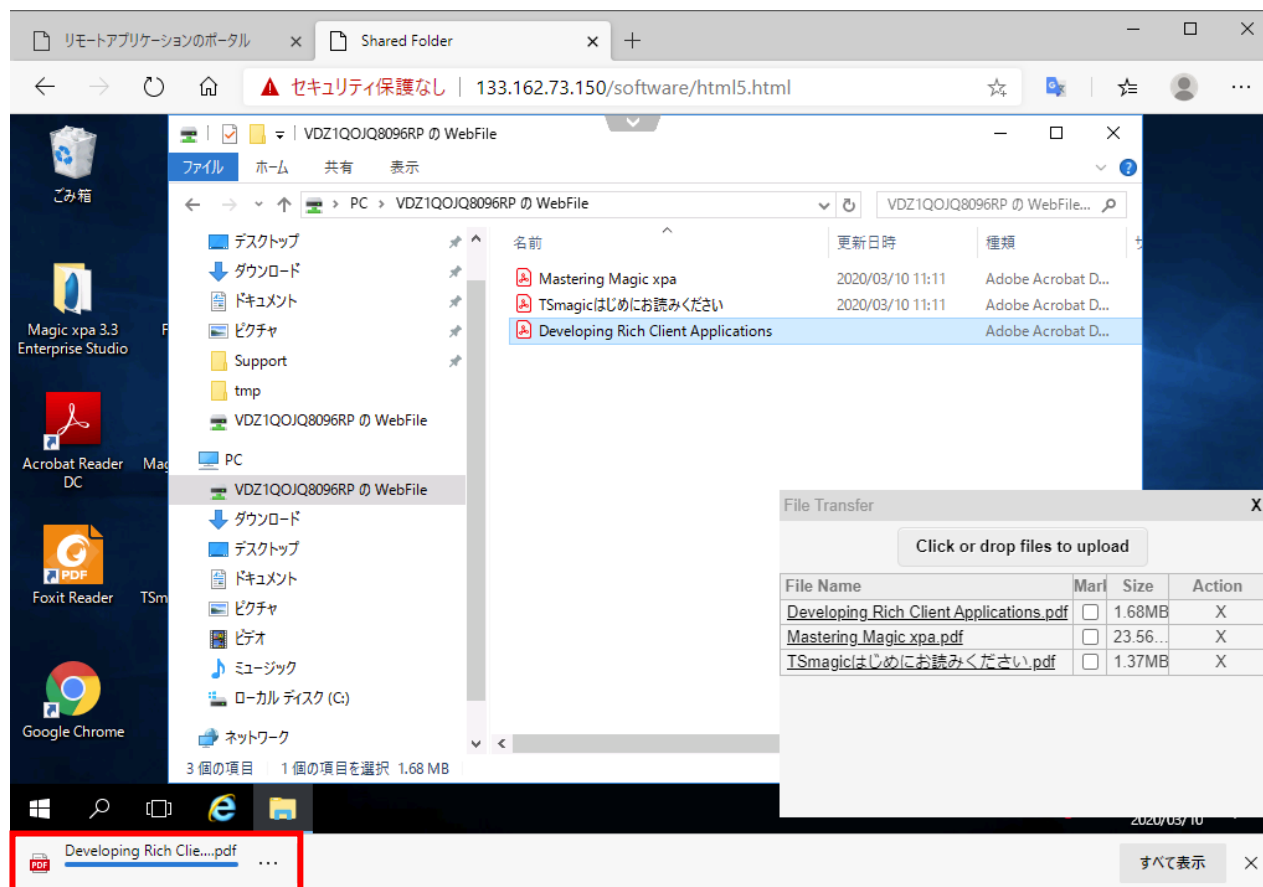
- 転送されたファイルの履歴を使用して、ローカルコンピュータからサーバにファイルを転送できるファイルマネージャ。:



ブラウザ側では、ファイルはブラウザのリストメニュー内に表示されます。アクションメニューまたは Shift+F12 で開くことができます。

エクスプローラを使用してファイルを WebFile フォルダにコピーすると、WebFile フォルダに新しいファイルを作成するイベントが自動的にトリガされ、ブラウザのメニューが自動的に開いて更新され、新しいファイルが表示されます。





カスタム・フォルダを使用する場合は、このフォルダがクライアント側およびサーバ側に存在することを確認します。アップロード/ダウンロード先フォルダは、管理ツールの[WEB]タブにある[Web ポータルのカスタマイズ]のファイル転送で設定できます。

デフォルトでは、ファイルの転送に Explorer が使用されます。また、「TSMagic GUI」をチェックして、サーバからクライアントにファイルを直接ダウンロードし、webfile フォルダにファイルをコピーすることもできます。

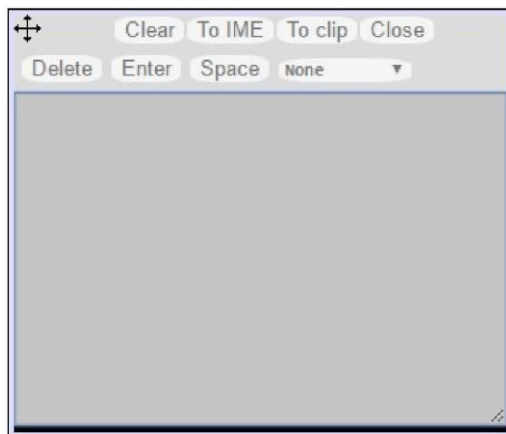


HTML5 クライアント:クリップボードの使用

クリップボードは HTML5 のトップメニューに次のアイコンで表示されます。



古い Microsoft 社 IE ブラウザを除くほとんどのブラウザは、セキュリティ上の理由から、クリップボードへの直接読み込みと直接書き込みをサポートしていません。



セッションからクリップボードにテキストをコピーするには Ctrl+C を使用し、クリップボードからテキストを挿入するには Ctrl+V を使用します。

ただし、Ctrl+C を使用してテキストをコピーする場合は、押した Ctrl+C ボタンを離す前にしばらく待ってください。このキーの組み合わせを放した後に要求されたクリップボードテキストが届くと、そのテキストは環境クリップボードに追加されません。この方法では、Ctrl+C で開始されたネイティブブラウザのクリップボードコピーサポートが使用されます。

または、クリップボードメニューを使用して、RDP セッションクリップボードからテキストをコピーしたり、RDP セッションクリップボードにテキストを挿入したりできます。

ここでは、RDP セッションのクリップボードにテキストを挿入するか、クリップボードに追加して、RDP セッション側で Ctrl+C を自動的に起動してテキストを挿入することができます。クリップボードメニューは、アクションメニューまたは Shift+F11 を使用して開くことができます。

- RDP セッション内でマウスを使用してクリップボードをコピーすると、テキストがブラウザに送信され、ブラウザのフォーカスが解除されるとすぐに、クリップボードメニューが自動的に表示され、クリップボードテキストが存在することと、クリップボード環境に追加していないことが通知されます。

この動作を回避するには、「C:\Program Files(x86)\TSMagic\Clients\www\software\html5\settings.js」ファイルに以下を設定します。:

```
openonclipblur = false;
```

HTML5 サーバのメモリ使用量

Tsmagic HTML5 サーバは JAVA 上で動作します。JAVA がどのようにメモリを処理するかを理解すると、Tsmagic HTML5 サーバのメモリ使用状況を理解するのに役立ちます。

割り当てられたメモリ

Java は、実行時にコンピュータの物理メモリの 25% を割り当てようとします。このメモリは「割り当て済み」ですが、直接使用されるわけではありません。Windows タスクマネージャに表示される実際のメモリ使用量ではありません。

JAVA プラットフォーム:32 ビットと 64 ビット

この 2 つのプラットフォームには、1 つの大きな違いがあります。

- JAVA32 ビットは、定義上、4GB を超える RAM を処理できません。使用可能な全メモリの 25% が割り当てられるため、4GB の物理メモリがあると仮定すると、最大で 1GB が割り当てられます。2GB の物理メモリしかない場合は、500MB だけが割り当てられます。
- JAVA64 ビットは 4GB 以上の容量(理論上は最大 16 エクサバイト)を処理できるため、割り当てられるメモリは物理メモリのみに依存します。

JAVA メモリ管理

JAVA は「仮想マシン」です。つまり、JAVA が独自にメモリ管理を行うということです。JAVA がメモリを割り当てた後は、それが不要になっても、自動的にシステムに戻すことはありません。メモリの割り当てと割り当て解除は CPU 負荷の高いタスクであるため、これはパフォーマンス上の理由によるものです。

JAVA は通常、使用されていない大量のメモリがシステムに戻されるまで待ちます。この大きなチャンクのサイズは、コンピュータの物理メモリのサイズに直接依存します。コンピュータ上の物理メモリが多いほど、JAVA によって割り当てられるメモリも多くなります。

Tsmagic HTML5 サーバのメモリ使用量

これらの技術的な詳細は、Windows タスクマネージャを開き、Tsmagic HTML5 サーバが多くのメモリを使用する、または JAVA32 ビットが JAVA64 ビットより少ないメモリを使用すると考える理由です。

実際、Tsmagic HTML5 サーバによって実際に使用されるメモリは、開いている HTML5 セッションの数に直接関係しています。コンピュータ上の使用可能なメモリが多いほど、より多くの HTML5 セッションを開くことができます。

HTML5 セッションメモリ使用量

HTML5 セッションが使用するメモリは、ユーザのアクティビティ(使用するアプリケーションとプログラム)と、Tsmagic HTML5 サーバとクライアントコンピュータの間で確立された接続方法に依存します。

一般的な使用例では、HTML5 セッションは 30MB のメモリ(標準的な用途の場合)を使用します。

ファーム機能

概要

TSMagic ファーム機能の目的は、管理者がすべての TSMagic サーバを 1 台のサーバから管理できるようにすることです。このサーバは**ファームコントローラ**と呼ばれます。

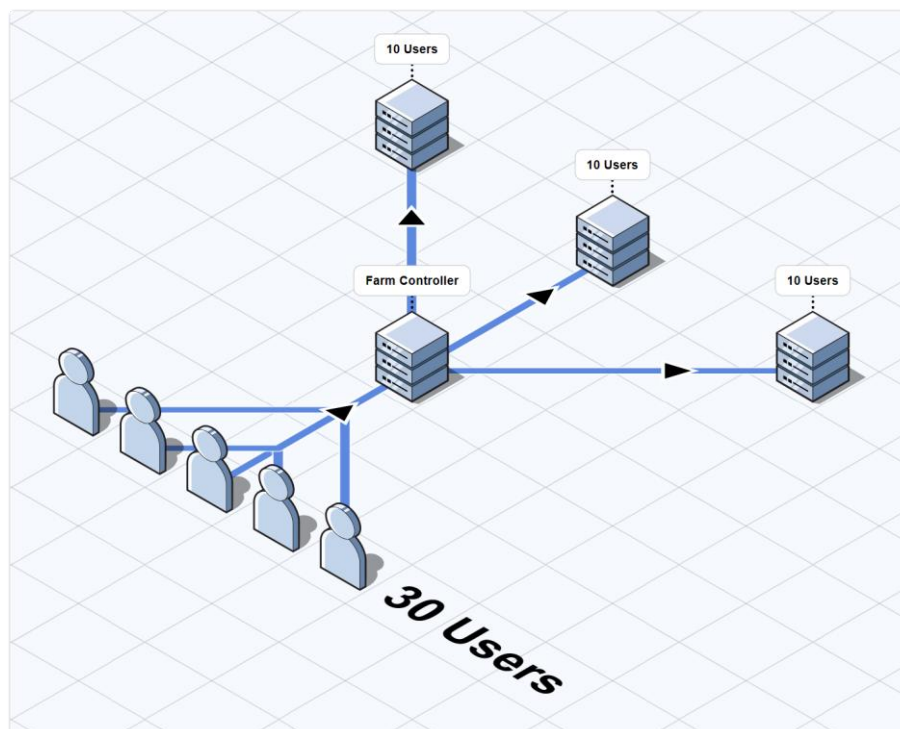
ファーム内の TSMagic サーバは、**アプリケーションサーバ** または単にサーバと呼ばれます。

ファームコントローラは、そのファームにアプリケーションサーバが配置され、次のファーム機能のいずれかを有効にすると、ゲートウェイサーバにもなります。

- 負荷分散
- リバースプロキシ
- サーバの割り当て

このゲートウェイサーバは、「ロードバランス」または「サーバの割り当て」が有効になっている場合、基本的に全てのユーザのメインエントリポイントになります。

このファームコントローラを使用すると、任意のアプリケーションサーバを監視し、アプリケーションや詳細設定などの TSMagic 関連の設定をファームコントローラからアプリケーションサーバにプッシュすることができます。



TSMagic ファームのサーバアーキテクチャ

TSMagic サーバファームを展開するには、2つのオプションがあります。

オプション 1：すべてのサーバにパブリック IP アドレスがあり、インターネットからアクセスできます。

オプション 2：インターネットからはゲートウェイ ポータルのみからアクセスできます。ゲートウェイサーバは「リバースプロキシの役割」を提供します。

どちらのオプションであっても：

- すべてのサーバに同じ TSMagic 構成があります。
- すべてのサーバに同じ HTTP/HTTPS ポートがあります。
- 新しいアプリケーションを公開するには、AdminTool でユーザ/ユーザグループに追加します。

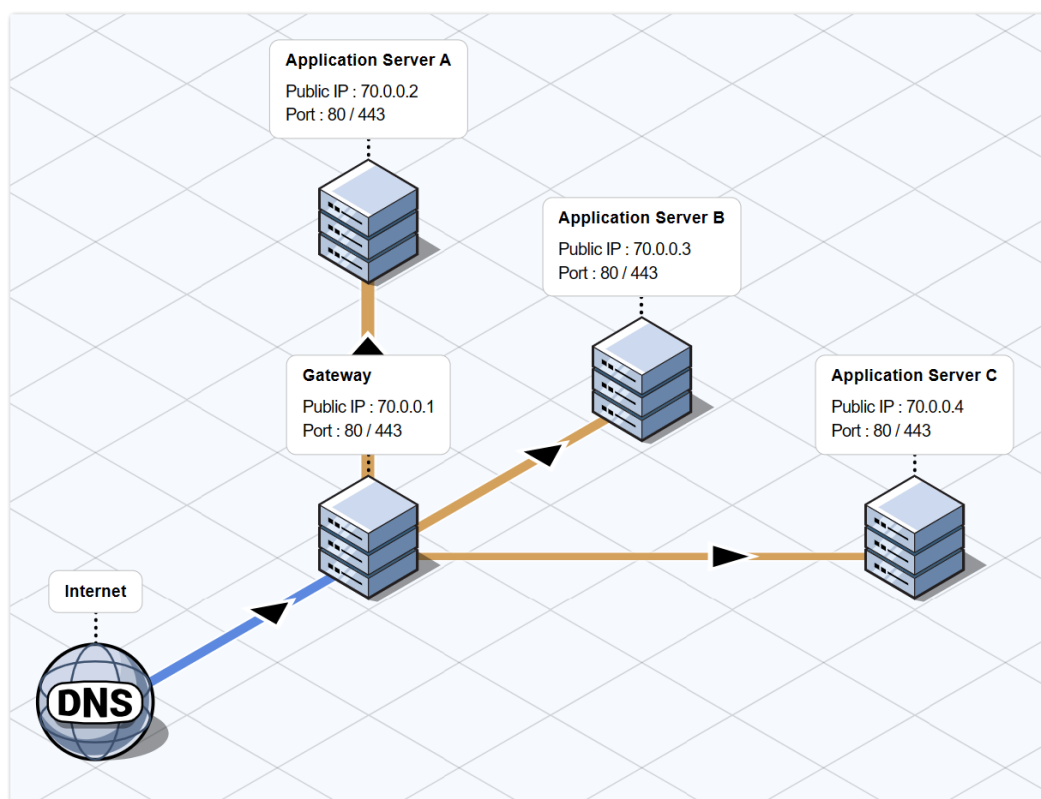
オプション 1-すべてのサーバに独自のパブリック IP アドレスがあり、インターネットからアクセスできます。

これは、TSMagic ゲートウェイを使用するために推奨されるアーキテクチャです。

- すべてのサーバに同じ TSMagic 構成がある
- すべてのサーバに同じ HTTP/HTTPS ポートがある
- 新しいアプリケーションサーバの導入は数分で完了 (ゲートウェイサーバの AdminTool のファームにサーバを追加するだけ)

このアーキテクチャでは、Remoteapp や HTML5 クライアントなど、特定の設定なしですべてのアクセス・タイプを使用できます。

このアーキテクチャを次の図に示します。

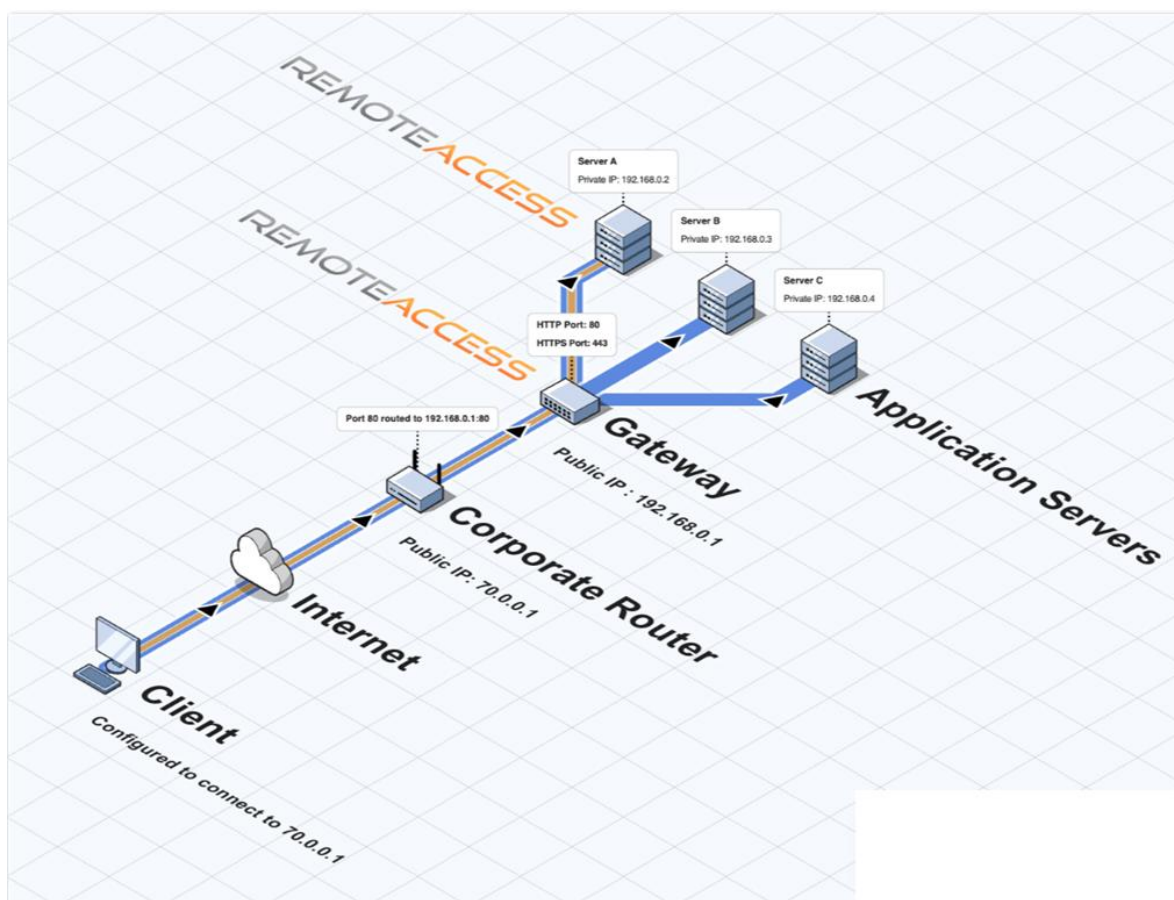


オプション 2: インターネットからアクセスできるのはゲートウェイポートのみで、これには「リバースプロキシの役割」が含まれています。

Tsmagic ゲートウェイは、パブリック IP アドレスを一つだけ設定することもできます。

ゲートウェイは、外部接続要求を使用可能な任意のサーバにリダイレクトします。ロードバランシング機能を使用しない場合、ユーザは割り当てられたサーバに接続します。

このアーキテクチャを次の図に示します。



ファームの前提条件

ハードウェア要件

ファームコントローラとアプリケーションサーバには、ハードウェアに関する標準の TSMagic 要件が適用されます。

オペレーティングシステムの要件

ファームコントローラとアプリケーションサーバは、次のいずれかのオペレーティングシステムを使用する必要があります。

- Windows Server2016
- Windows Server2019
- Windows Server2022

ネットワーク要件

すべてのアプリケーションサーバは、ファームコントローラからアクセス可能である必要があります。

ファームコントローラは、その API ポート(デフォルトでは 19955)ですべてのアプリケーションサーバにリクエストを発行します。
ファームコントローラとアプリケーションサーバの間にファイアウォールがある場合はポートを開かれなければなりません。

ファームコントローラとアプリケーションサーバ間のネットワーク遅延は低くなければなりません。遅延時間は 200 ミリ秒未満であることが推奨され、2000 ミリ秒未満であることが必要です。

ソフトウェア要件

.NET Framework 4.7.2 以降が必要です。

TSMagic のライセンスおよびバージョン要件

TSMagic は、ファームコントローラおよびすべてのアプリケーションサーバで Enterprise Edition である必要があります。

すべてのサーバで、同じバージョンの TSMagic を実行する必要があります。

構成要件

ファームコントローラとアプリケーションサーバには、同じ日付と時刻を設定する必要があります。まだ実行していない場合は、すべてのサーバの Windows クロックを Internet Time Server と同期させることを強くお勧めします。

ユーザの要件

Active Directory は必須ではありませんが、Active Directory を使用する場合、TSMagic ファームマネージャを使用するには、ドメイン管理者がファームコントローラのローカル管理者である必要があります。

ファームの設定

概要

ファームを作成するには、TSMagic AdminTool からアプリケーションサーバを追加するだけです。

AdminTool の「FARM」セクションでアプリケーションサーバを管理できます。



このウィンドウから、いくつかの操作を実行できます。

- [追加]：アプリケーションサーバを追加します
- [編集]：選択したサーバを編集します
- [削除]：選択したサーバをファームから削除します
- [無効/有効]：選択したサーバを一時的に無効化または有効化します
- [接続]：デフォルトの RDP クライアントを開き、選択したサーバに自動的に接続します

これらの操作は、サーバを右クリックして表示されるコンテキストメニューからアクセスすることもできます。

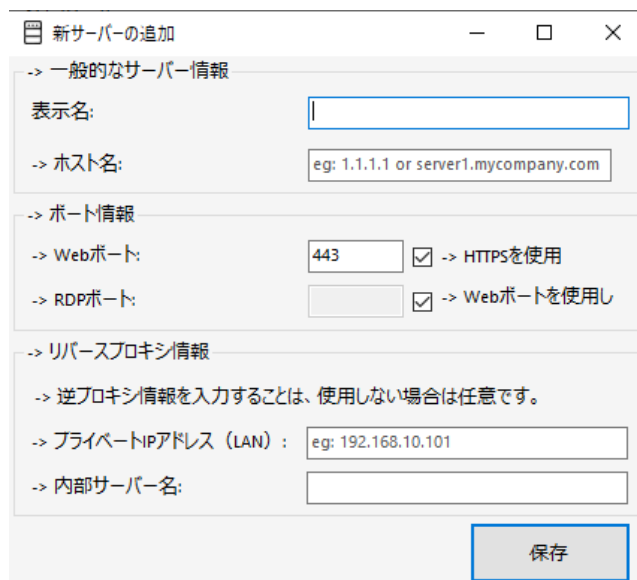
下部のパネルからは、アプリケーションサーバが追加されると利用可能なメインファーム機能にアクセスできます。

- [ロードバランス]: ゲートウェイサーバから接続しているユーザを、ファーム内の最も負荷の低いサーバにリダイレクトできます
- [リバースプロキシ]: ゲートウェイサーバのみを公開し、https://GatewayServerDomain/ApplicationServerName などの URL を使用してアプリケーションサーバへアクセスできるようにします
- [サーバーを割り当てる]: ゲートウェイサーバから接続するときにユーザおよびグループが使用できるアプリケーションサーバを制限し、複数のサーバが割り当てられている場合に接続したいサーバを選択できるようにします
- [モニターセッションn]: 現在のセッションを監視し、切断、ログオフ、メッセージの送信、セッションの表示、セッションの制御などのアクションを実行します
- [アプリケーションと設定を同期化]: すべての詳細設定と公開アプリケーションを、選択したアプリケーションサーバにプッシュできます
- [ファームをリセット]: ファームをリセットできます。これにより、全てのサーバが削除され、全てのファーム機能の構成がリセットされます

これらの機能は、セキュリティ上の理由からファームに完全に参加したアプリケーションサーバのみがアクセスできます。つまり、アプリケーションサーバ側で、ファームコントローラから送信された招待を最初に受け入れる必要があります。

ファームへのアプリケーションサーバの追加

アプリケーションサーバを追加するには [Add] ボタンをクリックします。次の画面が表示されます。



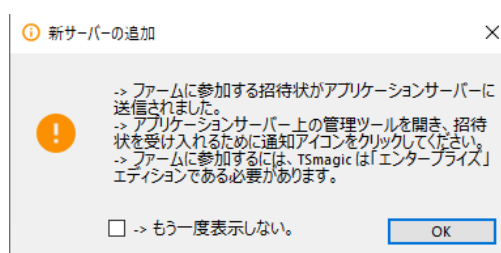
表示名とホスト名を指定する必要があります（ポート番号を指定せずに、IP アドレスまたはドメイン名を入力できます）。

リバースプロキシ情報フィールドへの入力は、リバースプロキシ機能を使用していない場合にはオプションです。サーバ構成全体を容易にするために、内部サーバ名がブランクの場合は、使用可能な表示名が自動的に入力されます。

重要：RDP ポートオプションの [Web ポートを使用] は、アプリケーションサーバの Web サーバによって提供される RDP ポート転送機能を利用することを指定します。そのため、[Web ポートを使用] オプションを使用する場合は、追加したアプリケーションサーバで、[AdminTool/高度/セキュリティ] の「RDP 転送を無効にします」オプションが「いいえ」に設定されていることを確認してください。

アプリケーションサーバの詳細を入力し、[保存] ボタンをクリックします。

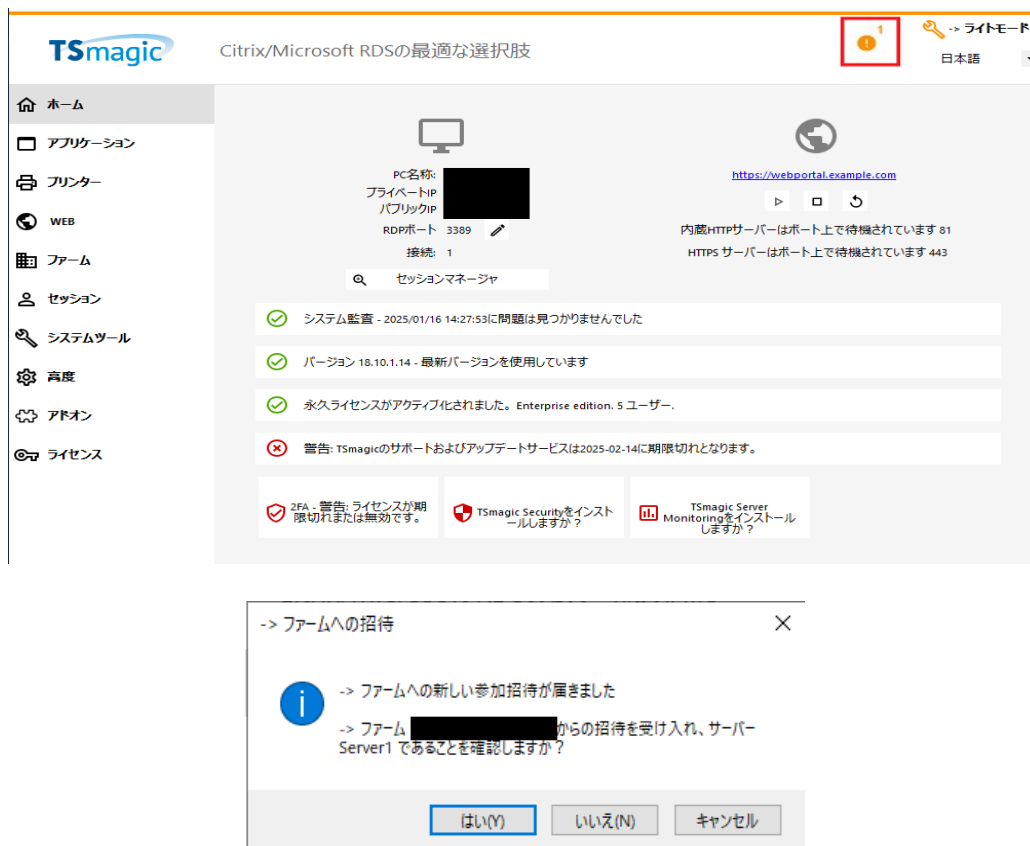
ファームに参加するための招待状が、追加されたアプリケーションサーバに送信されます。



セキュリティ上、[モニターセッション] および [アプリケーションと設定を同期化] を使用する場合は、アプリケーションサーバ側でこの招待を受け入れる必要があります。

ただし、[リバースプロキシ] [ロードバランス] [サーバを割り当てる] 機能のみを使用する場合には必要ありません。

招待を受け入れるには、ファームに追加したアプリケーションサーバで管理者セッションを開きます。AdminTool の右上に表示されたアラートボタンをクリックし、[はい]をクリックします。



ファームコントローラ側では、ファーム内のアプリケーションサーバの一覧を確認出来ます。これらは、色付きのアイコンで表示される4つの状態があります。

- 参加済：アプリケーションサーバは、招待を受け入れることによりファームに完全に参加しました。
- 保留中：アプリケーションサーバはファームに部分的に参加しており、アプリケーションサーバが招待を受け入れるのを待っています。
- 更新が必要です：アプリケーションサーバはファームに部分的に参加しましたが、サーバが V15.50 以下を使用しているため招待を送れません。
- 到達不能：アプリケーションサーバはファームに部分的に参加しましたが、サーバに到達できないため招待を送信できません。

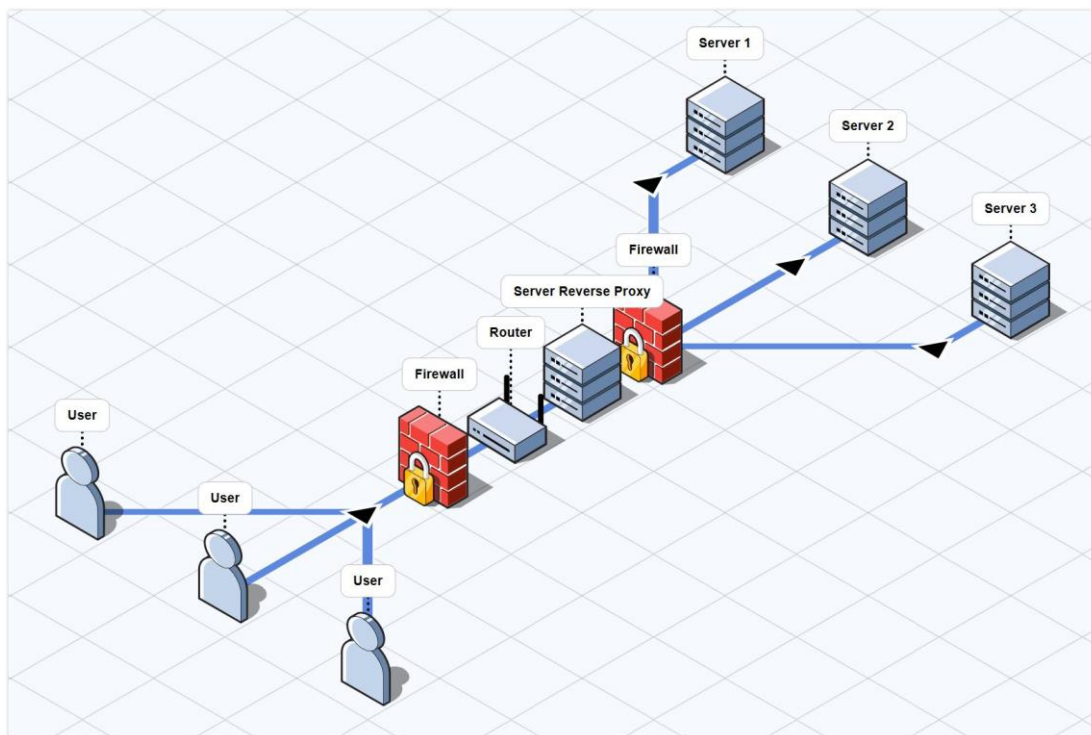
アプリケーションサーバ				
	-> 名前	-> ホスト名	-> ステータス	-> 内部名 -> プライベートIPアドレス
-> 有効				
	Server1	[redacted]	-> アップ	server1
	Server3	[redacted]	-> アップ	server3
	Server2	[redacted]	-> アップ	server2

リバースプロキシ機能を使用する

リバースプロキシシステムは、関連付けられたサーバが任意のクライアントから接続されるための仲介者として機能します。リリバースプロキシを使用する利点は単純です。TSMagic サーバの数と同じ数のポートリダイレクトルールを作成する必要がなくなります。

ロードバランシング機能を使用しているかどうかにかかわらず、リバースプロキシを使用して接続するには、ロードバランシング機能を有効にする必要があります。

TSMagic は、負荷分散された TSMagic サーバのファームへの固有のアクセスポイントを提供します。



この固有のアクセスポイントがゲートウェイ ポータル サーバになります。

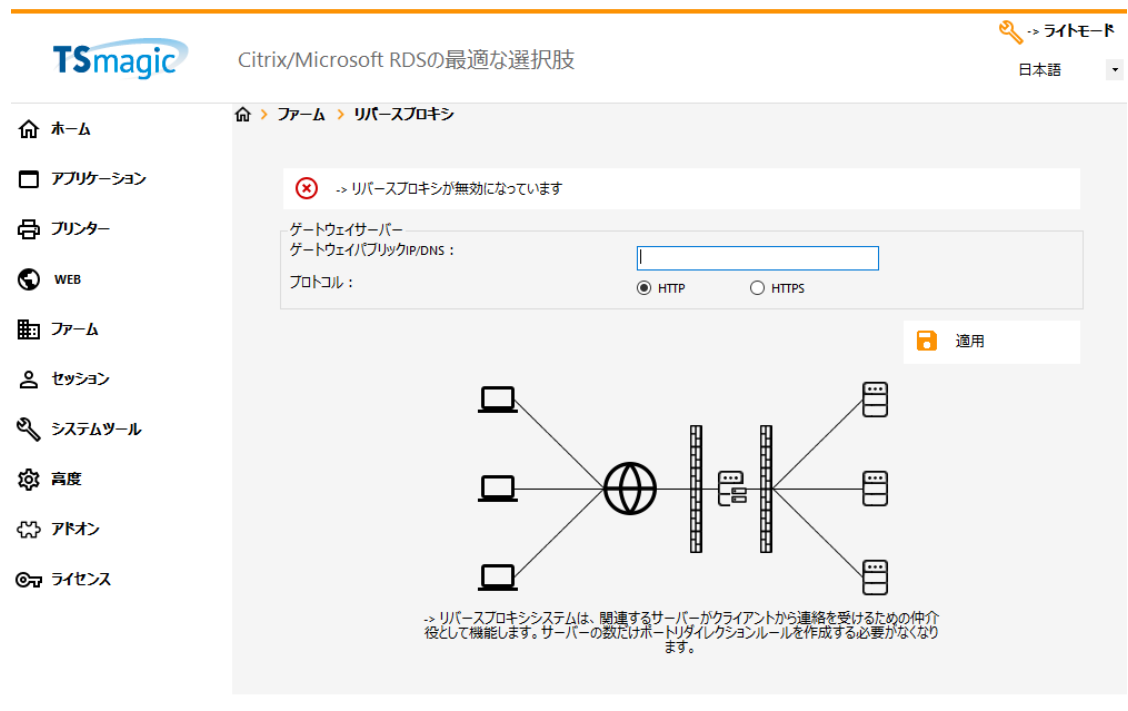
このサーバはリモートからアクセスされるため、http または https ポートを含む 1 つのポートリダイレクトルールをルータに設定する必要があります。（http のデフォルトポートは 80、https のデフォルトポートは 443 です）

構成

[ファーム]タブからリバースプロキシ構成インターフェイスにアクセスできます。



[リバースプロキシ] ボタンをクリックします。



- [リバースプロキシが無効になっています] ボタンをクリックして有効にします。
- ゲートウェイのパブリック IP は、有効な固定 IP アドレスまたはドメイン名で設定する必要があります。
- 優先する接続方法として HTTP または HTTPS を選択します。ファームのサーバは、使用する接続方法に応じて、相互に通信できる必要があります。また、ファイアウォールがこれらのポートをブロックしないことも重要です。

設定が完了したら「適用」をクリックしてリバースプロキシ設定を保存します。

ゲートウェイサーバ経由でアプリケーションサーバにアクセス

リバースプロキシ機能が有効になって動作すると、次のような形式の特別な URL を使用してアプリケーションサーバにアクセスできるようになります：

(1) :// (2) : (3) /~~ (4)

- (1) 設定されているリバースプロキシプロトコル
- (2) ゲートウェイサーバのパブリック IP アドレスまたはドメイン名
- (3) 設定されたリバースプロキシプロトコルに関連付けられたゲートウェイサーバの Web ポート
- (4) リバースプロキシが使用するアプリケーションサーバの内部名

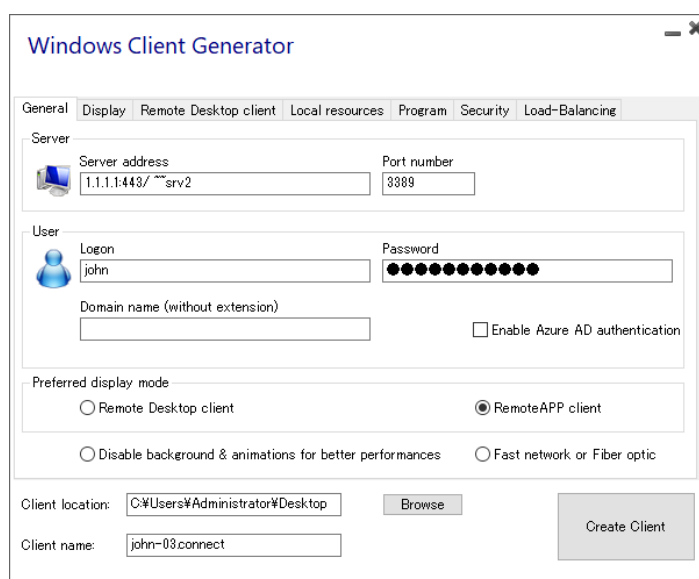
例えば、次のような設定がされている場合

- 設定されているリバースプロキシプロトコルは HTTPS
- ゲートウェイサーバのパブリック IP は 1.1.1.1
- ゲートウェイサーバの HTTPS ポートは 443
- 接続先のアプリケーションサーバの内部名は srv2

対象のアプリケーションサーバに到達するための特別な URL は「https://1.1.1.1:443/~~srv2」になります。

その結果、この特別な URL を使用して、このアプリケーションサーバの Web ポータルにアクセスできるようになります。

同じ方法を使用して、ゲートウェイサーバを介してこの特定のアプリケーションサーバに接続する接続クライアントを生成することもできます。接続クライアントジェネレータのサーバアドレスフィールドに特別な URL を使用するだけです。



ロードバランシング機能

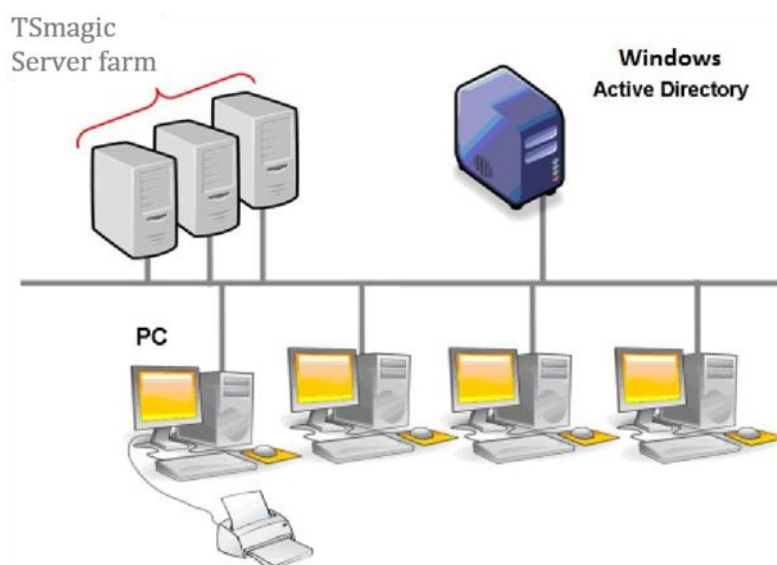
前提条件

この機能を使用すると、ロードバランス環境を管理できます。

これは、すべてのユーザの負荷がサーバ間で分散されます。ワークロードはファームのすべてのサーバ間で共有されます。

ロードバランシングでは、無制限の数のサーバを使用できます。Enterprise Edition(サーバごとに 1 つの有効なライセンスが必要)で使用できます。この非常に強力な高度な機能は、多数のユーザ/サーバを導入する必要がある場合に使用します。

重要:ロードバランシングを有効にするだけでは、ユーザに対して構成された割り当て済みサーバに関係なく、ユーザはファーム内の最も負荷の低いサーバにリダイレクトされます。負荷分散とサーバ割り当てを使用する場合は、[割り当てられたサーバの負荷分散]チェックボックスを有効にしてください。



通常は、50 人の同時ユーザに対して 1 台のサーバを使用することを推奨します。

生成されたクライアントと Web アクセス

ロードバランスクラスターに接続するには、次の方法があります。

- 生成されたクライアントの使用（ポータブルクライアントジェネレータで作成したクライアント）
- Web Portal Access を使用する。

ロードバランシングメインウィンドウ

ロードバランスマネージャーは、AdminTool の [ファーム] タブにあります



このウィンドウでは、ロードバランシングを設定できます。負荷分散されたサーバファーム内のすべてのサーバの一覧が表示され、新しいサーバの追加や、既存のサーバの編集を行うことができます。また、ロードバランシングを有効化、無効化することもできます。

[ロードバランス] をクリックして、対応する情報にアクセスします。

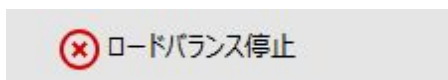


ロードバランスの有効化/無効化

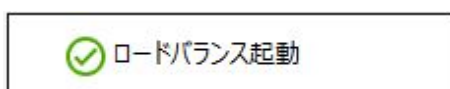
[ロードバランス] ウィンドウの上部に、大きなボタンが表示されます。

- このボタンは、ロードバランシングの現在の状態を表示します。
- クリックすると、現在の状態に応じてロードバランスが有効または無効になります。

ロードバランス機能が**無効**になっている場合は、次のボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、ロードバランス機能が有効になります。



ロードバランス機能が**有効**になっている場合は、次のボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、ロードバランス機能が無効になります。



ロードバランスは、どのようにしてサーバを選択するのですか？

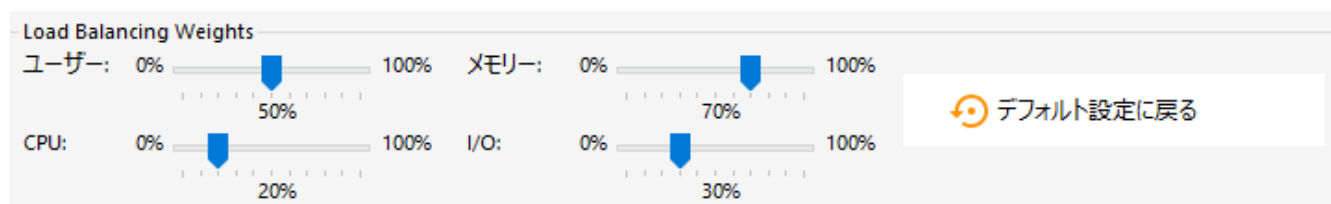
ロードバランスを有効にすると、ユーザは接続時に負荷の低いサーバに送信されます。

サーバの負荷計算の構成

負荷の少ないサーバを特定するために、すべてのサーバの負荷は、いくつかのパフォーマンスインジケータ間の加重平均を使用して計算されます。

- 接続ユーザ数
- プロセッサ使用率
- メモリ使用量
- ディスク使用状況

次のスライダを使用して、これらのインジケータのウェイト(重要性)を変更できます。



これらのスライダを使用して、ロードバランスを微調整し、必要に応じて最適化することができます。たとえば、ユーザが大きなメモリ要件を持つビジネスアプリケーションを起動する場合は、「メモリー」スライダを使用して、負荷計算でのメモリの影響を大きくすることをお勧めします。

「デフォルト設定に戻る」ボタンをクリックして、これらの値をリセットすることもできます。

サーバの負荷はどのように計算されますか？

各サーバの負荷は、必要に応じて計算され、ユーザをどのサーバに送信するかを決定します。

この計算では、4つのハードウェアメトリック間の加重平均を使用します。

4つのスライダーを使用すると、これらの各メトリックの重みを大きくしたり小さくすることができます。

- ユーザ：接続ユーザ数
- CPU：非アイドルプロセッサ時間の割合
- メモリ：使用メモリの割合
- I/O：非アイドル状態のディスク時間の割合

たとえば、「メモリー」スライダを右側に配置し、他のすべてのスライダを左側に配置すると、各サーバの負荷は使用メモリの割合だけを使用して計算され、ユーザは使用可能なメモリが最も多いサーバに送られます。

- スライダが完全に左側にある場合、荷重の計算に使用される重みは 1 になります。
- スライダが完全に右側にある場合、荷重の計算に使用される重みは 100 になります。

さらに、特定のサーバの負荷は、[使用リソース/総リソース]の比率に依存します。したがって、サーバ A がサーバ B の 2 倍の処理能力を持つ場合、サーバ B よりもサーバ A に送信されるユーザの数が 2 倍になります。（他の全ての条件が等しい場合）

サーバ

ロードバランスされたサーバのステータスのリストと、各サーバのパフォーマンスインジケータの詳細を確認できます。

サーバは、構成に従って負荷の低いサーバから負荷の高いサーバに並べ替えられます。

ロードバランスサーバのステータスのリストは自動的に更新されます。この自動更新は、接続が利用できなくなると停止します。

[サーバ] ボックスの右上でリフレッシュレートを変更できます。

ロードバランス

ロードバランス起動 ☒ ユーザーが割り当てられたサーバ上の残高 ☐ ステッキセッションは無効になっています

負荷分散の重み

ユーザー: 0% 100% 50% メモリ: 0% 100% 70% CPU: 0% 100% 20% I/O: 0% 100% 30%

デフォルト設定に戻る

サーバ

更新頻度 (秒): 60

名前	ホスト名	ステータス	ユーザー	CPU (%)	メモリ (%)	I/O (%)	負荷 (%)
Server1		アップ	0	2	46	0	32
Server2		アップ	0	50	50	50	60

ユーザに割り当てられたサーバのみでロードバランス

ロードバランスは、[ユーザーが割り当てられたサーバ上で分散] チェックボックスを使用して、ユーザに割り当てられたサーバのみで負荷分散を行うこともできます。

例えば、経理部門のサーバに対しては会計士ユーザのみの負荷分散を行うことができます。

☒ ユーザーが割り当てられたサーバ上の残高

スティッキーセッション機能を有効にする

スティッキーセッション機能を使用するには、[高度]/[セキュリティ]/[既存のセッションの Web リスト表示を無効にします]の設定を「No」にする必要があります。別のサーバで新しいセッションを開く代わりに、切断されたセッションに再接続することができます。

ロードバランスウィンドウの右側にある [スティッキーセッションは無効になっています] ボタンをクリックすると、スティッキーセッションを有効にすることができます。

無効



スティッキーセッションは無効になっています。

有効



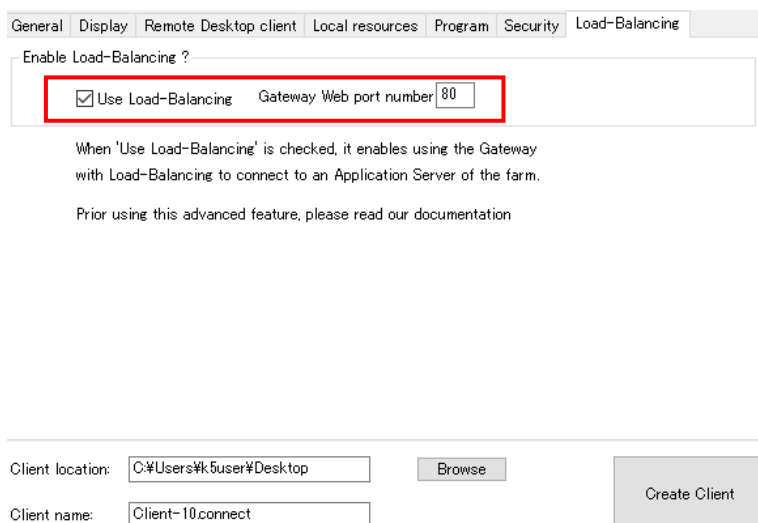
スティッキーセッションが有効になっています。

接続クライアントを使用したロードバランシング

ユーザが負荷の少ないサーバに接続するための接続クライアントを生成する場合は、[Load-Balancing] タブで次のようにする必要があります。

- 「Use Load-Balancing」チェックボックスをチェックします。
- 「Gateway Web port number」に、ゲートウェイサーバが使用する HTTP または HTTPS のポート番号を入力します。

Windows Client Generator



General Display Remote Desktop client Local resources Program Security **Load-Balancing**

Enable Load-Balancing ?

☒ Use Load-Balancing Gateway Web port number 80

When 'Use Load-Balancing' is checked, it enables using the Gateway with Load-Balancing to connect to an Application Server of the farm.

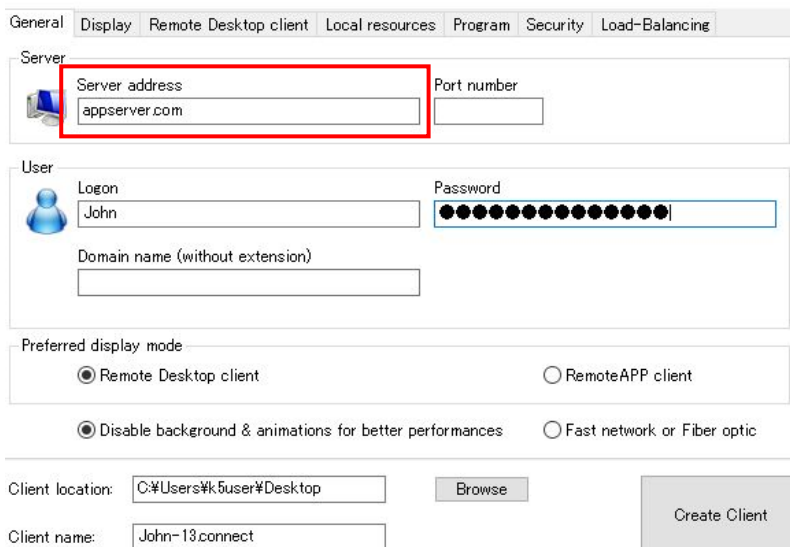
Prior using this advanced feature, please read our documentation

Client location: C:\Users\%k5user%\Desktop Browse

Client name: Client-10.connect Create Client

- General タブの「Server」フィールドでは、ゲートウェイサーバのパブリック IP アドレスまたはホスト名を入力します。

Windows Client Generator



General Display Remote Desktop client Local resources Program Security Load-Balancing

Server

Server address appserver.com Port number

User

Logon John Password

Domain name (without extension)

Preferred display mode

☒ Remote Desktop client ☐ RemoteAPP client

☒ Disable background & animations for better performances ☐ Fast network or Fiber optic

Client location: C:\Users\%k5user%\Desktop Browse

Client name: John-13.connect Create Client

サーバの割り当て

概要

ファームコントローラはゲートウェイサーバとして機能し、接続時にユーザをファームの特定のアプリケーションサーバにリダイレクトできます。1つまたは複数のサーバをユーザ/ローカルグループ/Active Directory グループに割り当てることができます。

重要：サーバの割り当ては、TSMagic Web ポータルからのみ機能し、接続クライアントでは機能しません。

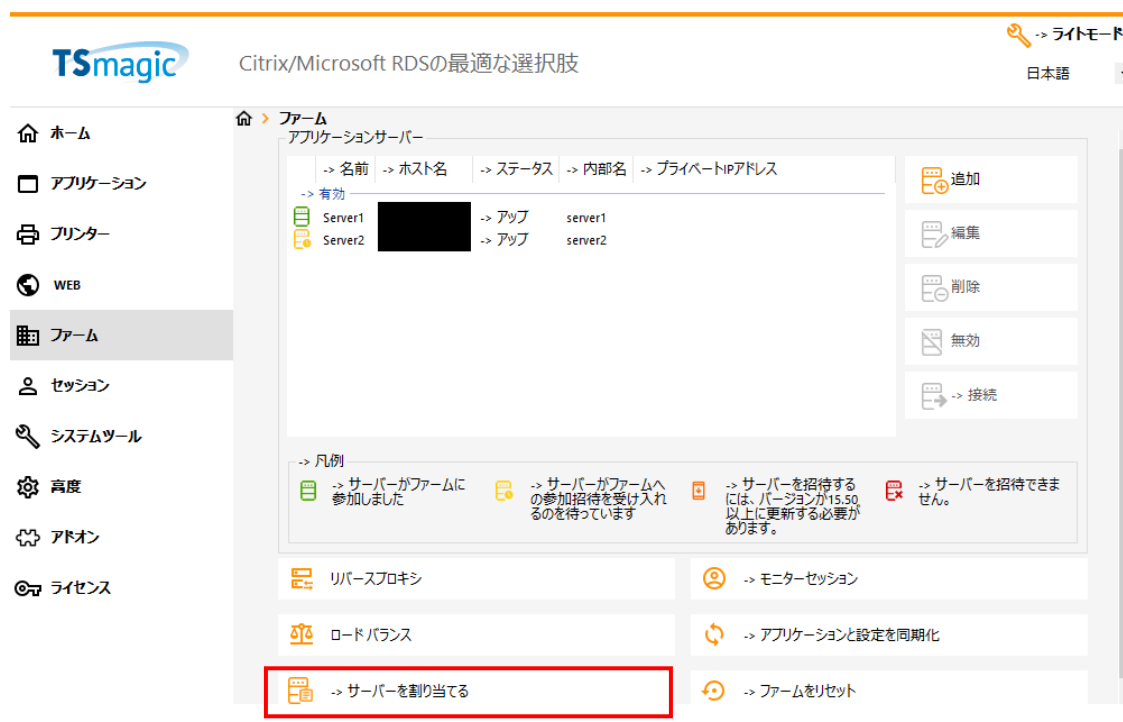
ユーザに複数のサーバが割り当てられている場合、割り当てられたサーバのリストからアクセスしたいサーバを選択できます。

ファームがドメイン内にある場合、ゲートウェイは自分の AD 資格情報を使用し、ユーザはシングル サインオン (SSO) で接続します。それ以外の場合は、各サーバで同じローカル資格情報を持っている必要があります。

ユーザまたはグループへのアプリケーションサーバの割り当て

サーバを割り当てるには、[サーバを割り当てる] ボタンをクリックしてください。

注意:ロードバランシングを使用する場合は、ここにユーザやグループを追加しないでください。



The screenshot shows the TSMagic Web Portal interface. The left sidebar contains navigation links: ホーム, アプリケーション, プリンター, WEB, **ファーム**, セッション, システムツール, 高度, アドオン, and ライセンス. The main content area is titled 'ファーム' and 'アプリケーションサーバ'. It features a table with the following data:

名前	ホスト名	ステータス	内部名	プライベートIPアドレス
Server1	[REDACTED]	アップ	server1	
Server2	[REDACTED]	アップ	server2	

On the right side of the table, there are buttons for '追加', '編集', '削除', '無効', and '接続'. Below the table, there is a section for '凡例' (Legend) with four icons and their corresponding descriptions:

- > サーバがファームに参加しました
- > サーバがファームへの参加招待を受け入れるのを待っています
- > サーバを招待するには、バージョンが15.50以上に更新する必要があります。
- > サーバを招待できません。

At the bottom of the interface, there are several buttons: 'リバースプロキシ', 'ロードバランス', 'モニターセッション', 'アプリケーションと設定を同期化', 'ファームをリセット', and a button labeled 'サーバを割り当てる' which is highlighted with a red box.

サーバをユーザに割り当てるには、[ユーザー/グループを選択] ボタンをクリックしユーザまたはグループを選択し、サーバリストで割り当てるサーバのチェックボックスをチェックします。

ユーザに割り当てられたサーバを削除するには、サーバリストでサーバのチェックを外します。



- 上記の例は、ドメインまたはワークグループの例です。
- ワークグループを使用する場合、ユーザのログイン情報は、割り当てた各アプリケーションサーバで同じである必要があります。
- サーバ割り当て機能は、ロードバランス機能と同時に構成して使用することができ、ファームコントローラが割り当てられたサーバで負荷を分散できるようにします。そのためには、ロードバランシングを有効にし、[Load balance on assigned servers] をオンにします。
- サーバ割り当て機能とロードバランスの両方が有効になっている場合、ロードバランス構成で、[ユーザーが割り当てられたサーバ上の分散] が有効になっていない限り、割り当てられたサーバに関係なく、ゲートウェイサーバはユーザを最も負荷の低いサーバへリダイレクトします。

ユーザがゲートウェイに接続した時の画面表示

ユーザ名、パスワードを入力すると、そのユーザに応じたサーバリストが表示されます。

- ユーザに複数のサーバが割り当てられている場合



- ユーザに単一のサーバが割り当てられている場合



- ユーザに割り当てられているサーバが無い場合

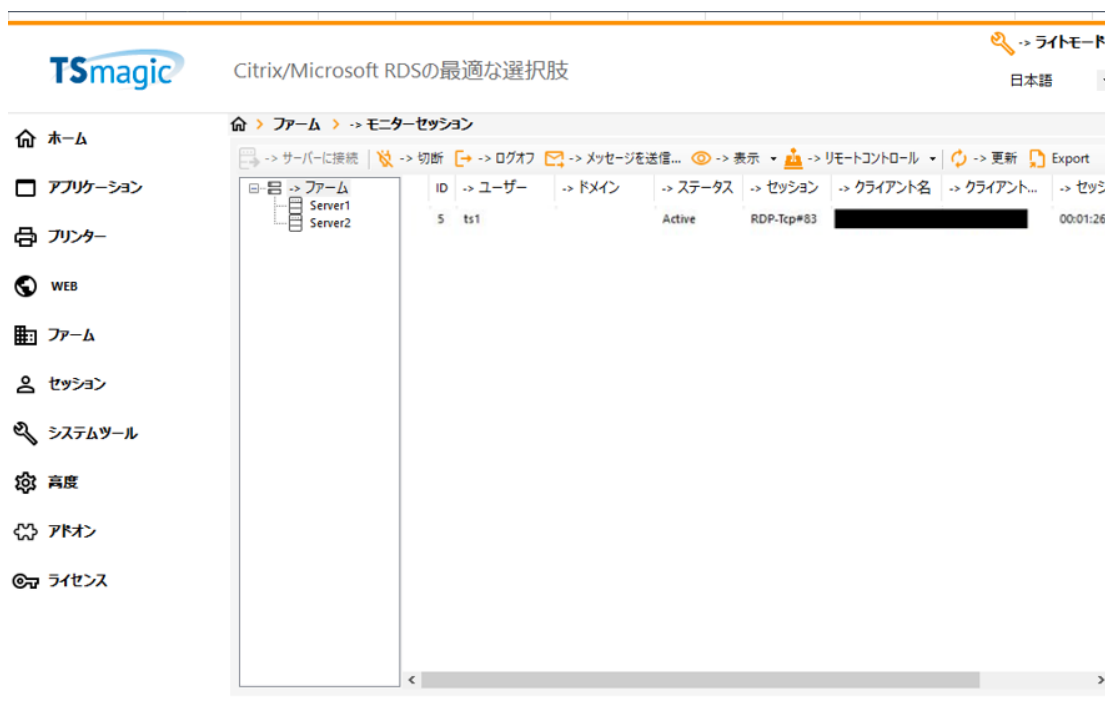


セッションの監視

[ファーム] タブから モニターセッション インタフェースにアクセスできます。



[モニターセッション] ボタンをクリックすると、次のタブが表示されます。



このタブでは、ファームの任意のアプリケーションサーバのユーザセッションリストを表示できます。

左側のパネルでアプリケーションサーバを選択すると、現在アクティブなユーザセッションが表示されます。

1 つまたは複数のセッションを選択し、上部のボタンよりセッションに対する操作をすることができます。

- [切断]：選択したユーザセッションを切断します。（ユーザは引き続き自分のセッションに再接続できます）
- [ログオフ]：選択したユーザセッションをログオフします。（保存されていない変更は全て失われ、アプリケーションはシャットダウンされます）
- [メッセージを送信]：ウィンドウを表示してタイトルとテキストを入力し、選択したユーザセッションにメッセージを送信します
- [表示]：選択したユーザセッションを*アクセス許可の有無にかかわらず表示します
- [リモートコントロール]：選択したユーザセッションを*アクセス許可の有無にかかわらずリモートコントロールします。
- [更新]：選択したサーバのユーザセッションリストを更新します。
- [Export]：ログの内容を CSV 形式で出力します。

*アクセス許可なしでセッションを表示または制御するには、セッションの表示／制御するアプリケーションサーバで、次の GPO を変更する必要があります。

[コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [Windows コンポーネント] > [リモート デスクトップ サービス] > [リモート デスクトップ セッション ホスト] > [接続]

キー: リモート デスクトップ サービス ユーザー セッションのリモート コントロールのルールを設定する

ユーザセッションのリストは、5 秒ごとに自動的に更新されます。選択したサーバが使用できなくなると、この自動更新は停止します。

[更新] ボタンをクリックすると、自動更新が再開されます。

アプリケーションと設定の同期

[アプリケーション設定を同期化] ボタンをクリックします。



同じ設定を適用し、ファームコントローラと同じアプリケーションを公開する全てのサーバをチェックして、[適用] をクリックすると、タスクの進行状況が表示され、完了するとウィンドウは閉じられます。



※注意

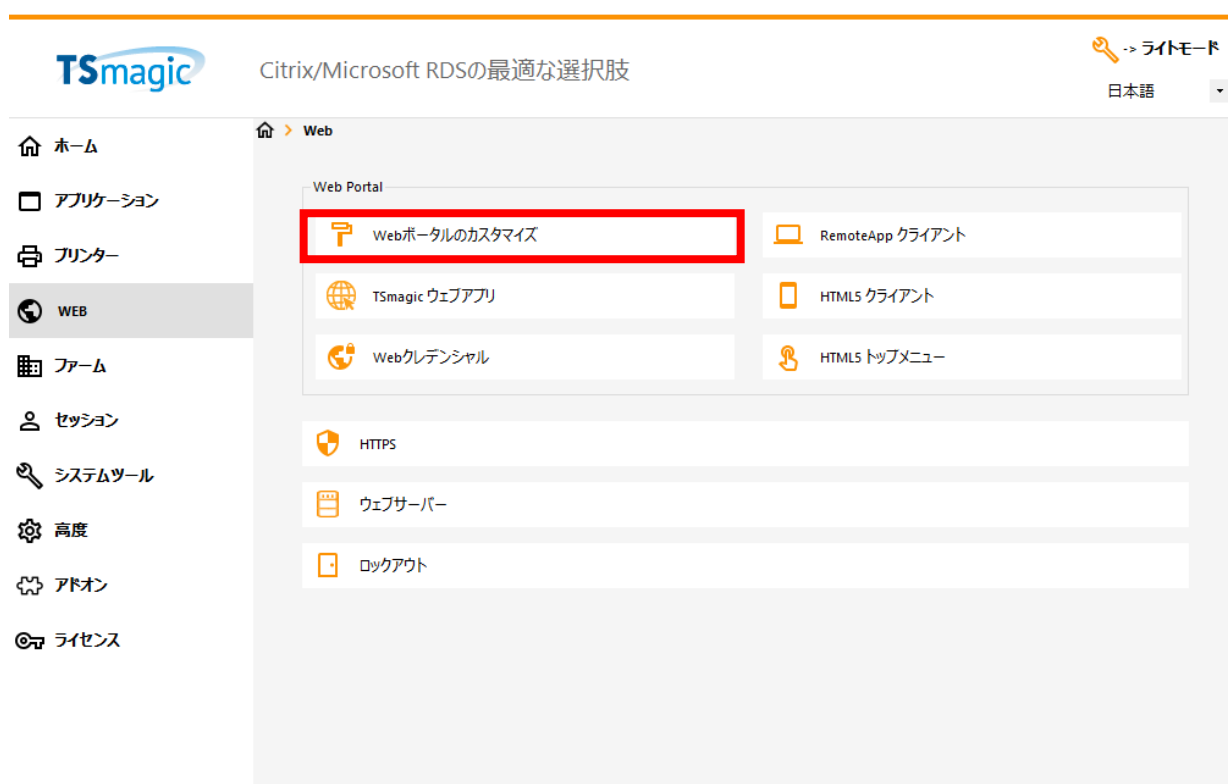
ActiveDirectory 環境下では無い場合、各アプリケーションサーバ上の公開アプリケーションへのユーザ/グループの割り当ては同期されません。同期後に各アプリケーションサーバ上で個別にユーザ/グループへのアプリケーションを割り当てる必要があります。
(各サーバ上で同一のユーザ/グループが存在する必要があります)

ゲートウェイサーバを手動で有効化/無効化する

概要

ファーム構成に基づいて、ファームコントローラは Web ポータル設定を自動的に変更してゲートウェイサーバとなり、ファームコントローラの TSMagic Web ポータルから接続するユーザをファームコントローラに直接接続するのではなく、ファームのいずれかのアプリケーションサーバに接続出来るようにします

この動作を手動で変更する場合は、[WEB] – [Web ポータルのカスタマイズ] ボタンをクリックします。



「設定」を開き

- ファームコントローラ（現在構成中のサーバ）のゲートウェイポータルをゲートウェイサーバにして、ユーザをファームのアプリケーションサーバにリダイレクトする場合は、[ゲートウェイポータル対応の Web ページの生成] をチェックします。
- ファームコントローラのゲートウェイポータルをファームコントローラ自体にリダイレクトして、ファーム構成をバイパスする場合は、[ゲートウェイポータル対応の Web ページの生成] のチェックを外します。



「保存」をクリックしてこの設定を保存します。

ゲートウェイサーバで RDP アクセスを禁止し、HTTP を許可する

ゲートウェイサーバにアクセスするには、次の 2 つの方法があります。

- HTML5/HTML
- RDP セッション(ゲートウェイ IP/DNS 経由:ポート番号)

HTML/HTML5 をロックする方法

ポート番号と RDP で mstsc を使用して、TSMagic Application / Gateway Server に組み込むことができます。

ゲートウェイサーバ上の AdminTool にあるこれらの高度なセキュリティツールを使用する場合は、[高度]タイトルの[セキュリティ]をクリックします。

[ユーザーには Web ポータルのみです]を「はい」に設定します。

Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢

ライトモード

日本語

ホーム
アプリケーション
プリンター
WEB
ファーム
セッション
システムツール
高度
アドオン
ライセンス

高度

サーバー パラメーターのバックアップ/リストア

高度な設定

製品

セキュリティ

セッション

ロックアウト

Virtual Printer

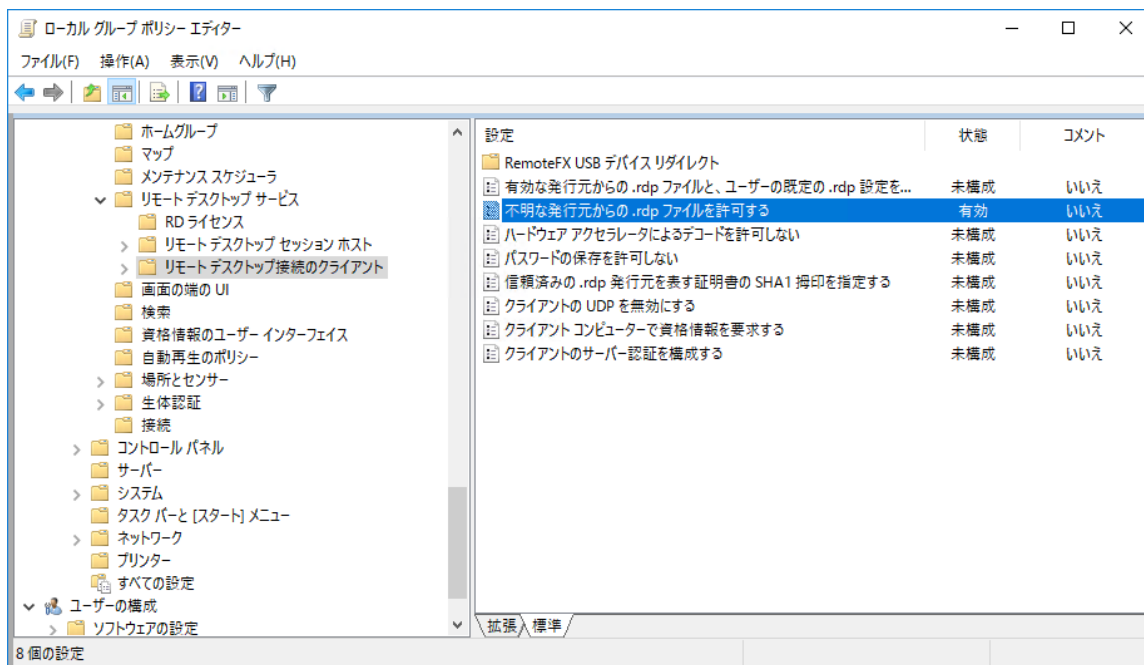
コンテキストメニュー

ログ

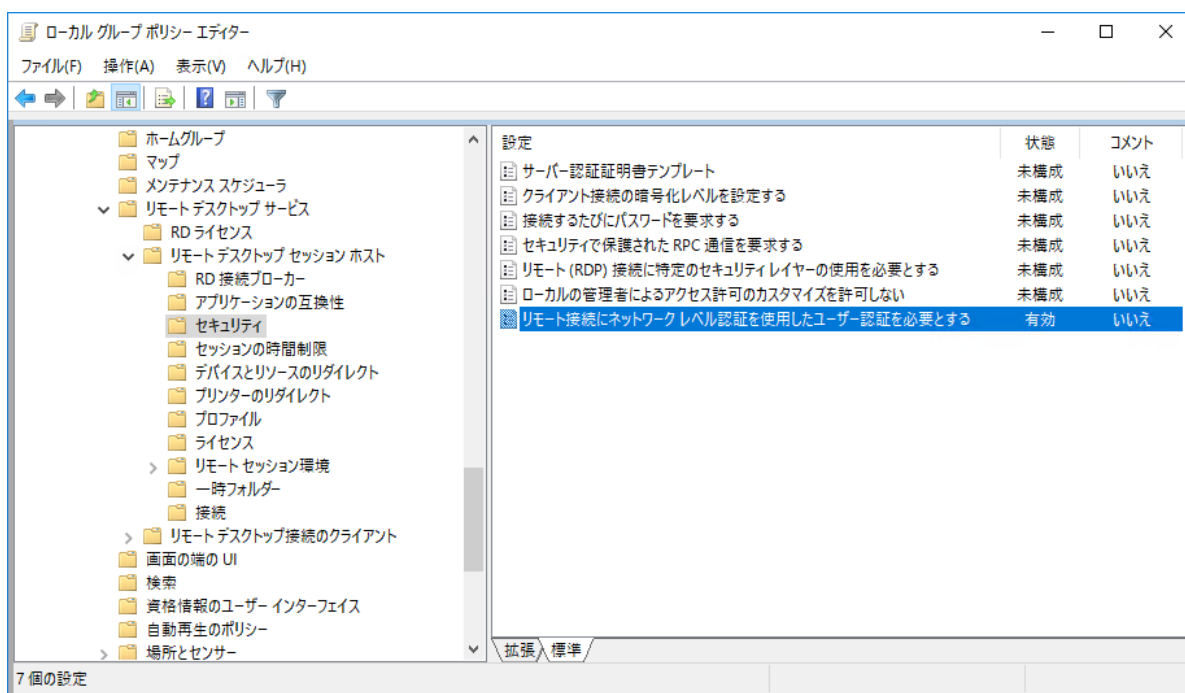
名前	値
標準のRDPクライアントをブロックします。	いいえ
既存のセッションのWebリスト表示を無効にします。	はい
管理者用のWebはありません。	デフォルト (いいえ)
WAN RDPクライアントをブロックします。	デフォルト (いいえ)
Webポータルのみ	デフォルト (いいえ)
ユーザーにはWebポータルのみです。	デフォルト (いいえ)
アプリケーションを持つユーザーのみ	デフォルト (いいえ)
アプリケーションを持たない管理者をホワイトリストに	デフォルト (はい)
RemoteAppクライアントの自動更新を無効にします。	デフォルト (いいえ)
Web資格情報を暗号化します。	デフォルト (はい)
WebポータルでのGETリクエストを無効にします。	デフォルト (いいえ)
HTTPSを強制します。	デフォルト (いいえ)
RDP転送を無効にします。	デフォルト (いいえ)
Mutual Authentication Certificate	デフォルト ()
Mutual Authentication Certificate Password	デフォルト ()

RDP で接続しようとするアクセスが拒否されます。この動作を回避するには、Gateway サーバで次の操作を実行する必要があります。

グループポリシーエディター[Gpedit.msc]を起動し、[コンピューターの構成]で、[管理用テンプレート]-[Windows コンポーネント]-[リモートデスクトップサービス] - [リモート デスクトップ接続のクライアント] の「不明な発行元からの .rdp ファイルを許可する」を有効にします



[管理用テンプレート]-[Windows コンポーネント]-[リモートデスクトップサービス] - [リモートデスクトップセッションホスト] - [セキュリティ] の「リモート接続にネットワークレベル認証を使用したユーザー認証を必要とする」を有効にします。



リバースプロキシの背後にあるサーバの使用

XHR ポーリングを介してリバース プロキシの背後にあるサーバを使用する場合、いくつかの制限があります。

Websockets は HTTP プロトコルの一部ではありません。たとえ最初の http リクエストが http リクエストに似ていても、実際にはそうではありません。そのため、ほとんどの既知のリバースプロキシは Websockets をサポートしておらず、最初の Websocket リクエストの多くの重要な領域を削除します。

サーバがリバースプロキシの背後にあることがわかっている場合は、Clients¥www¥software¥html5¥setting.js 内で以下のオプションを設定して Websockets を無効にします。

```
disablewebsocket = true;
```

これにより、XHR ポーリングの使用が強制され、接続時の時間遅延が回避されます。

XHR ポーリングの使用は、接続の性質上 Websocket ほど安定していないことに注意してください。


リバースプロキシ経由で Xhr ポーリングを使用するもう 1 つの制限は、ファイルアップロードのサポートが貧弱であることです。

Apache リバースプロキシなどを介して直接接続で XHR を操作しているときに、Apache がファイルのアップロードを誤って中断することがあります。

高度 - 製品

概要

このタブでは、AdminTool のピンコードを追加したり、Windows RDS ロールを使用したり、AdminTool の言語をカスタマイズしたりして、TSMagic の設定を変更できます。


Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢


-> ライトモード

日本語

ホーム

アプリケーション

プリンター

WEB

ファーム

セッション

システムツール

高度

アドオン

ライセンス

高度

高度な設定

製品

セキュリティ

セッション

ロックアウト

Virtual Printer

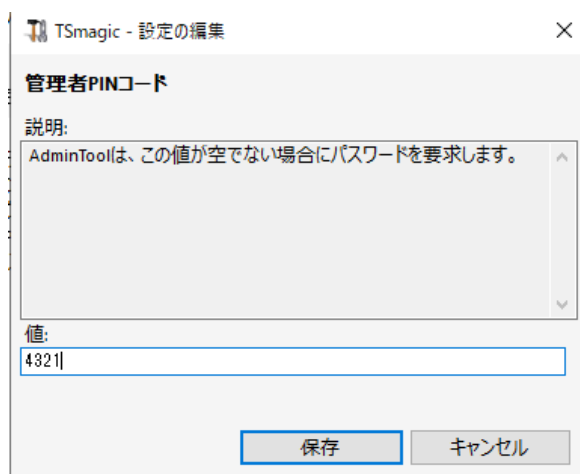
コンテキストメニュー

ログ

名前	値
管理者PINコード	デフォルト ()
RDSロールを使用	デフォルト (いいえ)
AdminTool言語	langjp.ini
匿名データを送信して製品の改善に貢献してください。	デフォルト (はい)

管理者 PIN コード

起動時に毎回要求されるピンコードを設定することにより、管理者ツールへのアクセスを保護できます。

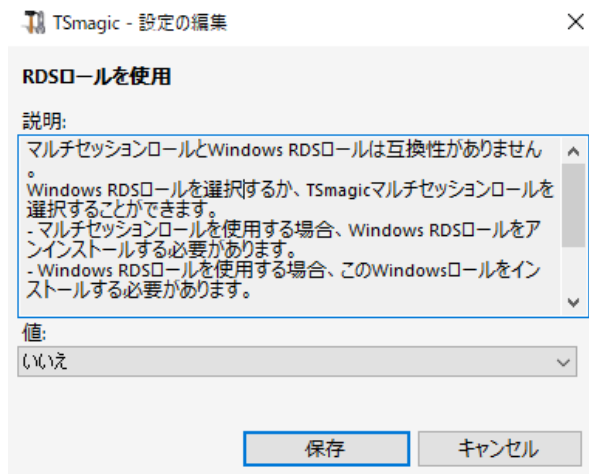


RDS ロールを使用

マルチセッションロールと Windows RDS ロールには互換性がありません。Windows RDS ロールまたは TSMagic マルチセッションロールを選択できます。

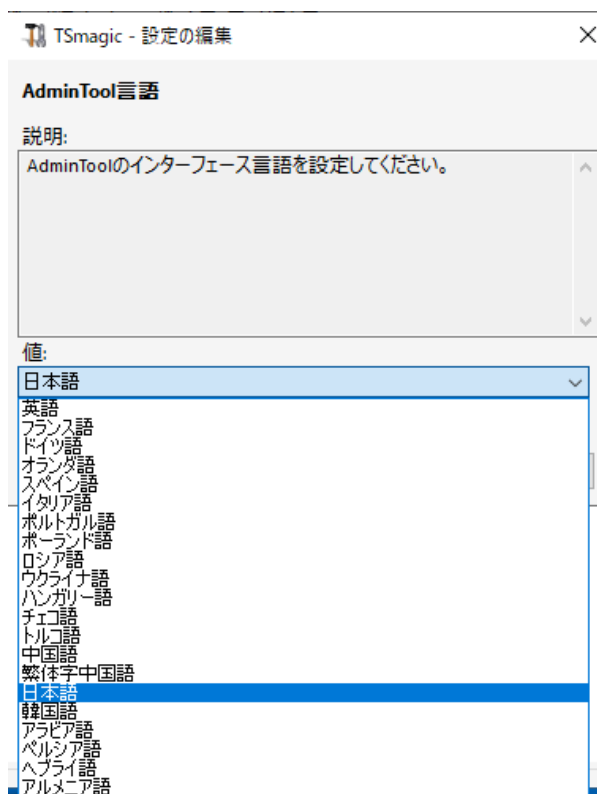
- マルチセッションロールを使用する場合は、Windows RDS ロールをアンインストールする必要があります。
- Windows RDS ロールを使用する場合は、この Windows のロールをインストールする必要があります。

警告: ロールを変更するには、システムを再起動する必要があります。Windows リモートデスクトップを選択する場合、ワークステーションシステムでは一度に 1 人のユーザしか許可されません。



AdminTool 言語

AdminTool で使用する言語を選択します。



高度 – セキュリティ

概要

高度の[セキュリティ]セクションで、ユーザの接続タイプのブロック、無効化、またはカスタマイズなどができます。

名前	値
標準のRDPクライアントをブロックします。	いいえ
既存のセッションのWebリスト表示を無効にします。	はい
管理者用のWebはありません。	デフォルト (いいえ)
WAN RDPクライアントをブロックします。	デフォルト (いいえ)
Webポータルのみ	デフォルト (いいえ)
ユーザーにはWebポータルのみです。	デフォルト (いいえ)
アプリケーションを持つユーザーのみ	デフォルト (いいえ)
アプリケーションを持たない管理者をホワイトリストに	デフォルト (はい)
RemoteAppクライアントの自動更新を無効にします。	デフォルト (いいえ)
Web資格情報を暗号化します。	デフォルト (はい)
WebポータルでのGETリクエストを無効にします。	デフォルト (いいえ)
HTTPSを強制します。	デフォルト (いいえ)
RDP転送を無効にします。	デフォルト (いいえ)
Mutual Authentication Certificate	デフォルト ()
Mutual Authentication Certificate Password	デフォルト ()

標準の RDP クライアントをブロックします

ユーザに対して mstsc などの標準 RDP クライアントからのアクセスを拒否することができます。

標準のRDPクライアントをブロックします。

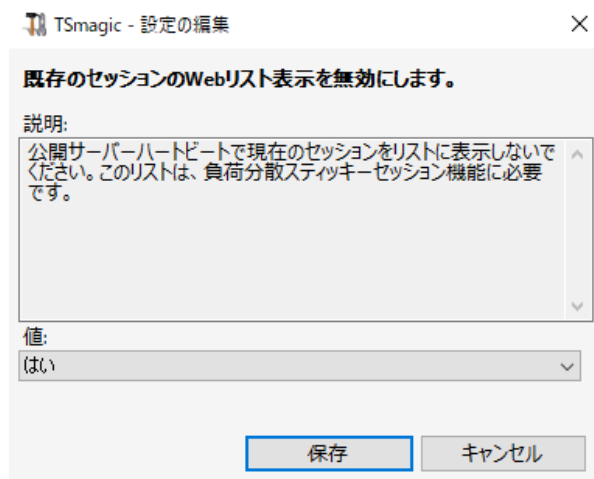
説明:
mstscなどの標準のRDPクライアントへのアクセスを拒否します。

値:
いいえ

保存 キャンセル

既存のセッションの Web リスト表示を無効にします

このリストはロードバランシングのスティッキーセッション機能に必要です。デフォルトでは「No」に設定されており、スティッキーセッションは有効になっています。



TSMagic - 設定の編集

既存のセッションのWebリスト表示を無効にします。

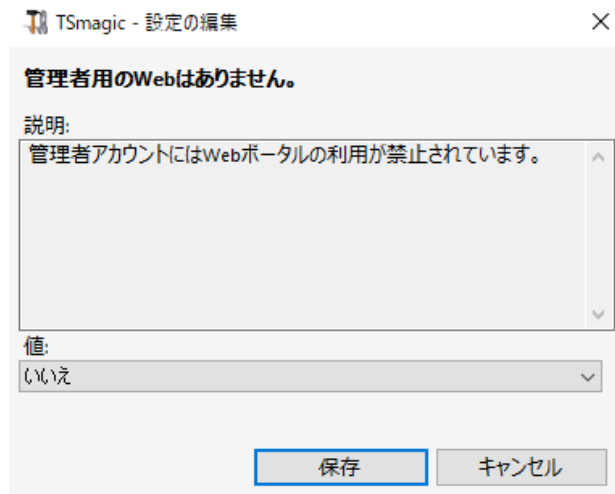
説明:
公開サーバーハートビートで現在のセッションをリストに表示しないでください。このリストは、負荷分散スティッキーセッション機能に必要です。

値:
はい

保存 キャンセル

管理者用の Web はありません

管理者用に対して Web ポータルの使用を禁止します。



TSMagic - 設定の編集

管理者用のWebはありません。

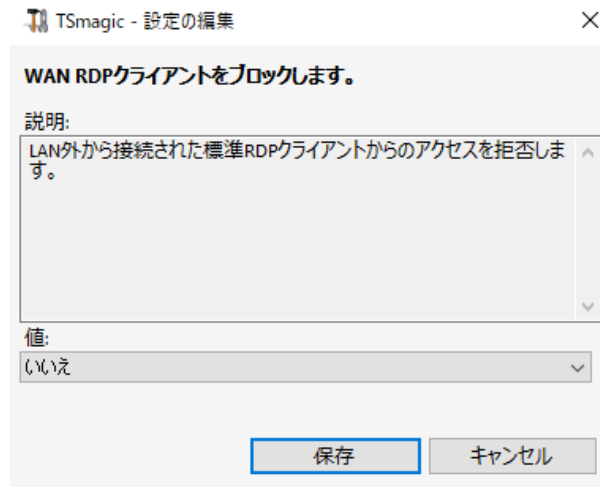
説明:
管理者アカウントにはWebポータルの利用が禁止されています。

値:
いいえ

保存 キャンセル

WAN RDP クライアントをブロックします

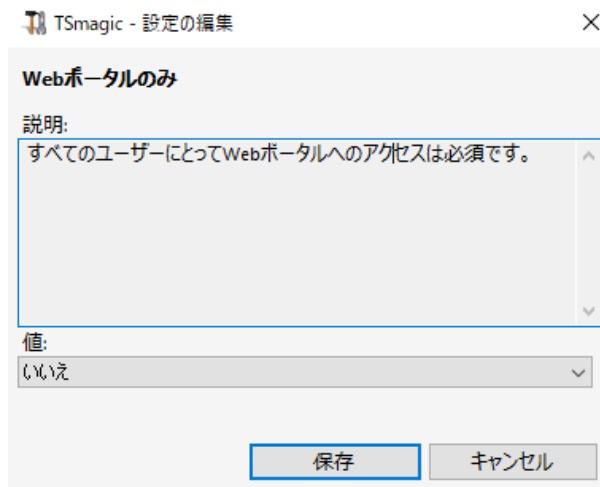
LAN 外から接続された標準 RDP クライアントからのアクセスを拒否します。



The screenshot shows a window titled "TSMagic - 設定の編集" (TSMagic - Edit Settings). The main heading is "WAN RDPクライアントをブロックします。" (Block WAN RDP Client). Below this, there is a "説明:" (Description) section with a text area containing the text: "LAN外から接続された標準RDPクライアントからのアクセスを拒否します。" (Reject access from standard RDP clients connected from outside the LAN). Below the description is a "値:" (Value) section with a dropdown menu set to "いいえ" (No). At the bottom, there are two buttons: "保存" (Save) and "キャンセル" (Cancel).

Web ポータルのみ

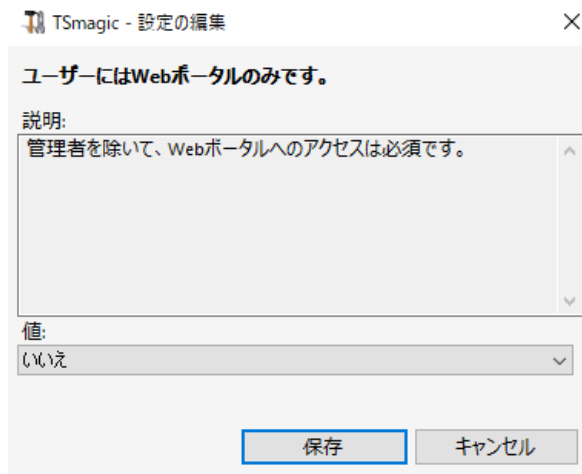
Web ポータルアクセスをすべてのユーザに必須にします。



The screenshot shows a window titled "TSMagic - 設定の編集" (TSMagic - Edit Settings). The main heading is "Webポータルのみ" (Web Portal Only). Below this, there is a "説明:" (Description) section with a text area containing the text: "すべてのユーザーにとってWebポータルへのアクセスは必須です。" (Access to the Web Portal is mandatory for all users). Below the description is a "値:" (Value) section with a dropdown menu set to "いいえ" (No). At the bottom, there are two buttons: "保存" (Save) and "キャンセル" (Cancel).

ユーザーには Web ポータルのみです

管理者以外のすべてのユーザに対して Web ポータルへのアクセスを必須にします。



TSMagic - 設定の編集 ×

ユーザーにはWebポータルのみです。

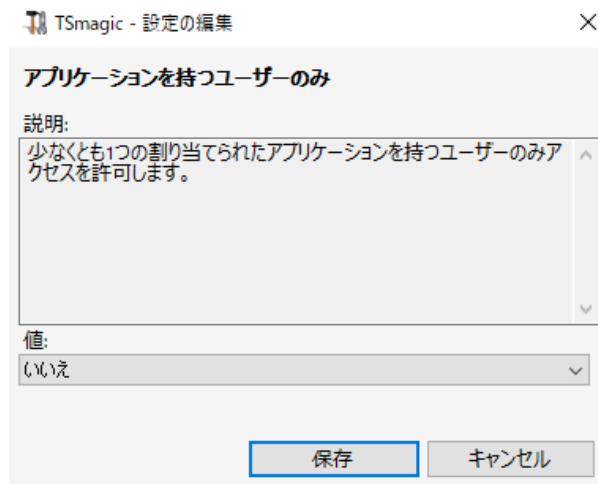
説明:
管理者を除いて、Webポータルへのアクセスは必須です。

値:
いいえ

保存 キャンセル

アプリケーションを持つユーザーのみ

少なくとも 1 つのアプリケーションが割り当てられているユーザのみにアクセスを許可します



TSMagic - 設定の編集 ×

アプリケーションを持つユーザーのみ

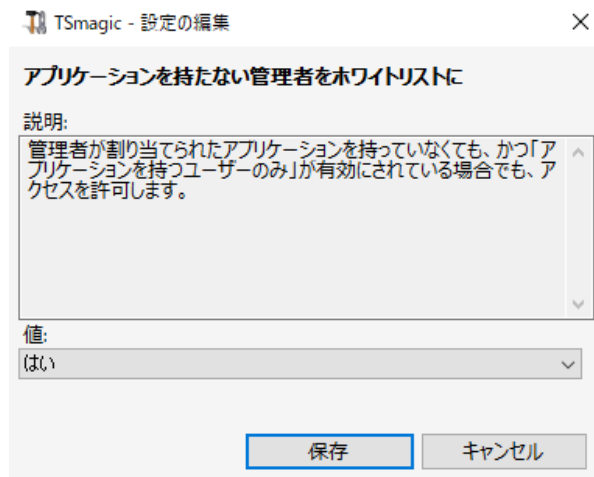
説明:
少なくとも1つの割り当てられたアプリケーションを持つユーザーのみアクセスを許可します。

値:
いいえ

保存 キャンセル

アプリケーションを持たない管理者をホワイトリストに

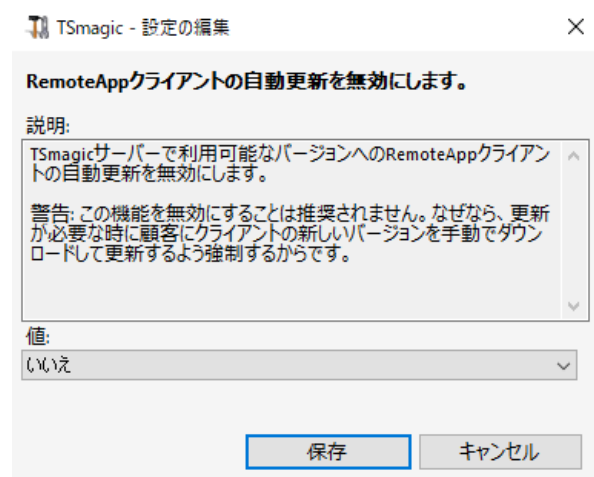
アプリケーションが割り当てられておらず、「アプリケーションを使用するユーザのみ」が有効になっている場合でも、管理者にアクセスを許可します。この機能はデフォルトでは有効になっています。



RemoteApp クライアントの自動更新を無効にします

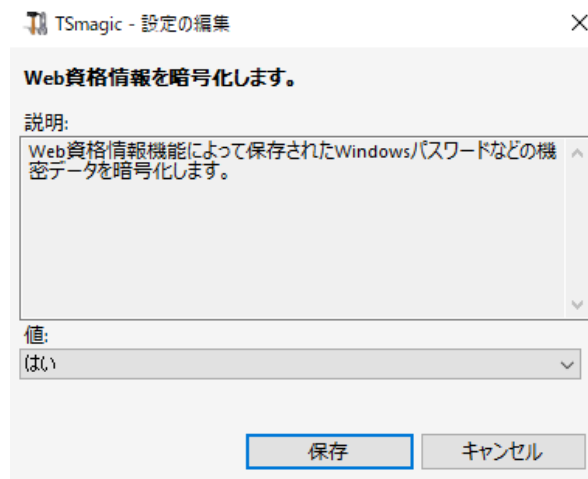
RemoteApp クライアントでの接続時に、TSMagic サーバで利用可能なバージョンへの RemoteApp クライアントモジュールへの自動更新を無効にします。

注意：この設定を無効にした場合、更新が必要となった時にユーザが新しいバージョンを手動でダウンロードしてインストールする必要があるため、「はい」にすることは推奨しません。



Web 資格情報を暗号化します

Web クレデンシャル機能によって保存されたパスワード等の機密データを暗号化します。



Web 資格情報を暗号化します。

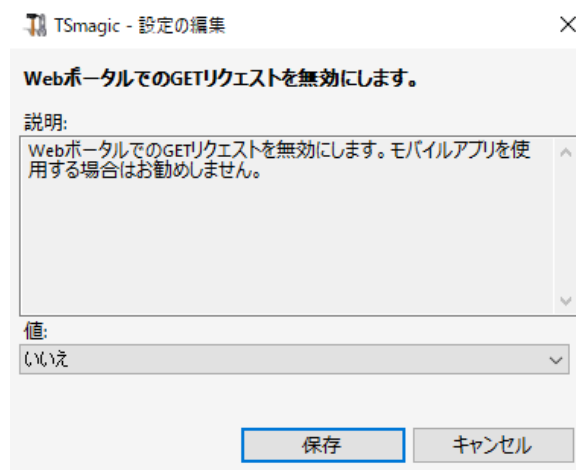
説明:
Web 資格情報機能によって保存された Windows パスワードなどの機密データを暗号化します。

値:
はい

保存 キャンセル

Web ポータルでの GET リクエストを無効にします

Web ポータルでの GET リクエストを無効にします。



WebポータルでのGETリクエストを無効にします。

説明:
WebポータルでのGETリクエストを無効にします。モバイルアプリを使用する場合はお勧めしません。

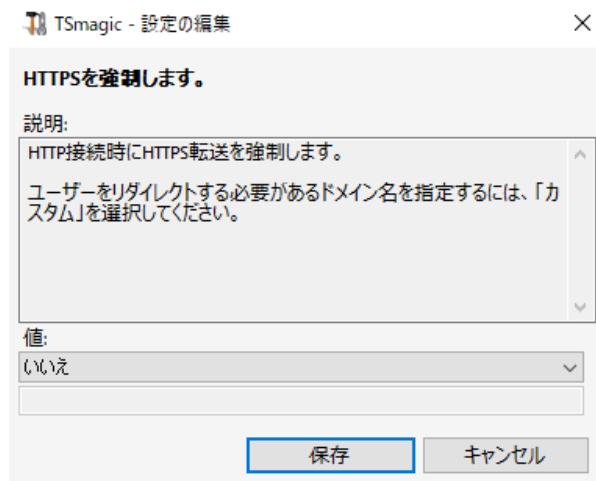
値:
いいえ

保存 キャンセル

HTTPS を強制します

HTTP 接続時に HTTPS 転送を強制します。

ユーザをリダイレクトする必要があるドメイン名を指定する場合、「カスタム」を選択しドメイン名を入力してください。



HTTPSを強制します。

説明:

HTTP接続時にHTTPS転送を強制します。
ユーザーをリダイレクトする必要があるドメイン名を指定するには、「カスタム」を選択してください。

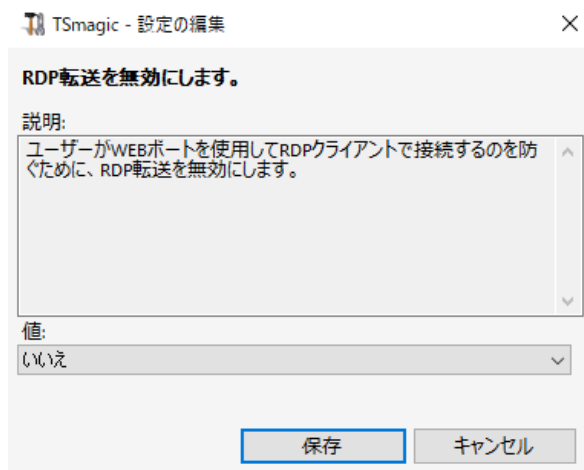
値:

いいえ

保存 キャンセル

RDP 転送を無効にします

ユーザが Web ポートを使用して RDP クライアントで接続するのを無効にします。



RDP転送を無効にします。

説明:

ユーザーがWEBポートを使用してRDPクライアントで接続するのを防ぐために、RDP転送を無効にします。

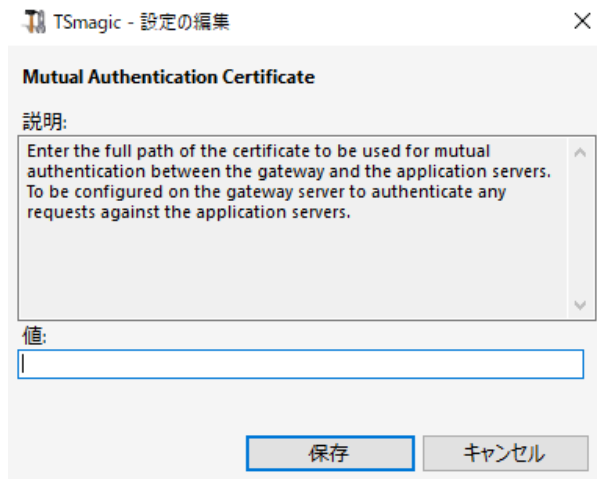
値:

いいえ

保存 キャンセル

Mutual Authentication Certificate

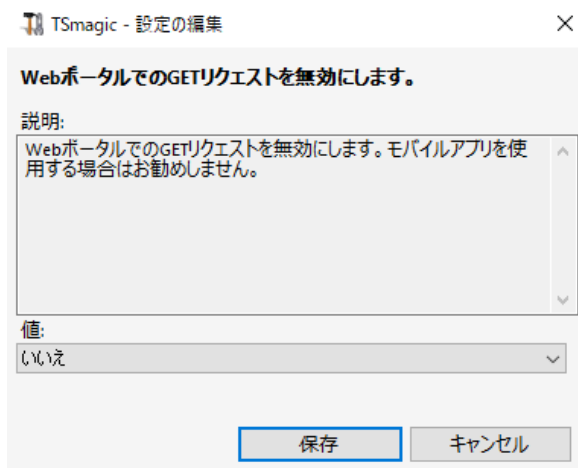
ゲートウェイとアプリケーションサーバ間の相互認証に使用する証明書のフルパスを入力します。ゲートウェイサーバで構成して、アプリケーションサーバに対するすべての要求を認証します。



The screenshot shows a dialog box titled "TSMagic - 設定の編集" with a close button (X). The main title is "Mutual Authentication Certificate". Below it, there is a "説明:" (Description) section with a text area containing the following text: "Enter the full path of the certificate to be used for mutual authentication between the gateway and the application servers. To be configured on the gateway server to authenticate any requests against the application servers." Below the description is a "値:" (Value) section with a text input field. At the bottom, there are two buttons: "保存" (Save) and "キャンセル" (Cancel).

Mutual Authentication Certificate Password

ゲートウェイとアプリケーションサーバ間の相互認証に使用する証明書のパスワードを入力します。



The screenshot shows a dialog box titled "TSMagic - 設定の編集" with a close button (X). The main title is "WebポータルでのGETリクエストを無効にします。" (Disable GET requests on the Web portal). Below it, there is a "説明:" (Description) section with a text area containing the following text: "WebポータルでのGETリクエストを無効にします。モバイルアプリを使用する場合はお勤めしません。" (Disable GET requests on the Web portal. Do not do so if you are using a mobile app). Below the description is a "値:" (Value) section with a dropdown menu showing "いいえ" (No). At the bottom, there are two buttons: "保存" (Save) and "キャンセル" (Cancel).

高度 - セッション

概要

[AD VANCED] タブのこのセクションでは、セッションのユーザ権限などを構成できます

名前	値
すべてのユーザーのデスクトップ	いいえ
アプリケーションのコマンドライン	いいえ
リモートアプリケーションメニュー	デフォルト (はい)
リモートアプリケーションメニュータイトル	デフォルト (My Remote A...
背景色	デフォルト (10841658)
デスクトップショートカットを作成します。	デフォルト (はい)
「すべてのユーザー」デスクトップショートカットを使用し...	デフォルト (いいえ)
割り当てられたアプリケーションがない場合の代替アプ...	
通知センターを無効にする	デフォルト (はい)
子プロセスハンドラを無効にする	デフォルト (いいえ)
割り当てられたアプリケーションがない場合は、強制的...	デフォルト (いいえ)
プリンター: ログオン時にユーザー設定をリセット	デフォルト (いいえ)
スクリーンセーバーを許可	いいえ
ダウンロード先フォルダ	デフォルト (%DESKTOP%)
アップロード先フォルダ	デフォルト (%DESKTOP%)
クライアントのURL - "tel:" プロトコルを有効にする	デフォルト (いいえ)
Windowsシエルを使用します。	デフォルト (はい)
WinXshellを強制します。	デフォルト (いいえ)
セッションを開く際に遅延を追加します。	デフォルト (0)
子プロセスの待機時間	デフォルト (2000)
ファイルブラウザ	デフォルト (Windows エク...
ファイル転送サーバーサイドのデフォルトパス	デフォルト (%DESKTOP%)

すべてのユーザーのデスクトップ

すべてのユーザに対して完全なデスクトップを有効にします

すべてのユーザーのデスクトップ

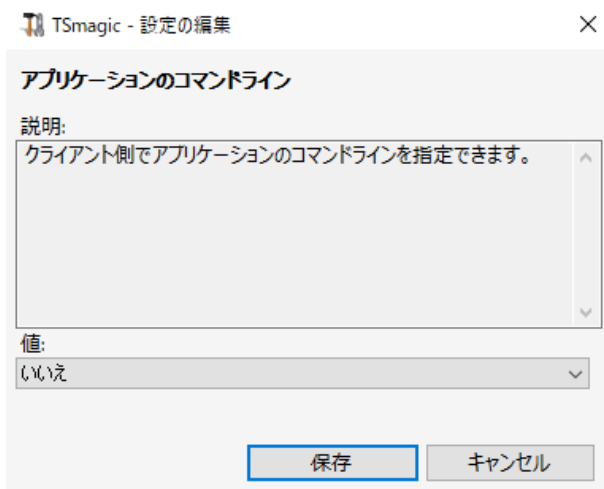
説明:
すべてのユーザーに完全なデスクトップが提供されます。

値:
いいえ

保存 キャンセル

アプリケーションのコマンドライン

アプリケーションコマンドラインはクライアント側で指定できます。



TSMagic - 設定の編集

アプリケーションのコマンドライン

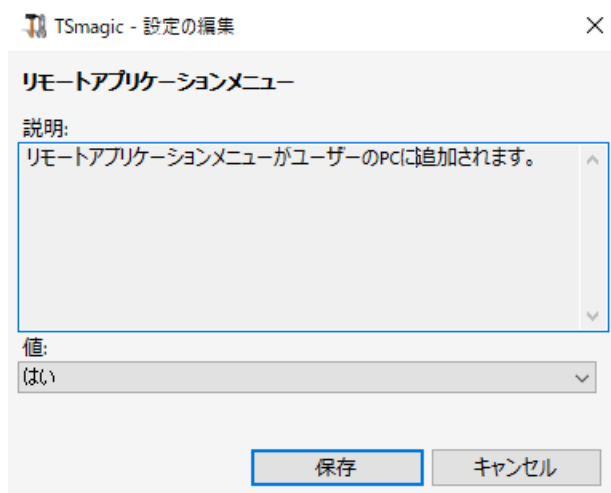
説明:
クライアント側でアプリケーションのコマンドラインを指定できます。

値:
いいえ

保存 キャンセル

リモートアプリケーションメニュー

リモートアプリケーションメニューがユーザの PC に追加されます。



TSMagic - 設定の編集

リモートアプリケーションメニュー

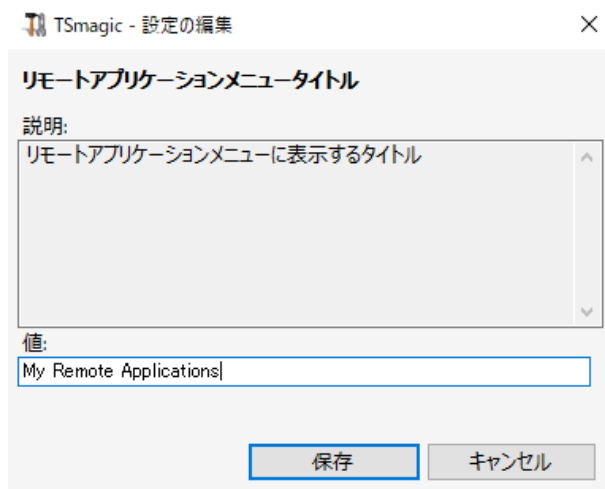
説明:
リモートアプリケーションメニューがユーザーのPCに追加されます。

値:
はい

保存 キャンセル

リモートアプリケーションメニュータイトル

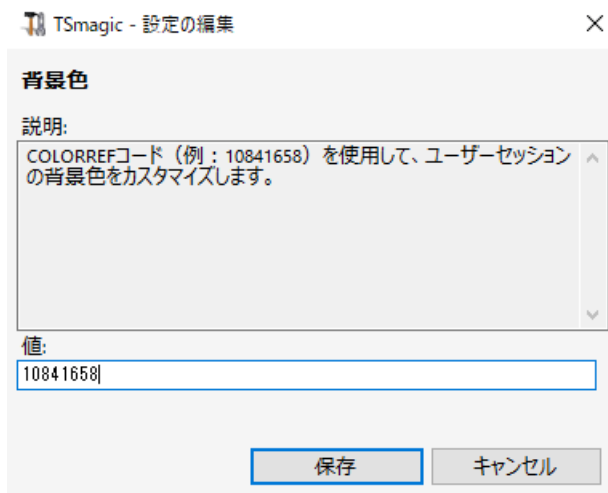
リモートアプリケーションメニューのタイトルを変更できます。デフォルトは「My Remote Applications」です。



The screenshot shows the 'TSMagic - 設定の編集' (TSMagic - Edit Settings) dialog box. The title bar is 'TSMagic - 設定の編集' with a close button. The main title is 'リモートアプリケーションメニュータイトル'. Below it is a '説明:' (Description) section with a text area containing 'リモートアプリケーションメニューに表示するタイトル'. Below the text area is a '値:' (Value) section with a text input field containing 'My Remote Applications'. At the bottom are two buttons: '保存' (Save) and 'キャンセル' (Cancel).

背景色

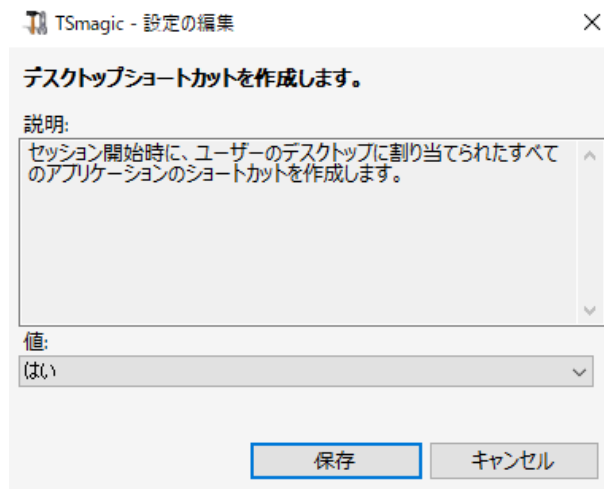
COLORREF コードを使用して、ユーザセッションの背景色をカスタマイズします。(デフォルトは 10841658 です)



The screenshot shows the 'TSMagic - 設定の編集' (TSMagic - Edit Settings) dialog box. The title bar is 'TSMagic - 設定の編集' with a close button. The main title is '背景色' (Background Color). Below it is a '説明:' (Description) section with a text area containing 'COLORREFコード (例: 10841658) を使用して、ユーザーセッションの背景色をカスタマイズします。'. Below the text area is a '値:' (Value) section with a text input field containing '10841658'. At the bottom are two buttons: '保存' (Save) and 'キャンセル' (Cancel).

デスクトップショートカットを作成します

セッション開始時にユーザのデスクトップに割り当てられたすべてのアプリケーションのショートカットを作成します。



TSMagic - 設定の編集

デスクトップショートカットを作成します。

説明:

セッション開始時に、ユーザーのデスクトップに割り当てられたすべてのアプリケーションのショートカットを作成します。

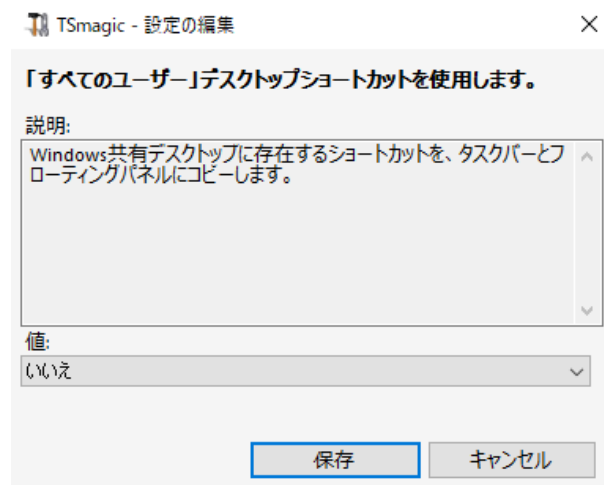
値:

はい

保存 キャンセル

「すべてのユーザ」デスクトップショートカットを使用します

Windows 共有デスクトップにあるショートカットを、タスクバーとフローティングパネルにコピーします。



TSMagic - 設定の編集

「すべてのユーザー」デスクトップショートカットを使用します。

説明:

Windows 共有デスクトップに存在するショートカットを、タスクバーとフローティングパネルにコピーします。

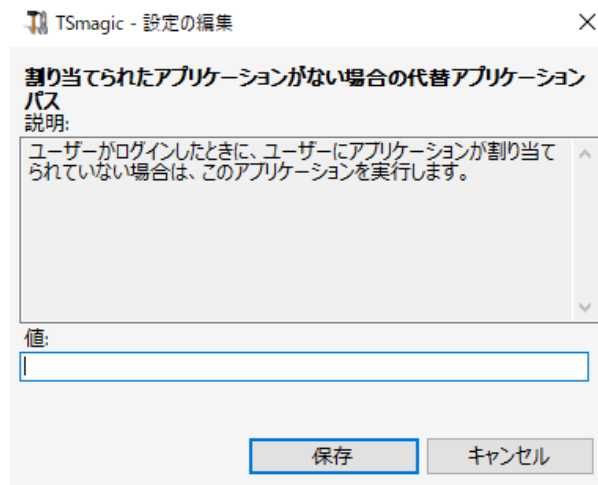
値:

いいえ

保存 キャンセル

割り当てられたアプリケーションがない場合の代替アプリケーションパス

ユーザがログインしたときに1つもアプリケーションが割り当てられていない場合に実行するアプリケーションを指定します。



TSMagic - 設定の編集

割り当てられたアプリケーションがない場合の代替アプリケーションパス

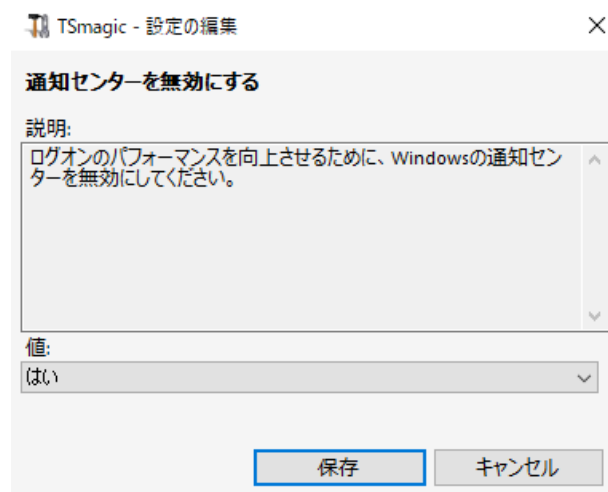
説明:
ユーザーがログインしたときに、ユーザーにアプリケーションが割り当てられていない場合は、このアプリケーションを実行します。

値:

保存 キャンセル

通知センターを無効にする

ログオンのパフォーマンスを向上させるために、Windows の通知センターを無効にします。



TSMagic - 設定の編集

通知センターを無効にする

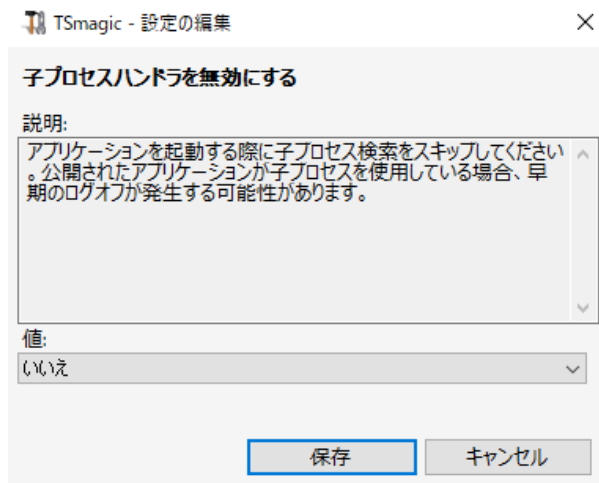
説明:
ログオンのパフォーマンスを向上させるために、Windowsの通知センターを無効にしてください。

値:
はい

保存 キャンセル

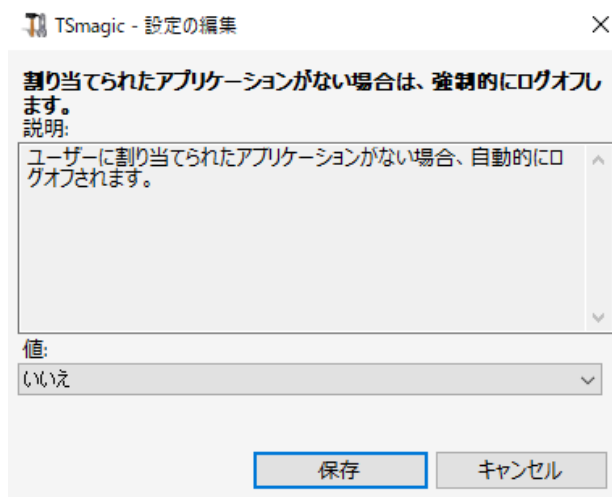
子プロセスハンドラを無効にする

アプリケーションの起動時に子プロセス検索をスキップします。公開されたアプリケーションが子プロセスを使用している場合、早期ログオフの原因となります。



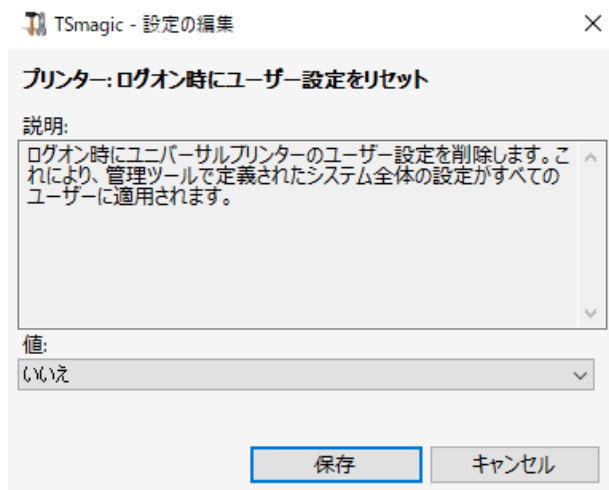
割り当てられたアプリケーションがない場合は、強制的にログオフします

ユーザにアプリケーションが割り当てられていない場合、ユーザを自動的にログオフさせます。



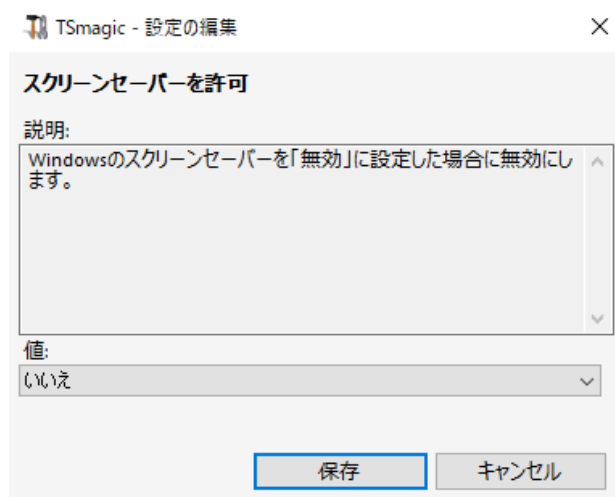
プリンター：ログオン時にユーザー設定をリセット

ログオン時に UniversalPrinter のユーザ設定を削除します。これにより、管理ツールで定義されたシステム全体の設定がすべてのユーザーに適用されます。



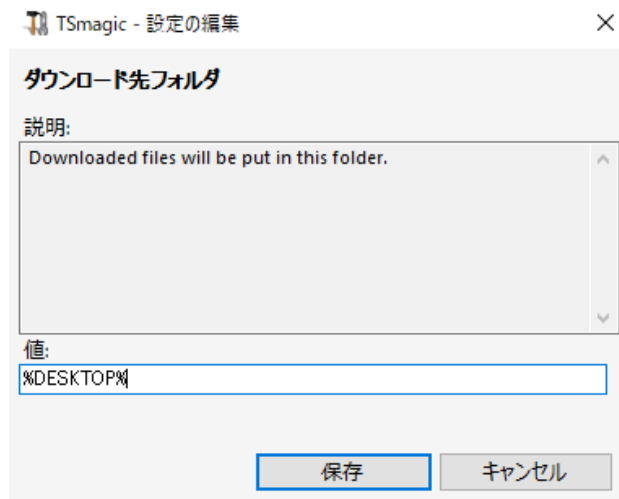
スクリーンセーバーを許可

デフォルトではスクリーンセーバーは無効になっています。Windows スクリーンセーバーを有効にする場合には「はい」にします。



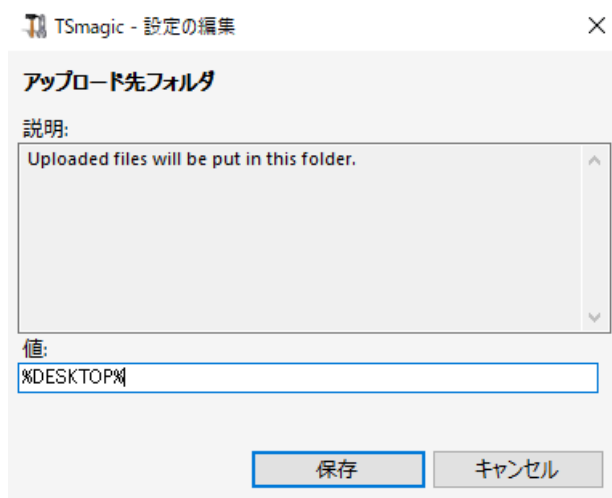
ダウンロード先フォルダ

ダウンロードしたファイルは、デフォルトではデスクトップに配置されます。変更する場合は、ダウンロードフォルダのパスを指定します。



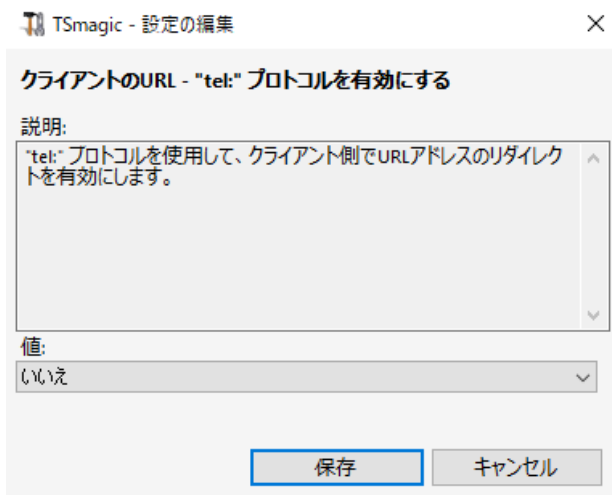
アップロード先フォルダ

アップロードしたファイルはこのフォルダに保存されます。変更する場合は、アップロードフォルダのパスを入力指定します。



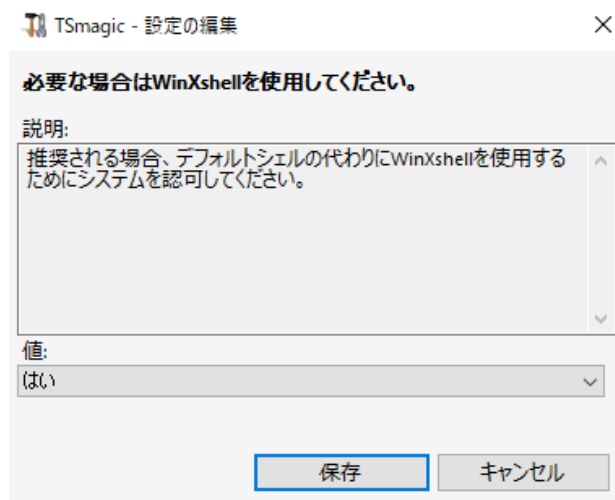
クライアントの URL “tel” プロトコルを有効にする

“tel”プロトコルを使用して、クライアント側で URL アドレスのリダイレクトを有効にします。



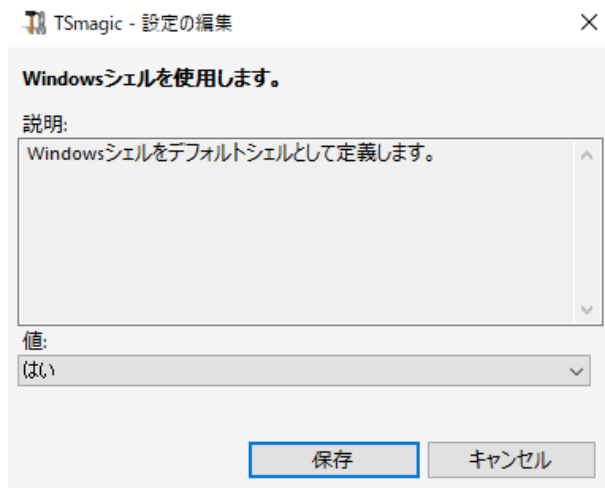
必要な場合は WinXshell を使用してください

推奨された場合、システムがデフォルトシェルの代わりに WinXshell 代替シェルを使用するように許可します。



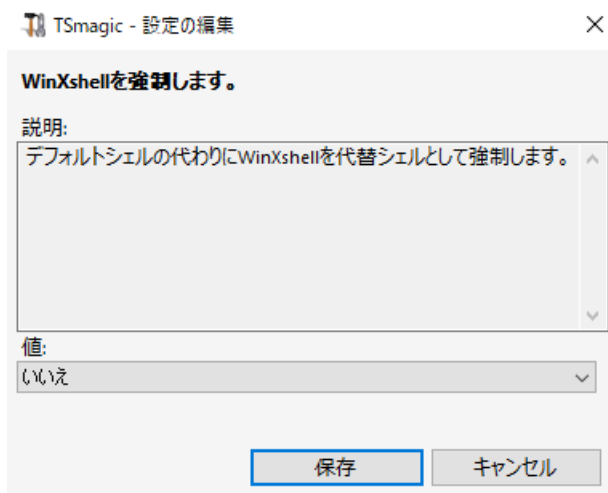
Windows シェルを使用します

Windows シェルをデフォルトシェルとして定義します。この機能はデフォルトで有効になっています。



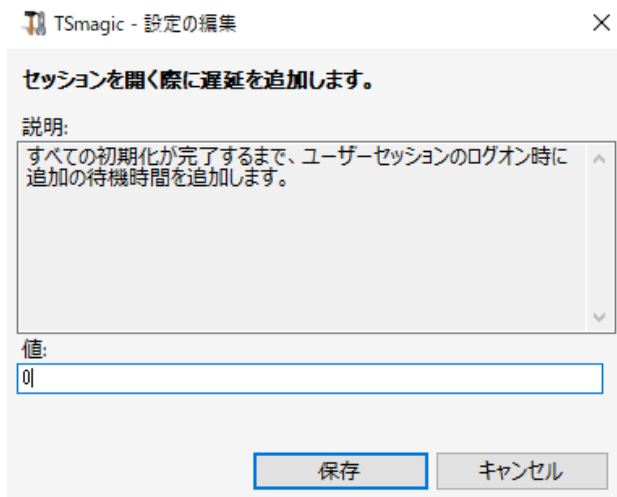
WinXshell を強制します

デフォルトシェルの代わりに WinXshell 代替シェルを強制します。



セッションを開く際に遅延を追加します

ユーザセッションログオン時に待機時間を追加して、すべてを初期化します。デフォルト値は 0 です。変更する場合は、希望する値（秒単位）を入力します。



TSMagic - 設定の編集 ×

セッションを開く際に遅延を追加します。

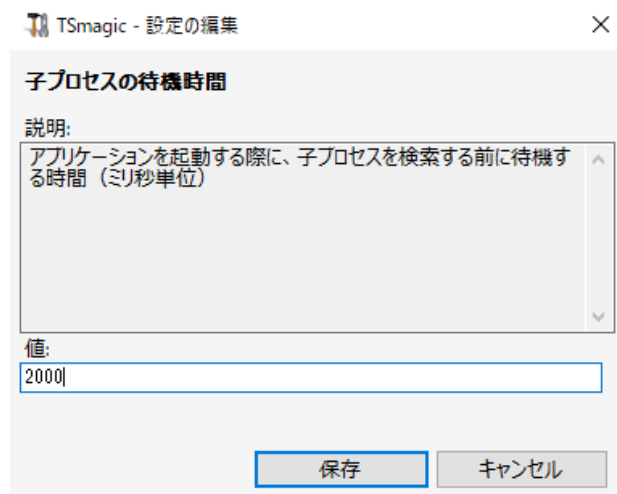
説明:
すべての初期化が完了するまで、ユーザーセッションのログオン時に追加の待機時間を追加します。

値:
0

保存 キャンセル

子プロセスの待機時間

アプリケーションを起動するときに、子プロセスを検索するまでの待ち時間(ミリ秒単位)



TSMagic - 設定の編集 ×

子プロセスの待機時間

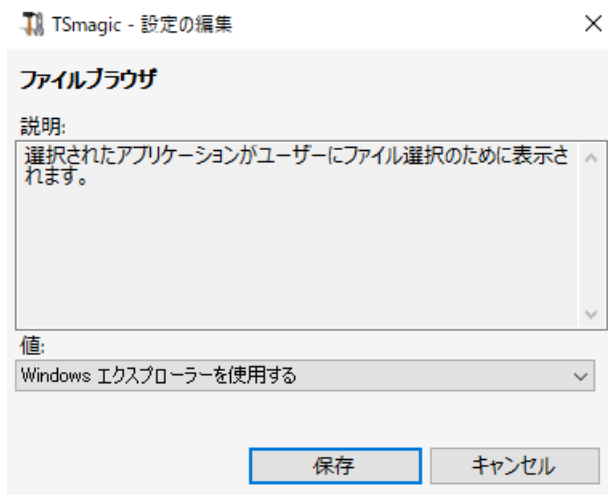
説明:
アプリケーションを起動する際に、子プロセスを検索する前に待機する時間（ミリ秒単位）

値:
2000

保存 キャンセル

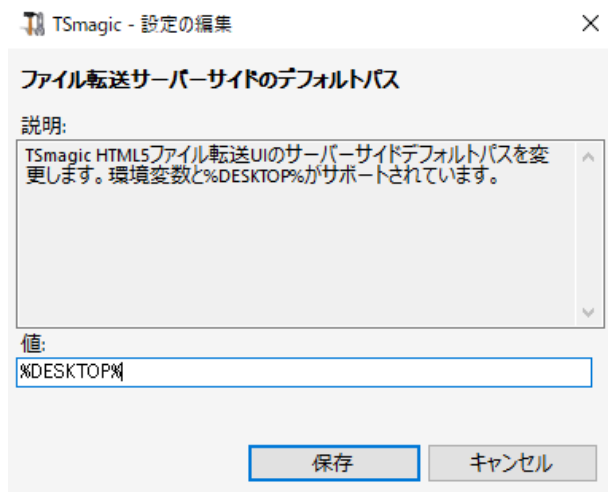
ファイルブラウザ

選択したアプリケーションがファイル選択のために表示されます。既定のブラウザは Windows エクスプローラです。TSMagic ファイルブラウザを選択することもできます。



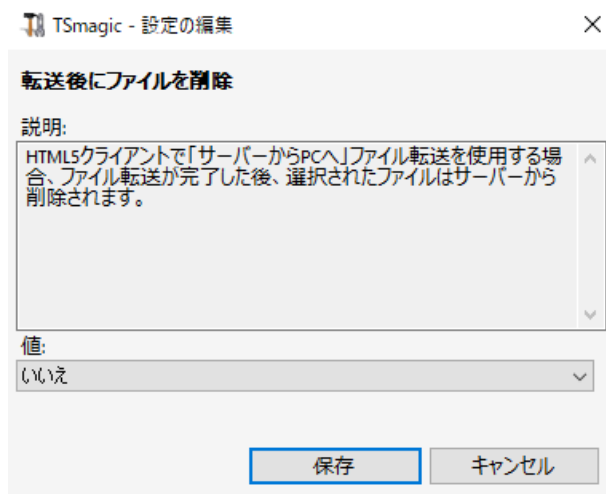
ファイル転送サーバーサイドのデフォルトパス

HTML5 ファイル転送 UI のサーバ側デフォルトパスを指定します。



転送後にファイルを削除

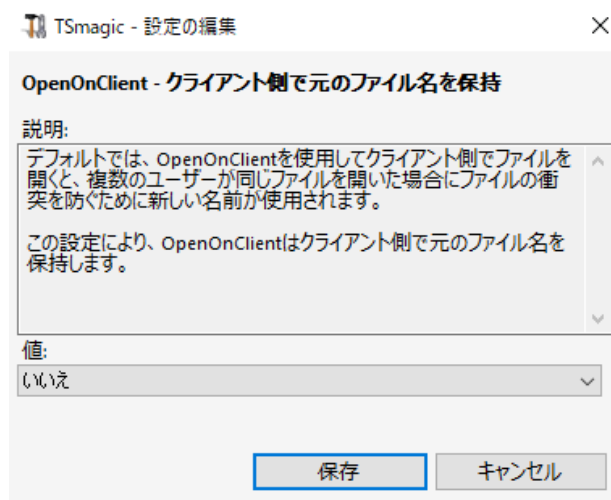
HTML5 クライアントを使用して「Server to PC」ファイル転送を使用する場合、選択したファイルは転送完了後にサーバから削除されます。（該当フォルダにはユーザのフルアクセス権限が必要です）



OpenOnClient - クライアント側で元のファイル名を保持

デフォルトでは、OpenOnClient を使用してクライアント側でファイルを開くと、複数のユーザが同じファイルを開いた場合にファイルの衝突を防ぐために新しい名前が使用されます。

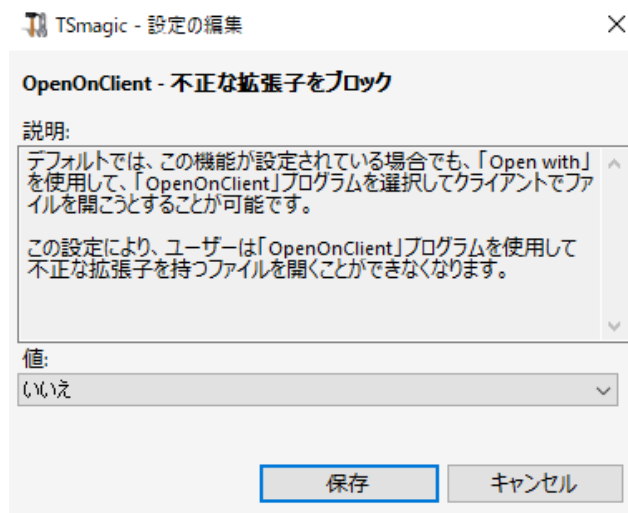
この設定を「はい」にすると、OpenOnClient はクライアント側で元のファイル名を保持します。



OpenOnClient – 不正な拡張子をブロック

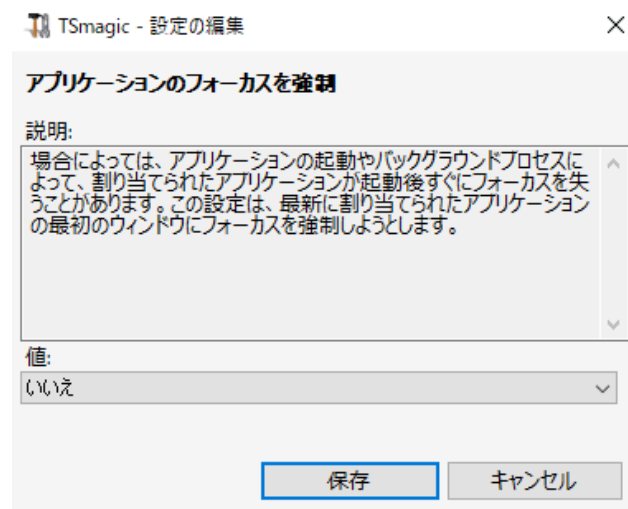
デフォルトでは、OpenOnClient を使用してクライアント側でファイルを開くことが可能です。

この設定を「はい」にすると、OpenOnClient は不正な拡張子を持つファイルを開くことができなくなります。



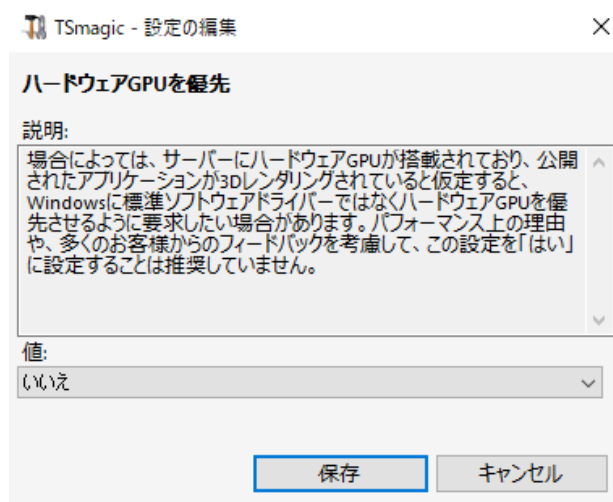
アプリケーションのフォーカスを強制

アプリケーションの起動やバックグラウンド プロセスによっては、割り当てられたアプリケーションが起動直後にフォーカスを失うことがあります。 この設定を有効にすると、最後に割り当てられたアプリケーションの最初のウィンドウにフォーカスを戻そうとします。



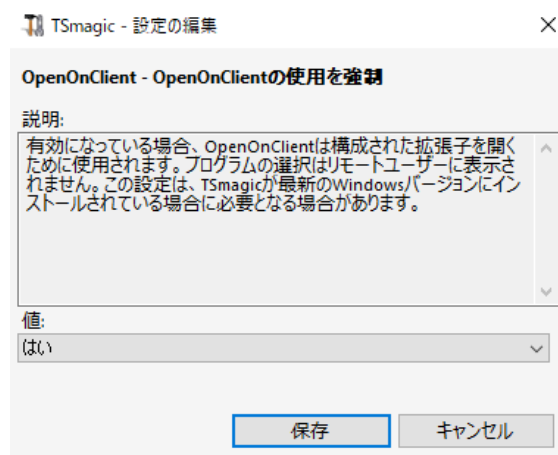
ハードウェアの GPU を優先

場合によっては、サーバにハードウェア GPU があり、公開アプリケーションが 3D レンダリングされている場合に、標準のソフトウェアドライバよりもハードウェア GPU を優先するように 設定することができます。パフォーマンス上の理由から、この設定を「はい」に設定することはお勧めしません。



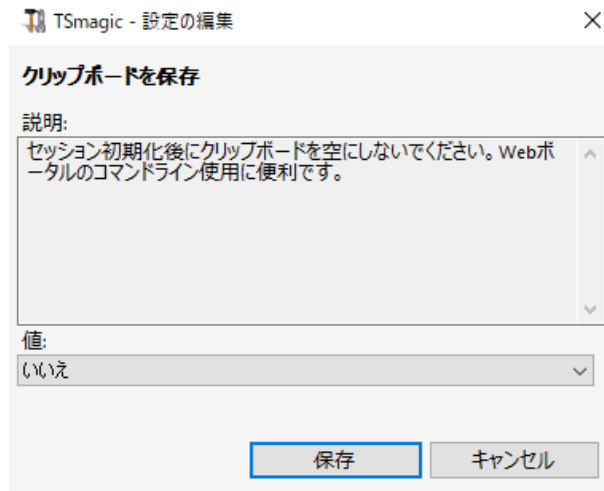
OpenOnClient – OpenOnClient の使用を強制

有効にすると、構成された拡張子を開くために OpenOnClient が使用されます。プログラムの選択は、リモートユーザには表示されません。この設定は、TSMagic が最近の Windows バージョンにインストールされている場合に必要になる場合があります。



クリップボードを保存

セッション初期化後にクリップボードの内容をクリアしないように設定することができます。



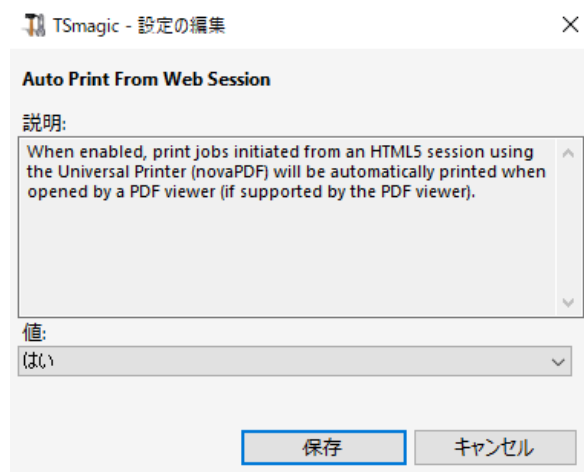
Open Print Jobs In New Tab

有効にすると、UniversalPrinter(novaPDF)を使用して HTML5 セッションから開始された印刷ジョブが、ブラウザの新しいタブで開かれます。



Auto Print From Web Session

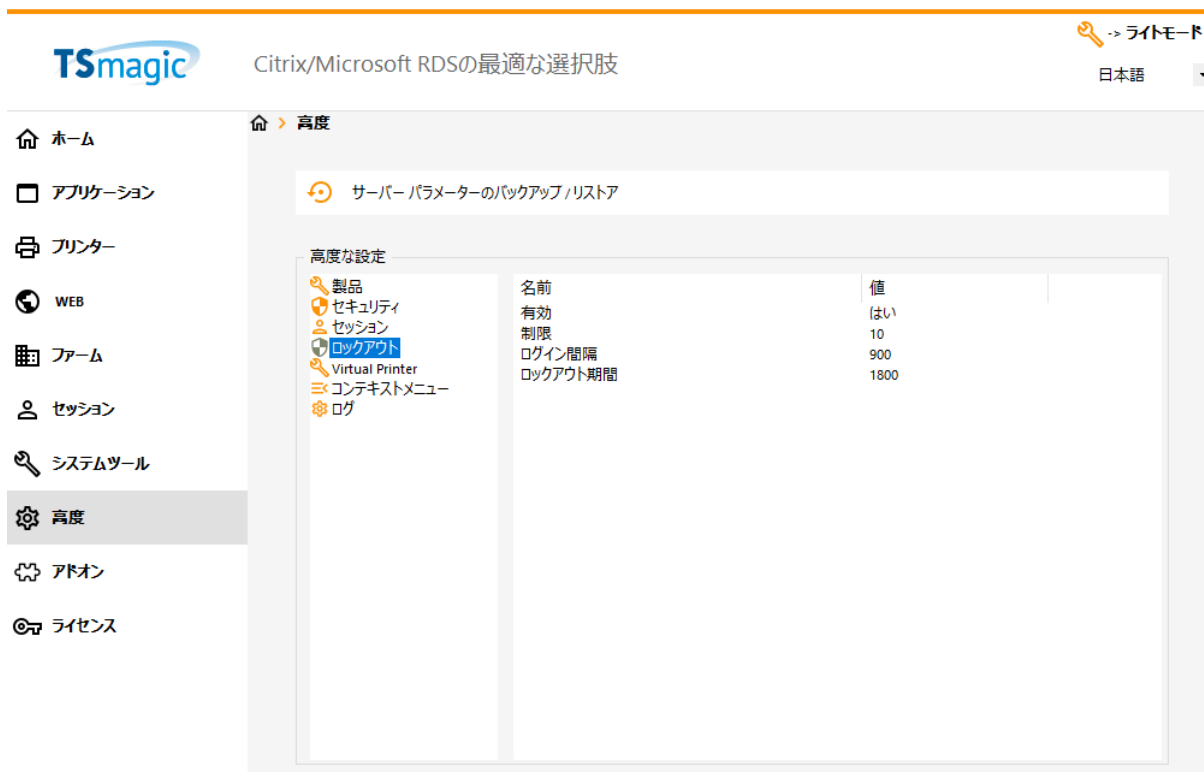
有効にすると、UniversalPrinter(novaPDF)を使用して HTML5 セッションから開始された印刷ジョブは、PDF ビューアで開いたときに自動的に印刷されます（PDF ビューアでサポートされている場合）。



高度 - ロックアウト

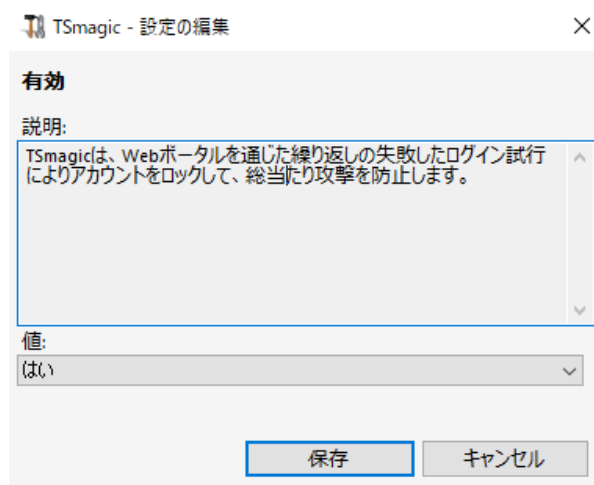
概要

[高度] タブのこのセクションでは、TSMagic ロックアウト設定を構成できます



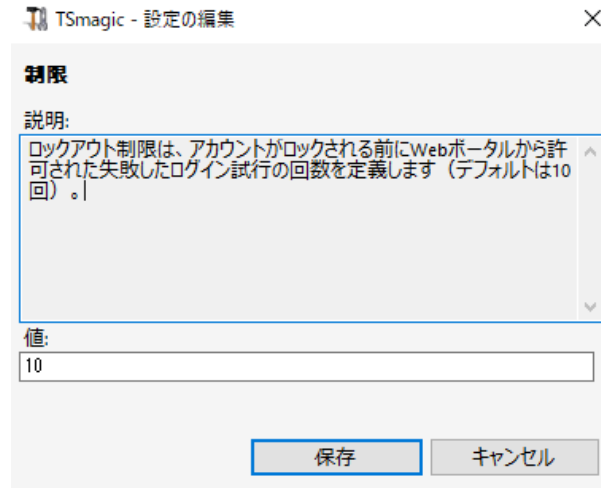
有効

ロックアウトの機能はデフォルトでは有効になっています。「いいえ」を選択すると無効にできます。



制限

アカウントがロックアウトされるまでにログイン試行の失敗を許可する回数を指定します。



制限

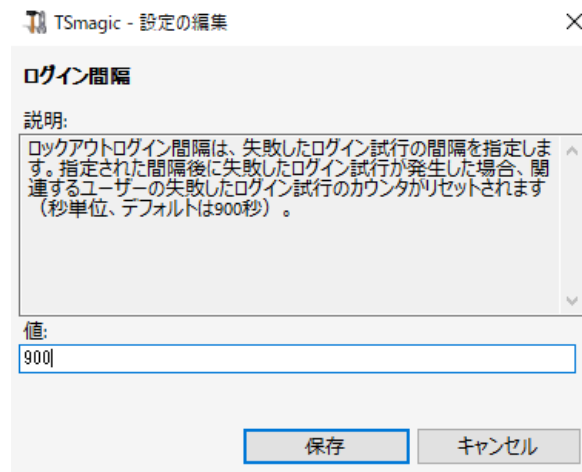
説明:
 ロックアウト制限は、アカウントがロックされる前にWebポータルから許可された失敗したログイン試行の回数を定義します（デフォルトは10回）。

値:
 10

保存 キャンセル

ログイン間隔

失敗したログイン試行間の間隔を秒単位で指定します。設定された間隔の後にログイン試行の失敗が発生した場合、該当ユーザのログイン試行のカウンターはリセットされます。（秒単位）



ログイン間隔


説明:
 ロックアウトログイン間隔は、失敗したログイン試行の間隔を指定します。指定された間隔後に失敗したログイン試行が発生した場合、関連するユーザーの失敗したログイン試行のカウンターがリセットされます（秒単位、デフォルトは900秒）。

値:
 900

保存 キャンセル

ロックアウト期間

アカウントがロックアウトされてログインできない期間を秒単位で指定します。ユーザがロックアウトされる期間は、ロックアウト期間とロックアウト間隔の間の最大値です。したがって、ロックアウト期間の値を変更するときは、ロックアウト間隔の値をより小さな値にする必要があります。（秒単位）

 TSMagic - 設定の編集

ロックアウト期間

説明:

ロックアウト期間は、アカウントがロックされてログインできない期間を指定します（秒単位、デフォルトは1800秒）。ユーザーがロックされる期間は、LockoutPeriodとLockoutIntervalの設定のうち、大きい方の値になります。そのため、LockoutPeriodの値を変更する際には、関連する動作を確実にするために、LockoutIntervalの設定をより小さい値に更新する必要があります。

値:

保存

キャンセル

高度 – Virtual Printer

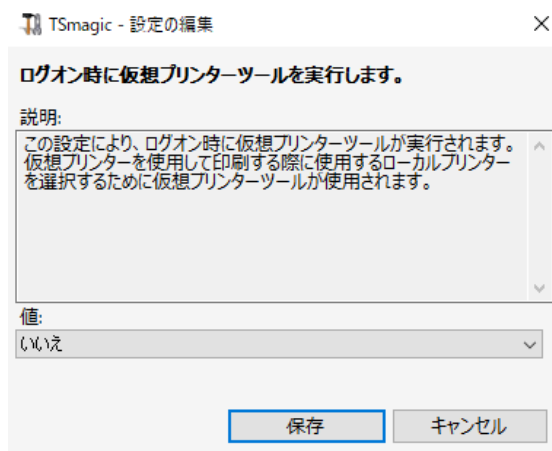
概要

[高度] タブのこのセクションでは、Virtual Printer に関する設定が行えます。



ログオン時に仮想プリンターツールを実行します

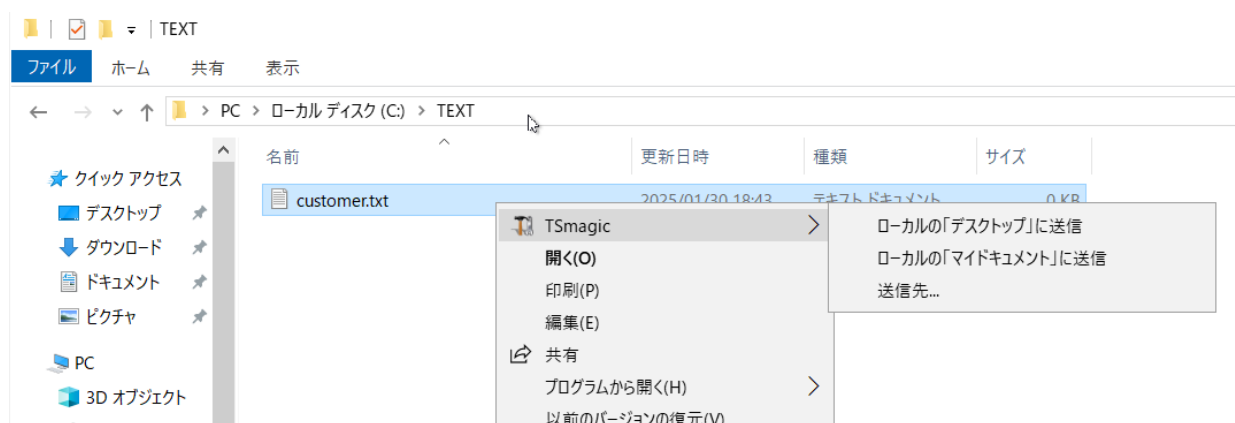
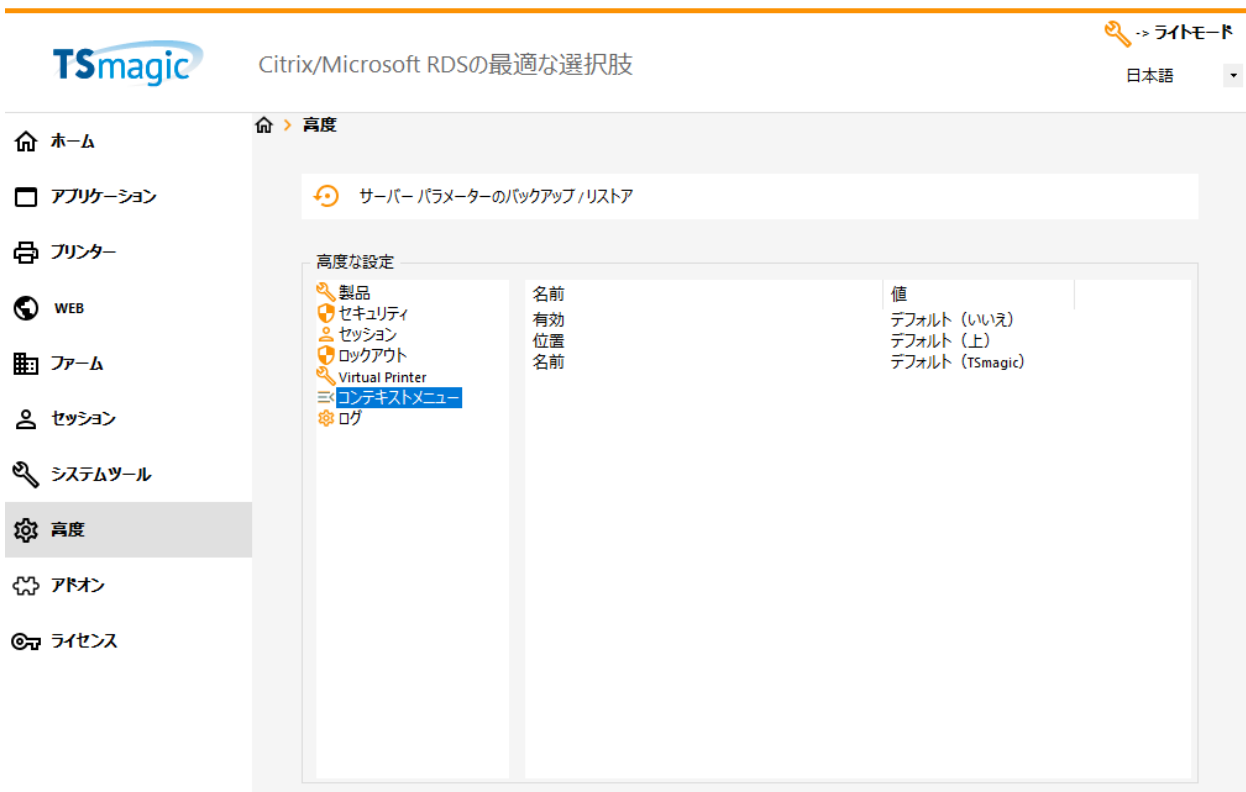
ユーザがログオンした時に、Virtual Printer Tool を自動起動するように設定できます。「いいえ」に設定した場合、ユーザが Virtual Printer Tool を手動実行できるように Virtual Printer Tool をアプリケーションとして公開する必要があります。



高度 – コンテキストメニュー

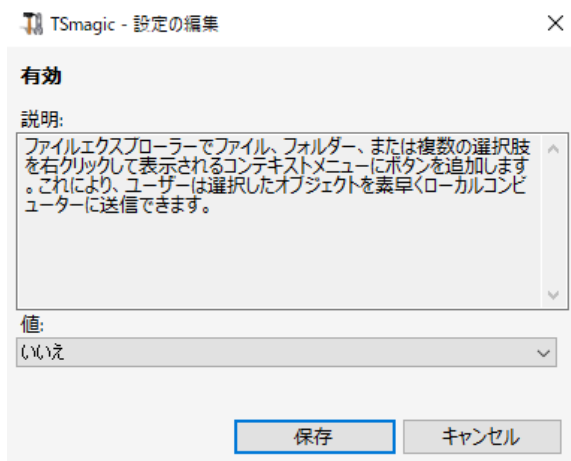
概要

[高度] タブのこのセクションでは、コンテキストメニューにクライアントに送信メニューを追加して、サーバのファイルをクライアントに簡単に送信できるようになります。



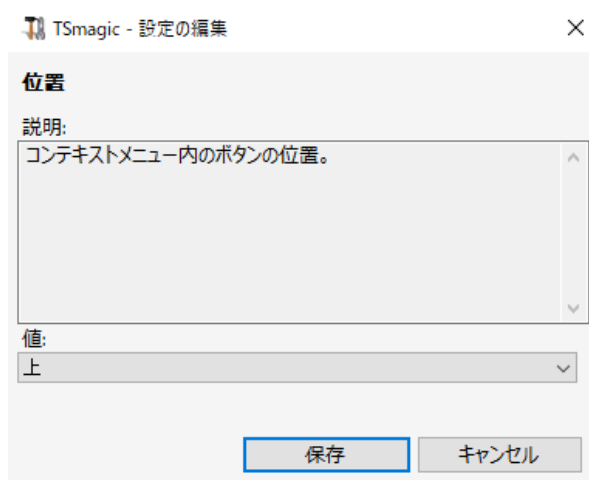
有効

デフォルトでは無効になっています。このウィンドウで「はい」を選択すると機能を有効にできます。



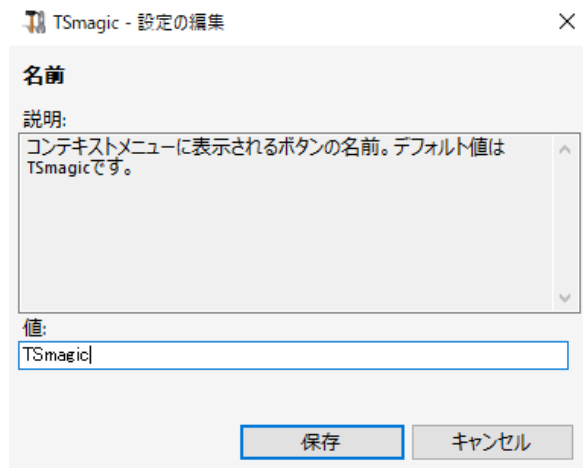
位置

ファイル送信メニューを追加するコンテキストメニュー内の位置を指定します。



名前

メニューの文字列を指定します。



TSMagic - 設定の編集

名前

説明:
コンテキストメニューに表示されるボタンの名前。デフォルト値は TSMagic です。

値:
TSMagic

保存 キャンセル

高度 - ログ

概要

[高度] タブのこのセクションでは、TSMagic のログ設定を構成できます。

以下の作業を行った上、各ログをアクティブ化する必要があります。

- 「C:¥wsession」フォルダ内に「Trace」フォルダを作成します。
- セッション開始ログは「Trace」フォルダ内にユーザごとに作成されます。


Citrix/Microsoft RDSの最適な選択肢

 ライトモード

日本語

ホーム

アプリケーション

プリンター

WEB

ファーム

セッション

システムツール

高度

アドオン

ライセンス

高度

サーバー パラメーターのバックアップ/リストア

高度な設定

製品	名前	値	
セキュリティ	Webポータルログ	WARN	表示
セッション	セッションオープニングログ	無効	
ロックアウト	セッション制御ログ	WARN	表示
Virtual Printer	ロードバランシングログ	WARN	表示
コンテキストメニュー	管理ツールアプリケーションログ	DEBUG	表示
ログ	コンテキストメニューログ	OFF	
	ユニバーサルプリンターログ	DEBUG	表示
	セッションイベントログ	Disabled	

ログはそれぞれ以下の場所に作成されます。

- Web ポータルログ : C:¥Program Files (x86)¥TSMagic¥Clients¥www¥cgi-bin¥hb.log
- セッションオープニングログ : C:¥wsession¥Trace
- セッション制御ログ : C:¥Program Files (x86)¥TSMagic¥UserDesktop¥files ¥ APSC.log
- ロードバランシングログ : C:¥Program Files (x86)¥TSMagic¥UserDesktop¥files¥svcenterprise.log
- 管理ツールアプリケーションログ : C:¥Program Files (x86)¥TSMagic¥UserDesktop¥files¥AdminTool.log
- コンテキストメニューログ : C:¥wsession¥ SendToClientManager.log
- ユニバーサルプリンターログ : C:¥wsession¥UniversalPrinter¥logs
- セッションイベントログ : C:¥Users¥[ユーザ ID]¥AppData¥Roaming¥UniversalPrinter¥logs

レジストリに次のキー値を作成することにより、クライアント側で接続クライアントのログを有効にできます。

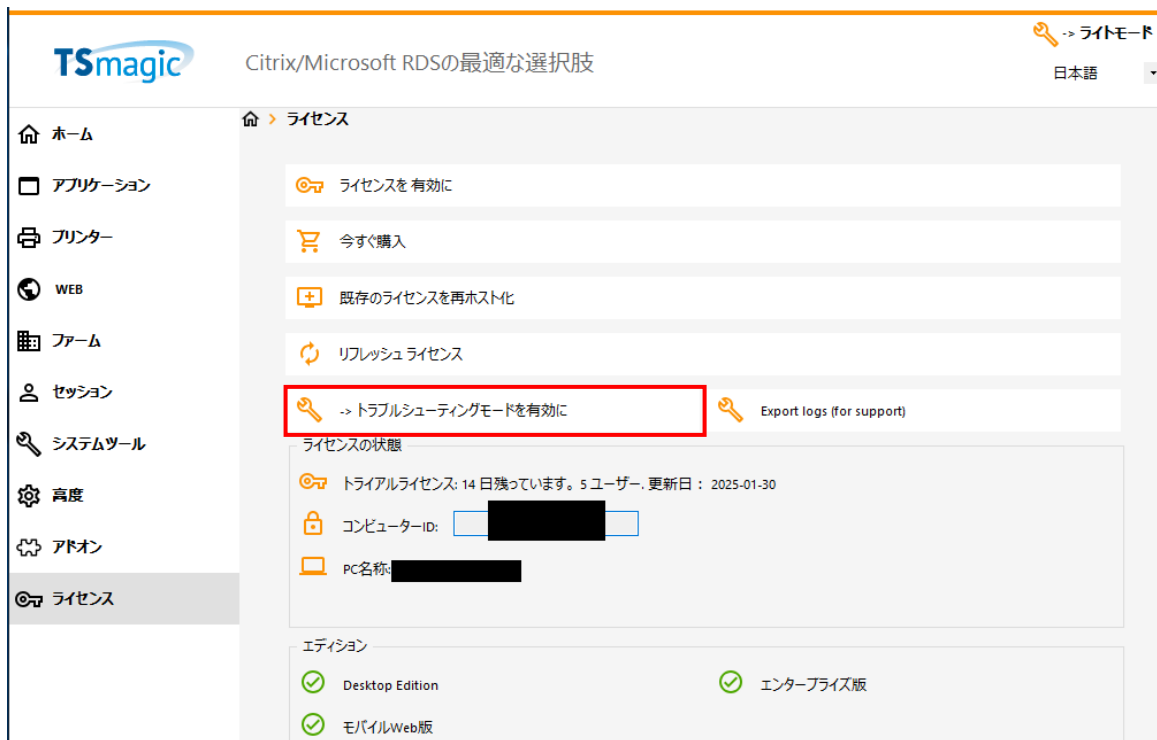
[コンピューター¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Digital River¥ConnectionClient] 「Debug」 = 「true」 (文字列値)

ログは次の場所に出力されます「C:¥Users¥[ローカル PC ログインユーザ ID]¥RDP6¥logs」または「C:¥Program Files (x86)¥Connection Client¥RDP6¥logs」

トラブルシューティングモード

トラブルシューティングモードを有効にし、問題を再現させることでサポートセンターに送付するためのログファイルを取得できます。

[ライセンス] タブに移動し、「トラブルシューティングモードを有効に」ボタンをクリックします。

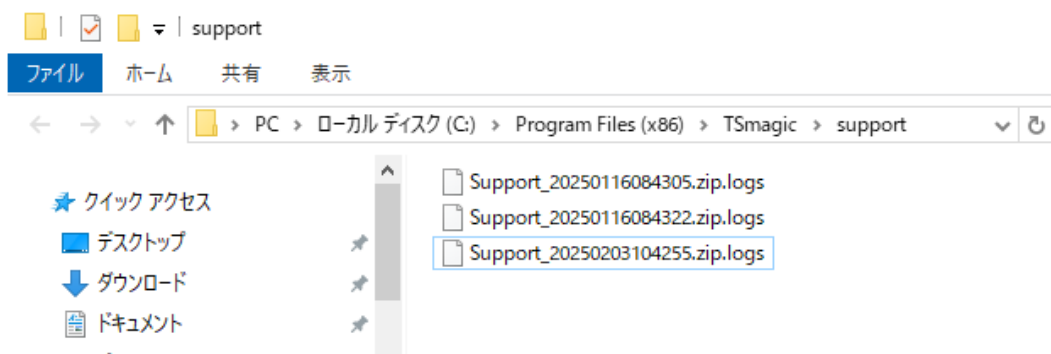
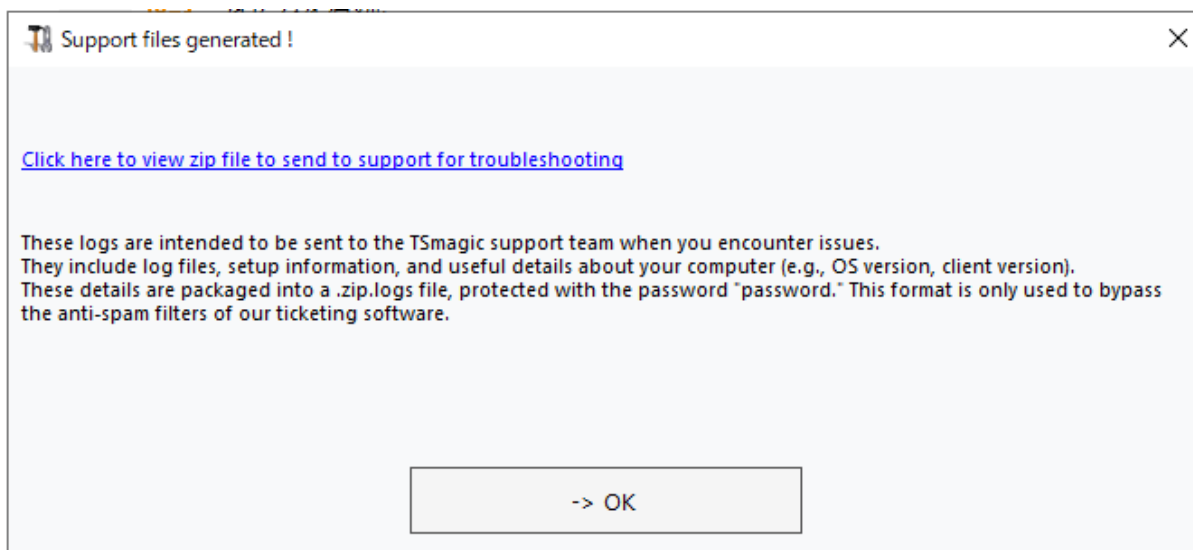


問題を再現し、「Exprt logs (for support)」ボタンをクリックします。



「Click here to view zip file to send to support for troubleshooting」のリンクをクリックするとログファイルの出力先フォルダが表示されますので、出力された「Support_xxxxxx.zip.logs」ファイルをサポートセンターへご送付ください。

(ログファイルはパスワード「password」で保護されます)



Web アプリケーションポータル:URL アドレスのパラメータ

Web アプリケーションポータルを使用しているときに TSMagic の標準ログイン Web アクセスページをバイパスし、Web アプリケーションポータルページに直接移動する場合は、URL アドレスに次のパラメータを指定する必要があります。

- ユーザログイン
- ユーザパスワード
- ユーザドメイン
- サーバ
- ポート
- クライアント・タイプ(HTML5 または Windows)

以下は、HTML5 クライアントを使ったサーバ上での、ユーザ「demo」とパスワード「demo」の完全な URL アドレスの例です。

https://demo.domain/index_applications.html?user=demo&pwd=demo&domain=&server=127.0.0.1&port=3389&type=html5html

domain、server、port および type パラメータはオプションで、次の URL アドレスもまったく同じ動作をします。

https://demo.domain/index_applications.html?user=demo&pwd=demo

Windows クライアントを使用するには、次のコマンドを使用します。

```
&type=remoteaccess
```

URL アドレスのパラメータを使用して、Web アプリケーション ポータルページに直接移動できます。

これらすべてのパラメータを同時に指定する必要はありません。指定されていないパラメータは、デフォルトの設定値を持ちます。

Web ログオンページ:ログオン後にフォームを閉じる方法

概要

Web ログオンページで、ユーザが「ログオン」ボタンをクリックすると、選択したクライアント(HTML5 または Windows)が新しいブラウザのタブで開きます。

特に Windows クライアントを使用している場合、ユーザが「ログオン」ボタンを再度クリックしないようにするなど、ユーザに対してログオンフォームを非表示にすることができます。

ユーザが「ログオン」ボタンをクリックすると、選択したクライアントが新しいブラウザのタブで開き、ログオン・タブが自動的に別の Web ページに移動します。

"http://google.com"や "http://your_intranet/your/page.html"などの既存のインターネットアドレス(URL)を自由に使用できます。または、URL として "thankyou.html" を使用し、"C:\Program Files(x86)\Tsmagic\Clients\www" フォルダに "thankyou.html" という名前のファイルを作成し、HTML コンテンツを作成します。

"C:\Program Files(x86)\Tsmagic\Clients\www\software"フォルダに保存されている"common.js"ファイルを編集します。メモ帳やメモ帳++ などのテキスト エディタを使用することをお勧めします (Word を使用しないでください)。

次の行を検索します。

```
p = 'software/remoteapp.html';
window.name = " " + window.opforfalse;
if (cpwin != false) {
    cpwin.name = window.opforfalse;
    cpwin.location.replace(hostGateway + jwtsclickLinkBefore(getside(), p));
} else {
    window.open(hostGateway + jwtsclickLinkBefore(getside(), p), window.opforfalse);
}
```

次の行で置き換えます。

```
p = 'software/remoteapp.html';
window.name = " " + window.opforfalse;
if (cpwin != false) {
    cpwin.name = window.opforfalse;
    cpwin.location.replace(hostGateway + jwtsclickLinkBefore(getside(), p));
} else {
    window.open(hostGateway + jwtsclickLinkBefore(getside(), p), window.opforfalse);
}
window.location.href = "http://google.com";
```

変更した JavaScript ファイルを保存した後で、ブラウザのキャッシュをクリアすることをお勧めします。

Web ログオンページ:ログオンスプラッシュ画面を変更する方法

概要

リモート接続がロードされている時、HTML5 クライアントは下のスクリーンショットのようなデフォルトのスプラッシュスクリーンを表示しています。

**Your online security is important to us.
Please wait while we secure your connection ...**



このコンテンツは、JavaScript 構成のファイルを変更してカスタマイズできます。

HTML5 クライアント

カスタマイズしたスプラッシュ画面のコンテンツの作成

スプラッシュ画面には、任意のテキストまたは HTML のコンテンツを使用できます。

また、単純引用符(')または二重引用符(")を使用する必要がある場合は、引用符の代わりに、にバックスラッシュ(\ ' and \ ")を記述する必要があります。

最後に、内容は 1 行だけで記述しなければならないことに注意してください。

以下はスプラッシュスクリーンの有効なサンプルです。

```
<h1>This is my customized splashscreen</h1>Please say \"hello\"!<img src='html5/imgs/ring64.gif' border=0>
```

タイトル(「This is my customized splashscreen」)、テキスト(「Please say hello!」)が表示されます。標準的な TSMagic スプラッシュスクリーンと同様に、リングのアニメーション画像が表示されます。

独自のコンテンツを使用するためのスプラッシュ画面データの変更

"C:¥Program Files (x86)¥TSMagic¥Clients¥www¥software¥html5"フォルダにある"settings.js"ファイルを編集します。メモ帳やメモ帳++などのテキストエディタを使用することをお勧めします。

次の文字で始まる行を検索します。

```
W.splashscreencontent="
```

次の行で完全に置き換えます。

```
W.splashscreencontent = "your customized content here";
```

末尾の二重引用符とセミコロン(";")を忘れないでください。

HTML5 でログオンスプラッシュスクリーンの表示時間を長くするには、ミリ秒単位で値を変更します。

```
W.splashscreentime = 5000; //splash screen play time.
```

変更した html ページを保存した後で、ブラウザのキャッシュをクリアすることをお勧めします。

HTML ページとカスタマイズ

HTML ページをメモ帳またはメモ帳++で編集して、ユーザインターフェイスをカスタマイズできます。

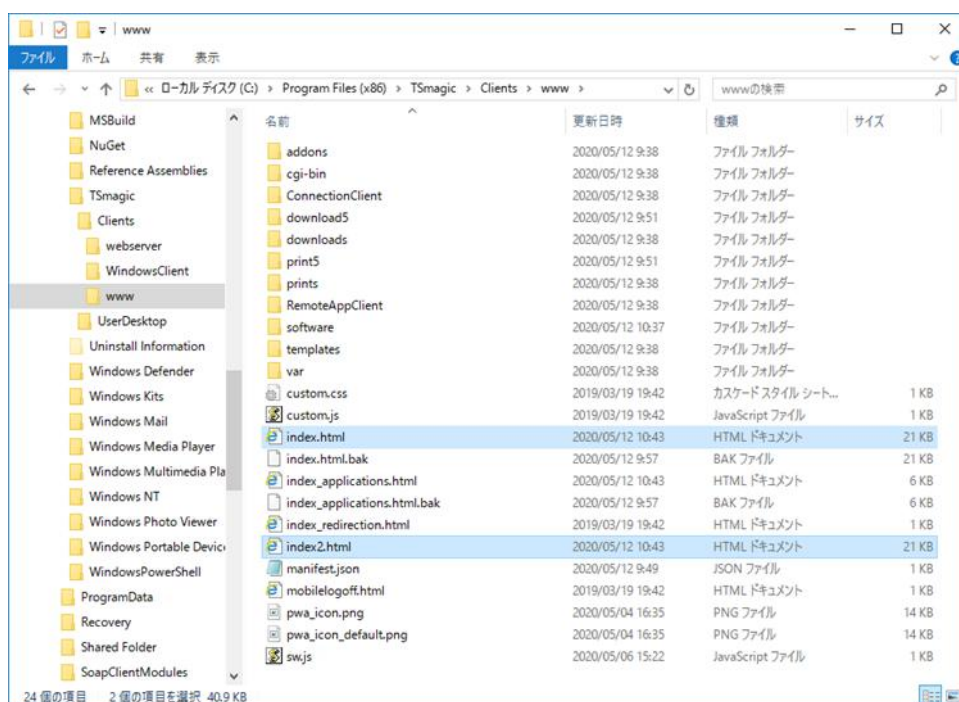
index.html ページ

index.html は、Web サーバのルートフォルダパスにあります。

C:\Program Files (x86)\Tsmagic\Clients\www

Index.html ページは規定の Web ページです。これは、www フォルダにある接続ページへのリンクを含むフロントエンド ポータル ページのようなものです。

この Web ページをコピーして名前を変更することで、複数の構成やログオン情報を許可できます。たとえば、index.html を index2.html にコピーして名前を変更すると、このページはこの url <http://localhost/index2.html> を使用して利用できるようになります。



「index.html」ファイル名を「index2.html」に変更し、Web アプリケーションポータルを使用している場合は、このファイルの次の変数を変更する必要があることに注意してください。"page_configuration ["applications_portal"] = "index_applications.html" を "index2_applications.html" に変更し、"index_applications.html" ファイルの名前を "index_2applications.html" に変更します。

デフォルトの index.html には、可能なすべてのオプションが含まれています。

- RemoteApp からアプリケーションへのアクセス、Web ブラウザ外への接続
- 任意のデバイスから HTML5 を使った接続
- ローカル印刷の環境設定

ヘッダーとフッターは、[Web] タブの Web ポータルの設定タイルにある Web ポータルのデザイン機能で変更できます。

index.htmlWeb ページを編集すると、さまざまな設定にアクセスできます。

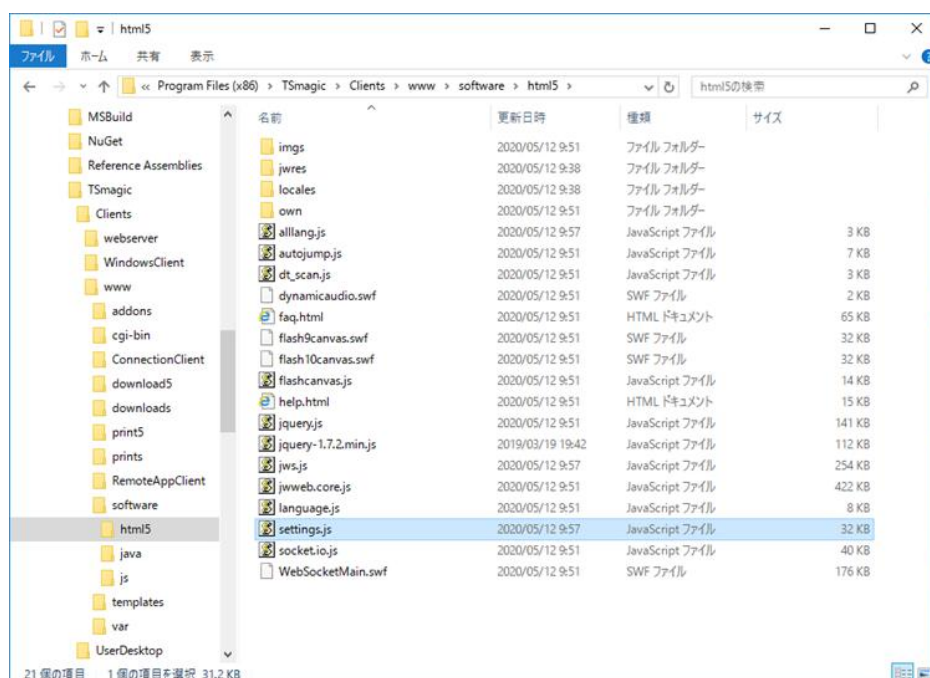
```
// ----- Access Configuration -----
var user = ""; // Login to use when connecting to the remote server (leave "" to use the login typed in this page)
var pass = ""; // Password to use when connecting to the remote server (leave "" to use the password typed in this page)
var domain = ""; // Domain to use when connecting to the remote server (leave "" to use the domain typed in this page)
var server = "127.0.0.1"; // Server to connect to (leave "" to use localhost and/or the server chosen in this page)
var port = ""; // Port to connect to (leave "" to use localhost and/or the port of the server chosen in this page)
var lang = "as_browser"; // Language to use
var serverhtml5 = "127.0.0.1"; // Server to connect to, when using HTML5 client
var porthtml5 = "3389"; // Port to connect to, when using HTML5 client
var cmdline = ""; // Optional text that will be put in the server's clipboard once connected
// ----- End of Access Configuration -----
```

例えば、次のように編集して demo/Psw をログイン/パスワードとして事前設定します。

```
var user=「demo」;var pass=「Psw」;
```

これにより、事前に入力された資格情報がポータルへの訪問ごとに表示されます。

もう 1 つの非常に重要な構成ファイルは、C : %Program Files(x86)%Tsmagic%Clients%www%software%html5 にある **settings.js** です。:



このファイルには、セッションの無効化、クリップボード、ブラウザタブを閉じた場合のセッション再接続の許可など、HTML5Web クライアントのさまざまな設定が含まれています。

- クリップボードを無効にする:
"W.clipboard = "yes"; //or "no" "
- サウンドを無効にするには、次の設定を使用します。
"W.playsound = false;"
- モバイルデバイスの既定の解像度を変更する:
"W.viewportwidth = "1024" " - 高さはブラウザによって計算されます
- リモート接続のための HTTPS の強制
"W.forcealways_ssl = true;"
- ブラウザタブを閉じたときにセッションの再接続を許可する:
"W.send_logoff = false;"
- ブラウザタブが閉じないように警告ポップアップを追加します。
"W.pageUnloadMessage = "" " パラメータを検索します。

以下がメッセージの例です。

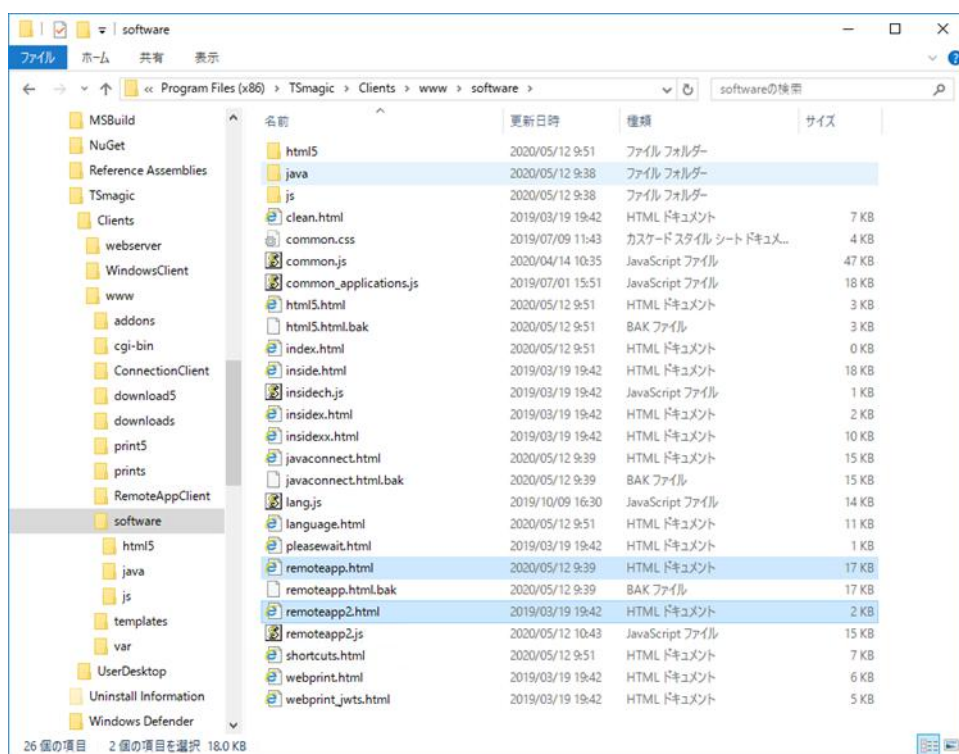
W.pageUnloadMessage="このタブを閉じるとリモートセッションが切断されます。よろしいですか?";//ページがアンロードされたときに表示されるダイアログ。

//1.重要な点として、独自のダイアログはすべてのブラウザでサポートされているわけではありません。

//2.HTML 標準では、ページの更新とページを閉じるアクションは区別されません。ダイアログはページの更新時にも表示されます。



RemoteApp Web ページの一般的な設定は、“software”フォルダーにあり、remoteapp.html と remoteapp2.js の 2 つの異なるファイルに格納されています。



remoteapp2.js で使用可能な設定例:

```
// Remote Desktop Server
var remoteapp2_server = "";
var remoteapp2_port = '443';

// Windows Authentication
var remoteapp2_user = "";
var remoteapp2_psw = "";
var remoteapp2_domain = "";

// Optionnal Command Line Parameters
var remoteapp2_apppath = "";

// Seamless/RemoteApp mode
var remoteapp2_wallp = 'green';
var remoteapp2_seamless = 'off';
var remoteapp2_remoteapp = 'on';

// Screen
var remoteapp2_color = '32';
var remoteapp2_full = '2';
var remoteapp2_width = "";
var remoteapp2_height = "";
var remoteapp2_scale = '100';
var remoteapp2_smartsizing = '1';
var remoteapp2_dualscreen = 'off';
var remoteapp2_span = 'off';

// Disks mapping (The C: disk is required for printing)
var remoteapp2_disk = '1';
var remoteapp2_selectdisk = ""; // NOTICE: Set to " to select all clients disks, or set to the list of client disks to share (for instance 'C:;H:;L:;' to select C:,H: and L: disks)

// Printing
var remoteapp2_printer = 'on';
var remoteapp2_preview = 'on';
var remoteapp2_default = 'off';
var remoteapp2_defaultsyste = 'off';
var remoteapp2_select = 'off';

// Hardware
var remoteapp2_com = '0';
var remoteapp2_smartcard = '0';
var remoteapp2_serial = 'off';
var remoteapp2_usb = 'off';
var remoteapp2_sound = 'on';
var remoteapp2_directx = 'off';

// Miscellaneous
var remoteapp2_alttab = '0';
var remoteapp2_firewall = '1';
var remoteapp2_localtb = '0';
var remoteapp2_lock = 'off';
var remoteapp2_rdp5 = 'off';
var remoteapp2_reset = 'off';
var remoteapp2_gatewayhostname = "";
var remoteapp2_gatewayusagemethod = "";
```

Web ポータルの機能を超えて Web アクセスページを完全にカスタマイズする方法

概要

Web ポータルを使用すると、TSMagic Web アクセスページを広範囲にカスタマイズできます。

しかし、これだけでは不十分な場合もあります。このような場合、Web マスターツールキットによって生成された Web アクセスページを自分で変更することによって、Web ポータル機能を超えて Web アクセスページを完全にカスタマイズすることができます。

注意: このドキュメントは、熟練した Web 開発者のみを対象としています。

必須設定の生成

Web アクセスページに必須の設定を含めるには、Web ポータルを使用して Web アクセスページを生成することをお勧めします。

ファイルの場所

Web アクセスページは、「C:\Program Files (x86)\TSMagic\Clients\www」フォルダに生成されます。たとえば、ページ名として「index」をページ名として使用すると、このフォルダ内に「index.html」というファイルが作成されます。

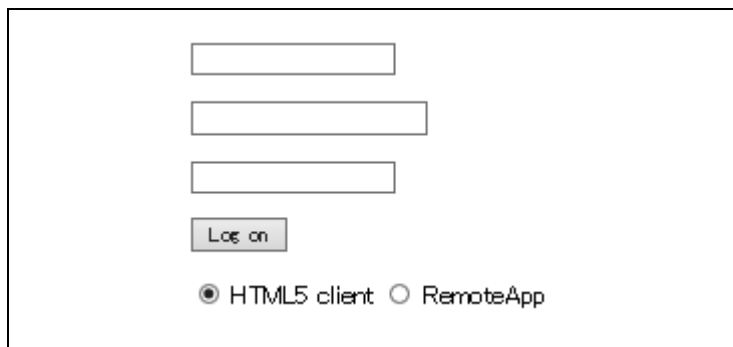
これは標準的な HTML ファイルであるため、HTML、JavaScript、および CSS プログラミング言語に関するすべての知識を使用してカスタムページを開発できます。

すべてのファイルは、「C:\Program Files(x86)\TSMagic\Clients\www」フォルダにあります。たとえば、CSS スタイルのメインファイルは次の場所にあります。「C:\Program Files (x86)\TSMagic\Clients\www\software\common.css」従って以下のように指定します。

```
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="software/common.css" />
```

最小限の Web アクセスページ

Web ポータル設定で生成された HTML ファイルから始めて、最小限の Web アクセスページに縮小します。メモ帳やメモ帳++などのテキストエディタを使用することをお勧めします(Word を使用しないでください)。完了すると、下のスクリーンショットのようになります。



最初に、と HTML タグの間にあるすべての要素を保持する必要があります。

- ブラウザにキャッシュをクリアさせるメタタグ
- .js ファイルのインクルード-JavaScript 設定の宣言

次に、「body」と「/ body」HTML タグの間のコンテンツを次の数行に減らします。

```
<body onKeyPress="CheckKey(event);" onload="setAll();" style="padding:20px;">
<form name="loginform">
<div><input type="text" name="Login" id="Editbox1" onblur="onLoginTyped();" value=""/></div><br/>
<div id="tr-password"><input type="password" name="Password" id="Editbox2" onfocus="onPasswordFocused();" value=""/></div><br/>
<div id="tr-domain"><input type="text" name="Domain" id="Editbox3" value=""/></div><br/>
<input id="buttonLogOn" type="button" value="Log on" onclick="cplogon();" /><br/>
<br/>
<div id="accesstypeuserpanel" style="margin:0;">
<label id="label_accesstypeuserchoice_html5" for="accesstypeuserchoice_html5"><input type="radio" value="html5" name="accesstypeuserchoice" id="accesstypeuserchoice_html5" checked="checked"> HTML5 client</label>
<label id="label_accesstypeuserchoice_remoteapp" for="accesstypeuserchoice_remoteapp"><input type="radio" value="remoteapp" name="accesstypeuserchoice" id="accesstypeuserchoice_remoteapp"> RemoteApp</label>
</div>
</form>
</body>
```

Web ブラウザで Web ページを更新すると、上記のスクリーンショットの最小限のページが表示されます。

変更したファイルを保存した後で、ブラウザのキャッシュをクリアすることをお勧めします。

特定のイベントおよび指定された識別子 (id = "...") で JavaScript 関数の呼び出しを続ける限り、完全にカスタマイズされた Web アクセスページは正常に動作します！

Web ログオンページ:HTML5 クライアントを 同じタブで開く方法

概要

Web ログオンページでユーザが「ログオン」ボタンをクリックすると、HTML5 クライアントが新しいブラウザのタブで開かれます。JavaScript ファイルを変更することで、HTML5 クライアントを Web ログオンページと同じブラウザタブで開くようにすることができます。

custom.js ファイルの変更

「C:¥Program Files (x86)¥Tsmagic¥Clients¥www」フォルダー内の「custom.js」ファイルを編集します。メモ帳やメモ帳++などのテキストエディタを使用することをお勧めします。

次の行を追加します。

```
var openinsamewindow = true;
```

変更した JavaScript ファイルを保存した後で、ブラウザのキャッシュをクリアすることをお勧めします。

common_applications.js ファイルの変更

Tsmagic Web アプリケーションポータル機能を使用している場合は、つぎのファイルを編集する必要があります。「C:¥Program Files (x86)¥Tsmagic¥Clients¥www¥software」フォルダ内の「common_applications.js」ファイルを編集します。メモ帳やメモ帳++などのテキストエディタを使用することをお勧めします(Word を使用しない)。

次の行を検索します。

```
if (childurl != '') {
    child = window.open(childurl, childname);
    childrenWindows[childrenWindows.length] = child;
}
```

次の行で置き換えます。

```
if (childurl != '') {
    child = window.name = childname;
    location.href = childurl + '#';
}
```

変更した JavaScript ファイルを保存した後で、ブラウザのキャッシュをクリアすることをお勧めします。

カスタム HTTP ヘッダーを追加する方法

前提条件

この機能は非常に技術的なものであり、このドキュメントは技術的な専門家のみを対象としています。

HTTP ヘッダーだけでなく、HTTP プロトコルにも精通している必要があります。

概要

使用環境によっては、TSMagic Web サーバが標準の HTTP ヘッダーに加えて複数のカスタム HTTP ヘッダーを返す必要があります。

この機能は、この特定のニーズに応えます。

カスタム HTTP ヘッダーの設定

独自のカスタム HTTP ヘッダーを追加するには、次の操作を行う必要があります。

- 「C:¥Program Files (x86)¥TSMagic¥Clients¥webserver」フォルダに「headers.bin」ファイルを作成します。
- カスタムヘッダを改行で区切って追加します。例:header1=X-Frame-Options
- 変更を適用するには Web サーバを再起動します。(AdminTool>Web>Restart Web Servers)

TSMagic は、標準のものに加え、このカスタム HTTP ヘッダですべてのクエリに応答します。

HTTPS プロトコルを適用する

標準的なケース

TSMagic では、HTTP を使用する全ての Web リクエストを HTTPS セキュアプロトコルにリダイレクトできます。

サーバ上でこの機能を有効にするには、「C:\Program Files (x86)\TSMagic\Clients\webserver\settings.bin」ファイルを編集 (あるいは作成) し、次の行を追加します。

```
disable_http_only=true
```

ファイルを保存して、TSMagic Web サーバを再起動します (AdminTool>WEB>ウェブサーバー> Web サーバーを保存して再起動)。

この機能が有効になったら、次の場所で安全でない Web ページを参照してみてください。

```
http://your-server
```

リクエストは自動的に次の安全な Web ポータルページにリダイレクトされます。

```
https://your-server
```

特殊なケース: カスタム Web ポート

特定のポートを使用して HTTPS を提供している場合は「C:\Program Files (x86)\TSMagic\Clients\webserver\settings.bin」ファイルを編集し、上記の代わりに以下を設定します

```
disable_http_only="domain.com:4431"
```

domain.com は独自のサーバのホスト名、4431 は HTTPS のカスタムポートです。

ファイルを保存し、TSMagic Web サーバを再起動します (AdminTool>WEB>ウェブサーバー> Web サーバーを保存して再起動)。

この機能が有効になったら、次の場所で安全でない Web ページを参照してみてください。

```
http://domain.com
```

リクエストは自動的に次の安全な Web ポータルページにリダイレクトされます。

```
https://domain.com:4431
```

コメント: これは安全ではありませんが、http ポートで ssl / https を無効にしたい場合、settings.bin ファイルを編集して以下を追加します。

```
disable_ssl_on_http = true
```

https で http を無効にする

デフォルトでは、`https://my-domain.com,https://my-domain.com:80,#http://my-domain.com:443` へのアクセスが許可されています。そのため、ポート 443 で http を許可したり、ポート 80 で https を許可します。これは、セキュリティに影響を与えず、WebSocket サポートが不可能な場合に、劣化した xhr-connection に簡単にフォールバックできますが、無効にしたい場合は、`settings.bin` を編集します。ファイルに次の行を追加します。

```
disable_http_on_https=true
```

次に、TSMagic Web サーバを再起動します (AdminTool>WEB>ウェブサーバー> Web サーバーを保存して再起動)。

Web ポータルを使用したサーバへの接続を強制する

オープン/リダイレクトされたポート（80 または 443）を介して mstsc.exe（または任意の RDP クライアント）を使用する接続をブロック/無効化できます。

この機能は、TSMagic Web Portal からのアクセスのみを許可し、ポート 80/443 の他の RDP 接続を無効にします。サーバでこの機能を有効にするは、C:¥Program Files(x86)¥TSMagic¥UserDesktop¥files¥AppControl.ini ファイルを編集し、以下の行を追加または変更します。

[Security]

Block_rdp_splitter=yes

Web 自動ログオン:ポータルなしで Web から接続

概要

TSMagic Web ポータルを使用すると、Windows 認証情報を使用するだけで、任意の Web ブラウザからリモートサーバに接続できます。ただし、特定の URL アドレスを起動したときに自動的に接続したい場合があります。この機能は Web 自動ログオンと呼ばれます。Web 自動ログオンでは、(ログイン、パスワード、ポート、...)の設定を使用して接続します。これらを特定の TSMagic ファイルで指定します。

HTML5 クライアントを使った Web 自動ログオン

<http://your-server/software/html5.html> にアクセスすることで直接接続することができます。接続設定を変更するには、メモ帳またはテキストエディタで次のファイルを編集します。

C:\Program Files (x86)\TSMagic\Clients\www\software\html5\settings.js

Web 自動ログオンを利用するには、少なくともログイン名とパスワードを指定する必要があります。このファイルを変更した後、Web ブラウザでページを更新する必要がある場合があります。

RemoteApp Web クライアントを使用した Web 自動ログオン

<http://your-server/software/remotapp2.html> にアクセスすることで直接接続することができます。接続設定を変更するには、メモ帳またはテキストエディタで次のファイルを編集します。

C:\Program Files (x86)\TSMagic\Clients\www\software\remotapp2.js

Web 自動ログオンを利用するには、少なくともログイン名とパスワードを指定する必要があります。このファイルを変更した後、Web ブラウザでページを更新する必要がある場合があります。

同じ認証情報を使用して複数のユーザセッションを有効にする

同じ認証情報を使用して複数のユーザセッションを有効にするには、次の手順で行います。次の場所にある index.html ファイルをユーザ数分コピーします

C:\Program Files (x86)\TSMagic\Clients\www

名前を変更し、以下の URL でアクセスできます。 <http://nameofyourserver.com/{リネームした}index.html>

ユーザ認証情報に対応する段落を編集します。

```
アクセス構成 ----- var user = ""; // Login to use when connecting to the remote server (leave "" to use the login
typed in this page) var pass = ""; // Password to use when connecting to the remote server (leave "" to use the password typed
in this page)var domain = "";
```

HTML5 クライアント:モバイルデバイスでの RDP セッションの解像度

解像度は幅 800 にプリセットされています。解像度の高さは、非表示のブラウザのネイティブロジックによって再計算されます。幅が大きいほど高さが大きくなります。

- たとえば、標準解像度は 320x480 ですが、ビューポートを 800 に設定すると、ブラウザは高さの値を再計算します。たとえば、800x904 に設定し、幅を 1280 に設定すると、1280x1160 になります。

高さとは、800x904 や 904x800 など、デバイスの横/縦表示によって異なります。各ブラウザは、デバイスのビューポートに rdp 画面が収まるように独自のロジックで再計算でき、同じデバイスで使用してもブラウザによって異なる場合があります。

高さを手動で設定すると、デバイスのビューポートの比率が崩れ、最終的な RDP セッションがポートビューの外に出てしまうため、これらの領域に到達するには希望の位置までスクロールする必要があります。

- したがって、高さを手動で設定せず、デバイスに自動的に高さを選択させることをお勧めします。

もっと高さが必要な場合は、幅を増やしてください。
注意が必要ですが、高さを大きくすると CPU 負荷が増加します。

一部のブラウザでは、ページのロード後にビューポートを設定できないため、この値は Clients¥www¥software¥html5.html ファイルに固定値で設定されています。

```
<meta name="viewport" content="width=800, maximum-scale=1.4">
```

例えば、以下のように変更します。

```
<meta name="viewport" content="width=1280, maximum-scale=1.4">
```

ブラウザの内部ロジックによって再計算された幅と高さを同時に増やすことができます。2 番目の例として、次のように変更します。

```
<meta name="viewport" content="width=1280, height=1400, maximum-scale=1.4">
```

ビューポート領域が分割され、RDP セッションが画面に収まりません。

HTML5 クライアント: ブラウザウィンドウを最大化する方法

概要

RDP プロトコルでは、再接続することなく、接続中にサイズを変更することはできません。

ただし、ブラウザウィンドウをできる限り大きくしたい場合は、HTML5 ウィンドウを最大サイズで開くように「強制」することができます。（ただし、インターネットブラウザのセキュリティ制限により、「最大化された」ウィンドウとして開くことはできません）

ブラウザウィンドウの最大化

TSMagic ディレクトリにあるファイル「Clients¥www¥software¥common.js」を変更する必要があります。メモ帳などのテキストエディタを使用することをお勧めします。

全画面を使用するブラウザウィンドウを作成するには、「window.open」を含む行を修正し、以下を追加する必要があります。

```
, "screenX=0,screenY=0,left=0,top=0,fullscreen=yes,width="+screen.availWidth-5+",height="+screen.availHeight-(55))
```

これにより、ブラウザがウィンドウを画面サイズ（Windows バーを除く）で開くことができます。残念ながら、「フルスクリーン」の Windows タイプでウィンドウを「最大化」するように Web ブラウザを強制することはできません。

ファイルを開き、「window.open」を検索します。

次に、かつこの前に以下を追加します。

```
window.open(hostGateway + jwtclickLinkBefore(getside(), p), window.opforfalse);
```

次のようになります。

```
window.open(hostGateway + jwtclickLinkBefore(getside(), p), window.opforfalse,
"screenX=0,screenY=0,left=0,top=0,fullscreen=yes,width="+screen.availWidth-5+",height="+screen.availHeight-(55));
```

そして

```
tmpwin = window.open(p, '_blank'); //Chrome needs _blank
```

次のようになります。

```
tmpwin = window.open(p, '_blank', "screenX=0,screenY=0,left=0,top=0,fullscreen=yes,width="+screen.availWidth-5+",height="+screen.availHeight-(55)); //Chrome needs _blank
```

そして

```
success = window.open(p, k);
```

次のようになります。

```
success = window.open(p, k, "screenX=0,screenY=0,left=0,top=0,fullscreen=yes,width="+screen.availWidth-5+",height="+screen.availHeight-(55));
```

最後に

```
cpwin = window.open("about:blank", n);
```

次のようになります。

```
tmpwin = window.open(p, '_blank', "screenX=0,screenY=0,left=0,top=0,fullscreen=yes,width="+screen.availWidth-5+",height="+screen.availHeight-(55)); //Chrome needs _blank
```

HTML5 クライアント:URL アドレスのパラメータ

Tsmagic HTML5 クライアントを使用してリモートサーバに接続する場合、URL アドレスに次の様ないくつかのパラメータを指定して、デフォルトのパラメータを上書きすることができます。

- ユーザログイン
- ユーザパスワード
- 実行するプログラム
- プログラムを実行するためのスタートアップディレクトリ
- 実行するプログラムのコマンド行

特定のアプリケーションを実行する

以下に、ユーザ「demo」、パスワード「demo」でリモートセッションを開き、セッションを開いたときに標準のメモ帳を起動するための完全な URL アドレスの例を示します。

[https://demo.domain/software/html5.html?](https://demo.domain/software/html5.html?user=demo&pwd=demo&program=c:¥¥windows¥¥system32¥¥notepad.exe&startupdir=c:¥¥windows¥¥system32¶ms=)

[user=demo&pwd=demo&program=c:¥¥windows¥¥system32¥¥notepad.exe&startupdir=c:¥¥windows¥¥system32¶ms=](https://demo.domain/software/html5.html?user=demo&pwd=demo&program=c:¥¥windows¥¥system32¥¥notepad.exe&startupdir=c:¥¥windows¥¥system32¶ms=)

URL アドレスには、すべてのスラッシュ文字を 4 回繰り返す必要があることに注意してください。

これらすべてのパラメータを同時に指定する必要はありません。指定されていないパラメータは、デフォルト値が設定されます。

Web 認証情報で接続

Web 認証情報を使用して接続する場合は、Web ログインの前に「@」を追加して URL に渡すことができます。

以下は、Web 認証情報のアプリケーションパネル「1234」とパスワード「demo」を使用してリモートセッションを開くための URL アドレスの例です。

<https://demo.domain/software/html5.html?user=@1234&pwd=demo>

HTML5 クライアント:Websockets と XHR の違いは何ですか?

Websockets は、連続した順序や http ヘッダーなしでデータを送受信するために使用できる永続的な接続です。

XHR-polling は、http ヘッダーを持つ新しいリクエストを作成し、http ヘッダー (シーケンシャルな順序)を持つ応答を待ちます。これにより、XHR データフローは常に次のようになります

```
HTTP_HEADER_REQUEST->HTTP_HEADER_ANSWER
HTTP_HEADER_REQUEST->HTTP_HEADER_ANSWER
など
```

また、データをダウンロードする前に HTTP_HEADER で要求する必要があり、その名前は XHR-polling です。

Websockets データフローは次のようになります

```
FRAME_DATA_SEND
FRAME_DATA_SEND
FRAME_DATA_RECEIVE
FRAME_DATA_SEND
FRAME_DATA_RECEIVE
FRAME_DATA_RECEIVE
```

また、ランダムなデータの送受信であり、特別な順序はなく、HTTP ヘッダデータもありません。

そのため、ほとんどの既知のリバースプロキシでは Websockets がサポートされていないため、リバースプロキシでの使用は不可能です。しかし、XHR トランスポートの半分は Apache リバースプロキシで動作する可能性があります

Web サーバを複数のネットワークカードにバインドする方法

概要

使用方法によっては、サーバが複数の異なるネットワークに属している場合など、TSMagic Web サーバが複数のネットワークカードをリッスンする必要があります。

この機能は、この特定のニーズに応えます。

複数のネットワークカードへの Web サーバのバインド

TSMagic Web サーバを複数のネットワークカードにバインドするには、次の手順で行います。

- 「C:\Program Files (x86)\TSMagic\Clients\webserver」フォルダに「settings.bin」ファイルを作成します。
- バインドするすべてのネットワークカードのすべてのローカル IP アドレスとともに追加します。
bind_nic="127.0.0.3","127.0.0.4"
- Web サーバを再起動(AdminTool>WEB>ウェブサーバー> Web サーバーを保存して再起動)して変更を適用します。

TSMagic Web サーバは、バインドされたすべてのネットワークカードからすべてのクエリをリッスンします。(この例では、バインドは 127.0.0.3、127.0.0.4、および 127.0.0.1 に対して自動的行われます)

プロキシ環境で Windows クライアントを実行

通常、SSH パッケージは HTTP (S) プロキシをサポートしており、これでほとんどの既知のプロキシに対応できるはずです。

しかしながら、プロキシ環境が正しく認識されない、サードパーティのソフトウェアから隠されている、あるいはターゲットサーバがリバースプロキシの背後にある、という非常に困難なケースがまれに存在します。

このような困難なケースのために、ソフトウェアには「レスキューモード」と呼ばれる非 SSH ソリューションが含まれています。

もし HTML5 接続を確立できるなら、このソフトウェアが Websocket(Chrome、IE11 など)や XHR を通してネイティブソケット接続を確立するのに役立ちます。

プロキシの中には、HTTPS レイヤ経由でのみ Websocket/XHR トラフィックを許可するものがあるので、http の代わりに https アドレスを使用してください。

プロキシがプロキシ認証を要求せず、ブラウザ経由でページにアクセスできる場合は、次の手順を実行します。

1. `http(s)://yourserver.com/software/html5/jwres/` を開きます。
2. 接続が成功するまで待機する(要求された場合は Java の実行を許可します。)
3. 赤いテキスト「リンクを開く」をクリックして、作業中の Web アクセスページを開きます。
4. 通常どおり Windows クライアントアクセスを使用します。

プロキシがプロキシ認証を要求し、ブラウザを介してページにアクセスできる場合:

1. `http(s)://yourserver.com/software/html5/jwres/` を開きます。
2. プロキシが Java アプレットの認証を要求する場合は、「キャンセル」を押します。
3. 「LocalWebserver のダウンロード」をクリックし、ダウンロードが成功した後に実行します。これにより、ポート 18888 でローカル http サーバが起動します。
4. 「`http://localhost:18888` からのアプレットのロードを強制する」をクリックします。これにより、ローカルの http サーバから jar がロードされたページが再ロードされます。
5. 接続が成功するまで待ちます。
6. 赤いテキスト「リンクを開く」をクリックして、作業中の Web アクセスページを開きます。
7. 通常どおり Windows クライアントアクセスを使用します。

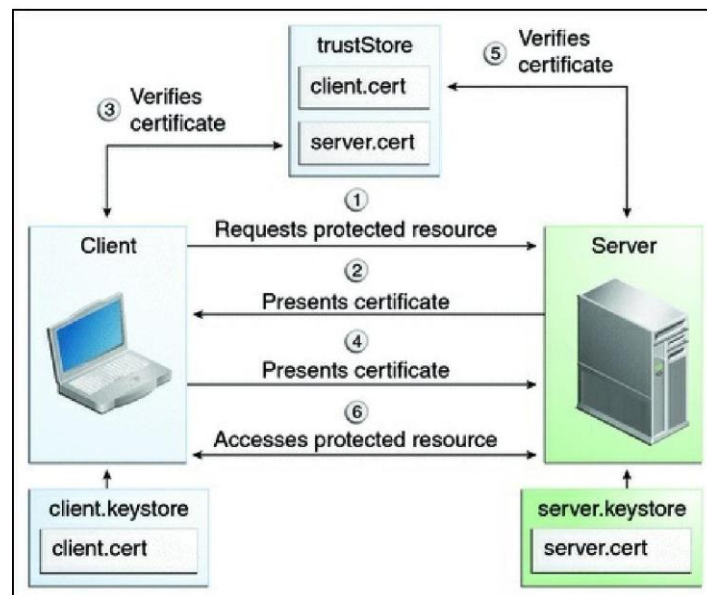
相互 SSL 認証の有効化

相互認証とは？

多くの人がさらなるセキュリティを期待しており、相互認証はすでに TSmagic でサポートされています。通常は銀行または政府機関によって実施されます。

これを理解するには、標準的な SSL プロセスと比較して、ユーザの Web ブラウザが SSL 接続を許可しているかどうかを確認するチェックを追加します。サーバサイド SSL 証明書が何であるかを知っています。証明書が Web ブラウザにインポートされ、この特定の Web ブラウザが信頼されて接続を作成することを想定します。通信の最初のステップでは Web ブラウザがクライアントとして機能し、2 番目のステップではその逆になります。最後に、クライアントの Web ブラウザと Web サーバが権限を受け入れ、接続を開始できます。

より完全な定義:相互 SSL 認証または証明書ベースの相互認証とは、提供されたデジタル証明書を検証することによって 2 つの当事者が互いを認証し、互いの身元が保証されることを指します。技術的には、クライアント(Web ブラウザまたはクライアントアプリケーション)がサーバ(Web サイトまたはサーバアプリケーション)に対して自身を認証し、そのサーバが信頼された認証局(CA)によって発行された公開鍵証明書/デジタル証明書を検証することによって、クライアントに対して自身を認証することでもあります。認証はデジタル証明書に依存するため、Verisign や Microsoft Certificate Server などの証明機関は、相互認証プロセスの重要な部分です。



TSmagic でのアクティブ化

TSmagic 内蔵の Web サーバを使用すると、相互認証を設定できます。相互認証を有効にするには、次の手順に従います。

最新の Java Development Kit(JDK)をインストールする必要があります。http://java.com > 「ダウンロード」 > 「JDK」

1. メモ帳で「C:\Program Files (x86)\TSmagic\Clients\webserver\settings.js」ファイルを作成し編集します。

次の 3 行を追加します。

```
disable_http_only=true
disable_print_polling=true
force_mutual_auth_on_https=true
```

2. 「cert.jks」ファイルの削除

「C:¥Program Files (x86)¥Tsmagic¥Clients¥webserver」フォルダー内に「cert.jks」ファイルがあります。
 ファイルを「C:¥Program Files (x86)¥Tsmagic¥Clients¥」にコピーします。
 「C:¥Program Files (x86)¥Tsmagic¥Clients¥webserver¥cert.jks」ファイルを削除します。

3. バッチファイルの作成

「C:¥Program Files (x86)¥Tsmagic¥Clients」フォルダー内に例えば「createcertuser.bat」という名称でバッチファイルを作成します。

```
@rem uncomment next line, if you want to generate new self signed cert.jks
@rem keytool -genkey -v -alias jwts -keyalg RSA -validity 3650 -keystore cert.jks -storepass secret -keypass secret -d
name "CN=localhost, OU=my_ou, O=my_org, L=my_city, ST=my_state, C=MY"
@keytool -genkey -v -alias AliasUser1 -keyalg RSA -storetype PKCS12 -keystore forBrowserUser1.p12 -dname "CN=some_name
, OU=some_ou, O=some_org, L=Paris,
ST=FR, C=FR" -storepass mypassword -keypass mypassword
@keytool -export -alias AliasUser1 -keystore forBrowserUser1.p12 -storetype PKCS12 -storepass mypassword -rfc -file fo
rCertUser1.cer
@keytool -alias AliasCertUser2 -import -v -file forCertUser1.cer -keystore cert.jks -storepass secret
@del forCertUser1.cer
```

これにより、ブラウザのキーペアが作成された後、Web ブラウザから「cert.jks」に証明書のキーペアが自動的にインポートされま

4. 新しく作成された変更済み「cert.jks」を復元します

「C:¥Program Files (x86)¥Tsmagic¥Clients¥cert.jks」を「C:¥¥Program Files(x86)¥Tsmagic¥Clients¥webserver」にコピーして、Web サーバを再起動します

5. 証明書のインポートとテスト

例示のバッチファイルではテスト用のファイルとして「BrowserUser1.p12」が作成されているはずですが。

HTTPS アドレスを開くと、セキュリティメッセージが表示され、Web サーバページにアクセスできません。

Chrome または IE では、この「BrowserUser1.p12」ファイルをクリックして、証明書を Windows のデフォルトキーストアにインポートできます。

FireFox では、[設定]に移動して、この「BrowserUser1.p12」ファイルを証明書フォルダーにインポートする必要があります。

適切にインポートすると、HTTPS アドレスにアクセスできるようになります。

管理者は、ユーザごとに個別の鍵ペアファイルを作成できます。

例えば：

forBrowserUser1.p12

forBrowserUser2.p12

forBrowserUser3.p12

そして、これらの証明書を cert.jks にエクスポートできます。
 1 人のユーザへのアクセスを無効にしたい場合は、このユーザを「cert.jks」から削除する必要があります。
 これを行うと、ユーザは認証を失い、Web サーバにアクセスできなくなります。

この相互認証は HTTPS 接続にのみ影響し、HTTP 接続は以下の設定で禁止されます。

```
settings.bin> disable_http_only = true
```